

ISSN 0916-4375

Research

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

臨床研究業績年報

Vol.44 2024

Institute for Clinical Research
Osaka National Hospital

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター

Research
R-CRIONH

<目 次>

I. 研究業績

診療部門

<総合診療部>	1
<腎臓内科>	3
<糖尿病・内分泌内科>	5
<輸血療法部>	10
<血液内科>	12
<血友病科>	20
<呼吸器内科>	27
<脳神経内科>	29
<感染症内科>	39
<精神科>	50
<消化器内科>	52
<循環器内科>	66
<小児科>	81
<外科 肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・乳腺外科>	83
<形成外科>	104
<整形外科>	106
<脳神経外科>	112
<心臓血管外科>	123
<皮膚科>	127
<泌尿器科>	129
<産科・婦人科>	131
<眼科>	133
<耳鼻咽喉科>	137
<放射線診断科・放射線治療科>	139
<口腔外科>	144
<救命救急センター>	146
<麻酔科>	155
<臨床検査科>	157
<リハビリテーション科>	165
<臨床腫瘍科>	168
<薬剤部>	171
<看護部>	178
<栄養管理部>	181
<ケアサポートチーム>	183
<臨床心理室>	186
<メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」>	189

<臨床工学室>	191
<院長室>	198

臨床研究センター

<臨床研究センター>	200
<幹細胞医療研究室>	224
<再生医療研究室>	226
<分子医療研究室>	229
<エイズ先端医療開発室>	233
<HIV感染制御研究室>	239
<臨床疫学研究室>	242
<がん療法研究開発室>	250
<高度医療技術開発室>	269
<医療情報研究室>	278
<災害医療研究室>	280
<臨床研究推進室>	285
<レギュラトリーサイエンス研究室>	287

II. 研究助成一覧	290
------------------	-----

III. 全研究業績の区分分類と業績件数の総括表

診療科全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表	292
臨床研究センター全体の研究業績の区分分類と業績件数の総括表	292
全研究業績の区分分類と業績件数の総括表	292
研究業績の区分基準と記号	293

I. 研究業績

-診療部門-

総合診療科

宮本 智

総合診療科は常勤医師 4 名、非常勤医師 4 名、診療看護師 2 名と初期研修医にて診療を行っています。ER に従事しながら、感染症や圧迫骨折、不明熱、めまいといった総合診療科として多岐にわたる疾患を有する患者の診療を行っています。入院患者は 15 人程度で、日々の診療の中で興味深い症例を中心に学会発表を行いました。今後は、総合診療に重きを置きながら、学会発表や論文数を増やしていきたいと考えています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Mashima Y, Tanigawa M, Yokoi H : Information heterogeneity between progress notes by physicians and nurses for inpatients with digestive system diseases. 「Scientific Reports」 14、2024 年 4 月 1 日

A-3

谷川雅俊、六車幸子、間島行則、横井英人：医療用医薬品の使用成績調査における収集データ項目からみた診療情報とのデータ自動連携の可能性「医薬品情報学」26(2)：P.102-110、一般社団法人日本医薬品情報学会、2024 年 4 月 30 日

森 寛泰、大西光雄、中島 伸：救急外来部門への診療看護師（NP）の導入によるタスク・シフト/シェアの影響「医療」78（2）：P106-111、2024 年 4 月

B-2

Yamashita K, Kai S, Natsukawa T, Kuno M, Kai T: Support for Obstetrics and Gynecology Department in the Noto Peninsula Earthquake Disaster. The 15th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine 2024, Seoul, 2024 年 11 月 26 日

B-4

山下公子、甲斐聡一郎、夏川知輝、久野将宗、甲斐達朗、新井隆成：地域の妊婦と赤ちゃんを守るための妊産婦情報の管理～熊本地震から能登半島地震へ～。第 30 回日本災害医学会総会・学術集会記念大会、名古屋、2025 年 3 月 8 日

森 寛泰：診療看護師（NP）が advance triage を担う救急外来の質の検討。第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024 年 7 月 18-20 日

森 寛泰：国立病院機構・診療看護師（JNP）の包括的指示書を活用した自律的「診療の補助」の実践と安全性。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

森 寛泰：初期医療における診療看護師（NP）の臨床能力の検証。第 10 回日本 NP

学会学術集会、東京、2024 年 11 月 23 日

B-6

藤澤朋代、関 俊泓、勝田充重、間島行則、山下公子、宮本 智、藤本 萌、小澤健太郎、森 清、眞能正幸：リンパ節生検により診断し得た両鼠径部化膿性リンパ節炎の一例。日本内科学会第 246 回近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 14 日

勝田充重、島原由美子：多剤耐性 *Aeromonas* 敗血症により ARDS を発症した非代償性肝硬変の難治性胸腹水患者の 1 例。第 8 回日本集中治療医学会関西支部学術集会、大阪、2024 年 7 月 6 日

IgA 腎症はもっとも多い原発性糸球体腎炎であり、病巣感染との関連が指摘されている。これまで病巣感染や血尿の観点から検討してきた経験を踏まえ、日々の臨床では病巣感染を見つけ、可能な限り除去する努力を行っている。また IgA のヒンジ部の O 型糖鎖は短くなっており、糖鎖と治療反応性との関連を過去に報告してきた。さらに、腎組織が類似している紫斑病性腎炎においても同様に糖鎖は短くなっていることを報告している。

IgA 腎症に関して、これまでの基礎的、臨床的検討を行ってきた豊富な経験をもとに、専門外来を開設しており、近隣の医療機関のみならず、日本全国、北は北海道から南は沖縄まで全国各地の大学病院、基幹病院からも紹介を受けている。

またネフローゼ症候群においても、病巣感染と関連があることがわかりつつある。微小変化型ネフローゼ症候群において、病巣感染巣の外科的除去によりステロイドを使用することなく完全寛解導入に成功した世界初の症例を英文報告している。その他の組織型のネフローゼ症候群でも、病巣感染の除去にて、ステロイドを使用せずに寛解することに成功している。さらに微小変化型ネフローゼ症候群においてはアレルギーとの強い関連が報告されているが、このアレルギーを積極的に抑制することで再発抑制につながる可能性を当科より報告している。これらの豊富な経験を基に診療を行っており、一次性ネフローゼ症候群に関しても日本全国より紹介を受けている。腎疾患における病巣感染巣、特に歯科、頭頸部領域の重要性については、2024 年の第 78 回国立病院総合医学会シンポジウムにおいても報告し医科、歯科連携にも取り組んでいる。

腎臓領域では、利尿薬の使い方も重要である。水利尿薬であるトルバプタンの使用経験は豊富であるが、その薬剤の細胞内液や細胞外液に対する影響等を論文報告している。本薬剤は、多発性嚢胞腎でも用いるが、本疾患についても専門外来を開設しており、多くの医療機関より紹介を受けている。

慢性腎臓病患者さんの教育についても積極的に取り組んでおり、患者集団指導は減塩につながる可能性を論文報告している。

【2024 年度 研究発表業績】

A-3

猪阪善隆、小堀愛美、岩谷博次：リチウム中毒を来した女性「難渋症例から学ぶ診療のエッセンス」(196)：5232、P12-13、日本医事新報、2024 年 8 月 3 日

B-3

岩谷博次：検尿異常/腎炎における頭頸部・口腔領域の病巣感染治療の重要性 シンポジウム「口腔機能管理の裾野を広げる」。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

B-4

岩谷博次、森 優希、三村一真、勝沼倫子、部坂 篤：バンコマイシン関連腎障害では尿カリウム排泄が増加する。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

丸宮和也、中村貴行、四井田英樹、宮川幸恵、三村一眞、部坂 篤、岩谷博次：カルシウムコントロールに難渋した横紋筋融解症に対し CRRT と IRRT を施行した 1 例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

岩谷博次、三村一眞、勝沼倫子、小堀愛美、森 優希、木村良紀、部坂 篤：常染色体優性多発性嚢胞腎におけるトルバプタンの効果判定での Long term eGFR slope の有用性。第 67 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2024 年 6 月 29 日

三村一眞、部坂 篤、勝沼倫子、小堀愛美、森 優希、木村良紀、岩谷博次：侵襲性肺アスペルギルス症（IPA）合併 ANCA 関連血管炎（AAV）に対し選択的血漿交換（ScPE）を応用した一例。第 69 回日本透析医学会総会、横浜、2024 年 6 月 7 日

丸宮和也、吉龍正雄、中村貴行、四井田英樹、宮川幸恵、三村一眞、部坂 篤、岩谷博次：抗 NMDA 受容体脳炎に対し単純血漿交換と選択的血漿交換を施行した 1 例。第 69 回日本透析医学会総会、横浜、2024 年 6 月 7 日

B-6

笹倉桃子、玉川裕城、勝沼倫子、岡 晃平、三村一眞、村上萌絵、前田志穂美、部坂 篤、岩谷博次：血液透析が有効であった意識障害を伴うリチウム中毒の 1 例。第 247 回日本内科学会近畿地方会、京都、2025 年 3 月 8 日

芦田 泰、村上萌絵、前田志穂美、岡 晃平、玉川裕城、三村一眞、勝沼倫子、部坂 篤、雲井美帆、岩谷博次：サイトメガロウイルス(CMV)網膜炎を発症した C7-HRP 陰性 ANCA 関連血管炎患者の 1 例。第 247 回日本内科学会近畿地方会、京都、2025 年 3 月 8 日

部坂 篤、堀田亜州美、市川 誠、岡 晃平、玉川裕城、三村一眞、村上萌絵、勝沼倫子、前田志穂美、岩谷博次：SDM に対する当院の取り組みについて。第 102 回大阪透析研究会、大阪、2025 年 3 月 2 日

岡 晃平、部坂 篤、玉川裕城、三村一眞、村上萌絵、勝沼倫子、前田志穂美、岩谷博次：抗 GBM 抗体・MPO-ANCA double positive 血管炎の再発に avacopan を導入した一例。第 54 回日本腎臓学会西部学術大会、姫路、2024 年 10 月 6 日

糖尿病・内分泌内科

加藤 研

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、患者の QOL 改善に取り組んでいる。

糖尿病は、患者数も多く根治が困難な慢性疾患であるが、こんにち多くの新薬が上市されており、専門医が個々の患者の病態に合わせた治療法、治療薬を提案していくことが重要である。

当科の取り組みとして、看護部・栄養管理室・薬剤科・臨床検査科・リハビリテーション科と糖尿病チームを組織し、共同で糖尿病教室・糖尿病デーの催しを開催し糖尿病を持つ方への情報提供に取り組んでいる。看護部とフットケア外来、栄養管理室と透析予防外来、看護部・栄養管理室とともに 1 型糖尿病センターを開設し専門医療を提供している。最近の糖尿病治療分野ではグルコースセンシング機器としての CGM（持続グルコースモニタリング）、インスリン注入機器としてはインスリンポンプ（CSII）のみならず AID（Automated Insulin Delivery：自動インスリン療法）など、先進糖尿病治療デバイスの進化が目立っている。当科ではそのような先進デバイスを駆使し糖尿病患者のより質のよい血糖コントロール実現に寄与している。

また、内分泌専門医の資格をもつ医師とともに内分泌疾患の精査、負荷試験入院も受け入れ、診療領域の幅を広げている。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Murata T, Hirota Y, Hosoda K, Kato K, Kouyama K, Kouyama R, Kuroda A, Matoba Y, Matsuhisa M, Meguro S, Miura J, Nishimura K, Sakane N, Toyoda M, Shimada A, Suzuki S, Tone A, Toyoda M : Predictors of the effectiveness of isCGM usage in adults with type1 diabetes mellitus: Post-hoc analysis of the ISCHIA study. 「Diabetology International」 15(3) : 400-405、2024 年 2 月 15 日

Masuda T, Katakami N, Watanabe H, Taya N, Miyashita K, Takahara M, Kato K, Kuroda A, Matsuhisa M, Shimomura I : Evaluation of changes in glycemic control and diabetic complications over time and factors associated with the progression of diabetic complications in Japanese patients with juvenile-onset type 1 diabetes mellitus. 「J Diabetes」 16(2)22(1) : 143、2024 年 2 月 16 日

Murata T, Sakane N, Hirota Y, Toyoda M, Matsuhisa M, Kuroda A, Itoh A, Meguro S, Miura J, Matoba Y, Kato K, Suzuki S, Shimada A : Difference in the accuracy of the third-generation algorithm and the first-generation algorithm of FreeStyle Libre

continuous glucose monitoring device. 「The Journal of Medical Investigation」
71(3.4) : 225-231 2024 年 8 月

Meguro S, Sakane N, Hosoda K, Hirota Y, Itoh A, Kato K, Kodani N, Kuroda A, Matsuhisa M, Miura J, Shimada A, Tone A, Toyoda M, Murata T; ISCHIA Study Group : Diurnal variation in the association between the scan frequency of isCGM and CGM metrics: post hoc analysis of the ISCHIA study. 「Diabetology International」
15(4) : 828-836. 2024 年 8 月 19 日

Sakane S, Kato K, Hata S, Nishimura E, Araki R, Kouyama K, Hatao M, Matsushita Y, Matoba Y, Murata T, Domichi M, Suganuma A, Wu FL, Sakane N. : Hypoglycemic symptoms and hypoglycemia problem-solving ability in older adults with type 1 diabetes. 「Japan Academy of Diabetes Education and Nursing」 28(2) : 133-139、2024 年 9 月 30 日

Sakane N, Matsuhisa M, Kuroda A, Miura J, Hirota Y, Kato K, Toyoda M, Kouyama R, Kouyama K, Shimada A, Kawashima S, Matoba Y, Meguro S, Kusunoki Y, Hida K, Tanaka T, Domichi M, Suganuma A, Suzuki S, Tone A, Hosoda K, Murata T; ISCHIA Study Group : Cost-effective analysis focused on hypoglycemia of intermittent-scanning continuous glucose monitoring in type 1 diabetes adults: a ISCHIA randomized clinical trial. 「Diabetology International」 16(1) : 78-85、2024 年 10 月 16 日

A-3

小林哲郎、難波光義、福井智康、西村理明、川村智行、浦上達彦、廣田勇士、楠宜樹、黒田暁生、三浦順之助、栗田卓也、池田富貴、伊藤 新、今村洋一、大杉 満、梶尾 裕、勝野朋幸、加藤 研、菊池 透、小谷紀子、佐藤 譲、島田 朗、清水一紀、杉原茂孝、鈴木潤一、曾根博仁、谷澤幸生、津田晶子、利根淳仁、豊田雅夫、中山ひとみ、松久宗英、村田 敬、百木忠久、山田研太郎、柳澤克之、雨宮 伸、広瀬正和、日本先進糖尿病治療研究会：日本先進糖尿病治療研究会によるリアルタイム CGM およびリアルタイム CGM 機能付きインスリンポンプ療法に関するコンセンサスステートメント「糖尿病」 68 (1) : 17-30、2025 年 1 月 20 日

大野宏枝、加藤 研：1-6.糖質/インスリン比、インスリン効果値ってなに？ 1-7.インスリンポンプ療法中患者がカーボカウントを行う際の注意点は？「糖尿病ケアプラス（特集 会話でするっと理解&患者に説明できる！超入門カーボカウントのすべて）」 21 (5) P.39-46、株式会社メディカ出版、大阪 2024 年 9 月 1 日

B-4

坂根靖子、加藤 研、秦 誠倫、西村英里香、荒木里香、鴻山訓一、畑尾満佐子、

松下裕一、的場ゆか、村田 敬、坂根直樹：高齢1型糖尿病の低血糖問題と低血糖問題解決アルゴリズム。第67回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024年5月17日

西村元伸、米澤一也、郡山暢之、瀧 秀樹、加藤 研、山本裕一、田中剛史、渡邊知一、畑尾満佐子、石井有季子、肥田和之、武田昌也、小出純子、齋藤美穂、澤村守夫、正田純史：多面的管理達成者の糖尿病性腎臓病予後改善効果予測のための非侵襲的指標の確立-2（DKDrem-2）。第67回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024年5月17日

益田貴史、片上直人、山口大旗、今田 侑、新宮 慧、細江重郎、田矢直大、佐々木周伍、高原充佳、宮下和幸、加藤 研、河盛 段、下村伊一郎：1型糖尿病における低血糖症状のクラスティングとその特徴：PR-IAH研究のサブ解析。第67回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024年5月18日

石田みどり、大野宏枝、山本真弓、内藤裕子、小椋紫芳、松廣有紀、秦 誠倫、加藤 研：カーボカウントを実施する糖尿病患者を対象とした食事イメージ改善のための取り組み。第67回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024年5月18日

加藤 研、秦 誠倫、西村英里香、荒木里香、鴻山訓一、畑尾満佐子、松下裕一、的場ゆか、菅沼彰子、同道正行、坂根靖子、村田敬：クラスター分析を用いた日本人1型糖尿病の臨床表現型に元づく分類およびその糖尿病合併症との関連。第67回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024年5月19日

山本あかね、廣田勇士、坂根直樹、上田真莉子、齋藤修一郎、目黒 周、細田公則、伊藤新、加藤 研、小谷紀子、黒田暁生、松久宗英、三浦順之助、島田 朗、利根淳仁、豊田雅夫、村田 敬：1型糖尿病におけるisCGMによる低血糖を含む血糖管理に及ぼす効果に関する性差の検討：ISCHIA研究post-hoc解析。第67回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、2024年5月19日

B-6

吉田英人、石橋幹也、山田紗綾、渡會皓介、岸由衣加、松廣有紀、秦 誠倫、岡崎周平、加藤 研：HHV-6脳炎の発症が推測されるchromosomally integrated HHV-6の1例。第244回日本内科学会近畿地方会、京都、2024年6月29日

山田紗綾、石橋幹也、吉田英人、渡會皓介、岸由衣加、松廣有紀、秦 誠倫、山本裕一、加藤 研：劇症1型糖尿病によるケトアシドーシスに重症急性膵炎、非閉塞性腸管虚血を合併した1例。第61回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2024年10月26日

石橋幹也、吉田英人、山田紗綾、渡會皓介、岸 由衣加、松廣有紀、秦 誠倫、山本裕一、小川拓也、岡崎周平、加藤 研：糖尿病を背景にHHV-6脳炎の発症が考えられたchromosomally integrated HHV-6の一例。第61回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2024年10月26日

吉田英人、秦 誠倫、石橋幹也、山田紗綾、渡會皓介、岸由衣加、松廣有紀、山本裕一、加藤 研：レボチロキシン経静脈投与が粘液水腫性昏睡に有効であった一例。第34回臨床内分泌代謝 Update、名古屋、2024年11月19日

田中佑実、渡會皓介、石橋幹也、山田紗綾、吉田英人、岸由衣加、松廣有紀、秦 誠倫、加藤 研：維持血液透析中の1型糖尿病患者にAdvanced Hybrid Closed Loop(AHCL)療法を導入した2症例。第247回日本内科学会近畿地方会、京都、2025年3月8日

B-8

加藤 研：1型糖尿病治療を考える～医師歴25年、1型糖尿病歴39年の経験から～。第12回播磨小児思春期糖尿病治療懇談会、姫路、2024年7月13日

松廣有紀：ツイミーグの使用経験について。DUAL Seminar in Osaka City、Web大阪、2024年6月13日

加藤 研：糖尿病医療技術の進歩について。大阪市中央区東医師会女医会、大阪、2024年7月26日

加藤 研：先進糖尿病治療AID（Automated Insulin Delivery）療法について。第7回1型医学生語り合う会、Web、2024年8月24日

加藤 研：無自覚性低血糖を認めるも1日数回の持効型インスリンを長期間使用している1例。第6回小児・思春期糖尿病検討会、Web、2024年8月29日

加藤 研：1型糖尿病治療の進化とミニメド780G AHCLの実際。第23回兵庫インスリンポンプ研究会、三宮、2024年9月26日

渡會皓介：糖尿病・内分泌内科におけるARNIの使用実態。ARNI Web Symposium、Web大阪、2024年10月8日

加藤 研：新たな希望780G（AHCL）療法の実際。ミニメドTM780Gアニバーサリーセミナー、Web大阪、2024年11月27日

加藤 研：新たな希望780G（AHCL）療法の実際。和歌山AIDセミナー、和歌山、

2024年12月13日

山田紗綾：劇症1型糖尿病によるケトアシドーシスに重症急性膵炎、非閉塞性腸管虚血を合併した1例。第12回大阪1型糖尿病塾、大阪、2025年1月18日

松廣有紀：当院の先進糖尿病治療外来について。良質な糖尿病治療を目指して、大阪、2025年2月28日

加藤 研：糖尿病医療技術の進歩について。第13回関西糖尿病療養指導・看護研究会、大阪、2025年3月1日

加藤 研：低血糖なく、HbA1c7%未満を達成可能なAID（Automated Insulin Delivery）療法の実際。第6回糖尿病・内分泌代謝疾患研究会、相模原、2025年3月5日

B-9

加藤 研：Webサイト：「糖尿病ネットワーク」内 「インスリンポンプ・SAP・CGM情報ファイル」、創新社、東京、2024年4月2日

松廣有紀：FM 大阪『LOVE FLAP』、大阪、2025年3月20日

輸血療法部

柴山浩彦

輸血担当検査技師：児玉眞由美、富田加奈江（認定輸血検査技師）、藤井由香、川地璃奈、加藤遙

輸血療法部では、安全かつ適切な輸血療法の実践をめざして輸血の管理、検査、供給を行っている。同種血輸血製剤に関しては、発注および在庫調整を適切に行い、病棟や外来での輸血依頼や手術の状況に応じて、常時、必要量を払い出しできる状態を維持し、低い廃棄率での過不足のない管理を実現できるように努力している。

2024 年度の赤血球製剤の使用単位数は 7296 単位（2021 年度：6590 単位、2022 年度：7523 単位、2023 年度：7738 単位）、廃棄率は 0.08%（6 単位）（2021 年度：0.18%、2022 年度：0.32%、2023 年度：0.36%）、血漿製剤は 2456 単位（2464 単位、3248 単位、3270 単位）、廃棄率は 0%（0.64%、0.19%、0.18%）、血小板製剤は 11510 単位（5880 単位、11360 単位、9000 単位）、廃棄率は 0.09%（10 単位）（0.59%、0.35%、0.11%）と、赤血球製剤・血漿製剤の 2024 年度の使用量は 2023 年度を下回り、血小板製剤の使用量は 2023 年度を大きく上回ったが、3 製剤とも廃棄率は低いまま推移している。2024 年 1～12 月の FFP/RBC 比が 0.36(<0.54)、ALB/RBC 比が 1.37(<2) であり、輸血適正使用加算の算定基準を満たした。また、各製剤の払い出しの際に、製剤ごとに色の異なるバッグを用いて運搬する運用を 2022 年 9 月から開始しており、その運用も定着してきている。

輸血副作用に関する情報収集も輸血部の重要な任務であり、輸血後副作用調査を実施し、また、日赤からの遡及調査のため、輸血を受けた患者の血液を 2 年間、適切に保存している。2024 年度に、日赤に副作用の報告をおこなったのは 13 件であった。うち、11 件は軽微な副作用であったが、1 件は血圧低下を認める重篤なものとして報告した。もう 1 件は血圧低下を認めたが、輸血との因果関係が不明確であったため報告のみおこなった。また、日赤からの遡及調査依頼は 7 件あり、うち 4 件が献血者の HEV 感染、3 件が HBV 感染によるものであった。HEV の 4 件と HBV の 2 件について、患者への影響はみられなかったが、HBV の 1 件（2024 年 12 月輸血）については、2025 年 3 月時点では未発症（検査済）であるが、推奨期間の 6 か月後まで経過追跡する予定となっている。

2024 年度は、2024 年 4 月 22 日、6 月 24 日、8 月 26 日、10 月 28 日、12 月 23 日、2025 年 2 月 17 日に、合計 6 回、輸血療法部運営会議を開催した。2023 年 8 月から、大阪府赤十字センター職員が当院の輸血療法部運営会議にオブザーバー参加してもらっており、日本赤十字社の発行する輸血情報を共有していただいている。

【2024 年度 研究発表業績】

B-8

柴山浩彦：「造血不全症～とくに、再生不良性貧血と骨髓異形成症候群について～」。令和 6 年度 チーム医療推進のための研修 3（輸血）安全な輸血療法をめざして 3、WEB 講演、2025 年 2 月 14 日

血液内科

柴山浩彦

常勤医：数藤孝雄、長手泰宏、非常勤医：谷村朗、専攻医：中川悠太、辻西和幸

令和3年4月1日より、私と長手医師が常勤医、中谷綾医師が非常勤医として当院での血液内科の診療が再開された。令和6年4月1日からは、常勤医3名（柴山、数藤、長手）に加え、谷村医師が中谷医師の代わりに非常勤医として、中川医師に加え、辻西医師が血液内科をサブスペとする内科専攻医として加わった。当科の診療の対象となる疾患は、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍性疾患のみならず、再生不良性貧血(AA)、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、寒冷凝集素症(CAD)、免疫性血小板減少性紫斑病(ITP)、後天性血友病A、ALアミロイドーシス(いずれも指定難病)などの非腫瘍性血液疾患も含んでいる。それらの疾患の患者の診療を、入院および外来にて実施している。令和3年度の1年間のべ入院患者数は約140名、令和4年度は約280名、令和5年度は約340名、令和6年度は約400名に増加している。うち最も多かったのは悪性リンパ腫の約230名であり、次に、急性白血病が43名、多発性骨髄腫が36名、慢性白血病が6名、骨髄異形成症候群が16名であった。また、非腫瘍性血液疾患のAAが8名、AIHAが5名、CADが3名、ITPが7名、後天性血友病Aが1名、ALアミロイドーシスが1名入院した。外来通院のべ患者数も令和3年度は約1650名であったが、令和4年度は約2500名、令和5年度は約3100名、令和6年度は約3500名に増えた。血液内科の化学療法についても、令和6年度にあらたに保険承認された薬剤もあり、新たなレジメン登録をおこなっている。また、血液疾患の診断のためには、骨髄検査が重要であり、外来および入院にて令和3年度には114件の骨髄検査を実施、令和4年度は182件、令和5年度は162件、令和6年度は172件であった。初期研修医12名(1年目9名、2年目3名)が、当科を1ヶ月ずつラウンドした。研修医には、専攻医と一緒に常時5~10名の入院患者の副主治医となってもらい、血液内科診療を経験してもらった。また、当科外来に初診となった患者の問診、診察、鑑別診断をおこなう外来研修を、研修医1名あたり、複数回実施した。専攻医には学会での症例発表をおこなってもらい、令和6年度には、近畿血液学地方会で2件、国立病院総合医学会で1件発表してもらっている。臨床研究としては、西日本臨床血液研究グループ(W-JHS)で実施している医師主導臨床研究のうち、MM-01試験、MM-02試験、HL-01試験の3試験の研究代表医師を私が務めている。また、NHO共同臨床研究 令和6年度 EBM・ネットワーク共同研究に研究課題「NCDA/MIA データベースを活用した本邦での慢性Bリンパ球性白血病の診断・治療実態の解析」が採択され、血液研究ネットワークグループに参加している24施設とともに本研究を開始した。また、難治性ITP、再発・難治悪性リンパ腫に対する治験をそれぞれ1件受託している。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Horigome Y, Iino M, Harazaki Y, Kobayashi T, Handa H, Hiramatsu Y, Kuroi T, Tanimoto K, Matsue K, Abe M, Ishida T, Ito S, Iwasaki H, Kuroda J, Shibayama H, Sunami K, Takamatsu H, Tamura H, Hayashi T, Akagi K, Maeda T, Yoshida T, Mori I, Shinozaki T, Iida S. A prospective, multicenter, observational study of ixazomib plus lenalidomide-dexamethasone in patients with relapsed/refractory multiple myeloma in Japan. 「Ann Hematol」 103(2) : 475-488. doi: 10.1007/s00277-023-05428-7. 2024 年 2 月

Kurashige R, Kurashige M, Okada Y, Higuchi K, Yuda S, Hino A, Miyamura T, Ichii M, Fukushima K, Honma K, Takeuchi M, Yokota T, Ishikawa J, Sawada A, Shibayama H, Hosen N, Morii E. Differentiating Between Epstein-Barr Virus-positive Lymphoid Neoplasm Relapse and Post-transplant Lymphoproliferative Disorder After Sex-mismatched Hematopoietic Stem Cell Transplantation. 「Am J Surg Pathol」 1;48(4) : 395-405. doi: 10.1097/PAS.0000000000002183. 2024 年 4 月

Shimazu Y, Kanda J, Onda Y, Fuchida SI, Ohta K, Shimura Y, Kosugi S, Yamamura R, Matsuda M, Hanamoto H, Adachi Y, Anzai N, Hotta M, Fukushima K, Yagi H, Yoshihara S, Tanaka Y, Takakuwa T, Tanaka H, Shibayama H, Uoshima N, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Matsumura I, Kuroda J, Takaori-Kondo A, Hino M. The lymphocyte/monocyte ratio predicts the efficacy of isatuximab plus pomalidomide in multiple myeloma patients. 「Cancer Immunol Immunother」 17;73(7) : 135. doi: 10.1007/s00262-024-03711-8. 2024 年 5 月

Shibayama H, Itagaki M, Handa H, Yokoyama A, Saito A, Kosugi S, Ota S, Yoshimitsu M, Tanaka Y, Kurahashi S, Fuchida SI, Iino M, Shimizu T, Moriuchi Y, Toyama K, Mitani K, Tsukune Y, Kada A, Tamura H, Abe M, Iwasaki H, Kuroda J, Takamatsu H, Sunami K, Kizaki M, Ishida T, Saito T, Matsumura I, Akashi K, Iida S. Primary analysis of a prospective cohort study of Japanese patients with plasma cell neoplasms in the novel drug era (2016-2021). 「Int J Hematol」 119(6) : 707-721. doi: 10.1007/s12185-024-03754-8. 2024 年 6 月

Kogure Y, Handa H, Ito Y, Ri M, Horigome Y, Iino M, Harazaki Y, Kobayashi T, Abe M, Ishida T, Ito S, Iwasaki H, Kuroda J, Shibayama H, Sunami K, Takamatsu H, Tamura H, Hayashi T, Akagi K, Shinozaki T, Yoshida T, Mori I, Iida S, Maeda T, Kataoka K. ctDNA improves prognostic prediction in relapsed/refractory MM receiving ixazomib, lenalidomide, and dexamethasone 「Blood」 6;143(23):2401-2413.doi: 10.1182/blood.2023022540. 2024 年 6 月

Nakai R, Yokota T, Tokunaga M, Takaishi M, Yokomizo T, Sudo T, Shi H, Yasumizu Y, Okuzaki D, Kokubu C, Tanaka S, Takaoka K, Yamanishi A, Yoshida J, Watanabe H, Kondoh G, Horie K, Hosen N, Sano S, Takeda J. A newly identified gene Ahed plays essential roles in murine haematopoiesis. 「Nat Commun」 25;15(1) : 5090. doi: 10.1038/s41467-024-49252-7. 2024 年 6 月

Shimazu Y, Kanda J, Takakuwa T, Onda Y, Fukushima K, Hotta M, Fuchida SI, Uoshima N, Shimura Y, Tanaka H, Ohta K, Shibayama H, Kosugi S, Yagi H, Yoshihara S, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Matsumura I, Kuroda J, Takaori-Kondo A, Hino M. The impact of renal function on initial therapy in transplant-ineligible multiple myeloma patients. 「Ann Hematol」 103(12) : 5639-5649. doi: 10.1007/s00277-024-05934-2. 2024 年 12 月

Nakamura N, Arima N, Takakuwa T, Yoshioka S, Imada K, Fukushima K, Hotta M, Fuchida SI, Kanda J, Uoshima N, Shimura Y, Tanaka H, Ohta K, Kosugi S, Yagi H, Yoshihara S, Yamamura R, Adachi Y, Hanamoto H, Shibayama H, Hosen N, Ito T, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J, Matsumura I, Hino M; Kansai Myeloma Forum. Efficacy of elotuzumab for multiple myeloma deteriorates after daratumumab: a multicenter retrospective study.「Ann Hematol」103(12):5681-5690.doi: 10.1007/s00277-024-05705-z. 2024 年 12 月

A-6

柴山浩彦 : ASCO2024 annual meeting の造血器腫瘍の重要演題のレポート、インターネットサイト「Care Net」にて 2024 年 6 月

柴山浩彦 : 第 66 回アメリカ血液学会 (ASH) の重要演題のレポート、インターネットサイト「Care Net」にて 2024 年 12 月

B-1

Shibayama H: Pola-R-CHP; a new standard therapy for previously untreated DLBCL. The Hematology Society of Taiwan (台湾血液学会) WEB、2024 年 8 月 24 日

B-2

Shibayama H, Satake A, Miyawaki K, Fujiwara Y, Ota S, Muta T, Rai S, Tsurumi H, Suzuki R, Miyake T, Goto H, Fukuhara N, Sakata-Yanagimoto M, Izutsu K, Nishikori M, Kumode T, Ennishi D, Shimose T, Inubashiri N, Matsumura I, Akashi K, Kato K: A Multicenter, Prospective, Observational Study of Pola-R-CHP in Patients With Previously Untreated Diffuse Large B-Cell Lymphoma (POLASTAR): A Preliminary Analysis. 第 66 回アメリカ血液学会、サンディエゴ、2024 年 12 月 9 日

B-3

島津 裕、諫田淳也、恩田佳幸、淵田真一、太田健介、志村勇司、小杉 智、山村亮介、松田光弘、花本 仁、足立陽子、安齋尚之、堀田雅章、福島健太郎、八木秀男、吉原哲、田中康博、高桑輝人、田中宏和、柴山浩彦、魚嶋伸彦、保仙直毅、伊藤量基、島崎千尋、松村 到、黒田純也、高折晃史、日野雅之：リンパ球/単球比による多発性骨髄腫に対するイサツキシマブ+ポマリドマイドの有効性の予測。第 86 回日本血液学会学術集会、京都、2024 年 10 月 12 日
頼 晋也、大間知謙、錦織桃子、柴山浩彦、後藤秀樹、黒田純也、加藤光次、今泉

芳孝、野坂生郷、酒井リカ、阿部真帆、北条誠一郎、中西 正、伊豆津宏二：EZH2 変異陽性 FL/DLBCL に対するタゼメトスタット国内第二相試験の長期フォローアップ結果。第 86 回日本血液学会学術集会、京都、2024 年 10 月 13 日

B-4

辻西和幸、長手泰宏、中川悠太、數藤孝雄、谷村 朗、柴山浩彦：保存的加療により改善したアルコール性肝障害に伴う Spur cell anemia の 1 例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

B-6

中川悠太、數藤孝雄、長手泰宏、中谷 綾、柴山浩彦：ウマ ATG 治療が奏効した骨髓不全型 PNH の一例。第 120 回近畿血液学地方会、大阪、2024 年 6 月 8 日

辻西和幸、長手泰宏、中川悠太、數藤孝雄、谷村朗、柴山浩彦：濾胞性リンパ腫の化学療法後に形質芽細胞性リンパ腫を発症した 1 例。第 121 回近畿血液学地方会、京都、2024 年 11 月 16 日

B-8

柴山浩彦：「再発・難治 PTCL の治療～ハイヤスタの位置付け～」Meiji Seika ファルマ株式会社 Web カンファレンス、WEB 講演、2024 年 1 月 11 日

柴山浩彦：「初発 FL に対するオビヌツズマブ治療の意義～GALLIUM 試験最終解析を踏まえて～」東京造血器腫瘍研究会 2024、東京、2024 年 1 月 13 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」Hematology Seminar、WEB 講演、2024 年 1 月 19 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」CLL Clinical Conference～造血器腫瘍診療ガイドライン 2023 を踏まえて～、大阪、2024 年 1 月 20 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」道北原発性マクログロブリン血症 WEB ライブセミナー、WEB 講演、2024 年 1 月 25 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」ベレキシブル WEB ライブセミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 6 日

柴山浩彦：「貧血の鑑別診断と治療」令和 5 年度 チーム医療推進のための研修 3（輸血）安全な輸血療法をめざして 4、WEB 講演、2024 年 2 月 9 日

柴山浩彦：「骨髓腫治療におけるサリドマイドの使いどころ」造血器腫瘍治療戦略 Web セミナー、神戸、2024 年 2 月 9 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」MM X WM/LPL collaboration セ

ミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 21 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」ベレキシブル WEB ライブセミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 28 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の治療～Up to Date～」関西造血器腫瘍セミナー、WEB 講演、2024 年 2 月 29 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」Hematology Clinical Seminar、WEB 講演、2024 年 3 月 7 日

柴山浩彦：Panel Discussion「移植非適応多発性骨髄腫に対する維持治療」Myeloma Academy 2024、大阪、2024 年 3 月 8 日

柴山浩彦：「血液内科領域の地域連携」大阪市中心区東医師会学術講習会、大阪、2024 年 4 月 17 日

数藤孝雄：「貧血と血小板減少症の鑑別」大阪市中心区東医師会学術講習会、大阪、2024 年 4 月 17 日

柴山浩彦、数藤孝雄：「検査結果の解釈と紹介のタイミング」大阪市中心区東医師会学術講習会、大阪、2024 年 4 月 17 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」北九州 CLL 治療セミナー 2024、小倉、2024 年 4 月 19 日

柴山浩彦：「第 1 部－血液疾患の基礎を学ぼう－白血病および悪性リンパ腫等を含む血液疾患全体についての基本的な学び」第 7 回 CLL（慢性リンパ性白血病）患者・家族の会主催セミナー 基本から学ぼう & 仲間と共に考えよう 慢性リンパ性白血病、大阪、2024 年 5 月 11 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」第 7 回 CLL Expert Seminar、WEB 講演、2024 年 5 月 15 日

柴山浩彦：「初発 DLBCL に対する Pola-R-CHP 療法」Kanagawa Lymphoma Symposium、WEB 講演、2024 年 5 月 17 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」AstraZeneca Hematology Web Seminar、WEB 講演、2024 年 5 月 24 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」Hematology Conference from Narita、WEB 講演、2024 年 6 月 6 日

柴山浩彦：「COVID-19 時代の初発 FL の治療を考える」Chugai Lymphoma Webinar、

WEB 講演、2024 年 6 月 20 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～治療継続に向けて注意すべきこと～」 AstraZeneca Hematology Web Seminar～造血器腫瘍患者の治療継続に向けて～、WEB 講演、2024 年 7 月 3 日

柴山浩彦：「再発・難治 PTCL の治療～ハイヤスタの位置付け～」 PTCL Conference in 静岡、WEB 講演、2024 年 7 月 19 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」 Hematology Seminar in Nagasaki 2024、WEB 講演、2024 年 8 月 2 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」 CLL 臨床実践 シンポジウム～臨床から考察するアカラブルチニブ+オビヌツズマブ～、WEB 講演、2024 年 9 月 5 日

柴山浩彦：「COVID-19 時代の初発 FL の治療を考える」 Web Seminar Q&A から考える Follicular Lymphoma、WEB 講演、2024 年 9 月 12 日

柴山浩彦：「Covid-19 禍の FL 治療、あなたならどう選ぶ？～オビヌツズマブの位置づけを探る～」 Lymphoma Web Seminar、WEB 講演、2024 年 9 月 24 日

柴山浩彦：「初発 WM/LPL の診断・治療 Up to date」福島 WM/LPL セミナー、WEB 講演、2024 年 9 月 26 日

柴山浩彦：「初発 CLL に対するケモフリー治療～AO 療法について～」CALQUENCE Hematology Expert Lecture、東京、2024 年 11 月 1 日

柴山浩彦：「Real world evidence の構築の問題点－KMF 研究と JSH-MM-15 研究から学んだこと－」 DATuM IDEA ウェビナー2024、WEB 講演、2024 年 11 月 6 日

柴山浩彦：「MCL 治療の現状と課題」ジャイパーカ錠発売記念講演会、WEB 講演、2024 年 11 月 14 日

柴山浩彦：「MCL 治療の現状と課題」阪神造血器腫瘍フォーラム、芦屋、2024 年 11 月 15 日

柴山浩彦：「MCL 治療の現状と課題」東葛血液疾患治療フォーラム、WEB 講演、2024 年 11 月 19 日

柴山浩彦：「MCL 治療の現状と課題」ジャイパーカ[®]錠 MCL seminar、大阪、2024 年 11 月 26 日

柴山浩彦：「再発・難治骨髄腫の治療を考える～移植後再発症例について～」

Multiple Myeloma Expert Web Seminar、大垣、2024 年 11 月 29 日

柴山浩彦：「RWD を基にした DLBCL の治療の最適化」血液疾患を考える会 in 信州、WEB 講演、2024 年 12 月 16 日

柴山浩彦：「RWD を基にした DLBCL の治療の最適化～ポラツズマブベドチン適応追加から 2 年～」Lymphoma Web Seminar～初発 DLBCL の最新の实臨床データと共に～、WEB 講演、2024 年 12 月 23 日

柴山浩彦：「WM/LPL 治療 UP TO DATE 2025」JanssenPro WEB Seminar WM/LPL における Ibrutinib の役割～病態・エビデンスから考察する～、WEB 講演、2025 年 1 月 28 日

柴山浩彦：「再発・難治濾胞性リンパ腫に対する最新治療」Follicular Lymphoma Update Seminar、WEB 講演、2025 年 1 月 30 日

柴山浩彦：「初発多発性骨髄腫治療を再考する～upfront Auto の意義と維持療法について～」Hematology Update Web Seminar 2025、WEB 講演、2025 年 1 月 31 日

柴山浩彦：「再発・難治濾胞性リンパ腫に対する最新治療」Follicular Lymphoma Lunchtime Webinar、WEB 講演、2025 年 2 月 12 日

柴山浩彦：「造血不全症～とくに、再生不良性貧血と骨髄異形成症候群について～」令和 6 年度 チーム医療推進のための研修 3（輸血）安全な輸血療法をめざして 3、WEB 講演、2025 年 2 月 14 日

中川悠太：「骨髄不全型 PNH の治療法」なにわ血液研究会、大阪、2025 年 2 月 21 日

長手泰宏：「Onco cardiology と最新の血液疾患治療について～FL と DLBCL を中心に～」第 22 回大阪がん薬物療法研究会、WEB 講演、2025 年 2 月 26 日

柴山浩彦：「再発・難治 MM の治療戦略～カイプロリスの使いどころ～」血液がん治療セミナー、姫路、2025 年 3 月 3 日

柴山浩彦：「MDS に対するレブロジル治療の実際」5 -Day Consecutive Reblozyl Webinar Series、WEB 講演、2025 年 3 月 13 日

柴山浩彦：「イサツキシマブを再考する」Multiple Myeloma Update webinar、神戸、2025 年 3 月 14 日

柴山浩彦：「RWD を基にした DLBCL の治療の最適化」Lymphoma Webinar-2025 春、WEB 講演、2025 年 3 月 18 日

柴山浩彦：「MCL 治療の現状と課題」Lymphoma Seminar 2025～これからの MCL

治療～、産業医大（小倉）、2025 年 3 月 21 日

B-9

数藤孝雄：FM 大阪『LOVE FLAP』出演、2024 年 10 月 15 日放送

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」①初発 DLBCL の治療 2025 年 1 月 20 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」②再発・難治 DLBCL の治療 2025 年 1 月 23 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」③初発 FL 治療 2025 年 1 月 27 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」④再発・難治 FL 治療 2025 年 1 月 30 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」⑤MCL の話題 2025 年 2 月 3 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」⑥CLL の話題 2025 年 2 月 6 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」⑦初発 MM 治療 2025 年 2 月 10 日から配信

柴山浩彦：YouTube 動画 Expert Mind に出演「米国血液学会 2024 から考える“リンパ腫&骨髄腫”の治療」⑧MM の話題 2025 年 2 月 13 日から配信

血友病科

武山雅博

血友病科は2021年4月に新設されました。当院は日本血栓止血学会の「血友病診療ブロック拠点病院」に指定されており、大阪府内だけでなく近畿圏をはじめとする多くの医療機関から患者さんをご紹介いただいています。そのため、血友病患者や血友病保因者に加え、フォン・ヴィレブランド病などの凝固異常症の患者さんも受診しており、それぞれの疾患の特性を踏まえながら、適切な診断と治療を提供できるよう努めています。

当科では、血友病専門医が凝血学的検査を基に正確な診断を行い、患者さんのライフスタイルやライフステージに応じた治療法を提案しています。従来の「凝固因子補充療法」に加えて、近年は抗体製剤などの新たな治療薬が登場し、治療の選択肢が広がっています。しかし、非凝固因子製剤の効果は従来の検査では十分に評価できないため、新たな解析技術の導入が求められています。

このような課題に対応するため、当科ではROTEM、凝固波形解析、トロンビン生成試験などを活用し、凝固機能の詳細な解析を進めています。さらに、2024年11月から血友病の遺伝子解析が可能となり、血友病保因者健診の充実を図っています。

また、血液凝固異常症レジストリの構築も進められており、当院には事務局である一般社団法人 日本血液凝固異常症調査研究機構（JBDRO）が設置されています。2025年からは患者登録が開始される予定です。

周術期止血治療にも積極的に取り組み、院内の診療科や中央臨床検査部門と連携しながら、安全な手術や処置を実現しています。加えて、リハビリテーション科や中央生理検査部門とも協力し、血友病患者さんの関節症に対する理学療法や超音波検査を実施しています。早期発見と適切な介入を通じて、患者さんの生活の質（QOL）の向上を支援しています。さらに、血友病保因者やフォン・ヴィレブランド病患者の分娩管理にも積極的に対応しており、産科・小児科と連携しながら安全な出産をサポートしています。分娩時の止血管理や産後ケアにも専門的に取り組んでいます。

血友病患者さんへのトータルケアを実現するためには、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど、多くのコメディカルスタッフの協力が不可欠です。チーム医療を推進しながら、より質の高い医療の提供を目指してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Oda A, Takeyama M, Takehisa Kitazawa, Nogami K : The emicizumab-bridged ternary complex with activated factor IX and factor X evaluated by fluorescence resonance

energy transfer. 「Thrombosis Research」 237 : 108-111、2024 年 5 月

Ohga S, Takeyama M, Ishimura M, Inoue H, Nosaka D, Iwasaki K, Mitsui C, Nogami K. HINODE study : haemophilia A in infancy and newborns - protocol for a prospective, multicentre, observational study evaluating the coagulation potential and safety of emicizumab prophylaxis. 「BMJ Open」 26 : 14(12) : e087556、2024 年 11 月

Takeyama M, Furukawa S, Ogiwara K, Tamura S, Ohno H, Higasa S, Shimonishi N, Nakajima Y, Onishi T, Nogami K : Coagulation potentials of plasma-derived factors VIIa and X mixture (Byclot®) evaluated by global coagulation assay in patients with acquired haemophilia A. 「Haemophilia」 30(1) : 249-252、2024 年 1 月

Mizumachi K, Nakajima Y, Shimonishi N, Furukawa S, Ogiwara K, Takeyama M, Nogami K : Hybrid human-porcine factor VIII proteins partially escape the inhibitory effects of anti-factor VIII inhibitor alloantibodies having A2 or C2 domain specificity. 「Haemophilia」 30(1) : 140-150、2024 年 1 月

A-1

武山雅博 : V.血液凝固・線溶系検査、1. 血液凝固・線溶・抗凝固検査、4)第 VIII 因子、第 IX 因子、von Willebrand 因子、その他の凝固因子「小児内科」56 増刊号、96-99、2024 年 10 月 25 日

A-2

武山雅博、野上恵嗣 : 新生児から成人期までに発症する特発性血栓症の診療ガイド BQ1 新生児から成人期までの止血血栓機構の特徴とその生理学的な変化は？ 2)乳児期－思春期－成人期の特徴と変化。編集:厚生労働科学研究費助成金 難治性疾患政策研究事業、血液凝固異常症等に関する研究班，責任編集：大賀正一、診断と治療社、2024 年 4 月 12 日

A-4

西田恭治:世界の血友病事情－世界から見た日本の不思議「日本血栓止血学会誌」36(1) : 2-9、日本血栓止血学会、2025 年 2 月 1 日

A-5

武山雅博 : 血友病患者の凝固機能及び血友病診療の包括的チーム医療に関する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症お

よび血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究」令和 5 年度総括・分担研究報告書、2024 年 5 月

A-6

西田恭治：女性血友病・保因者「Hemophilia Insight No. 6」P.8－9、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社、2024 年 6 月 10 日

B-2

Takeyama M, Miyatake T, Furukawa S, Ogiwara K, Nogami K : Impact of anticoagulant function by the addition of heparinoid in vitro in the plasmas from patients with hemophilia. International Society of Thrombosis and Haemostasis, Bangkok, Thai Island, 2024 年 6 月 25 日

B-3

武山雅博：後天性血友病 A の課題とその克服。第 72 回日本輸血・細胞治療学会、東京、2024 年 5 月 31 日

武山雅博：各ライフステージに合わせたより良い血友病治療を考える。第 72 回日本輸血・細胞治療学会、東京、2024 年 6 月 1 日

武山雅博：明日から役立つフォン・ヴィレブランド病の治療。第 86 回日本血液学会、京都、2024 年 10 月 12 日

西田恭治：女性の出血と血液凝固疾患。第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会、横浜、2024 年 4 月 19 日

西田恭治：変遷する血友病世界動向－クライシス下の 2024 年－。第 46 回日本血栓止血学会学術集会、金沢、2024 年 6 月 13 日

B-4

武山雅博、笹井香那、宮口靖雄、荻原建一、古川晶子、下西成人、中島由翔、上田仁司、野上恵嗣：後天性血友病 A 患者血漿を用いた遺伝子組換えブタ配列 FVIII に対する交差反応性および凝固能の検討。第 46 回日本血栓止血学会、金沢、2024 年 6 月 13 日

山之内 純、大野久美子、日野もえ子、細貝亮介、小倉妙美、鈴木伸明、西田恭治、武山雅博、野上恵嗣、古川晶子、藤井輝久、白山理恵、中尾 綾、内 公一、白幡聡、血友病診療におけるオンライン診療システムを使った遠隔診療連携：体制構築。第 46 回日本血栓止血学会、金沢、2024 年 6 月 15 日

小島賢一、長江千愛、足利朋子、稲垣有佐、柿沼章子、後藤美和、近澤悠志、瀧正志、竹谷英之、中尾 綾、西田恭治、野島正寛、牧野健一郎、和田育子：薬害 HIV 感染血友病患者の今－非薬害血友病患者との意識調査の比較第 2 報－。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2025 年 11 月 29 日

中尾 綾、小島賢一、和田育子、近澤悠志、足利朋子、西田恭治、後藤美和、稲垣有佐、牧野健一郎、野島正寛、瀧 正志、竹谷英之、長江千愛：血液凝固異常症 QOL 調査から見えた、COVID-19 流行が血友病患者に及ぼした心理的影響。第 46 回日本血栓止血学会学術集会、金沢、2024 年 6 月 13 日

近澤悠志、足利朋子、西田恭治、後藤美和、稲垣有佐、牧野健一郎、中尾 綾、和田育子、小島賢一、野島正寛、瀧 正志、竹谷英之、長江千愛：血液凝固異常症 QOL 調査から見えた、血友病患者における疼痛管理の実態と課題。第 46 回日本血栓止血学会学術集会、金沢、2024 年 6 月 13 日

光黒真菜、西田恭治、藤井由香、河合 健、武山雅博、眞能正幸：LA の存在により第 VIII・IX 因子活性値が院内検査と委託検査で著明に乖離した一症例。第 46 回日本血栓止血学会学術集会、金沢、2024 年 6 月 14 日

B-5

西田恭治：血友病とアドボカシー－アンメット・ニーズへの対応－。第 19 回日本血栓止血学会学術標準化委員会（SSC）、東京、2025 年 2 月 15 日

B-6

西田恭治：産婦人科医の先天性止血異常症対応－血友病保因者とフォン・ヴィレブランド病を中心に－。第 38 回 WEB 宮城産科婦人科学会集談会、WEB 開催、2025 年 2 月 20 日

B-7

武山雅博：血友病 A 治療の Update。サノフィ株式会社、第 6 回 Osaka 血友病カンファレンス、大阪、Web、2024 年 4 月 25 日

武山雅博：血友病治療の変遷。オルツビーオ発売記念講演会 in 大阪、大阪、2024 年 5 月 10 日

武山雅博：中等症および軽症血友病 A 患者に対するヘムライブラ使用の意義。中外 e セミナー on HEMOPHILIA、Web、2024 年 5 月 20 日

武山雅博：小児期の血友病治療戦略。Hemophilia Life Web セミナー、Web、2024 年 8 月 8 日

武山雅博：中等症・軽症血友病患者における課題とその克服。第 18 回阪神ヘモフィリア研究会、大阪、2024 年 8 月 24 日

武山雅博：後天性血友病治療の Up to Date。Okayama Hematology Conference、岡山、2024 年 9 月 7 日

武山雅博：これからの血友病の診療連携について。大阪府 血友病地域診療連携懇話会 患者レジストリについて考える、大阪、2024 年 10 月 10 日

武山雅博：後天性血友病の診断・最新の治療について。希少血液疾患セミナー、Web、2024 年 10 月 30 日

武山雅博：血友病における地域診療連携とレジストリについて。第 8 回近畿血友病診療ネットワーク、Web、2024 年 11 月 21 日

武山雅博：血友病患者の現状と病診連携の重要性。先天性血友病セミナー、Web、2024 年 11 月 29 日

武山雅博：血友病診療の課題とその克服に向けて。Heart in Fukuyama、福山、2024 年 12 月 14 日

武山雅博：軽症・中等症血友病 A における課題とその克服。血友病フロンティア

in 千葉ー軽症・中等症に焦点を当ててー、2024 年 12 月 23 日

西田恭治：明日からの血友病保因者対応。東北信血友病 Web ミーティング、WEB 開催、2024 年 2 月 2 日

西田恭治：血友病 QOL 向上を目指してーこれからの包括医療チーム作りー。血友病 Web 講演会 in 沖縄、那覇、2024 年 5 月 17 日

西田恭治：血友病保因者対応を考えるー保因者健診のコツー。第 4 回東海地区小児血友病フォーラム、名古屋、2024 年 7 月 5 日

西田恭治：血友病と HIV の過去・現在・未来。E² HIV Expert Forum、WEB 開催、2024 年 7 月 23 日

西田恭治：古くて新しい血友病 B と血友病包括医療の 2024 年。Hemophilia B Seminar、WEB 開催、2024 年 8 月 26 日

西田恭治：血友病保因者対応を考えるー産婦人科医、小児科医内科医の視点ー。産婦人科の先生方とおこなう血友病診療連携の会 in KAGOSHIMA、鹿児島、2024 年 11 月 1 日

西田恭治：これからの血友病保因者対応ー保因者健診のコツー。保因者セミナー in 静岡『女性にも起こる止血異常ー女性にも血友病があるって知っていますかー』、静岡、2024 年 10 月 26 日

西田恭治：知っておきたい VWD 治療。Hematology Web Seminar、WEB 開催、2024 年 11 月 13 日

西田恭治：遺伝カウンセリングと女性血友病患者さんのケア。Hemophilia QOL Seminar、WEB 開催、2024 年 11 月 15 日

西田恭治：過多月経時に定期補充療法を検討した症例。VWD 定期補充療法を考える会 2025、WEB 開催、2025 年 1 月 31 日

西田恭治：血友病の世界動向の変遷。Hemophilia Web Seminar、WEB 開催、2024 年 12 月 17 日

B-8

武山雅博：血友病治療薬の動向。第 40 回広島県ヘモフィリア友の会（広友会）総会 医療講演、Web、2024 年 4 月 28 日

西田恭治：血友病診療における課題と今後の展望。血友病社内勉強会、WEB 開催、2024 年 7 月 25 日

西田恭治：血友病保因者対応の現状。WEB エキスパートレクチャーセミナー、WEB 開催、2024 年 9 月 12 日

西田恭治：血友病の世界動向の変遷。Hemophilia Web Seminar、WEB 開催、2024 年 12 月 17 日

B-9

古川晶子：OCTOR'S FLAP, FM 大阪ラジオ「LOVE FLAP」、2025 年 3 月 6 日

2023 年度から、メンバーが一新して、呼吸器悪性腫瘍のみならず、呼吸器疾患全般にわたって診療するようになった。従来通り、呼吸器悪性腫瘍（肺癌，胸膜中皮腫など）に関しては、呼吸器外科・放射線診断科・放射線治療科・臨床検査科・臨床腫瘍科と協同して、肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている。特に近年、周術期にも癌免疫療法や分子標的薬による術前・術後補助療法の適応が拡大してきたため、術前・術後の症例検討を入念に行っている。将来的には、日本呼吸器学会等から保険収載申請中のびまん性肺疾患集学的合議(MDD)の認定基準を満たせる診療検討体制を整えていきたい。気管支鏡診断や気管支鏡下の処置にも力を入れていて、呼吸器悪性腫瘍の検体採取のみならず、びまん性肺疾患の気管支鏡下生検や気管支肺泡洗浄を、積極的かつ迅速に施行するようになった。また気管支内異物除去術も対応可能な準備をしていて、2024 年度中には、2 件の処置を施行した。

共同観察研究「診療報酬請求データを活用した、実臨床下の日本の癌患者における間質性肺疾患の特定アルゴリズムのバリデーション」(研究責任者；国立病院機構大阪医療センター 松村 泰志)、「非小細胞肺癌患者に対する免疫チェックポイント阻害剤単剤とサーカディアンリズムの相関を調べる多施設共同研究 (Circadian-IO)」(研究代表者；国立病院機構近畿中央呼吸器センター 田宮 朗裕)、「未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ＋化学療法の有効性と安全性に関する多施設共同後ろ向き観察研究」(研究代表者；大阪大学大学院医学系研究科 白山 敏之)、「MET ex.14 skipping 変異を有する切除不能進行・再発性非小細胞肺癌における 1 次治療としての免疫療法および分子標的薬剤の治療シーケンスを比較検討する多施設共同後ろ向き観察研究」(代表研究者；大阪国際がんセンター 田宮 基裕)等にも参加した。引き続き、治験や他施設との共同研究にも積極的に取り組んでいきたい。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Ando S, Futami S, Azuma K, Nishimatsu K, Shirasaka T, Minami S : Synchronous Double Primary Lung Adenocarcinomas With EGFR L858R Point Mutation and MET Exon 14 Skipping Mutation. 「J Med Cases」15(8) : 153–158. 2024 年 7 月 5 日

Ando S, Azuma K, Futami S, Mori K, Hirose Y, Shirasaka T, Minami S : Organizing Pneumonia With Diffuse Alveolar Hemorrhage Induced by the Kampo Medicine Choreito. 「J Med Cases」15(7) : 120–125. 2024 年 6 月 19 日

B-6

東 浩志、轟 はる加、西松佳名子、二見真史、安藤性實、南 誠剛：CA125 著明高値を伴った結核性腹膜炎の一例。第 132 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 103 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会、大阪、2024 年 7 月 20 日

二見真史、轟 はる加、西松佳名子、東 浩志、安藤性實、南 誠剛：CBDCA+nab-PTX+atezolizumab の投与中に後天性血友病を発症した肺腺癌の 1 例。第 132 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 103 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会、大阪、2024 年 7 月 20 日

轟 はる加、西松佳名子、東 浩志、松井優紀、二見 真史、俊山礼志、安藤性實、南 誠剛、高見康二：特発性横隔膜内膿瘍の一例。第 104 回日本呼吸器学会近畿地方会 第 8 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会、大阪、2024 年 11 月 30 日

板東裕人、二見真史：がん疼痛患者の生活の質向上に向けたチーム医療としての取り組み。日本がんチーム医療研究会 第 35 回研究集会、大阪、2025 年 3 月 29 日

B-8

二見真史：地域で診る、間質性肺疾患－早期の治療の重要性－。間質性肺炎 地域連携フォーラム、2024 年 10 月 2 日

二見真史：結核の診断、治療、感染対策－結核疑いを見てあわてないために－。大阪医療センター感染制御部主催 感染管理研修会、2024 年 11 月 26 日

二見真史、高橋みずき、田中佑樹、廣瀬由美子：肺癌術後の呼吸困難感・炎症亢進の精査加療中に循環不全を呈した 1 例。第 198 回 CPC、2024 年 12 月 4 日

B-9

安藤性實：DOCTOR's FLAP。FM 大阪、2024 年 06 月 06 日放送

脳神経内科

岡崎 周平

本年度より当科では、診療科長を岡崎が引き継ぎ、診療体制を大きく刷新いたしました。これまでの脳卒中を中心とした急性期診療を維持しながら、てんかんやギラン・バレー症候群などの神経救急、神経変性疾患や神経免疫疾患などの神経難病の受け入れを大幅に拡大しています。それに伴い、本年度は脳卒中患者入院数を前年度とほぼ同等に維持しつつ、筋疾患、脱髄性疾患、神経変性疾患、末梢神経障害などの入院数は、前年度比で2倍～3倍に増加しました。その結果、入院患者数は前年度比で約30%増加し、外来患者数も同約20%増加となり、いずれも過去最高となる見込みです。

当科がこのようにスムーズに診療体制を刷新できたのは、脳神経外科、救命救急センター、総合内科、循環器内科をはじめとする各診療科の先生方や研修医の先生方に患者対応でご協力いただいたことに加え、緊急搬送や入院数の増加に柔軟に対応してくださった救急外来、SCU・東11階病棟、HCU・ICUなど各病棟スタッフの皆様、さらに緊急検査の増加にも快く応じてくださった放射線部や生理機能検査部のスタッフの皆様など、診療・事務・研究に携わるすべての病院スタッフの皆様の支援のおかげです。ここに改めて深く感謝申し上げます。

研究面では、前年度に引き続き本年度も国内外の多数の多施設共同研究に参加しました。RESCUE AT-LVO 試験、ACUTE-PRAS 試験、STABLED 試験、AMFIS 試験、SAFE-ICH 試験、CRYPTON-ICM レジストリ、OCR-STROKE レジストリなどから、多数の研究結果が発表されています。岡崎および前任科長の山上が研究代表者を務める特定臨床研究「心房細動とアテローム血栓症を合併した脳梗塞例に対する抗血栓療法に関する比較試験（ATIS-NVAF）」では、その研究結果が高く評価され、脳卒中領域で最も権威のある International Stroke Conference 2025 にて closing main event として発表しました。

また企業治験では、抗血栓薬である XIa 阻害薬の RCT である Librexia-STROKE 試験において、優れた被験者登録施設として日本からは当院が唯一の代表施設に選ばれ、国際会議にて当院の臨床研究推進部の取組等について報告を行いました。さらに、岡崎らが提唱した東アジア特異的な新しい全身血管病の概念「RNF213 関連血管症」が世界的に認知されるようになり、International Stroke Conference 2025 をはじめ国内外のさまざまな学会で招待講演を行っています。院内では、感染症科との共同で HIV 患者を対象とした脳血管障害の研究にも取り組んでいます。

本年度は若手スタッフや研修医の学会発表の指導にも積極的に取り組み、若手スタッフからは国内学会の全国年次学会などで7演題、初期研修医からは地方会などで6演題の発表がありました。また、若手医師や医師会会員、脳卒中患者などを対象とした神経救急に関する教育講演や実技指導も実施しており、教育活動にも力を入れています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Fujino M, Noguchi T, Torii-Yoshimura T, Okuno Y, Morita Y, Nishimura K, Otsuka F, Kataoka Y, Asaumi Y, Yamagami H, Yasuda S. Outcomes of patients with cerebral microbleeds undergoing percutaneous coronary intervention and dual antiplatelet therapy. 「Heart and Vessels」 39(9) : P763–70、2024 年 9 月 1 日

Yoshimoto T, Yamagami H, Sakai N, Uchida K, Shirakawa M, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Todo K, Hayakawa M, Shindo S, Morimoto M, Takeuchi M, Imamura H, Ikeda H, Tanaka K, Ishihara H, Kakita H, Sano T, Araki H, Nomura T, Sakakibara F, Yoshimura S. Association of perioperative P2Y12 inhibitor administration with outcomes for tandem occlusion: RESCUE AT-LVO sub-study. 「Frontiers in Neurology」 15 : P1475882、2024 年 11 月 21 日

Peacock M, Drumm B, Klein P, Raymond J, Huo X, Chen Y, Abdalkader M, Schonewille WJ, Liu X, Hu W, Li C, Ji X, Alemseged F, Liu L, Siegler JE, Nagel S, Strbian D, Sacco S, Yaghi S, Qureshi MM, Fischer U, Sousa DAD, Yamagami H, Michel P, Puetz V, Mujanovic A, Marto JP, Kristoffersen ES, Sandset EC, Demeestere J, Hanning U, Novakovic R, Kenmuir C, Agid R, Romoli M, Diana F, Lobotesis K, Roi D, Masoud HE, Ma A, Zhu Y, Sang H, Sun D, Ton MD, Raynald, Li F, Nasrdein A, Jesser J, Kaesmacher J, Weyland CS, Meyer L, Yeo LLL, Yang Q, Thomalla G, Yang P, Poli S, Campbell BCV, Qureshi AI, Chen H, Zaidat OO, Qiu Z, Nogueira RG, Jovin TG, Miao Z, Nguyen TN, Banerjee S. Basilar artery occlusion management: An international survey of gender influence on management. 「Interventional Neuroradiology」 P15910199241265590、2024 年 8 月 14 日

Beppu M, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Todo K, Hayakawa M, Shindo S, Ota S, Morimoto M, Takeuchi M, Imamura H, Ikeda H, Tanaka K, Ishihara H, Kakita H, Sano T, Araki H, Nomura T, Sakakibara F, Shirakawa M, Yoshimura S, RESCUE AT-LVO Investigators. Optimal Endovascular Therapy Technique for Isolated Intracranial Atherothrombotic Stroke-Related Large-Vessel Occlusion in the Acute-to-Subacute Stage. 「AJNR American Journal of Neuroradiology」 45(11) : P1692–700、2024 年 11 月 7 日

Fujiwara S, Uchida K, Sakakibara F, Sakai N, Imamura H, Ohta T, Kawamoto M, Ohara N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Yoshimura S, Morimoto T. Characteristics and prognostic impact of unsuccessful recanalization after endovascular therapy for acute ischemic stroke. 「Journal of the Neurological Sciences」 466 : P123247、2024 年 11 月 15 日

Demeestere J, Qureshi MM, Vandewalle L, Wouters A, Strbian D, Nogueira RG,

Nagel S, Yamagami H, Nguyen TN, et al. Outcomes of Bridging Intravenous Thrombolysis Versus Endovascular Therapy Alone in Late-Window Acute Ischemic Stroke. 「Stroke」 55(7) : P1767–75、2024 年 7 月 1 日

Nguyen TN, Nogueira RG, Qureshi MM, Nagel S, Raymond J, Abdalkader M, Demeestere J, Marto JP, Sheth SA, Puetz V, Dusart A, Michel P, Ribo M, Zaidat OO, Siegler JE, Haussen DC, Strbian D, Henon H, Mohammaden MH, Möhlenbruch MA, Olive-Gadea M, Puri AS, Winzer S, Kaesmacher J, Klein P, Tomppo L, Caparros F, Ramos JN, Jumaa MA, Zaidi SF, Martinez-Majander N, Nannoni S, Vandewalle L, Bellante F, Farooqui M, Salazar-Marioni S, Virtanen P, Kaiser DPO, Wouters A, Ventura R, Jesser J, Mujanovic A, Shu L, Castonguay AC, Mansoor Z, Qiu Z, Masoud HE, Requena M, Peltola E, Hu W, Lin E, Tanaka K, Cordonnier C, Roy D, Yaghi S, Strambo D, Yamagami H, Fischer U, Jovin TG, Lemmens R, Ringleb PA, Ortega-Gutierrez S. Noncontrast CT Selected Thrombectomy vs Medical Management for Late-Window Anterior Large Vessel Occlusion. 「Neurology」 102(10) : e209324、2024 年 5 月 28 日

Abdalkader M, Ning S, Qureshi MM, Haussen DC, Strbian D, Nagel S, Demeestere J, Puetz V, Mohammaden MH, Gadea MO, Winzer S, Yamagami H, Tanaka K, Marto JP, Tomppo L, Henon H, Sheth SA, Ortega-Gutierrez S, Martinez-Majander N, Caparros F, Lemmens R, Dusart A, Bellante F, Zaidi SF, Siegler JE, Nannoni S, Kaesmacher J, Dobrocky T, Farooqui M, Salazar-Marioni S, Virtanen P, Vandewalle L, Wouters A, Jesser J, Ventura R, Castonguay AC, Uchida K, Puri AS, Masoud HE, Klein P, Mansoor Z, Bui J, Kang M, Mujanovic A, Rizzo F, Kokkonen T, Ramos JN, Strambo D, Michel P, Möhlenbruch MA, Lin E, Kaiser DPO, Yoshimura S, Sakai N, Cordonnier C, Ringleb PA, Roy D, Zaidat OO, Fischer U, Ribo M, Raymond J, Nogueira RG, Nguyen TN. Sex Differences in Outcomes of Late-Window Endovascular Stroke Therapy. 「Stroke」 55(2) : P278–287、2024 年 2 月 1 日

Akagi T, Hara H, Kanazawa H, Fukui S, Hashimoto Y, Iguchi Y, Iwama T, Kataoka H, Kawamura A, Kawano H, Oki K, Yamagami H, PFO Japan PMS Investigators. Real-World Patent Foramen Ovale (PFO) Closure in Japan - 30-Day Clinical Outcomes From the Amplatzer™ PFO Occluder Japan Post-Marketing Surveillance Study. 「Circulation Journal: Official Journal of the Japanese Circulation Society」 88(9) : P1391–7、2024 年 8 月 23 日

Uchida K, Yamagami H, Sakai N, Iihara K, Imamura H, Ishii A, Matsumaru Y, Sakai C, Satow T, Sakakibara F, Shirakawa M, Yoshimura S, JR-NET4 Study Group. Early neurological changes following endovascular therapy for acute stroke due to intracranial atherosclerotic disease. 「Journal of the Neurological Sciences」 460 : P122978、2024 年 5 月 15 日

Nishiyama Y, Miyamoto S, Sakaguchi M, Sakai N, Yoshida K, Tokuda N, Ichi S, Iguchi Y, Koga M, Yamaura I, Hirano T, Yamagami H, Kimura K. Clinical characteristics of stroke in SARS-CoV-2 infected patients in Japan: A prospective nationwide study. 「Journal of the Neurological Sciences」 457 : P122865、2024 年 2 月 15 日

Jesser J, Nguyen T, Dmytriw AA, Yamagami H, Miao Z, Sommer LJ, Stockero A, Pfaff JAR, Ospel J, Goyal M, Patel AB, Pereira VM, Hanning U, Meyer L, van Zwam WH, Bendszus M, Wiesmann M, Möhlenbruch M, Weyland CS. Treatment practice of vasospasm during endovascular thrombectomy: an international survey. 「Stroke and Vascular Neurology」 9(5) : P490–6、2024 年 11 月 5 日

Shindo S, Uchida K, Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Inoue M, Sakakibara F, Nakajima M, Ueda M, Morimoto T. Intravenous alteplase before endovascular therapy for acute large vessel occlusion with large ischemic core: subanalysis of a randomized clinical trial. 「Journal of Neurointerventional Surgery」 16(11) : P1094–100、2024 年 10 月 14 日

Kuwahara S, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Imamura H, Takeuchi M, Shirakawa M, Sakakibara F, Haraguchi K, Kimura N, Suzuki K, Yoshimura S. Impact of atherosclerotic etiology on technical and clinical outcomes of mechanical thrombectomy with a stent retriever: subanalysis of the Japan Trevo Registry. 「Journal of Neurointerventional Surgery」 17(e1) : e96–101、2024 年 12 月 26 日

Uchida K, Yamagami H, Sakai N, Shirakawa M, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Todo K, Hayakawa M, Shindo S, Ota S, Morimoto M, Takeuchi M, Imamura H, Ikeda H, Tanaka K, Ishihara H, Kakita H, Sano T, Araki H, Nomura T, Sakakibara F, Yoshimura S. Endovascular therapy for acute intracranial large vessel occlusion due to atherothrombosis: Multicenter historical registry. 「Journal of Neurointerventional Surgery」 16(9) : P884–91、2024 年 8 月 14 日

Drumm B, Herning A, Klein P, Raymond J, Abdalkader M, Huo X, Chen Y, Siegler JE, Peacock M, Schonewille WJ, Liu X, Hu W, Ji X, Li C, Alemseged F, Liu L, Nagel S, Strbian D, Rebello LC, Yaghi S, Qureshi MM, Fischer U, Tsvigoulis G, Kaesmacher J, Yamagami H, Puetz V, Sylaja PN, Marto JP, Sacco S, Kristoffersen ES, Demeestere J, Conforto AB, Meyer L, Kaiser DPO, Reiff T, Aydin K, Romoli M, Diana F, Lobotesis K, Roi D, Masoud HE, Ma A, Mohammaden MH, Doheim MF, Zhu Y, Sang H, Sun D, Ton MD, Raynald, Li F, Lapergue B, Hanning U, Yang Q, Lee JS, Thomalla G, Yang P, Liu J, Campbell BCV, Chen H, Zaidat OO, Qiu Z, Nogueira RG, Miao Z, Nguyen TN, Banerjee S. Basilar artery occlusion management: An international survey of middle

versus high-income countries. 「Interventional Neuroradiology: Journal of Peritherapeutic Neuroradiology, Surgical Procedures and Related Neurosciences」 30(5) : P702–11、2024 年 10 月 1 日

Ozaki T, Yamagami H, Morimoto M, Hatano T, Oishi H, Haraguchi K, Yoshimura S, Sugiu K, Iihara K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Satow T, Hayakawa M, Sakai C, Miyamoto S, Kitagawa K, Daimon T, Kagimura T, Sakai N. Short- versus long-term Dual AntiPlatelet Therapy for Stent-Assisted treatment of Cerebral aneurysm (DAPTS ACE): a multicenter, open-label, randomized clinical trial. 「Journal of Neurointerventional Surgery」 16(2) : P171–6、2024 年 1 月 12 日

Ohta T, Takeuchi M, Yamagami H, Tsuto K, Yamamoto S, Asai K, Ishii A, Imamura H, Yoshimura S, Fukumitsu R, Sakai C, Sakai N, Tateshima S. First-in-human trial of a self-expandable, temporary dilation system for intracranial atherosclerotic disease in patients presenting with acute ischemic stroke. 「Journal of Neurointerventional Surgery」 16(12):P1232–6、2024 年 11 月 22 日

Yamagami H, Ozaki T, Ogasawara K, Nagata I, Matsumaru Y, Yoshimura S, Sasaki M, Nagatsuka K, Minematsu K, Nagai Y, Sakai C, Matsumoto Y, Ezura M, Ishihara H, Sakai N. Randomized Controlled Trial of Cilostazol Addition for In-Stent Restenosis After Carotid Artery Stenting. 「Stroke」 55(12) : P2776–85、2024 年 12 月 1 日

Tanaka K, Yoshimoto T, Koge J, Yamagami H, Imamura H, Sakai N, Uchida K, Beppu M, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Inoue M, Sakakibara F, Morimoto T, Yoshimura S, Toyoda K, RESCUE-Japan LIMIT Investigators. Detrimental Effect of Acute Hyperglycemia on the Outcomes of Large Ischemic Region Stroke. 「Journal of the American Heart Association」 13(23) : e034556、2024 年 12 月 3 日

Moriyama T, Todo K, Yamagami H, Kimura Y, Yamamoto S, Nagano K, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Koge J, Nakayama T, Iwata T, Ueno Y, Gon Y, Okazaki S, Sasaki T, Mochizuki H. Relationship between initial B-type natriuretic peptide levels and detection of atrial fibrillation with an insertable cardiac monitor in cryptogenic stroke: CRYPTON-ICM registry. 「Frontiers in Neurology」 15 : P1436062、2024 年 9 月 18 日

Kawano T, Gon Y, Sakaguchi M, Yamagami H, Abe S, Hashimoto H, Ohara N, Takahashi D, Abe Y, Takahashi T, Okazaki S, Todo K, Mochizuki H, Sasaki T, SCAN Study Investigators. Von Willebrand factor antigen levels predict poor outcomes in patients with stroke and cancer: Findings from the multicenter, prospective, observational SCAN study. 「Journal of the American Heart Association」 13(3) : e032284、2024 年 2 月 6 日

Todo K, Okazaki S, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Koge J, Iwata T, Ueno Y, Yamagami H, Kimura N, Morimoto M, Kondo D, Koga M, Nagata E, Miyamoto N, Kimura Y, Gon Y, Sasaki T, Mochizuki H, CRYPTON-ICM Registry Investigators. Atrial fibrillation detection and ischemic stroke recurrence in cryptogenic stroke: A retrospective, multicenter, observational Study. 「Journal of the American Heart Association」 13(3) : e031508、2024 年 2 月 6 日

Sakurai R, Gon Y, Shimada Y, Okazaki S, Todo K, Sasaki T, Mochizuki H. Association between the controlling nutritional status score and outcomes in ischemic stroke patients with active cancer. 「Journal of Clinical Neuroscience: Official Journal of the Neurosurgical Society of Australasia」 120 : P170–4、2024 年 2 月 1 日

Gon Y, Morishima T, Kawano T, Okazaki S, Todo K, Sasaki T, Mochizuki H, Miyashiro I. Arterial Thromboembolism in Japanese Patients With Cancer: Incidence, Predictors, and Survival Impact. 「JACC CardioOncology」 6(2) : P283–97、2024 年 4 月 1 日

Shimada Y, Todo K, Doijiri R, Yamazaki H, Sonoda K, Koge J, Iwata T, Ueno Y, Yamagami H, Kimura N, Morimoto M, Kondo D, Koga M, Nagata E, Miyamoto N, Kimura Y, Gon Y, Okazaki S, Sasaki T, Mochizuki H, CRYPTON-ICM Registry Investigators. Higher Frequency of Premature Atrial Contractions Correlates With Atrial Fibrillation Detection after Cryptogenic Stroke. 「Stroke」 55(4) : P946–53、2024 年 4 月 1 日

Murakami Y, Todo K, Uchida K, Yamagami H, Sakai N, Gon Y, Okazaki S, Sasaki T, Yoshimura S, Morimoto T, Mochizuki H. One-year morbidity and mortality in patients treated with standard-dose and low-dose apixaban after acute large vessel occlusion stroke. 「Journal of Thrombosis and Thrombolysis」 57(4) : P622–9、2024 年 4 月 1 日

Okazaki S, Yamamoto H, Asakura K, Omae K, Maeda H, Tanaka K, Yamamoto S, Hirano T, Iguchi Y, Sakaguchi M, Koga M, Ihara M, Toyoda K, Noguchi T, Sakai N, Yamagami H. Optimal antithrombotic therapy in ischemic stroke patients with non-valvular atrial fibrillation and atherothrombosis: study protocol for a randomized controlled trial. 「Frontiers in Neurology」 15 : P1468523、2024 年 10 月 23 日

A-3

森山拓也、岡崎周平、清水大輝、和田山 智哉、江左佳樹、白旗恵美、小川拓也、木村陽子、宇野貴宏、浅井克則、永野恵子：内頸動脈先端部閉塞で発症した duplicated middle cerebral artery 領域の脳梗塞の一例「脳卒中」2025 年 1 月 24 日

B-1

Okazaki S : Asia Specific Forms of Stroke:RNF213 Related Vasculopathy, Intracranial Arterial Stenosis. International Stroke Conference 2025, Los Angeles, 2025 年 2 月 6 日

Okazaki S and Yamagami H. A randomized controlled trial of antithrombotic therapy in ischemic stroke patients with non-valvular atrial fibrillation and atherosclerosis: The ATIS-NVAF trial. International Stroke Conference 2025, Los Angeles, 2025 年 2 月 7 日

B-3

岡崎周平 : 脳梗塞・慢性期の抗血栓療法。第 65 回日本神経学会学術大会、東京、2024 年 5 月 29 日

岡崎周平 : RNF213 関連血管病：新規疾患概念の確立と今後の展望。第 67 回日本脳循環代謝学会学術集会、富山、2024 年 11 月 1 日

岡崎周平 : 非心原性脳梗塞の急性期～慢性期抗血栓療法。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2025 年 3 月 6 日

岡崎周平 : 心房細動と動脈硬化性疾患を有する脳卒中患者に対する最適な抗凝固療法：ATIS-NVAF 試験。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2025 年 3 月 7 日

永野恵子 : がん関連血栓症と下肢静脈エコー。第 43 回日本脳神経超音波学会・第 27 回日本栓子検出と治療学会（合同開催）、東京、2024 年 6 月 29 日

山上 宏、森山拓也、岡崎周平 : 塞栓源心疾患再考と脳心連携(MT で回収された血栓病理含む) Atrial Cardiomyopathy の診断と治療を探る。第 43 回日本脳神経超音波学会・第 27 回日本栓子検出と治療学会（合同開催）、東京、2024 年 6 月 29 日

永野恵子 : 急性期脳卒中における深部静脈血栓症予防。第 19 回日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム、東京、2025 年 2 月 15 日

B-4

森山拓也、小川拓也、木村陽子、岡崎周平、山本司郎、永野恵子、山上 宏 : Atrial cardiopathy の関与が考えられた脳主幹動脈閉塞の一例。第 43 回日本脳神経超音波学会・第 27 回日本栓子検出と治療学会（合同開催）、東京、2024 年 6 月 29 日

森山拓也、小川拓也、宇野貴宏、浅井克則、岡崎周平 : 内頸動脈先端部閉塞で発症した Duplicated MCA の症例。第 5 回日本脳神経内科血管治療研究会、福岡、2024 年 8 月 24 日

清水大輝、森山拓也、江左佳樹、和田山智哉、白旗恵美、小川拓也、岡崎周平 : 転

帰不良となった低 ASPECTS 主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法の一例。第 5 回日本脳神経内科血管治療研究会、福岡、2024 年 8 月 24 日

岡崎周平、柊津智久、猪原匡史、高橋哲也、細見直永、青木志郎、吉本武史、吾郷哲朗、藤堂謙一、北川一夫、永井洋士、望月秀樹、豊田一則、丸山博文、北園孝成、峰松一夫、内山真一郎、松本昌泰：RNF213 p.R4810K 遺伝子変異が脳血管障害の再発に与える影響：Insights from J-STARS Genomics。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2025 年 3 月 7 日

濱本暁子、岡崎周平、隅 寿恵、藤本京利、権 泰史、高垣匡寿、笹原祐介、神吉秀明、河野友裕、高杉純司、藤本康倫、由上登志郎、藤中俊之、本山 靖、橋本弘行、榊 孝之、横江 勝、坂口 学、貴島晴彦、望月秀樹：脳卒中超急性期治療において搬送から治療開始までの時間に影響を与える因子の検討。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2025 年 3 月 7 日

森山拓也、清水大輝、和田山智哉、江左佳樹、白旗恵美、小川拓也、木村陽子、岡崎周平：脳卒中医目線の生成 AI 活用 ～働き方改革のための実践と効果～。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪、2025 年 3 月 7 日

B-6

羽白 亮、小川拓也、森山拓也、木村陽子、山本司郎、永野恵子、山上 宏、岡崎周平：鑑別を要した抗 GAD 抗体陽性の辺縁系脳炎の 1 例。第 244 回日本内科学会 近畿地方会、京都、2024 年 6 月 29 日

渡邊久遠、小川拓也、森山拓也、木村陽子、山本司郎、永野恵子、山上 宏、岡崎周平：ランソプラゾールによる薬剤熱を呈した抗 NMDA 受容体抗体陽性脳炎の一例。第 244 回日本内科学会 近畿地方会、京都、2024 年 6 月 29 日

松本浩太郎、江左佳樹、和田山智哉、小川拓也、清水大輝、森山拓也、白旗恵美、木村陽子、岡崎周平：右後脊髄動脈閉塞が疑われた脊髄梗塞の 1 例。第 129 回日本神経学会 近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

中井智規、森山拓也、和田山智哉、小川拓也、清水大輝、木村陽子、江左佳樹、白旗恵美、伴 建二、岡崎周平：病名告知直後に発語困難となり心因性と誤診された脳動脈解離による脳梗塞の一例。第 246 回日本内科学会 近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 14 日

林 大翔、和田山智哉、清水大輝、江左佳樹、森山拓也、白旗恵美、小川拓也、松本貴晶、浅井克則、岡崎周平：原発性脳腫瘍との鑑別を要した孤発性中枢性サルコイドーシスの 1 例。第 247 回日本内科学会 近畿地方会、京都、2025 年 3 月 8 日

B-8

岡崎周平：脳動脈狭窄症の診断と治療の最前線。大阪市中央区東医師会法円坂地域

医療フォーラム、大阪、2024年5月25日

岡崎周平：頭痛診療アップデート。第61回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024年11月30日

和田山智哉：パーキンソン病初期診断のコツと最新治療。第61回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024年11月30日

岡崎周平：脳卒中ってなんやねん！？：脳卒中の予防。脳卒中市民公開講座、大阪、2025年3月9日

B-9

岡崎周平：読売テレビ『情報ライブ ミヤネ屋』 2024年6月13日

岡崎周平：FM大阪『LOVE FLAP』 2024年8月29日

④【班研究・研究助成実績の報告書】

1. 科学研究費助成事業 研究成果報告書

機関番号:84414

研究種目:基盤研究(C)(一般)

研究期間:2019~2023

課題番号:19K06922

研究課題名:もやもや病感受性遺伝子 RNF213 変異が脳梗塞を起こす機序の
解明と治療戦略の探索

研究代表者:岡崎周平(60623072)

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,400,000 円

(PDF 添付)

感染症内科

渡邊 大

当院は平成9年4月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療・研究・情報発信・教育研修の4つの機能を求められています。毎年100例前後の新規HIV感染者が受診し、令和6年12月末で当院のHIV感染者の累計患者数は4261名となりました。当科では、HIV感染症に関する多様なニーズに対して、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・カウンセラー・情報担当官らでチーム医療を実践しています。感染症内科の診療内容は、HIV感染症が全体の9割近くを占めています。

「主な診療と研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗HIV療法の確立によって、エイズによる死亡者数は減少しました。当科では、AIDS指標疾患であるニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、クリプトコッカス髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症の診療を行っています。抗HIV療法では、ガイドラインに則した最新の治療を提供し、定期通院ができている患者の全員で治療が奏効しています。抗HIV療法は患者の予後を改善し、パートナーへの感染も予防することから、現在では全ての感染者に治療の開始が推奨されています。抗HIV療法は長期間にわたり正確な内服を継続しなければならないため、その身体的・精神的負担は現在も残されています。さらには、非AIDS関連悪性腫瘍の増加、糖尿病や心・腎合併症など生活習慣病への対応の必要性も増してきています。研究については臨床研究センター・エイズ先端医療研究部の紹介文をご参照ください。

「情報発信と教育研修」

HIV感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延しています。日本では、他の疾患と比べ30～50歳代の比較的若年者が主要な年齢層です。ブロック拠点病院である当院にHIV感染者の診療が集中していますが、中核拠点病院を始めとした各拠点病院と連絡会議や研修会を行い、地域全体で診療できる体制を目指しています。研修のための各種マニュアルや冊子を作成し、無料で公開・配布しています。HIV/AIDS先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っています(<https://osaka.hosp.go.jp/department/khac/>)。近年、HIV感染者の高齢化に伴い、HIV感染症以外の疾病の対策や長期療養の必要性が一層高まりました。地域の医療機関や訪問看護との連携も積極的に行っています。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指しています。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Nishiura H, Fujiwara S, Imamura A, Shirasaka T : HIV incidence before and during the

COVID-19 pandemic in Japan. 「Mathematical Biosciences and Engineering」 21(4) : 4874-4885. 2024 年 2 月 29 日 29 日

Oka S, Holohan V, Shirasaka T, Choi JY, Kim YS, Chamay N, Patel P, Polli JW, Ford SL, Crauwels H, Garside L, D'Amico R, Latham C, van Solingen-Ristea R, Baugh B, van Wyk J: Asian participants' experience in phase 3/3b studies of long-acting cabotegravir and rilpivirine: Efficacy, safety, pharmacokinetic, and virological outcomes through week 96. 「HIV Med」 25(3) : 381-390. 2024 年 5 月

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Kushida H, Hirota K, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T. Association between tenofovir plasma trough concentrations in the early stage of administration and discontinuation of up to five years tenofovir disoproxil fumarate due to renal function-related adverse events in Japanese HIV-1 infected patients. 「J Pharm Health Care Sci」 10(1) : 20、2024 年 5 月 10 日

Ando S, Azuma K, Futami S, Mori K, Hirose Y, Shirasaka T, Minami S : Organizing Pneumonia With Diffuse Alveolar Hemorrhage Induced by the Kampo Medicine Choreito. 「J Med Cases」 15(7) : 120-125、2024 年 7 月

Ando S, Futami S, Azuma K, Nishimatsu K, Shirasaka T, Minami S : Synchronous Double Primary Lung Adenocarcinomas With EGFR L858R Point Mutation and MET Exon 14 Skipping Mutation. 「J Med Cases」 15(8) : 153-158、2024 年 8 月

Nishiura H, Fujiwara S, Imamura A, Shirasaka T : Regional variations in HIV diagnosis in Japan before and during the COVID-19 pandemic. 「Infect Dis Model」 10(1) : 40-49、2024 年 8 月 16 日

Koga M, Fukuda A, Nojima M, Ishizaka A, Itoh T, Eguchi S, Endo T, Kakinuma A, Kinai E, Goto T, Takahashi S, Takeda H, Tanaka T, Teruya K, Hanai J, Fujii T, Fujitani J, Hosaka T, Mita E, Minami R, Moro H, Yokomaku Y, Watanabe D, Watanabe T, Yotsuyanagi H : Non-acquired immunodeficiency syndrome defining malignancies in people living with haemophilia and human immunodeficiency virus after the direct-acting antivirals era for hepatitis C virus: A nationwide questionnaire survey in Japan. 「Glob Health Med」 6(5) : 316-323、2024 年 10 月 31 日

Yokomaku Y, Teruya K, Watanabe D, Endo T, Minami R, Taguchi N, Cassidy T, Marongiu A, Thorpe D, Shirasaka T, Oka S : Bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in treatment-naïve and treatment-experienced people with HIV: 12-month virologic effectiveness and safety outcomes in the BICSTaR Japan cohort. 「PLoS One」 20(1) : e0313338、2025 年 1 月 8 日

Trottier B, Yang CJ, Watanabe D, Marchetti G, Elbirt D, De Barra E, Gündüz A, Lee SH, Vogelmann R, Robineau O, Choy CY, Berrevoets M, Uriel A, Thorpe D, Heinzkill M,

Marongiu A, Ramroth J, D'Amato L, Mallolas J : Bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide in clinical practice for people with HIV: final 24-month effectiveness and safety outcomes in key populations in the observational BICSTaR cohort. 「HIV Res Clin Pract」 26(1) : 2456890、2025 年 2 月 12 日

A-1

四本美保子、渡邊 大 : 抗 HIV 治療ガイドライン 2025 年 3 月、令和 6 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究」、2025 年 3 月 31 日

渡邊 大 : HIV 感染症治療薬「Pocket Drugs 2025」福井次矢監修、小松康宏・渡邊裕司編集、P826-841、医学書院、東京、2025 年 1 月 1 日

A-2

渡邊 大、上平朝子 : HIV 感染の基礎知識。「必ず役立つ！肝炎診療バイブル改定 6 版」、三田英治、平松直樹編集、P142-158、メディカ出版、大阪、2024 年 10 月 1 日発行

日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン 2024 作成委員会（上地隆史、他） : 「成人肺炎診療ガイドライン 2024」日本呼吸器学会、東京、2024 年 4 月 5 日

白阪琢磨 : 抗 HIV 薬「治療薬ハンドブック 2025」P.1452-1475、株式会社じほう、2025 年 1 月

A-3

安尾利彦、神野未佳、西川歩美、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、富成伸次郎、白阪琢磨 : 他の慢性疾患患者との比較にみる、HIV 陽性者の行動と心理の特徴に関する研究「日本エイズ学会誌」26(2) : P.85-93、日本エイズ学会、2024 年 5 月

渡部健二、河盛 段、高橋 剛、佐田遼太、服部 聡、白阪琢磨 : HIV・AIDS 医学教育プログラムの開発と評価「日本エイズ学会誌」、日本エイズ学会、2024 年 9 月

椎野禎一郎、潟永博之、今橋真弓、渡邊 大、南 留美、蜂谷敦子、西澤雅子、林田庸総、吉田 繁、豊嶋崇徳、伊藤俊広、古賀道子、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、仲村秀太、松下修三、吉村和久、杉浦 互、菊地 正 : 薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク : 国内 HIV-1 伝播クラスターの 2022 年の動向 : 薬剤耐性 HIV 調査ネットワークによる SPHNCS 年報「日本エイズ学会誌」26(3) : 139-150、2024 年 8 月 31 日

A-4

平賀紀行、白阪琢磨、四本美保子、長山千紗、山内 愛、工藤秀之、春次伸次郎、菊池秀年、原岡正志、林恭子：エイズ予防指針の提唱する検査相談・医療体制下で現在認められている臨床的課題とその克服策についての検討「西日本泌尿器科(Web)」 87（増刊号1）P.20、2025年1月20日

山本俊祐、渡邊 大、眞能正幸、長谷川裕子、阪森亮太郎、三田英治．カポジ肉腫（HHV-8 関連）「消化器内視鏡」36（4）：P.506-507、2024年4月16日

渡邊 大：Q&A 形式 Case Study。CKD および HBV 感染を合併した症例の ART 選択について「HIV 感染症と AIDS の治療」15(1)：P.35-37、メディカルレビュー社、大阪、2024年12月15日

白阪琢磨：ガイドライン改訂の Points “DHHS ガイドライン改訂のポイント” 「HIV 感染症と AIDS の治療」15(1)：P.13-20、メディカルレビュー社、2024年12月

A-5

渡邊 大：HIV 診療の現状と HIV 感染者の透析医療の課題「大阪透析研究会会誌」42(1)：P.11-15、2025年3月1日

白阪琢磨、山崎厚司、辻 宏幸：高校生世代に向けた予防啓発の実践と教材開発の検討「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究 令和6年度研究報告書」、2025年3月

白阪琢磨、山崎厚司、辻 宏幸：高校生世代に向けた予防啓発の実践と教材開発の検討「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究 令和6年度研究報告書」、2025年3月

B-2

Trottier B, Bonnet F, Garcia-Deltoro M, Andreoni M, Boffito M, van Welzen B.J., Turner D, McConkey S, Watanabe D, Lu P-L, Gündüz A, Brunetta J, Thorpe D, D’Antoni M.L., Cassidy T, Marongiu A, Weinberg A. R., Haubrich R, Scholten S : Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. 33rd Annual Canadian Conference on HIV/AIDS Research, Ontario, Canada, 2024年4月25日

Trottier B, Bonnet F, Garcia-Deltoro M, Andreoni M, Boffito M, van Welzen B.J., Turner D, McConkey S, Watanabe D, Lu P-L, Gündüz A, Thorpe D, D’Antoni M.L., Cassidy T, Marongiu A, Weinberg A.R., Chien C, Haubrich R, Scholten S : Real-World Effectiveness And Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) In Treatment-Experienced People With HIV And a History of Antiretroviral Drug

Resistance. American Conference for the Treatment of HIV (ACTHIV), Atlanta, USA, 2024 年 5 月 2 日

Kikuchi T, Gatanaga H, Imahashi M, Watanabe D, Minami R, Yoshida S, Hayashida T, Shiino T, Nishizawa M, Hachiya A, Yoshimura K, Sugiura W, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network: Surveillance of HIV-1 transmitted drug resistance in Japan, 2020-2022. Asia-Pacific HIV Research Forum 2024, Taipei, Taiwan, 2024 年 5 月 18 日

Yasuda K, Misawa N, Ono H, Watanabe D, Shirakawa K, Sato K, Saito H, Takaori-Kondo A, Koyanagi Y, Takeuchi O: MEX3B, an RNA-binding protein, strongly suppresses HIV-1 viral replication depending on its RNA-binding ability. 3rd France – Japan symposium on HIV/AIDS & infectious diseases basic research, Paris, France, 2024 年 10 月 29 日

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Hirota K, Matsumura T, Ueji T, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T: Association of ABCG2 genetic polymorphisms with subjective symptoms and weight gain by bictegravir administration in Japanese HIV-1-infected patients. HIV Glasgow Congress, Glasgow, UK, 2024 年 11 月 10 日

B-3

白阪琢磨: ZERO transmission in Japan by 2030 について。第 32 回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2024 年 8 月 29 日

矢倉裕輝: HIV 領域における外来診療の実際と多職種連携の重要性～薬剤師の立場から～。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

白阪琢磨: HIV 感染症：治療の手引き「ZERO transmission in Japan by 2030」。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 30 日

B-4

坪倉美由紀、上平朝子: A 病院における血液培養汚染率の評価と課題。第 39 回日本環境感染学会総会・学術集会、京都、2024 年 7 月 27 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、渡辺 大、上平朝子、金村米博、藤中俊之: 当院における HIV 感染症に合併した脳病変に対する手術経験。日本脳神経外科学会第 83 回学術総会、横浜、2024 年 10 月 16 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、渡辺 大、上平朝子、金村米博、中島 伸、藤中俊之: Brain lesions associated with HIV infection: A single-center surgical experience。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

久利 歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野 淳、渡辺 大: CYP3A5 および UGT1A1 の遺

伝子多型がビグテグラビルの薬物動態および血清クレアチニンに及ぼす影響。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 28 日

小島賢一、長江千愛、足利朋子、稲垣有佐、柿沼章子、後藤美和、近澤悠志、瀧正志、竹谷英之、中尾 綾、西田恭治、野島正寛、牧野健一郎、和田育子：薬害 HIV 感染血友病患者の今－非薬害血友病患者との意識調査の比較 第 2 報－。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

中内崇夫、矢倉裕輝、岸田啓太郎、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ドラビリンへスイッチした症例における 96 週までの糖代謝に及ぼす影響に関する調査。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染者に合併した非結核性抗酸菌症の症例。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

白阪琢磨、川戸美由紀、橋本修二、三重野牧子、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 健康状態と生活状況の概要。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

菊地 正、西澤雅子、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、潟永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、蜂谷敦子、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、吉村和久、杉浦 亙：2023 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの特効性注射剤の血中濃度に関する検討 第 2 報。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

渡邊 大、西田恭治、矢倉裕輝、藤原綾乃、武山雅博、矢田弘史、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨：包括的凝固機能検査による HIV 感染者の凝固機能に関する検討。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

川戸美由紀、三重野牧子、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績

第 2 報 不健康割合の推移。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

三重野牧子、川戸美由紀、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、湯永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績
第 3 報 悩みやストレスとこころの状態の関連。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

佐野貴子、土屋菜歩、渡邊大地、須藤弘二、近藤真規子、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島 嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤眞吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史：ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」のサイト利用状況および新規ウェブサイト「性感染症検査・相談マップ」の開設について。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

B-5

渡邊 大：HIV 診療の現状と HIV 感染者の透析医療の課題。第 101 回大阪透析研究会、大阪、2024 年 9 月 15 日

B-6

渡邊 大、矢倉裕輝、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV の PR 領域と RT 領域のアミノ酸残基におけるアミノ酸の時間変化に関する検討。第 37 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2024 年 6 月 15 日

久利 歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：日本人 HIV-1 感染者における CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型とビクテグラビル血漿トラフ濃度の関連。第 37 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2024 年 6 月 15 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型が血漿中ビクテグラビル濃度に及ぼす影響。第 32 回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2024 年 8 月 29 日

B-7

渡邊 大：抗 HIV 療法の変遷と持効性注射剤が HIV 陽性者にもたらすもの。HIV Forum 2024 in Osaka、大阪、2024 年 4 月 25 日

渡邊 大：持効性注射剤が HIV 患者に及ぼす影響とは。HIV Forum 2024 in Osaka、大阪、2024 年 5 月 25 日

渡邊 大：HIV 感染症における薬剤耐性のこれまでとこれから。Expert seminar on PLWH/H、WEB開催、2024 年 7 月 31 日

白阪琢磨：日本における HIV 感染症の現状について。Gilead HIV Symposium 2024

Osaka、大阪、2024 年 9 月 7 日

渡邊 大：PLWHの個別化治療を考えるーピフェルトロ[®]の臨床的位置づけも含めて。HIVフォーラム 2025、WEB開催、2025年2月17日 ※PLWH: People Living with HIV

B-8

渡邊 大：政策医療「HIV/AIDS 医療の現状と当院の役割」。令和 6 年度新採用職員研修、大阪、2024 年 4 月 3 日

渡邊 大：HIV 感染症とは。大阪医療センター令和 6 年度新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2024 年 4 月 10 日

渡邊 大：病理学各論Ⅳ ヒト免疫不全ウイルス（HIV）。大阪医療センター看護学校講義、2024 年 6 月 24 日

白阪琢磨：臨床医学持論。大阪大学 6 年次講義、大阪、2024 年 7 月 8 日

渡邊 大：病理学各論Ⅳ 自己免疫疾患。大阪医療センター看護学校講義、2024 年 7 月 22 日

白阪琢磨：医学の進歩がどう感染症を克服してきたかーHIV 感染症を例に挙げてー。大阪大学 1 年次医学序説講義、大阪、2024 年 7 月 26 日

白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識～予防と医療について～。大阪府令和 6 年度 HIV/エイズ基礎研修、大阪、2024 年 7 月 31 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識 HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修基礎コース、大阪、2024 年 9 月 9 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景 薬害エイズについて。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修基礎コース、大阪、2024 年 9 月 9 日

廣田和之：インフルエンザ～この冬の流行に備えて～。2024 年度第 2 回定期講演会（感染管理）、大阪、2024 年 10 月 3 日

白阪琢磨：開業医が知りたい HIV 最新の知見。大阪府保険医協会 泌尿器科研究会、大阪、2024 年 10 月 12 日

白阪琢磨：HIV 陽性者の人権課題。大阪府人権総合講座（前期）人権問題科目、大阪、2024 年 10 月 16 日

白阪琢磨：現代的健康課題ー性に関する指導～HIV/AIDS や性感染症等を通して

～一。大阪府令和 6 年度新規採用養護教諭研修（第 10 回）、大阪、2024 年 10 月 31 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識 HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修基礎コース、大阪、2024 年 11 月 18 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景 薬害エイズについて。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修基礎コース、大阪、2024 年 11 月 18 日

白阪琢磨：地域看護学支援論。大阪公立大学看護学部 2 年次講義、羽曳野、2024 年 11 月 22 日

渡邊 大：近畿ブロックにおける現状と課題。令和 6 年度近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、大阪、2024 年 12 月 10 日

松村拓朗：感染症診療の基礎と血液培養。令和 6 年度第 13 回研修医レクチャー、大阪、2024 年 12 月 11 日

上地隆史：日和見疾患の病態と治療 ニューモシスチス肺炎・HIV 脳症・サイトメガロウイルス網膜炎。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2025 年 1 月 27 日

廣田和之：性感染症の基礎知識。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2025 年 1 月 27 日

白阪琢磨：HIV 感染症で期待される病診連携と新たな課題。令和 6 年度 HIV 地域医療連携研修会、大阪、2025 年 2 月 7 日

廣田和之：症例から学ぶ感染症診療。令和 6 年度第 16 回研修医レクチャー、大阪、2025 年 1 月 22 日

上平朝子：VRE（バンコマイシン耐性腸球菌感染症）発生状況と感染対策のポイント。感染制御部/ICT 主催研修会、大阪、2025 年 2 月 14 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識と疫学。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、ハイブリッド開催（大阪）、2024 年 9 月 30 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、ハイブリッド開催（大阪）、2024 年 9 月 30 日

渡邊 大、矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実際。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、ハイブリッド開催（大阪）、2024 年 9 月 30 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識と疫学。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、ハイブリッド開催（大阪）、2024 年 9 月 30 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。令和 6 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 4 日

上平朝子：日和見感染症診療－PCP を中心に－。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）/奈良県立医科大学公衆衛生学実習、ハイブリッド開催（大阪）、2024 年 10 月 1 日

西田恭治：血友病診療・凝固因子製剤の使い方。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）/奈良県立医科大学公衆衛生学実習、ハイブリッド開催（大阪）、2024 年 10 月 1 日

松村拓朗：HIV 感染症の基礎知識。令和 6 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 2 日

廣田和之：性感染症について。令和 6 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 2 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 6 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 3 日

上地隆史：日和見感染症。令和 6 年度/奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 3 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。令和 6 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 4 日

渡邊 大：新規抗 HIV 薬。令和 6 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 7 日

渡邊 大：HIV 急性感染。令和 6 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 10 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。令和 6 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 10 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診療。令和 6 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 15 日

松村拓朗：入院症例の管理の実際。令和 6 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 16 日

上地隆史：日和見感染症。令和 6 年度 HIV 感染症医師実地研修会(3 週間コース)、大阪、2024 年 10 月 17 日

B-9

白阪琢磨：厚生労働省主催「レッドリボントークライブ 2024、東京、2024 年 6 月 3 日

渡邊 大：LTS(Long Term Success)に必要な要件とは。ギリアド・サイエンシズ(株)ショートメッセージ動画、2024 年 10 月 28 日

白阪琢磨：厚生労働省主催「世界エイズデーイベント レッドリボンライブ 2024 ～HIV/エイズ、知ることからもう一度～」、東京、2024 年 11 月 29 日

精神科

田宮裕子

当科においては、精神科コンサルテーション・リエゾンと専門外来などが業務の中心である。精神科コンサルテーション・リエゾンでは、一般診療科入院患者の不眠、気持ちの落ち込み、せん妄、認知症の周辺症状などの精神症状に対応している。入院患者の高齢化に伴い、入院後せん妄を呈する患者や認知症を合併している高齢者の入院が増加傾向にある。せん妄を発症することで合併症のリスクも高まり、臥床期間も長期化するため、認知機能の低下や筋力の衰えによる ADL の低下を招くこととなる。特に高齢者では手術中の麻酔による睡眠覚醒リズムの障害が術後せん妄を惹起しやすいと考えられており、術後せん妄の予防は重要である。術前から精神科医が介入し、せん妄を予防し、早期回復につながるようにしている。また認知症を合併している高齢者に対しては、認知症ケアチームと協働して、認知症の周辺症状への対応や適切なケアについて病棟スタッフへ教育指導なども行っている。

救命センターに搬送されるケースの中には、自殺を目的とした自損も多く含まれており、自殺企図後の精神状態を評価し再度危険な行為を行わないように援助することは精神科医の重要な役目となっている。近年若年層の過量内服が増えており、自殺目的だけではなく、薬物乱用として過量内服に至るケースも散見されるようになっていく。社会の変化が若年層の過量内服に影響を与えており、こういった行為に至る要因を分析し、予防に有効な因子などについての調査研究も行っている。

専門外来として、摂食障害外来を開設している。今年度は地域からの紹介件数も増え、ニーズの高さを実感している。外来治療で症状の改善がみられない場合は、入院治療に移行し、生理的に必要な栄養を摂取できるようになることを目的にした入院を行っている。入院治療では、栄養士と協働で行う栄養療法に加え、認知の偏りを是正するための認知行動療法、心理教育や適度な運動習慣を獲得するための運動療法などを組み合わせた多職種によるチーム医療を実践している。摂食障害は精神疾患の中でも特に死亡率が高く、慢性化することでさらに治療が奏功しにくくなるため、早期に治療介入し慢性化を防ぐ必要がある。摂食障害のための教育入院は、早期介入することで習慣化する前に食行動異常を改善させることができ、慢性化を防ぐための一助となっていると考える。

近年総合病院での精神科の役割は多岐にわたっており、コンサルテーション・リエゾン、専門外来をさらに充実させ、地域医療に貢献できるよう努めていきたいと考えている。

【2024 年度 研究発表業績】

B-4

田宮裕子：摂食障害と気分障害、摂食障害と気分の問題。第 21 回日本うつ病学会総会、大阪、2024 年 7 月 12 日

田宮裕子：認知リハビリテーションの応用 神経性やせ症への応用、社会機能とリハビリテーション。第 27 回日本摂食障害学会学術総会、東京、2024 年 9 月 7 日

三浦慎也、伊藤万里子、田宮裕子：国立病院機構大阪医療センターにおける過量内服患者の実態調査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

B-5

田宮裕子：コミュニケーション。大阪医療センター緩和ケア研修会、大阪、2024 年 10 月 26 日

B-8

田宮裕子：精神医学総論。大阪医療センター附属看護学校講演、大阪、2024 年 10 月 24 日

田宮裕子：統合失調症の症状・疫学・成因。大阪医療センター附属看護学校講演、大阪、2024 年 11 月 21 日

田宮裕子：生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害。大阪医療センター附属看護学校講演、大阪、2024 年 12 月 19 日

三浦慎也：気分障害。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2024 年 10 月 30 日

三浦慎也：神経症状障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、心身症。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2024 年 11 月 20 日

伊藤万里子：器質性精神障害。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2024 年 11 月 7 日

伊藤万里子：てんかん、神経発達障害群。大阪医療センター附属看護学校、大阪、2024 年 11 月 14 日

消化器内科は、①肝疾患、②内視鏡治療、③消化器癌に対する薬物治療、④炎症性腸疾患、⑤胆膵疾患を中心に診療しており、論文発表や学会発表などもこれらの領域の Clinical Question を元にしたテーマを扱っています。

① 肝疾患：B 型肝炎や C 型肝炎などのウイルス性肝炎について、当科では長年蓄積された経験を踏まえ、積極的に新規薬剤を導入し、その成果を国内のみならず海外の学会・学術誌に情報発信しています。また国立病院機構ネットワーク共同研究の主任研究者として B 型肝炎に対する抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤）の治療成績や脂肪性肝疾患の臨床データをとりまとめています。肝臓に対する穿刺治療の困難症例にも対応し、若手医師の技術指導にも熱心に取り組んでいます。

② 内視鏡治療：早期胃癌、早期大腸癌、表在食道癌の内視鏡治療に力を入れ、診療レベルの向上を図ってきました。治療では ESD、Bipolar EMR などの技術を駆使し低侵襲でより安全な治療を探究し、診断では酢酸を用いた大腸腫瘍診断を開発し、国内外に発信しています。企業とも連携しハンズオンなど駆使し、若手医師の技術指導にも取り組んでいます。

③ 消化器癌に対する薬物治療：癌薬物療法は日々進歩しており、新規薬剤を積極的に取り入れています。また遺伝子解析を用いた個別化治療を目指し、エビデンスに基づいた診療を行うとともに、その成績の発信に取り組んでいます。

④ 炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対して生物学的製剤を含む新規薬剤の導入や臨床試験に参加し、適切な治療選択を追求し、その成果を報告しています。

⑤ 胆膵疾患：胆道癌や膵癌に対して薬物治療とともに内視鏡処置や超音波処置にも対応しており、実施件数は増加傾向です。また悪性疾患に限らず、緊急処置を積極的に受け入れています。

上記の他にも、臨床的に稀な症例や貴重な経験症例の報告をしています。特に症例報告は専修医/専攻医・研修医の初めての学会発表の場として、消化器内科をあげて指導に力を入れています。今後も、診療・教育とともに臨床研究の成果を国内外に発信していきたいと思っています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Kai M, Hikita H, Kazuki M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Kakita N, Morishita N, Hiramatsu N, Usui T, Imanaka K, Doi Y, Sakakibara M, Yoshida Y, Oze T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T. Clinical factors associated with the therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter prospective observational study. 「PLoS One」;19(1):e0294590.

2024 年 1 月 2 日

Schöler J, Alavanja M, de Lange T, Yamamoto S, Hedenström P, Varkey J. Impact of AI-aided colonoscopy in clinical practice: a prospective randomised controlled trial. 「BMJ Open Gastroenterol」 11(1) : e001247. 2024 年 1 月 30 日

ando H, Tsukada Y, Kumagai S, Y. Miyashita Y, Taketomi A, Yuki S, Komatsu Y, Akiyoshi T, Shinozaki E, Kanemitsu Y, Takashima A, Shiozawa M, Shiomi A, Yamazaki K, Matsuhashi N, Hasegawa H, Kato T, Oki E, Fukui M, Wakabayashi M, Fuse N, Nishikawa H, Ito M, Yoshino T. VOLTAGE-2: multicenter phase II study of nivolumab monotherapy in patients with mismatch repair-deficient resectable locally advanced rectal cancer. 「ESMO Gastrointestinal Oncology. 」 Published online: Volume 3, 100031, 2024 年 2 月 2 日

Kotani D, Takashima A, Kato T, T Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Ushida Y, Oizaki T, Inoue C, Yoshino T: Safety and efficacy of encorafenib, binimetinib, and cetuximab for BRAFV600E-mutant metastatic colorectal cancer: Results of the Japanese expanded access program. 「Clinical Colorectal Cancer」 9 : S1533-0028(24)00022-7. 2024 年 3 月

Yamamoto S, Takeuchi Y, Sakamori R, Mita E: Underwater endoscopic mucosal resection in the reconstructed gastric conduit after esophagectomy. 「VideoGIE」 19 : 9(6):274-277. 2024 年 3 月

Imaoka H, Sasaki K, Machida R, Nagano H, Satoi S, Ikeda M, Kobayashi S, Yamashita T, Okusaka T, Ido A, Hatano E, Miwa H, Ueno M, Nakao K, Shimizu S, Kuramochi H, Sakamori R, Tsumura H, Okano N, Shioji K, Shirakawa H, Akutsu N, Tsuji K, Ishii H, Umemoto K, Asagi A, Ueno M; JCOG Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group.: Current status of the cost burden of first-line systemic treatment for patients with advanced hepatocellular carcinoma in Japan, 2021-22. 「Jpn J Clin Oncol」 54(10) : 1071-1077. 2024 年 10 月 3 日

Sometani E, Hikita H, Murai K, Toyoda H, Tanaka S, Oze T, Sung J, Shimoda A, Fukuoka M, Shigeno S, Fukutomi K, Shirai K, Tahata Y, Saito Y, Nishio A, Furuta K, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Mita E, Umezawa A, Tanaka Y, Takehara T. High serum growth differentiation factor 15 is a risk factor for the occurrence of hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis B patients treated with nucleos(t)ide analogs. 「Hepatol Res」 2024 年 9 月 18 日

Sudo K, Nakamura Y, Ueno M, Furukawa M, Mizuno N, Kawamoto Y, Okano N, Umemoto K, Asagi A, Ozaka M, Ohtsubo K, Shimizu S, Matsuhashi N, Itoh S, Matsumoto T, Satoh T, Okuyama H, Goto M, Hasegawa H, Yamamoto Y, Odegaard JI, Bando H,

Yoshino T, Ikeda M, Morizane C. Clinical utility of BRCA and ATM mutation status in circulating tumour DNA for treatment selection in advanced pancreatic cancer. 「Br J Cancer」 131(7) : 1237-1245. 2024 年 10 月

Hirai Y, Uraoka T, Wada M, Mori H, Fujimoto A, Sakakibara Y, Toyokawa T, Kagaya T, Sasaki Y, Mannami T, Kuwai T, Watanabe N, Hamada H, Esaka N, Kimura T, Fujii H, Hosoda Y, Shimada M, Miyabayashi H, Somada S, Mabe K, Inoue S, Saito H, Furuya K, Kawamura N, Kudo T, Hori K, Sakamoto N, Kato M, Higuchi N, Harada N; NHO Network Gastrointestinal Study Group. Urgent Contrast-Enhanced Computed Tomography before Early Colonoscopy in the Management of Colonic Diverticular Bleeding: A Multicenter Randomized Controlled Trial. 「Digestion」 15 : 1-13. 2024 年 10 月

Koba M, Takeno A, Hasegawa H, Sakamori R, Higashiura R, Yamamoto M, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirose Y, Mori K, Mano M, Hirao M. An aggressive gastric CIC-DUX4 sarcoma surgically resected with multivisceral organs: a case report. 「Surg Case Rep」 23 : 10(1) : 241. 2024 年 10 月

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Ido A, Miki D, Kurosaki M, Yoshiji H, Sakamori R, Kuroda H, Yatsushashi H, Yamashita T, Hiasa Y, Kato N, Miyaaki H, Ueno Y, Itoh Y, Matsuura K, Takami T, Asahina Y, Suda G, Akuta N, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Miyazaki M, Nozaki Y, Sobue S, Yano H, Miyaki T, Moriuchi A, Hori T, Shirai K, Murai K, Saito Y, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T. Factors involved in gastroesophageal varix-related events in patients with hepatitis C virus-related compensated and decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral therapy. 「Hepatol Res」 2024 年 10 月 29 日

Phyo Z, Tanaka S, Sugiyama A, Ko K, Takahashi K, Mirzaev UK, Akuffo GA, Chhoung C, Akita T, Kozuki M, Sakamori R, Tanaka J. Unveiling the dynamics of hepatitis C virus transmission among injection drug users and men who have sex with men: A comprehensive study in Japan. 「Hepatol Res」 2024 年 11 月 4 日

Amano T, Yoshihara T, Shinzaki S, Sakakibara Y, Yamada T, Osugi N, Hiyama S, Murayama Y, Nagaike K, Ogiyama H, Yamaguchi T, Arimoto Y, Kobayashi I, Kawai S, Egawa S, Kizu T, Komori M, Tsujii Y, Asakura A, Tashiro T, Tani M, Otake-Kasamoto Y, Uema R, Kato M, Tsujii Y, Inoue T, Yamada T, Kitamura T, Yonezawa A, Iijima H, Hayashi Y, Takehara T. Selection of anti-cytokine biologics by pretreatment levels of serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein in patients with inflammatory bowel disease. 「Sci Rep」 14(1) : 29755. 2024 年 11 月 24 日

Yamamoto Y, Yukami H, Yamaguchi T, Ohori H, Nagasu S, Kagawa Y, Sugimoto N, Sonoda H, Yamazaki K, Takashima A, Okuyama H, Hasegawa H, Kondo C, Baba E, Matsumoto T, Kawamoto Y, Kataoka M, Shindo Y, Ishikawa T, Esaki T, Kito Y, Sato T,

Funakoshi T, Yamaguchi T, Shimada Y, Moriwaki T. Real-world outcomes of FOLFOXIRI plus bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer: the JSCCR-TRIPON study. 「Int J Clin Oncol」 (12) : 1878-1886. 2024 年 11 月 29 日

Yoshihara T, Amano T, Shinzaki S, Tsujii Y, Asakura A, Tashiro T, Tani M, Otake-Kasamoto Y, Yamada T, Sakakibara Y, Osugi N, Ishii S, Egawa S, Araki M, Arimoto Y, Nakahara M, Murayama Y, Kobayashi I, Kinoshita K, Ogawa H, Hiyama S, Shibukawa N, Komori M, Okuda Y, Kizu T, Kitamura T, Kato M, Tsujii Y, Inoue T, Iijima H, Hayashi Y, Takehara T. Effectiveness of tacrolimus therapy in refractory ulcerative colitis compared to infliximab with propensity score matching. 「Sci Rep」 15(1) : 68. 2025 年 1 月 2 日

Taniguchi H, Uehara K, Ishikawa T, Okochi O, Akazawa N, Okuda H, Hasegawa H, Shiozawa M, Kataoka M, Satake H, Shimura T, Kondoh C, Kuramochi H, Matsumoto T, Takegawa N, Yamaguchi T, Nagase M, Nakamura M, Takano N, Fujita H, Watanabe T, Nishina T, Sakamoto Y, Moriwaki T, Ohori H, Nakanishi M, Kito Y, Utsunomiya S, Ishikawa T, Manaka D, Matsuoka H, Suto T, Arai T, Shinzaki S, Funakoshi T, Nakayama G, Negoro Y, Tsuji Y, Makiyama A, Takuma K, Arimoto A, Shinozaki K, Mishima A, Masuishi T. BRAF V600E and Non-V600E Mutations in RAS Wild-Type Metastatic Colorectal Cancer: Prognostic and Therapeutic Insights from a Nationwide, Multicenter, Observational Study (J-BROS). 「Cancers (Basel)」 17(3) : 399. 2025 年 1 月 25 日

Naganuma A, Makita F, Sugimoto R, Kikuchi M, Furuta K, Iwamoto S, Sakamori R, Kouno H, Ario K, Yatsushashi H. An open-label, randomized, controlled trial on the benefit of β -hydroxy- β -methyl butyrate, l-arginine, l-glutamine combination beverages and locomotion training as supportive care for the treatment of unresectable hepatocellular carcinoma using lenvatinib: A pilot study (HELLO study). 「Clin Nutr ESPEN」 65 : 357-364. 2025 年 2 月

Kozuki M, Tanaka S, Shirai T, Sakon N, Harada S, Kitagawa A, Matsushima K, Abe Y, Fukutake N, Hasegawa H, Yamamoto S, Sakakibara Y, Sakamori R. A case of post-outbreak acute hepatitis a in a Japanese man who have sex with men infected with RIVM-HAV16-090 strain. 「J Infect Chemother」 31(4) : 102673. 2025 年 2 月 27 日

A-2

阪森亮太郎 : 肝生検ガイドンス「日本肝臓学会編」、南江堂、2024 年 5 月 5 日

浅井佳央理、稲垣千晶、緒方貴次、賀川弘康、賀川義槻、山東雅紀、茂原富美、長谷川裕子、水上拓郎、向井俊貴、山下 賢（作成協力者）：大腸癌治療ガイドライン 医師用 2024 年版「大腸癌研究会編」金原出版株式会社、2024 年 7 月 20 日

阿部友太朗、中水流正一：検査オーダーの流れ。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P2-7、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阿部友太郎、中水流正一：肝機能検査。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P8-13、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

長谷川裕子：末梢血検査。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P14-16、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

長谷川裕子：止血・凝固検査。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P17-18、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

榊原祐子：肝腫瘍マーカー。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P19-20、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

榊原祐子：肝線維化マーカー。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P21-24、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

田中聡司：C 型肝炎をより理解するためのウイルス遺伝子とヒト遺伝子。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P66-69、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

田中聡司：C 型肝炎患者の自然史。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P70-76、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阪森亮太郎：C 型慢性肝炎の診断と評価。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P77-82、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

三田英治：C 型肝炎治療薬 DAA。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P83-84、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阪森亮太郎：肝底護療法など。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P98-102、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

三田英治：B 型慢性肝炎の自然史と診断 1 B 型慢性肝疾患患者の自然経過。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P110-112、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

田中聡司：B 型慢性肝炎の自然史と診断 2 HBV の母子感染と予防対策。改訂 6 版必ず役立つ！肝炎診療バイブル、P113-117、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

山本俊祐、赤坂智史：HIV 感染者の消化管病変。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P159-165、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阪森亮太郎：肝癌の診断。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P273-282、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阿部友太朗：肝癌の治療 4 局所治療。改訂 6 版必ず役立つ！「肝炎診療バイブル」、P308-13、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

A-4

山本俊祐、渡邊 大、眞能正幸、長谷川裕子、阪森亮太郎、三田英治：カポジ肉腫（HHV-8 関連）「消化器内視鏡」36（4）：p506-507、2024 年 4 月

A-6

阪森亮太郎：肝内胆管がん「最新の臨床」WEB、南江堂、2024 年 4 月 12 日

B-2

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Ido A, Miki D, Sakamori R, Yoshiji H, Kawada N, Enomoto N, Yamashita T, Kurosaki M, Kuroda H, Hiasa Y, Nakao K, Kato N, Suda G, Nakamoto Y, Yatsushashi H, Matsuura K, Takami T, Kakazu E, Itoh Y, Asahina Y, Ueno Y, Tateishi R, Terai S, Shimizu M, Akuta N, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T: Baseline gamma-glutamyl transpeptidase levels are associated with aggravation of esophagogastric varix after direct-acting antiviral therapy in cirrhotic patients with hepatitis C virus. EASL2024, poster, Milan, Italy、2024 年 6 月 5-6 日

Hiraoka A, Aikata H, Moriguchi M, Ikeda M, Morimoto N, Tsuchiya K, Takehara T, Nagai H, Sakamori R, Nakamura S, Tsuji K, Kuroda H, Shimizu M, Shiina S, Yamasaki T, Kudo T, Kokudo N, Furuse J, Yamamoto K, Yamashita T: Association of skeletal muscle mass with safety and efficacy of atezolizumab (atezo) plus bevacizumab (bev) in Japanese patients (pts) with unresectable hepatocellular carcinoma (uHCC): Results from the ELIXIR study. ESMO Congress 2024, poster, Barcelona, Spai、2024 年 9 月 16 日

Murai K, Hikita H, Sometani E, Tanaka S, Miyake T, Kuriki S, Sung J, Shimoda A, Shigeno S, Shirai K, Saito Y, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Toyoda H, Umezawa A, Takehara T: MALE SEX, HIGH β -GTP, HIGH AFP, HIGH GDF15 AND HIGH FIB-4 INDEX WERE HIGH RISK FACTORS FOR THE OCCURRENCE OF PRIMARY HCC IN CHB PATIENTS UNDER NUC TREATMENT. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA、2024 年 11 月 15 日-19 日

Tahata Y, Hikita H, Takaki A, Kurosaki M, Matsuura K, Yatsushashi H, Kuroda H, Ueno Y, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T: SUSTAINED VIROLOGIC RESPONSE AND POSTTREATMENT LIVER FUNCTION ARE ASSOCIATED WITH 5-YEAR SURVIVAL AFTER DIRECT-ACTING ANTIVIRAL TREATMENT IN DECOMPENSATED CIRRHOTIC PATIENTS WITH HEPATITIS C VIRUS: A LONG-TERM FOLLOW UP STUDY OF JAPANESE CLINICAL TRIAL COHORT. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA、2024 年 11 月 15 日-19 日

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Ido A, Miki D, Kurosaki M, Yoshiji H, Sakamori R, Kuroda H, Yatsushashi H, Yamashita T, Hiasa Y, Kato N, Miyaaki

H, Ueno Y, Itoh Y, Matsuura K, Takami T, Asahina Y, Suda G, Akuta N, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T: FACTORS ASSOCIATED WITH THE AGGRAVATION OF GASTROESOPHAGEAL VARIX IN COMPENSATED AND DECOMPENSATED CIRRHOTIC PATIENTS DUE TO CHRONIC HEPATITIS C VIRUS INFECTION AFTER DIRECT-ACTING ANTIVIRAL THERAPY. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA 、2024 年 11 月 15 日-19 日

Tahata Y, Hikita H, Nozaki Y, Ishida H, Hosui A, Miyazaki M, Sakamori R, Ohkawa K, Tatsumi N, Nakanishi F, Doi Y, Yakushijin T, Sakakibara M, Imanaka K, Kakita N, Iio S, Yoshida Y, Doi A, Yamada R, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T: FACTORS ASSOCIATED WITH LONG-TERM RISK OF LIVER-RELATED AND NON-LIVER-RELATED DEATH AFTER SUSTAINED VIROLOGIC RESPONSE IN PATIENTS WITH HEPATITIS C VIRUS TREATED WITH DIRECT-ACTING ANTIVIRAL. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA 、2024 年 11 月 15 日-19 日

Inamoto R, Hasegawa H, Sugiyama K, Izawa N, Mitani S, Kawakami T, Yuki S, Hirano H, Mishima S, Hamano T, Masuishi T: A retrospective observational study to evaluate the efficacy of trifluridine/tipiracil ± bevacizumab in metastatic colorectal cancer with MSI-high/deficient MMR. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO GI 2025), San Francisco, CA 、2025 年 1 月 23-25 日

Miyashita Y, Bando H, Watanabe J, Suwa Y, Kagawa Y, Kato T, Hasegawa H, Komatsu Y, Yuki S, Asayama M, Nishina T, Inoue A, Oki E, Taniguchi H, Ohta T, Kotani D, Nakajima H, Yamamoto K, Yoshino T: Clinical validation of plasma circulating-tumor DNA assay using highly sensitive Safe-SeqS technology for detecting RAS and BRAF V600E in metastatic colorectal cancer. ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO GI 2025), San Francisco, CA、2025 年 1 月 23-25 日

B-3

田畑優貴、疋田隼人、高木章乃夫、黒崎雅之、松浦健太郎、八橋 弘、黒田英克、上野義之、阪森亮太郎、竹原徹郎：C 型非代償性肝硬変症例に対する sofosbuvir/velpatasvir ± ribavirin 治療国内第 3 相試験における長期予後の検討。第 110 回日本消化器病学会総会 パネルディスカッション 12 PD12-1、徳島、2024 年 5 月 9 日

前阪和城、疋田隼人、甲斐真知子、金子 晃、大川和良、野崎泰俊、阪森亮太郎、垣田成庸、宮崎昌典、竹原徹郎：切除不能肝細胞癌に対するデュルバルマブ+トレメリムマブ併用療法の初期治療成績。第 110 回日本消化器病学会総会、シンポジウム 13 S13-8、徳島、2024 年 5 月 10 日

梅村武司、阪森亮太郎：WS7 高齢社会における肝疾患の問題点。第 60 回日本肝臓学会総会、座長、熊本、2024 年 6 月 14 日

阿部友太郎、田中聡司、阪森亮太郎：高齢者における初発肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法の治療効果。第 60 回日本肝臓学会総会 WS7-6、熊本、2024 年 6 月 14 日

阿部友太郎、西村佑子、渡邊和具、中尾憲史、山下勇大、北川綾香、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎：肝動脈化学塞栓術後の肝予備能低下への C 型肝炎 SVR の関与。第 60 回日本肝癌研究会、WS1-3、姫路、2024 年 7 月 12 日

日浅陽一、榎本 大、阪森亮太郎：WS12 ウイルス肝炎診療－今後の課題－。第 28 回日本肝臓学会大会、座長、神戸、2024 年 11 月 1 日

阿部友太郎、原田理史、阪森亮太郎：ウイルス性急性肝炎に対する抗ウイルス治療の現状。JDDW2024 W12-8 ウイルス肝炎診療－今後の課題－、神戸、2024 年 11 月 1 日

榊原祐子、山本俊祐、阪森亮太郎：HIV 感染者における尖圭コンジローマおよび肛門扁平上皮性腫瘍についての検討。第 21 回日本消化管学会総会学術集会、WS6-9、東京、2025 年 2 月 21 日

B-4

田畑優貴、疋田隼人、持田 智、三木大樹、井戸章雄、榎本信幸、阪森亮太郎、竹原徹郎：C 型非代償性肝硬変における抗ウイルス治療後の食道胃静脈瘤悪化に関与する因子の検討。第 121 回日本内科学会講演会（2024 年）、一般演題 113、東京、2024 年 4 月 14 日

天野孝広、良原丈夫、榊原祐子、山田拓哉、大杉直人、村山洋子、日山智史、新崎信一郎、林 義人、竹原徹郎：クローン病患者に対する生物学的製剤の治療効果予測マーカーとしての血清 LRG の可能性。第 110 回日本消化器病学会総会、口演小腸 O-140、徳島、2024 年 5 月 10 日

田中聡司：日本国内の消化器内科・外科学大学医局 HP におけるライフイベント支援広報の現況。第 110 回日本消化器病学会総会、CSP-6、徳島、2024 年 5 月 10 日

田中大地、榊原祐子、渡邊和具、宮崎愛理、原田理史、西村佑子、東浦玲意、上月美穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：当院における潰瘍性大腸炎に対するフィルゴチニブの治療成績。第 110 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 潰瘍性大腸炎 4 MO-210、徳島、2024 年 5 月 10 日

前阪和城、疋田隼人、甲斐真知子、田畑優貴、小玉尚宏、大川和良、宮崎昌典、薬師神崇行、野崎泰俊、阪森亮太郎、松本健吾、石田 永、金子 晃、垣田成庸、巽 智秀、竹原徹郎：切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併

用療法の治療効果における有害事象の影響。第 30 回日本肝がん分子標的治療研究会 OS4-2、東京、2024 年 7 月 26 日

宮崎愛理、福武伸康、阿部友太郎、阪森亮太郎、三田英治：LAMS 留置後に嚢胞内感染を来し PS への交換により臨床的奏功を得た臍仮性嚢胞の一例。第 55 回日本膵臓学会大会 O57-2、宇都宮、2024 年 7 月 26 日

鈴木英祐、榊原祐子、中尾憲史、渡邊和具、山下勇大、北川絢香、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎：末梢挿入型中心静脈カテーテルを留置中、左総頸静脈から鎖骨下静脈にかけ広範囲に血栓を認めたクローン病の一症例。第 78 回国立病院総合医学会、P1-57-5、大阪、2024 年 10 月 18 日

中尾憲史、榊原祐子、渡邊和具、山下勇大、北川綾香、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎：同時・異時性に鋸歯状病変を認め、大腸全摘術を要した潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の 2 例。第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会、O12-1、東京、2024 年 11 月 16 日

榊原祐子、渡邊和具、田中大地、原田理史、宮崎愛理、東浦玲意、上月美穂、西村佑子、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：過去のステロイド使用が炎症性腸疾患患者の骨密度に与える影響についての検討。第 66 回消化器病学会大会 消 P-128、神戸、2024 年 10 月 31 日

Yamamoto S, Bhandari P, Parra-Blanco A, Takeuchi Y, Kanesaka T, Mottacki N, Harada S, Kozuki M, Higashiura R, Inoue T, Sakamori R, Mita E: Acetic acid for pretreatment evaluation of colorectal neoplasms. IP-66_E, International Poster Session 12 (JDDW) Lower GI-6, 神戸、JDDW2024, The Best Presenter Award in International Session、2024 年 11 月 1 日

廣岡昌史、山下竜也、竹原徹郎、相方 浩、葛谷貞二、池田公史、森口理久、山本紘司、加藤直也、阪森亮太郎、土谷 薫、平岡 淳、中野聖士、谷 丈二、永井英成、本村健太、海堀昌樹、森本 学、長谷川 潔、上嶋一臣：ELIXIR study Final Analysis: Real-World Efficacy and Safety of Atezolizumab + Bevacizumab in Japanese Patients with Unresectable HCC。第 31 回日本肝がん分子標的治療研究会、OS9-5、岡山、2025 年 1 月 17 日

宮城和代、長谷川裕子、野田拓誠、長谷川英利、吉村英美、榊本佳代、中橋麻友、青野由依、岡崎晴夏、安原加奈、正岡美幸、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：外来化学療法室における irAE 早期発見につながるメディカルスタッフの関わり。第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会、P62-7、神戸、2025 年 3 月 7 日

長谷川裕子、北川綾香、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、

榊原祐子、阪森亮太郎：Efficacy and Safety of Anti-HER2 therapy for metastatic colorectal cancer patients with HER2 amplification。第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会、P77-9、神戸、2025 年 3 月 6 日

B-5

山本俊祐、松島健祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：20mm 以下の大腸粘膜下層浸潤癌における内視鏡切除についての検討。シンポジウム 3、S3-09 第 112 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024 年 6 月 29 日

榊原祐子、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎：クローン病患者に対する小腸内視鏡検査におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有用性と安全性。シンポジウム 1、S1-6、第 113 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024 年 12 月 7 日

山本俊祐、北川綾香、松島健祐、榊原祐子、阪森亮太郎：酢酸併用 NBI を用いた JNETtype1 病変の鑑別診断。ワークショップ 1、W1-14。第 113 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024 年 12 月 7 日

B-6

藤平和秀、東浦玲意、長谷川裕子、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：CIC-DUX4 遺伝子再構成を伴った胃肉腫の 1 例。日本内科学会第 243 回近畿地方会、大阪、2024 年 3 月 16 日

西村佑子、田中聡司、永富暁、松島健祐、阿部友太郎、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎：食後心窩部痛とイレウスを繰り返した慢性腸管虚血の 1 例。日本内科学会第 244 回近畿地方会、京都、2024 年 6 月 29 日

渡邊和具、山本俊祐、竹内洋司、田中大地、原田理史、宮崎愛理、西村佑子、東浦玲意、上月美穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：逆流性食道炎から食道狭窄をきたし endoscopic radial incision and cutting にて治療した一例。第 112 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024 年 6 月 29 日

榊原祐子：「消化器 5」 座長。日本内科学会第 246 回近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 14 日

B-8

長谷川裕子：胃癌・大腸癌の最新のトピックス。浪速区医師会学術講演会、大阪 + Web、2024 年 4 月 20 日

榊原祐子：Special Situation Seminar 座長、Web、2024 年 5 月 16 日

榊原祐子：Ulcerative Colitis 地域医療セミナー 座長、大阪 + Web、2024 年 5 月 23 日

日

阪森亮太郎：第 37 回 OLF（Osaka Liver Forum）研究発表会 座長、大阪、2024 年 5 月 24 日

阪森亮太郎：肝疾患の最新の話題～C 型肝炎から脂肪肝まで～。大阪市中心区東医師会・法円坂地域連携フォーラム、大阪、2024 年 5 月 25 日

榊原祐子：IBD EXPERT SEMINAR 座長、大阪、2024 年 5 月 25 日

榊原祐子：実臨床での潰瘍性大腸炎治療におけるオンボーの位置づけ。OSAKA IBD WEB セミナー、Web、2024 年 7 月 5 日

長谷川裕子：当院における免疫関連有害事象の現状。第 61 回法円坂フォーラム、大阪、2024 年 7 月 6 日

阪森亮太郎：第 61 回法円坂地域医療フォーラム 座長、大阪、2024 年 7 月 6 日

榊原祐子：UC 治療における最新の治療選択 ～抗 IL-23p19 抗体ミリキズマブの有効性からみる期待～。北摂 UC 他職種連携 Seminar、Web、2024 年 7 月 12 日

阪森亮太郎：第 6 回大阪消化器診療懇話会 座長、大阪、2024 年 7 月 20 日

榊原祐子：難治性 UC 診療における Filgotinib。UC クリニカルカンファレンスセミナー、倉敷、2024 年 7 月 26 日

阪森亮太郎：第 5 回近畿門脈圧亢進症研究会 座長、奈良、2024 年 8 月 24 日

榊原祐子：IBD におけるチーム医療の重要性。IBD 診療連携セミナー、Web、2024 年 8 月 29 日

阪森亮太郎：肝疾患領域のトレンドの変化。かかりつけ医のための肝疾患オンラインセミナー、Web、2024 年 9 月 17 日

榊原祐子：炎症性腸疾患診療のポイント。Abbvie IBD Co-Medical Seminar、Web、2024 年 9 月 24 日

福武伸康：様々な施設の遺伝子パネル検査の現状と課題 連携施設の立場から。がんゲノム医療を身近なものに-がん遺伝子パネル検査を様々な施設と共に考える-、Web、2024 年 10 月 4 日

榊原祐子：実臨床での潰瘍性大腸炎治療におけるジセレカの位置づけ。UC Clinical Conference in Osaka City、Web、2024 年 10 月 16 日

榊原祐子：クローン病のモニタリング知見 ～ベドリズムブの適正使用を含めて～。Crohn's Disease Topics Seminar、Web、2024 年 10 月 17 日

阪森亮太郎：ランチョンセミナー18 座長。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

榊原祐子：IBD 診療 Topics Seminar 座長、Web、2024 年 11 月 21 日

榊原祐子：IBD 治療を語る夜 座長、大阪+Web、2024 年 11 月 22 日

長谷川裕子：大腸癌薬物療法の治療戦略。ここまで来た！大腸癌の個別化医療、大阪、2024 年 11 月 27 日

長谷川裕子：がんトータルケア Web Seminar 座長、Web、2024 年 11 月 29 日

榊原祐子：実臨床における潰瘍性大腸炎に対するミリキズマブの位置づけ、佐賀、2024 年 12 月 11 日

阪森亮太郎：肝疾患診療の話題。第 19 回大阪消化器懇話会、大阪、2024 年 12 月 12 日

阪森亮太郎：ウイルス性肝疾患の現在地と今後の展望。かかりつけ医のための肝疾患セミナー、大阪、2024 年 12 月 19 日

榊原祐子：オンボーに適する患者像とは？。関西 UC Consensus Seminar、大阪+Web、2025 年 1 月 15 日

榊原祐子：クローン病の薬物治療の実際 ～ベドリズムブの適正使用を含めて～。IBD 診療 Topics Seminar、Web、2025 年 1 月 17 日

榊原祐子：BIO/JAK 全般の安全性マネジメント。ここが知りたい RIBVOQ マネジメントの会、大阪、2025 年 1 月 28 日

榊原祐子：クローン病診療で実施するモダリティの実際とチーム医療。Crohn's Disease Topics Seminar、Web、2025 年 1 月 30 日

阪森亮太郎：第 63 回法円坂地域医療フォーラム 座長、大阪、2025 年 2 月 8 日

阿部友太郎：肝癌治療の最前線。第 63 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2025 年 2 月 8 日

阪森亮太郎：膵癌治療の最前線。第 63 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2025 年 2 月 8 日

榊原祐子: IBD チーム医療の重要性 ～薬物療法も含めて～。チーム医療セミナー、Web、2025 年 2 月 13 日

榊原祐子: IBD 診療連携について。法円坂 GI カンファレンス、大阪+Web、2025 年 2 月 27 日

阪森亮太郎: 法円坂 GI カンファレンス 座長、大阪+Web、2025 年 2 月 27 日

B-9

三田英治: 第 1 回「脂肪肝が急増中です！」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 10 月 16 日

阪森亮太郎: 第 2 回「アルコールはどこまで飲んでいいの？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 11 月 19 日

阪森亮太郎: 第 3 回「肝硬変ってどんな病気？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 11 月 19 日

阪森亮太郎: 第 4 回「肝がんの原因と予防は？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 11 月 20 日

三田英治: 第 5 回「胆石を知る」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 12 月 3 日

阪森亮太郎: 第 6 回「膵がんは増えているの？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 12 月 6 日

榊原祐子: 第 7 回「炎症性腸疾患はどんな病気？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2025 年 2 月 13 日

榊原祐子: 第 8 回「炎症性腸疾患の治療」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2025 年 2 月 14 日

三田英治: 第 9 回「C 型・B 型肝炎の治療薬」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube,

2025 年 2 月 27 日

循環器内科

井上 耕一

大阪医療センター循環器内科は 2024 年度、不整脈、冠動脈疾患、末梢動脈疾患、心不全など幅広い分野で、臨床・研究・教育の各面において著しい成果をあげました。不整脈領域では、心房細動の革新的治療法として注目されるパルスフィールドアブレーションの日本での初症例を当院で行い、その経験に関する情報を発信し、国内の安全な普及に大きく貢献しました。当科の医師が執筆した論文が Euro Heart J Qcco、JACC Asia などの国際的に評価の高い雑誌に掲載されました。さらに当科が参加したランダム化比較試験において、低電圧領域（LVA）をターゲットとした追加アブレーションが心房細動再発の抑制に寄与することを示し、その成果は Nature Medicine で発表予定です。さらに当科の医師が国内外（APHRS 等）の主要学会において招待講演を行い、その内容が Nature Rev Cardiol に報告されました。

冠動脈疾患領域では、ロータブレーターや薬剤溶出性バルーンを活用した複雑病変への経皮的冠動脈形成術（PCI）の治療成績を向上させました。また、血管内イメージング技術を駆使した症例検討を数多く行い、最適なデバイス選択に関する研究成果を報告しました。院外心停止患者の予後に関する検討を行い、Am Heart J Plus に掲載されました。

末梢動脈疾患に関しては、重症下肢虚血に対する血管内治療の症例数が前年より大幅に増加し、そこから得られたデータより Catheter Cardiovasc Interv 等に報告を行いました。

心不全診療では、救急対応を要する急性期から慢性期までシームレスな医療を提供すべく、多職種連携による心不全チームを設置し、再入院率の低下を実現しました。また SGLT2 阻害薬を含む最新の薬物療法を積極的に取り入れ、心不全患者の生命予後改善と QOL 向上に寄与するとともに、数多くの他施設共同研究に参加しております。2024 年 9 月には日本循環器学会より多くの施設に先駆けて心アミロイドーシスの治療薬であるビンダケル導入施設に認定され、この画期的な新薬を患者様にお届けしています。

当科では引き続き、高度な臨床研究を推進するとともに、大阪大学や国立循環器病研究センター等の医療機関との学術的な連携を強化し、循環器医療の質のさらなる向上を目指していきます。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Matsunaga-Lee Y Okada M, Inoue K, Tanaka N, Tanaka K, Hirao Y, Iwakura K, Egami Y, Masuda M, Watanabe T, Minamiguchi H, Oka T, Hikoso S, Sunaga A, Okada K, Nakatani D, Sotomi Y, Sakata Y : Impact of left atrial appendage flow velocity on thrombus resolution and clinical outcomes in patients with atrial fibrillation and silent left atrial thrombi: insights from the LAT study. 「Europace」 26(5) : euac120、2024 年 5 月 2 日

Ueda Y : Slow-Flow Phenomenon Caused by Distal Embolization Should Be Predicted and Prevented to Maximize the Efficacy of Coronary Intervention. 「Circ J」 88(6) : 980-981、2024 年 5 月 24 日

Matsunaga-Lee Y , Inoue K, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Makino N, Egami Y, Oka T, Minamiguchi H, Miyoshi M, Okada M, Kanda T, Matsuda Y, Kawasaki M, Kawanami S, Ukita K, Kawamura A, Yasumoto K, Tsuda M, Okamoto N, Yano M, Nishino M, Sunaga A, Sotomi Y, Dohi T, Nakatani D, Hikoso S, Sakata Y : Duration of atrial fibrillation persistence: implications for recurrence risk after catheter ablation and efficacy of additional substrate ablation. 「Heart Rhythm」 21(6) : 733-740、2024 年 6 月 21 日

Matsunaga-Lee Y, Inoue K, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Makino N, Egami Y, Oka T, Minamiguchi H, Miyoshi M, Okada M, Kanda T, Matsuda Y, Kawasaki M, Kawanami S, Sugae H, Ukita K, Kawamura A, Yasumoto K, Tsuda M, Okamoto N, Yano M, Nishino M, Sunaga A, Sotomi Y, Dohi T, Nakatani D, Hikoso S, Sakata Y : Appropriate Selection of Substrate Ablation for Persistent Atrial Fibrillation Using Intraprocedural Assessment. 「Circ J」 J88(7) : 1068-1077、2024 年 6 月 25 日

Onishi N, Kaitani K, Nakagawa Y, Kobori A, Inoue K, Kurotobi T, Morishima I, Matsui Y, Yamaji H, Nakazawa Y, Kusano K, Shimizu Y, Hanazawa K, Tamura T, Izumi C, Morimoto T, Ono K, Kimura T, Shizuta S : Radiofrequency Catheter Ablation for Atrial Fibrillation Patients on Hemodialysis (From the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry) Clinical Impact of Early Recurrence. 「Circ J」 88(7) : 1057-1064、2024 年 6 月 25 日

Sunaga A, Matsuoka Y, Nakatani D, Okada K, Kida H, Sakamoto D, Kitamura T, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Minamiguchi H, Egami Y, Oka T, Miyoshi M, Okada M, Matsuda Y, Kawasaki M, Inoue K, Hikoso S, Sotomi Y, Sakata Y : Extensive ablation for persistent atrial fibrillation patients with mitral regurgitation: Insights from the EARNEST-PVI prospective randomized trial. Int 「J Cardiol」 410 : 132231. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132231、2024 年 9 月 1 日

Kusano K, Inoue K, Kanaoka K, Miyamoto K, Okumura Y, Iwasaki YK, Satomi K, Takatsuki S, Nakamura K, Iwanaga Y, Yamane T, Shimizu : WJ-AB registry investigators. The Japanese Catheter Ablation Registry (J-AB): Annual report in 2022. 「J Arrhythm」 40(5) : 1053-1058、2024 年 9 月 5 日

Inoue K Nakai M, Yamane T, Kusano K, Takatsuki S, Satomi K, Iwanaga Y, Kanaoka K, Tonegawa-Kuji R, Sumita Y, Takegami M, Nakao YM, Nogami A, Miyamoto Y, Shimizu W. : Assessment of the safety and efficacy of catheter ablation for atrial fibrillation in very elderly patients: insight from the national prospective registry study. 「Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes」 qcae072、2024 年 9 月 6 日

Matsuoka Y, Sotomi Y, Hikoso S, Sunaga A, Nakatani D, Okada K, Dohi T, Sato T, Kida H,

Sakamoto D, Kitamura T, Tanaka N, Masuda M, Watanabe T, Minamiguchi H, Egami Y, Oka T, Miyoshi M, Okada M, Matsuda Y, Kawasaki M, Inoue K, Sakata Y : Extensive ablation for elderly patients with persistent atrial fibrillation: insights from the EARNEST-PVI prospective randomized trial. 「J Cardio」 S0914-5087(24)00173-4.doi: 10.1016/j.jjcc.2024.09.001、2024 年 9 月 7 日

Takeuchi T, Ueda Y, Kosugi S, Ikeoka K, Yamane H, Ohashi T, Iehara T, Ukai K, Oozato K, Oosaki S, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y : The Impact of Door to Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation Time on Mortality and Neurological Outcomes among Out-of-hospital Cardiac Arrest Acute Myocardial Infarction Patients Treated by Primary Percutaneous Coronary Intervention. 「American Heart Journal Plus: Cardiology Research and Practice」 100473、2024 年 10 月 14 日

Yamane H, Ueda Y, Ikeoka K, Abe H, Inoue K, Matsumura Y : The Vascular Response After Balloon Angioplasty of Infrapopliteal Intermediate Stenosis Evaluated by Optical Frequency Domain Imaging. 「Catheter Cardiovasc Interv」 105(1) : 200-210、2024 年 10 月 19 日

Nakashima T, Tonegawa-Kuji R, Nakamura K, Kanaoka K, Nakai M, Nagase M, Yamaura M, Ido T, Takahashi S, Aoyama T, Nagashima K, Masuda M, Yamashita S, Miyamoto K, Iwasaki YK, Satomi K, Takatsuki S, Inoue K, Kusano K, Yamane T, Shimizu W : Impact of Being Underweight on the Safety and Efficacy of Atrial Fibrillation Ablation: An Analysis From the Japanese Catheter Ablation Registry. 「Circ Arrhythm Electrophysiol」 e013026. doi: 10.1161/CIRCEP.124.0130261、2024 年 10 月 23 日

Ueda Y : Vulnerable and Disrupted Plaques Detected by Angioscopy as Yellow Plaque with or without Thrombus. 「Circ J」 88(11) : 1768-1769、2024 年 10 月 25 日

Goto K, Miyazaki S, R Tonegawa-Kuji R, Kanaoka K, Yamashita S, Sasano T, Inoue K, Kusano K, Yamane T, Shimizu W : Predictors for Success and Complications in Catheter Ablation for Idiopathic Premature Ventricular Contractions in Japan. 「JACC Clin Electrophysiol」 DOI: 10.1016/j.jacep.2024.10.011、2024 年 12 月 4 日

Sunaga A, Tanaka N, Egami Y, Minamiguchi H, Oka T, Kawasaki M, Inoue K, Masuda M, Miyoshi M, Makino N, Watanabe T, Nakatani D, Okada K, Kida H, Matsuoka Y, Sakamoto D, Kitamura T, Yamada T, Sotomi Y, Sakata Y : OCVC-Arrhythmia Investigators. Novel anticoagulation therapy using apple watch after catheter ablation for atrial fibrillation-Up to AF trial: Design and rationale. 「J Arrhythm」 41(1) : e13194. doi: 10.1002/joa3.13194、2024 年 12 月 5 日

Kobata R, Abe H, Yamane H, Nakamura M, Mori K, Mishima T, Ikeoka K, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y : A breast cancer patient with chemotherapy-induced chronic lymphocytic myocarditis successfully treated with steroid therapy. 「JC Cases」 Vol31, Issue3, p57-60 Published online、2024 年 12 月 6 日

Wong CX, Tse HF, Choi EK, Chao TF, Inoue K, Poppe K, Tan E, Yuniadi Y, Fadreguilan E,

Johar S, Chan NY, Namboodiri N, Hossain SM, He H, Chantrarat T, Bin Abd Ghani AR, Davaakhuu N, Nwe N, Irfan G, Ton MT, Gunawardena R, Sanders P : The burden of atrial fibrillation in the Asia-Pacific region. 「Nature Rev Cardiol」 21(12) : 841-843、2024 年 12 月 21 日

Inoue K, Osaki S, Ueda Y. Pulsed Field Ablation for Atrial Fibrillation : Meta-Analysis Confirms Expected Initial Outcomes. 「JACC Asia」 31 : 5(1) : 158-159、2024 年 12 月 31 日

A-1

井上耕一 : アブレーション施行前後の抗凝固療法必ずできる！実践的カテーテルアブレーション「日本医事新報社」128-134、2024 年 10 月 10 日

A-4

上田恭敬 : イメージングガイド PCI の有用性と今後の展望「CLEAR!ジャーナル四天王」、<https://www.carenet.com/news/clear/journal/58939>、2024 年 7 月 22 日

高安幸太郎、井上耕一 : R 波の増高減高「臨床検査」2024.68(10) : 1166-1170. 医学書院 2024 年 10 月 15 日

井上耕一 : 心房細動アブレーション治療の基礎知識と最新動向「Vita」Vol2025/1. Vol 42 (1) : 29-34、ビー・エム・エル、2025 年 1 月 1 日

井上耕一 : パルスフィールドアブレーション「循環器内科学レビュー」、総合医学社、p 39-44、2025 年 1 月 25 日

大橋拓也、井上耕一 : 不整脈 Q&A 上室性不整脈の読影「救急・集中治療」2024. vol.36 (5) : 49-55、総合医学社、2025 年 1 月 31 日

B-1

Masuda M, Sunaga A, Tanaka N, Watanabe T, Minamiguchi H, Egami Y, Oka T, Minamisaka T, Kawasaki M, Yamada T, Hikoso S, Dohi T, Inoue K, Sotomi Y, Sakata Y. : The efficacy of low-voltage-area ablation in patients with persistent atrial fibrillation: Results from a SUPPRESS-AF trial . HotLine session, European Society of Cardiology Congress 2024 . London、2024 年 9 月 1 日

Inoue K : Burden of AF in Japan. Nature Review Cardiology Session.The APHRS 2024 Sydney、2024 年 9 月 27 日

B-2

Ikeoka K, Nishi H, Ueda Y, Yamane H, Matsumura Y : Hybrid endovascular treatment for complicated aortic dissection concomitant with true lumen obliteration. ACC 2024, Atlanta, 2024 年 4 月 8 日

Inoue K, Okada M, N. Tanaka N, Mishima T, Ozaki T, Osaki S, Masuda M, Sunaga A, Sotomi Y, Hikoso S, Nakatani D, Sakata Y : Resolution of silent left atrial thrombi and clinical outcomes in patients with atrial fibrillation: insight from the LAT trial. European Society of Cardiology Congress 2024、London、2024 年 8 月 31 日

Inoue K, Nakai M, Yamane T, Kusano K, Takatsuki S, Satomi K, Iwanaga Y, Kanaoka K, Tonegawa KR, Sumita Y, Takegami M, Nakao MY, Nogami A, Miyamoto Y, Shimizu W : Risk factors for procedure-related complications in very elderly patients undergoing atrial fibrillation ablation: analysis from the Japan Ablation Registry. European Society of Cardiology Congress 2024、London、2024 年 9 月 1 日

Inoue K, Nakai M, Yamane T, Kusano K, Takatsuki S, Satomi K, Iwanaga Y, Kanaoka K, Tonegawa KR, Sumita Y, Takegami M, Nakao MY, Nogami A, Miyamoto Y, Shimizu W : Age-related and age-independent complications in atrial fibrillation ablation: insights from the Japan ablation registry. European Society of Cardiology Congress 2024、London、2024 年 9 月 1 日

B-3

山根治野、上田恭敬：血管内イメージングから考察する、膝下動脈病変の Etiology。第 17 回 Trans Catheter Imaging Forum 2024、大阪、2024 年 5 月 18 日

井上耕一：PFA の時代が到来した話～臨床使用でわかった～変わることに変わらないうこと～。第 70 回日本不整脈心電学会学術集会、石川、2024 年 7 月 20 日

井上耕一：“超” 高齢者に対するカテーテルアブレーションの急速な普及は適切なのか!? カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024、大阪、2024 年 10 月 11 日

井上耕一：高周波アブレーションカテーテル操作ハンズオンセミナー。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024、大阪、2024 年 10 月 12 日

村岡直哉：Brain Natriuretic Peptide as Predictive Indicator of Worsening Heart Failure Events in High-Risk Patients. シンポジウム 7 若手医師フォーラム 第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

井上耕一：本邦における経皮的左心耳閉鎖術の実際。STROKE2025、大阪、2025 年 3 月 8 日

井上耕一：身近な不整脈の最新事情 - 知っておきたい心房細動に関する ABC -。第 78 回国立病院総合医学学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

井上耕一：Lecture&QA。AF Learning Course。大阪、2024 年 11 月 10 日

Inoue K, Osaki S, Ohashi T, Mishima T, Ozaki T, Ikeoka K, Abe H, Ueda Y, Matumura Y :

Initial Experience of PFA in Japan. Chinese Society of Cardiology-Japanese Society of Cardiology Joint Symposium, “Pulse Field Ablation for Atrial Fibrillation”. 第 89 回 循環器学会学術集会、横浜、2025 年 3 月 29 日

B-4

高野萌子、柳 善樹、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、家原卓史、鵜飼一穂、近藤信吾、吉龍正雄、大崎 慧、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、眞能正幸、松村泰志：冠静脈洞口部閉鎖の診断に経胸壁心エコー図検査が有用であった一例。日本心エコー図学会第 35 回学術集会、姫路、2024 年 4 月 20 日

中川紗希、中村雅之、安部晴彦、柳 善樹、赤嶺和昭、近藤信吾、福島貴嗣、家原卓史、鵜飼一穂、吉龍正雄、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、眞能正幸、松村泰志：運動負荷中に E 波 A 波が癒合して計測困難となる症例の安静時データの特徴。日本心エコー図学会第 35 回学術集会、姫路、2024 年 4 月 20 日

柳 善樹、中村雅之、安部晴彦、福島貴嗣、家原卓史、鵜飼一穂、中川紗希、赤嶺和昭、近藤信吾、吉龍正雄、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、眞能正幸、松村泰志：左室駆出率の保たれた心不全（HF p EF）診断における 25w 運動負荷時の E/e’の有用性。日本心エコー図学会第 35 回学術集会、姫路、2024 年 4 月 20 日

山根治野、上田恭敬：血管内イメージングから考察する、膝下動脈病変の Etiology 第 17 回 Trans Catheter Imaging Forum 2024、大阪、2024 年 5 月 18 日

鵜飼一穂、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、家原卓史、柳 善樹、山根治野、向井 隆、上田恭敬、松村泰志：右心室の収縮遅延による左室中隔圧排像を認めた Ebstein 奇形術後の一例。日本超音波医学会 第 97 回学術集会、横浜、2024 年 6 月 1 日

福島貴嗣、安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、柳 善樹、山根治野、向井 隆、上田恭敬、松村泰志：関連大動脈周囲炎に合併した心臓腫瘍がステロイドにより縮小した一例。日本超音波医学会 第 97 回学術集会、横浜、2024 年 6 月 1 日

福島貴嗣、安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、柳 善樹、山根治野、向井 隆、上田恭敬、松村泰志：重度大動脈弁閉鎖不全症を合併した僧帽弁大動脈弁間膜線維症偽動脈瘤の一例。日本超音波医学会 第 97 回学術集会、横浜、2024 年 6 月 2 日

Ukai K : Isolated below-the-knee stenosis/ occlusion is a risk factor of wound healing in patients with chronic limb-threatening ischemia. Japan Endovascular Treatment Conference 2024 (JET2024)、福岡、2024 年 6 月 14 日

Yamane H : The Unrivaled Simplicity and Efficiency of Non-Compliant Balloons: Revolutionizing Vessel Prep in BTK Disease . Japan Endovascular Treatment

Conference 2024 (JET2024)、福岡、2024 年 6 月 14 日

Yamane H : the impact of vascular response after balloon angioplasty for intermediate infrapopliteal lesion evaluated by optical frequency domain imaging. Japan Endovascular Treatment Conference 2024 (JET2024)、福岡、2024 年 6 月 15 日

山根治野 : 失敗から学ぶ CLTI 診療しなきゃよかった EVT。Japan Endovascular Treatment Conference 2024 (JET2024)、福岡、2024 年 6 月 16 日

Ozaki T, Ohashi T, Mishima T, Ikeoka K, Ueda Y : UTILITY OF NT-proBNP IN IDENTIFYING UNRECOGNIZED QOL DECLINE IN ASYMPTOMATIC ATRIAL FIBRILLATION PATIENTS 。第 70 回日本不整脈心電学会学術集会、石川、2024 年 7 月 20 日

越智公一、池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : ダブルガイドエクステンションによる新しいガイドカテーテルサポート法。第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会、札幌、2024 年 7 月 26 日

池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志 : ダブルガイドエクステンションによる新しいガイドカテーテルサポート法。第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会、札幌、2024 年 7 月 26 日

村里嘉信、中島 均、杉野 浩、有川雅也、森 文章、上田恭敬、松村圭祐、阿部 充、小泉智三、下村光洋、藤本和輝、佐伯隆広、今川正吾、竹中 孝、森田有紀子、鹿島克郎、高見 徹、小野裕二郎、深江貴芸 : 左冠動脈主幹部インターベンションの国立病院機構多施設レジストリーにおける one-および two-stent の比較。第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会、札幌、2024 年 7 月 27 日

大崎 慧、池岡邦泰、大里和樹、鵜飼一穂、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志、是恒之宏 : パルスフィールドアブレーション (VARIPULSE) による肺静脈隔離術後の心筋障害 (本邦初症例の検討)。第 72 回 日本心臓病学会学術集会、仙台、2024 年 9 月 27 日

村岡直哉 : ハイリスク患者における心不全増悪予測因子としての BNP の有用性。第 28 回 日本心不全学会学術集会、埼玉、2024 年 10 月 4 日

高木宏太 : ベルイシングアート追加により症状と BNP の改善を認めた拡張型心筋症の一例。第 28 回 日本心不全学会学術集会、埼玉、2024 年 10 月 5 日

大崎 慧 : 小径もしくは扁平な肺静脈に対してパルスフィールドアブレーション

(VARIPULSE[®])を施行し隔離可能であった2症例。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024、大阪、2024年10月11日

大崎 慧：パルスフィールドアブレーション(VARIPULSE)による肺静脈隔離術後の上大静脈への影響の報告。カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024、大阪、2024年10月11日

井上耕一：高周波アブレーションカテーテルアブレーション。関連秋季大会 2024、大阪、2024年10月12日

大崎 慧：心房細動に対する新しいカテーテルアブレーション法：パルスフィールドアブレーションの本邦初症例の経験。第78回国立病院総合医学会、大阪、2024年10月18日

Murasato Y, Nakashima M, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T, Shimomura M, Fujimoto K, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Takami A, Ono Y, Fukae A & Yoshida H : Long-term Outcome of Routine intracoronary imaging-guided left main coronary intervention. 第89回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025年3月28日

Matuoka Y, Seo M, Abe H, Nakagawa Y, Masaki T, Suna S, Akazawa Y, Nakamoto K, Mano T, Yokoi T, Nakano M, Sunaga A, Okada K, Nakatani D, Yamada T, Yamada T, Yasumura Y, Hikoso S, Satomi Y, Sakata Y : ONACO Trial; Randomized Clinical Trial using Pimobendan Targeted on Heart Failure and . 第89回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025年3月28日

Murasato Y, Higashi K, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T, Shimomura M, Tayama S, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Takami A, Ono Y, Fukae A : Impact of Chronic Kidney Disease Stage on Clinical Outcome of Left Main Coronary Intervention in Japanese National Hospital Organization Registry. 第89回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025年3月28日

大崎 慧：Comparison of Postoperative Inflammation and Myocardial Injury between Pulsed-Field Ablation and Cryoablation in Patients Undergoing Pulmonary Vein Isolation. 第89回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025年3月29日

B-5

井上耕一：PFA時代の期待と展望。第4回 日本不整脈心電学会九州・沖縄支部地方会、福岡、2024年6月1日

井上耕一：PFAの時代が到来した話 ～臨床使用してわかった変わることと変わらないこと～。第4回 日本不整脈心電学会 九州・沖縄支部地方会、福岡、2024年6月15日

井上耕一：高齢者の心房細動：DOAC・WATCHMAN・PFA で変わる治療戦略。第 124 回 日本循環器学会 中国・四国合同地方会、広島、2024 年 6 月 22 日

井上耕一：Opening up a new era of ablation with CARTO and PFA。第 4 回 日本不整脈心電学会 中国・四国支部地方会、高知、2024 年 10 月 26 日

B-6

羽白 亮、尾崎立尚、大崎 慧、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：心房自動閾値測定テストにより心房頻拍が誘発された ICD 植え込み後のブルガダ症候群の一例。第 137 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 5 月 25 日

工藤あや、大里和樹、三嶋 剛、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大崎 慧、越智公一、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：僧帽弁置換術および両心室ペースメーカー植え込み術後の難治性菌血症に対してリファンピシンが著効した 1 例。第 137 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 5 月 25 日

木村健太郎、尾崎立尚、大崎 慧、鵜飼一穂、大里和樹、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、大橋拓也、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：広範な心筋障害で回路の同定に苦慮した心房頻拍に対し、電位早期性を元に通電を行い頻拍停止に成功した一例。第 137 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 5 月 25 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、余田拓海、兵庫隆司、高木宏太、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、家原卓史、中村雅之、山根治野、井上耕一、上田恭敬：Leriche 症候群に対し血管内治療後の急性大動脈 / 下肢動脈閉塞に Fogarty バルーンを用いて経皮的血栓除去術を行った 1 例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

高木宏太、池岡邦泰、余田拓海、兵庫隆司、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：緊急 CABG 術後早期のグラフト吻合部遠位閉塞に対して PCI での血行再建に難渋した一例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

水森祐樹、家原卓史、池岡邦泰、村岡直哉、大里和樹、鵜飼一穂、中村雅之、山根治野、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Long inflation balloon angioplasty によりステントレス治療が可能であった 左前下行入口部閉塞の急性心筋梗塞の一例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

村岡直哉、池岡邦泰、水森祐樹、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治

野、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：冠動脈 CT を用いた冠血流予備能比測定 (FFR_{ct}) と血管造影を用いた FFR_{angio} システムによる心筋虚血評価の比較検討。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

大里和樹、家原卓史、池岡邦泰、余田拓海、兵庫隆司、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、鵜飼一穂、山根治野、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：スコアリングバルーンでの前拡張後に IVL を行いバルーン破裂に伴う type F の冠動脈解離を来した 1 例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

大里和樹：スコアリングバルーンでの前拡張後に IVL を行いバルーン破裂に伴う type F の冠動脈解離を来した 1 例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

藤澤朋代、池岡邦康、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：ImpellaCP 挿入困難であった左主幹部梗塞に対し ECMO/Impella5.5 サポートにて救命し得た一例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

兵庫隆司、山根治野、余田拓海、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、大崎慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、是恒之宏：下肢急性動脈閉塞症 (ALI) における血行再建のゴールデンタイムについての検討。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

余田拓海、家原卓史、池岡邦泰、水森祐樹、村岡直哉、大里和樹、鵜飼一穂、中村雅之、山根治野、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：心原性ショックを合併した LMT 入口部高度石灰化病変の急性心筋梗塞に対して、Rotatripsy が有効であった 1 例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、村岡直哉、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：運動負荷エコー検査で E/e 上昇を認めなかったが 1 年後に症候性心不全を発症した一例。第 138 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、村岡直哉、大里和樹、大崎 慧、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：血管内治療後の急性大動脈/下肢動脈閉塞に Fogarty バルーンを用いて経皮的血栓除去術を行った 1 例。第 138 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

奥村由紀、村岡直哉、安部晴彦、中村雅之、西村健作、三嶋 剛、家原卓史、鵜飼一穂、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、山根治野、大

橋拓也、尾崎立尚、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：去勢抵抗性前立腺癌に対する Abiraterone の内服開始を契機に急性心不全を発症した虚血性心筋症の2例。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

高木宏太、井上耕一、安部晴彦、中村雅之、村岡直哉、余田拓海、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、鶴飼一穂、家原卓史、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、上田恭敬、松村泰志：サイズ選択に苦慮した経皮的左心耳閉鎖デバイス留置困難症例。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

水森祐樹、池岡邦泰、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鶴飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Transcatheter Intervention (TAI)における血管内治療の有効性と安全性について。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

村岡直哉、池岡邦泰、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、鶴飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：CTを用いた冠血流予備能比測定 (FFR_{CT}) と血管造影を用いたFFR_{Angio}システムによる心筋虚血評価の比較検討。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

村岡直哉、中村雅之、安部晴彦、家原卓史、鶴飼一穂、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：運動負荷心エコー検査で診断した左室駆出率の保たれた心不全 (HFpEF) に対して SGLT2 阻害薬が奏功した一例。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

大崎 慧、井上耕一、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、鶴飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、池岡邦泰、安部晴彦、上田恭敬、松村泰志：パルスフィールドアブレーションおよびクライオアブレーションにおける心筋障害と術後炎症の検討。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

大崎 慧、井上耕一、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、余田拓海、兵庫隆司、高木宏太、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、鶴飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、池岡邦泰、安部晴彦、上田恭敬、松村泰志：後壁より分枝する下肺静脈に対してパルスフィールドアブレーションを施行した発作性心房細動の症例。第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

大里和樹、安部晴彦、齊藤哲也、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、村岡直哉、水森祐樹、大崎 慧、鶴飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、西 宏之、上田恭敬、松村泰志：僧帽弁および三尖弁閉鎖不全症の術後に壁運動異常の改善を認めないたこつば型心筋症を発症した一例。第

138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

中村雅之、安部晴彦、村岡直哉、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：運動負荷心エコーで心拍応答不全を伴う収縮の保たれた心不全（HFpEF）と診断し、 β 遮断薬中止で軽快した 1 例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

兵庫隆司、山根治野、余田拓海、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：下肢急性動脈閉塞症(ALI)における血行再建のゴールデンタイムについての検討。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

兵庫隆司、尾崎立尚、依田 巧、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：Maze 術後の巨大左房症例に発症した心房頻拍に対してアブレーションを施行した一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

余田拓海、安部晴彦、三嶋 剛、中村雅之、鵜飼一穂、村岡直哉、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大里和樹、大崎 慧、家原卓史、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：ブルトン型チロシンキナーゼ（BTK）阻害薬による心房細動及び心不全をきたした腫瘍循環器領域の一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

羽白 亮、村岡直哉、中村雅之、山根治野、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：難治性心室細動、胸骨圧迫に伴う両側内胸動脈損傷を合併した急性心筋梗塞に対して ECPELLA を用いて救命し得た一例。日本血管インターベーション治療学会、大阪、2025 年 3 月 1 日

B-8

井上耕一：高齢者の心房細動 DOAC・WATCHMAN で変わる治療戦略 Brain、Heart、Conference、WEB、2024 年 4 月 18 日

井上耕一：Durable、PVI 時代の心房細動アブレーション、—これまでと、これから—Meet、The、Expert、超最先端の心房細動治療。WEB、2024 年 4 月 25 日

尾崎立尚：三次元マッピングシステムによる Activation、mapping が困難であった MAZE 術後心房頻拍において多極電極を用いた Conventional、mapping が有効であった一例。第 37 回臨床難治性不整脈研究会、大阪、2024 年 5 月 11 日

井上耕一：Arctic Front Advance 及びその併用機器の取り扱い・操作説明に関する講演。Arctic Front Advance Master Program、(AFMP)、WEB、2024 年 5 月 13 日

井上耕一：プライマリーケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方。循環器連携の会、大阪、2024年5月16日

安部晴彦：血圧管理と心不全。第17回 Trans Catheter Imaging Forum 2024、ファイアサイドセミナー、WEB、2024年5月17日

井上耕一：プライマリーケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方。超高齢化社会の心房細動を考える in Kagoshima、鹿児島、2024年5月24日

家原卓史：CTO、WorkShop&症例検討会。桜橋渡辺未来医療病院、大阪、2024年5月24日

三嶋 剛：地域の先生に知ってほしい不整脈とは。不整脈と降圧治療 Up to Date、WEB、2024年5月29日

井上耕一：プライマリーケア医に知ってほしい、心房細動治療の新しい考え方。第48回眉山循環器カンファレンス、WEB、2024年6月18日

井上耕一：プライマリーケア医に知ってほしい、心房細動治療の新しい考え方。ガイドラインから読み解く心房細動治療。WEB、2024年6月27日

井上耕一：クライオバルーン 製品概要 。Arctic Front Advance Master Program(AFMP)、神戸、2024年6月29日

家原卓史：ロータグレータで冠穿孔した左回旋枝近位部の高度石灰化病変のACSの一例。第52回 Abbott Forum In 宮崎市群医師会病院、宮崎、2024年7月4日

山根治野：Non-stenting、zone への治療に悩み、血栓閉塞を繰り返した一例。EVT Case Share、WEB、2024年7月8日

井上耕一：プライマリーケア医に知ってほしい、心房細動治療の新しい考え方。地域で診る心房細胞動治療セミナー。釧路、2024年7月12日

安部晴彦：心不全治療における SGLT2 阻害薬、ARNI の使い方のコツと注意点。循環器病談話会、大阪、2024年7月20日

山根治野：閉塞性動脈硬化症の治療について～法円坂ではこうして治しています！足のキズ。循環器病談話会、大阪、2024年7月20日

中村雅之：心不全の早期診断のコツ～適切な診断で息切れは治せる！ 循環器病談話会、大阪、2024年7月20日

井上耕一：プライマリーケア医に知ってほしい、心房細動治療の新しい考え方。中央区

東医師会学術講演会、WEB、2024 年 7 月 24 日

井上耕一：プライマリケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方、AF 患者さんの生涯を見据えた抗凝固療法を考える。神戸中央区医師会、WEB、2024 年 8 月 1 日

井上耕一：Non-Pulmonary Vein foci。Interventional EP Curriculum 2024 AF Module、東京 2024 年 8 月 3 日

井上耕一：「PFA 時代に改めて考える」～進化する心房細動アブレーションの現在地～。The 2nd Aizu Catheter Ablation Conference1、WEB、2024 年 8 月 24 日

井上耕一：プライマリケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方。南大阪不整脈フォーラム、大阪、2024 年 9 月 12 日

井上耕一：クライオバルーン 製品概要。Arctic Front Advance Master Program(AFMP)、東京、2024 年 9 月 14 日

三嶋 剛：CRT 治療の最新の知見、～LV リードデリバリーの考え方と Tips～。日本ライフライン主催 WEB 講演会、WEB、2024 年 9 月 19 日

井上耕一：関西・中国 RF Summit。関西・中国 RF Summit、大阪、2024 年 9 月 23 日

山根治野：TR (Trans、Radial) -EVT、当院の TRI 活用術。The19th Seminar of Peripheral CTO for Cardiologists、WEB、2024 年 9 月 28 日

池岡邦泰：Bay area Complex CI & Imaging Conference 2024。Shockwave Medical Japan 株式会社、兵庫、2024 年 9 月 28 日

中村雅之：ARNI の安全性と有用性について再考する。ARNI、Web、Symposium、大阪、2024 年 10 月 8 日

尾崎立尚：外来での ARNI 導入 ～振り返ると Chips が見えてくる～ARNI Cardiologist、Conference、大阪、2024 年 10 月 10 日

井上耕一：WATCHMAN がもたらす心房細動マネジメントのパラダイムシフト。AF Total Management Symposium 、京都、2024 年 10 月 19 日

井上耕一：RF アブレーションに求められるニーズの変化。関西・中国 RF Summit、WEB、2024 年 10 月 23 日

三嶋剛：BeeAT の CS への様々なアプローチ方法。Bee AT Seminar、WEB 、2024 年 10 月 30 日

安部晴彦：心不全の原因精査、～心アミロイドーシス早期診断のポイント～。心不全地域連携セミナー、大阪、2024 年 10 月 31 日

井上耕一：プライマリケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方。豊田加茂医師会、WEB、2024 年 11 月 28 日

井上耕一：Game、changer？パルスフィールドアブレーションは心房動治療をかえうるか。Meet the Expert Seminar、大阪、2024 年 12 月 11 日

池岡邦泰：ACS 二次予防としての脂質管理について。第 2 回 Lipid Management Meeting In OSAKA City、大阪、2024 年 12 月 19 日

井上耕一：クライオバルーン 製品概要 。Arctic Front Advance Master Program(AFMP)、神戸、2024 年 12 月 21 日

大里和樹：PCI ナイトメア症例①。第 5 回関西ナイトメアの会、WEB、2025 年 1 月 14 日

井上耕一：プライマリケア医に知ってほしい、心房細動治療の新しい考え方。中央区東医師会学術講習会、大阪、2025 年 1 月 22 日

井上耕一：プライマリケア医に知ってほしい心房細動治療の新しい考え方。第 17 回仙台 EP フォーラム、WEB、2025 年 2 月 27 日

大里和樹：Ryusei・DCB で治療しえた若年 STEMI の 1 例。A New Point of View -PCI & Medical Intervention、治療戦略-、大阪、2025 年 3 月 11 日

井上耕一：Game、changer？パルスフィールドアブレーションは心房細動治療を変えうるか、地域で診る不整脈診療、～ガイドラインとアブレーションの現在地～。WEB、2025 年 3 月 12 日

井上耕一：Game、changer!? パルスフィールドアブレーションは心房動治療をかえうるか。万葉まほろば Expert Seminar、奈良、2025 年 3 月 19 日

B-9

上田恭敬：DOCTOR ‘ S FLAP、FM 大阪『LOVE FLAP』、大阪、2024 年 12 月 19 日

小児科

岡田陽子

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「H I V感染者の妊娠、出産、予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発並びに診療体制の整備と均てん化のための研究」の中の「ヒト免疫不全ウイルス陽性女性と出生した児の長期予後に関する多施設コホート研究」「HIV 感染妊婦から出生した児の実態調査」に研究分担施設として参加している。HIV 感染母体からの分娩において感染症内科とともに母児感染予防を行い、出生児の経過を報告している。

その他の活動としては、小児発達、小児循環の臨床に関わる報告と発信を行っている。

【2024 年度 研究発表業績】

A-5

田中瑞恵、外川正生、兼重昌夫、細川真一、前田尚子、岡田陽子、中川秀憲：「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」HIV 感染女性と出生児の臨床情報の集積と解析およびウェブ登録によるコホート調査の全国展開、HIV 母子感染全国調査研究報告書令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業、2024 年 8 月

B-3

田中瑞恵 外川正生、兼重昌夫、前田尚子、岡田陽子、中河秀憲、佐々木泰治、時川麻紀、北島浩二、喜多恒和、吉野直人：ヒト免疫不全ウイルス陽性女性と出生した児の長期予後に関する多施設コホート研究(JWCICSII)からみた出生児の予後 第二報。 第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 2024 年 11 月 28 日

B-4

前川加奈美：予定入院治療により服薬コンプライアンスは向上したものの、頻回の嘔吐発作を繰り返す周期性嘔吐の 7 歳女児例。第 42 回日本小児心身医学会学術集会 東京、2024 年 9 月 21 日

B-5

前川加奈美、牧 寛子、宮本哲雄：院内 web 会議システムを活用し行動観察を行い、自閉スペクトラム症の特性について評定行った症例についての検討。第 22 回日本小児心身医学会関西地方会 大阪 2025 年 1 月 26 日

B-8

前川加奈美：児童発達支援・放課後等デイサービス。grow のおと 保護者向け講演会、大阪、2024 年 6 月 22 日

B-9

前川加奈美：FM 大阪『LOVE FLAP』 2024 年 8 月 1 日

外科
(肝胆膵外科・上部消化管外科・下部消化管外科・呼吸器外科・
乳腺外科)

平尾素宏

外科は、外科治療およびがん治療における標準治療の確立と先進医療の開発をめざして、以下の方針に基づいて臨床および研究を行ってきました。

- 1) 専門性および先進性の高い医療
- 2) 医療の質の向上とチーム医療の推進
- 3) 標準治療の確立と臨床共同研究の推進
- 4) 各種がんに対する集学的治療の推進
- 5) 外科手術の改善と向上
- 6) 周術期管理の改善と向上

毎年、多くの学会発表、論文発表、司会および講演を行っています。若手医師も積極的に研究発表と論文発表を行ってくれました。熱心に若手指導を行ってくれたスタッフ各位の努力のおかげです。今後もより一層皆で精進していこうと思います。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Hori K, Katada C, Okada H, Katagiri A, Matsuo Y, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Shimizu Y, Furue Y, Nakanishi H, Koike T, Takizawa K, Hirao M, Yoshii T, Yamanouchi T, Kawakubo H, Kobayashi N, Shimoda T, Ochiai A, Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M : Association between continuous cessation or reduction of drinking alcohol and improvement of multiple dysplastic lesions in patients with esophageal squamous cell carcinoma after endoscopic resection . 「Esophagus」 21 (1) : P 31 – 40、2024 年 1 月

Kawazoe A, Yamamoto N, Sugimoto N, Kawakami H, Oshima T, Yamaguchi K, Hino K, Hirao M, Kurokawa Y, Kawakami T, Tsuda M, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Muro K : Phase II Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF) in Combination with Nivolumab: Results from the Gastric Cancer Cohort . 「Clin Cancer Res」 30 (7) : P 1264 - 1272、2024 年 4 月

Tokunaga M, Machida N, Mizusawa J, Ito S, Yabusaki H, Hirao M, Watanabe M, Imamura H, Kinoshita T, Yasuda T, Hihara J, Fukuda H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M : Early

endpoints of a randomized phase II trial of preoperative chemotherapy with S-1/CDDP with or without trastuzumab followed by surgery for HER2-positive resectable gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C (Trigger Study). 「Gastric Cancer」 27 (3) : P 580 - 589、2024 年 5 月

Oshima T, Yamamoto S, Kawakanii H, Makino T, Kawazoe A, Masuishi T, Tsushima T, Hirao M, Tsuda M, Hino K, Yamamoto N, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Ooki A : Phase 1 b/2 study of the liposomal formulation of eribulin (E7389-LF). in combination with nivolumab: Results from the phase 2 esophageal cancer cohort. 「BJC reports」 2024 年 9 月

Makino T, Nakai S, Momose K, Yamashita K, Tanaka K, Miyata H, Yamamoto S, Motoori M, Kimura Y, Ushimaru Y, Hirao M, Matsuyama J, Akamaru Y, Kurokawa Y, Eguchi H, Doki Y: Efficacy and survival of nivolumab treatment for recurrent/unresectable esophageal squamous-cell carcinoma: real-world clinical data from a large multi-institutional cohort. 「Esophagus」 21 (3) : P 319 - 327、2024 年 7 月

Shitara K, Muro K, Watanabe J, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Mori I, Yamanaka K, Hihara M, Soeda J, Misumi T, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Baseline ctDNA gene alterations as a biomarker of survival after panitumumab and chemotherapy in metastatic colorectal cancer. 「Nature medicine」 30 (3) : P 730 - 739、2024 年 3 月

Oki E, Nakanishi R, Ando K, Takemasa I, Watanabe J, Matsubayashi N, Kato T, Kagawa Y, Kotaka M, Hirata K, Sugiyama M, Kusumoto T, Miyamoto Y, Toyosaki K, Kishimoto J, Kimura Y, Yoshizumi T, Nakamura Y : Recurrence monitoring using ctDNA in patients with metastatic colorectal cancer: COSMOS-CRC-03 and AURORA studies . 「Esmo」 3 : P 1 - 6、2024 年 3 月

Iida N, Imai M, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Taniguchi H, Nonomura N, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yamazaki K, Shogen Boku, Bando H, Shiraishi Y, Kobayashi M, Goto H, Sato A, Fujii S, Yoshino T, Nakamura Y : Novel ERBB2 Variant Potentially Associated with Resistance against Anti-HER2 Monoclonal Antibody-Based Therapy in ERBB2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer . 「Clin Cancer Res」 30 (18) : P 4167 - 4178、2024 年 9 月

Kusunoki C, Uemura M, Osaki M, Takiguchi N, Kitakaze M, Paku M, Sekido Y, Takeda M, Hata T, Hamabe A, Ogino T, Miyoshi N, Tei M, Kagawa Y, Kato T, Eguchi H, Doki Y: Postoperative venous thromboembolism after surgery for locally recurrent rectal cancer. 「BMC Cancer」 24 (1) : P 1027 、2024 年 8 月

Sugimoto N, Noura S, Kato T, Yoshioka S, Hata T, Naito A, Tei M, Tamagawa H, Komori T, Ide Y, Fukuzaki T, Danno K, Sawada G, Kagawa Y, Shimokawa T, Miyoshi N, Ogino T, Uemura M, Yamamoto H, Murata K, Doki Y, Eguchi H : The Efficacy of FOLFIRI Plus Ramucirumab in Recurrent Colorectal Cancer Refractory to Adjuvant Chemotherapy with Oxaliplatin/Fluoropyrimidine—Including Biomarker Analyses . 「Cancers」 17 (1) : P 91、2024 年 12 月

Takeno A, Motoori M, Kishi K, Omori T, Hirao M, Masuzawa T, Fujitani K, Yamamoto K, Kurokawa Y, Doki Y : Prognostic factors of conversion surgery for stage IV gastric cancer: A multi-institutional retrospective analysis. 「AG Surg」 8 (3) : P 431 - 442、2024 年 1 月

Saito T, Kurokawa Y, Fujitani K, Kawabata R, Takeno A, Mikami J, Endo S, Matsuyama J, Akamaru Y, Hirota M, Kishi K, Urakawa S, Yamamoto K, Tanaka K, Takahashi T, Oka M, Wada H, Eguchi H, Doki Y : Serum NY-ESO-1 antibody as a predictive biomarker for postoperative recurrence of gastric cancer: a multicenter prospective observational study . 「British Journal of Cancer」 130 (7) : P 1157 - 1165、2024 年 4 月

Sunagawa Y, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Hihara J, Takeno A, Inoue E, Ichikawa W, Fujii M. : Tumor Response Predicts Survival Time of Nivolumab Monotherapy for Advanced Gastric Cancer: A Subgroup Analysis of the DELIVER Trial (JACCRO GC-08). 「Oncologist」 29 (8) : P 997 - 1002、2024 年 8 月

Hori S, Yamasaki M, Yamamoto N, Harino T, Momose K, Yamashita K, Tanaka K, Sugimura K, Makino T, Takeno A, Shiraishi O, Motoori M, Miyata H, Kimura Y, Hirao M, Yasuda T, Yano M, Doki Y : The impact of time to postoperative recurrence on the prognosis of patients with esophageal cancer post recurrence: exploratory analysis of OGSG 1003. 「Esophagus」 21 (4) : P 472 - 483、2024 年 10 月

Omori T, Yamamoto K, Kurokawa Y, Miyazaki Y, Fujitani K, Kawabata R, Imamura H, Takeno A, Yanagimoto Y, Takahashi T, Saito T, Eguchi H, Doki Y : Long-Term Effects of Oral Nutritional Supplements After Gastrectomy for Gastric Cancer: A Survival Analysis from a Multicenter, Open-Label, Randomized Controlled Trial. 「Ann Surg Oncol」 31 (10) : P 6909 - 6917、2024 年 10 月

Motoori M, Kishi K, Yamamoto K, Takeno A, Hara H, Murakami K, Hamakawa T, Nakahara Y, Masuzawa T, Omori T, Kurokawa Y, Fujitani K, Doki Y : Prognostic factors and significance of postoperative adjuvant chemotherapy in patients with advanced gastric cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy followed by gastrectomy. 「Surgery Today」 54 (11) : P 1379 - 1387、2024 年 11 月

Fujitani K, Kurokawa Y, Wada R, Takeno A, Kawabata R, Omori T, Imamura H, Hirao M, Endo S, Kawada J, Jeong Ho Moon, Takiguchi S, Mori M, Eguchi H, Doki Y : Prospective single-arm multicenter interventional study of surgical resection for liver metastasis from gastric cancer; 3-year overall and recurrence-free survival . 「European Journal of Cancer(E-Pub) 」 213 (115080)、2024 年 12 月

Takahashi M, Osako T, Yasojima H, Inoue K, Kawashima M, Maeda H, Ichikawa A, Muramatsu Y, Masuda N : Overall survival in Japanese patients with ER+/HER2- advanced breast cancer treated with first-line palbociclib plus letrozole. 「Breast Cancer」 31 (1) : P 53 - 62、2024 年 1 月

Nishimura T, Ravi Velaga, Masuda N, Kawaguchi K, Kawaguchi S, Takada M, Maeshima Y, Tanaka S, Kikawa Y, Kadoya T, Bando H, Nakamura R, Yamamoto Y, Ueno T, Yasojima H, Ishiguro H, Morita S, Ohno S, Haga H, Matsuda F, Ogawa S, Toi M : Genomic and transcriptomic profiling of pre-and postneoadjuvant chemotherapy triple negative breast cancer tumors. 「Cancer Science」 115 (12) : P 3928 - 3942、2024 年 12 月

Takano T, Masuda N, Ito M, Inoue K, Tanabe Y, Kawaguchi K, Yasojima H, Bando H, Nakamura R, Yamanaka T, Ishida K, Aruga T, Yanagita Y, Tokunaga E, Aogi K, Ohno S, Kasai H, Kataoka R.T, Morita S, Toi M : Long-term outcomes of neoadjuvant trastuzumab emtansine + pertuzumab (T-DM1 + P) and docetaxel + carboplatin + trastuzumab + pertuzumab (TCbHP) for HER2-positive primary breast cancer: results of the randomized phase 2 JBCRG20 study (Neo-peaks) . 「Breast Cancer Res Treat」 207 (1) : P 33 - 48、2024 年 8 月

Yoshinami T, Nagai S, Hattori M, Okamura T, Watanabe K, Nakayama T, Masuda H, Tsuneizumi M, Takabatake D, Harao M, Yoshino H, Mori N, Yasojima H, Oshiro C, Iwase M, Yamaguchi M, Sangai T, Kosaka N, Tajima K, Masuda N : Real-world progression-free survival and overall survival of palbociclib plus endocrine therapy (ET) in Japanese patients with hormone receptor-positive/human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer in the first-line or second-line setting: an observational study . 「Breast Cancer」 31 (4) : P 621 - 632、2024 年 7 月

Noguchi E, Yamanaka T, Mukai H, Yamamoto N, Chi-Feng Chung, Yen-Shen Lu, Dwan-Ying Chang, Joohyuk Sohn, GunMinKim, Kyung-Hun Lee, Soo-Chin Lee, Iwasa T, Iwata H, Watanabe K, Kyung Hae Jung, Tanabe Y, Seok Yun Kang, Yasojima H, Aogi K, Tokunaga E, Sung Hoon Sim, Yoon Sim Yap, Matsumoto K, Ling-Ming Tseng, Umeyama Y, Sudo K, Kojima Y, Hata T, Kuchiba A, Shibata T, Nakamura K, Fujiwara Y, Tamura K, Yonemori K : A phase 3 study (PATHWAY) of palbociclib plus tamoxifen in patients with HRpositive/HER2-negative advanced breast cancer. 「NPJ breast cancer」 10 (1) : P 76、2024 年 8 月

Fujiyoshi K, Sudo T, Fujita F, Tanihara S, Ishida H, Shichijo S, Chino A, Nagasaki T, Takao A, Sasaki K, Akagi K, Matsubara T, Ueno H, Hirata K, Miyakura Y, Ishikawa T, Sunami E, Takahashi Y, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y : Marital status after colorectal surgery in familial adenomatous polyposis: a nationwide multicenter study in Japan . 「Int J Clin Oncol」 29 (9) : P 1274 - 1283、2024 年 9 月

Nakamura Y, Tsukada Y, Matsubashi N, Murano T, Shiozawa M, Takahashi Y, Oki E, Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C, Ikematsu H, Yoshino T: Colorectal Cancer Recurrence Prediction Using a Tissue-Free Epigenomic Minimal Residual Disease Assay. 「Clin Cancer Res」 30 (19) : P 4377 - 4387、2024 年 10 月

Yamamoto M, Takeno A, Hamakawa T, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirao M: Distal gastrectomy and Roux-en-Y reconstruction for refractory reflux esophagitis after proximal gastrectomy and esophagogastric anastomosis reconstruction. 「Surgery Today」 54 (11) : P 1414 - 1416、2024 年 11 月

Yamamoto M, Omori T, Masuike Y, Shinno N, Hara H, Sugase T, Kanemura T, Takeno A, Hirao M, Miyata H: Minimally invasive surgery versus open gastrectomy for older patients with gastric cancer: A propensity score-matching analysis. 「Ann Gastroenterol Surg」 9 (1) : P 69 - 78、2024 年 7 月

Yamamoto M, Takeno A, Toshiyama R, Tokuyama S, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Kato T, Hirao M: Laparoscopic transabdominal preperitoneal repair for a patient with Laugier's and inguinal hernia. 「Surgical Case Reports」 10 (1) : P 215、2024 年 9 月

Matsui Y, Kanou T, Fukui E, Kimura T, Ose N, Funaki S, Shintani Y: Association of the psoas muscle index with the survival of patients on a waiting list for lung transplantation: a Japanese single-institution study. 「Surgery Today」 54 (6) : P 574 - 580、2024 年 6 月

Matsui Y, Takami K, Mori K, Hirose Y : The diagnosis of pulmonary carcinoid using intraoperative fine-needle aspiration cytology: A case report . 「Int J Surg Case Rep」 P 124 : 110428、2024 年 10 月(Epub)

Matsui Y, Takami K: Lung cancer associated with partial anomalous pulmonary venous connection in the non-resected lobe: A case report. 「Int J Surg Case Rep」 P Nov:124 : 110454、2024 年 10 月

Koba M, Takeno A, Hasegawa H, Sakamori R, Higashiura R, Yamamoto M, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirose Y, Mori K, Mano M, Hirao M : An aggressive gastric CIC-DUX4 sarcoma surgically resected with multivisceral organs:a case report . 「Surgical Case Reports」 10 (1) : P 241、2024 年 10 月

A-2

加藤健志：Ⅱ各論 M 抗 VEGF 抗体薬併用療法「大腸癌薬物療法ハンドブック」：P. 115 - 124、南江堂、2024 年 12 月 20 日

加藤健志：第Ⅱ章レジメン別プロのコツ 2 大腸がん 一～二次治療 ⑦FOLFOXIRI or CAPOXIRI + BEV「消化器がん薬物療法副作用マネジメント」：P. 107 - 112、メディカルビュー社、2025 年 1 月

A-3

平尾素宏：医療安全の文化醸成のための当院の取り組み「医療」79 (2)：P. 19 - 23、2025 年 2 月

安井翔之介、浜川卓也、河部彩香、関 舞、宮城正和、梅津匡宏、竹野 淳、荒川和子、和田紋佳、石田みどり、太土彩子、山本真弓、内川厳志、内藤裕子、石田 永、平尾素宏：癌患者に対する NST 早期介入の意義に関する検討「癌と化学療法」51 (7)：P. 775 - 778、2024 年 7 月

関根知嘉子、長谷川友美、相木佐代、巽 啓司、平尾素宏：終末期がん患者の療養場所移行調整の現状と調整中止となる要因に関する後方視的検討 第 30 回日本がんチーム医療研究会 「癌と化学療法」51 (9)：P. 919 - 923、2024 年 9 月

加藤健志：大腸癌治療ガイドライン 2024 術後補助化学療法 (stage II, III) 「臨床外科」79 (9)：P. 980 - 985、2024 年 9 月

竹野 淳、山本昌明、平尾素宏：腹部救急疾患への対応：診断と治療の実際 1. 食道破裂「外科」87 (3)：P. 201 - 205、2025 年 3 月

八十島宏行：断端評価基準とその臨床的意義～病変 mapping の有用性 「日本臨牀増刊号乳癌学 2024 上」82 (6)：P. 197 - 201、2024 年 8 月

浜川卓也、西田謙太郎、赤丸祐介、竹野 淳、平尾素宏：手術手技 困難症例（肥満症例、進行胃癌）に対する腹腔鏡下胃切除術におけるガーゼテーピング法 「手術」78 (3)：P. 371 - 375、2024 年 12 月

豊後雅史、高橋佑典、森 清、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：非代償性肝硬変を合併する大腸癌症例に対して腹腔鏡下大腸手術を行った 2 例 「日本消化器外科学会雑誌」58 (1)：P. 65 - 74、2025 年 12 月

萩原佳菜、河合賢二、徳山信嗣、山本昌明、酒井健司、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：下行結腸穿孔をきたした血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例 「日本腹部救急医学会雑誌」 44 (1) : P. 61 - 64、2024 年 12 月

宮崎道彦、山田真美、田中玲子：慢性便秘症（便排出障害）に対する排便造影検査に
-おける形態異常の検討「日本大腸肛門病会誌」 77 : P. 22 - 29、2024 年 4 月

B-2

Nakamura Y, Wantanabe J, Hirata K, Akazawa N, Kataoka K, Yokota M, Yamazaki K, Kato K, Kotaka M, Kagawa Y, Kun-Huei Yeh, Vasily N. Aushev, Adham A Jurdi, Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Oki E, Yoshino T : Prognostic and predictive value of ctDNA-based MRD and actionable biomarkers in patients with resectable colorectal cancer: CIRCULATE-Japan GALAXY . ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Hashimoto T, Nakamura Y, Yan Yang, Francesca Battaglin, Federico Innocenti, Alan P. Venook, Makiyama A, Boku S, Machida N, Takahashi N, Kadowaki S, Komatsu Y, Kudo T, Oki E, Kato T, Kagawa Y, Fujisawa T, Bando H, Heinz-Josef Lenz, Yoshino T : Prognostic impact of HER family expressions for metastatic colorectal cancer (mCRC): SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN-2 and CALGB/SWOG 80405 trial (Alliance) international collaboration. ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Miyagaki H, Goto M, Endo S, Tanaka R, Omori T, Kawada J, Takahashi N, Masuzawa T, Furukawa H, Sato Y, Kato T, Fujitani K, Kawakami H, Sakai D, Kurokawa Y, Tsujinaka T, Shimokawa T, Satoh T : Neoadjuvant docetaxel, oxaliplatin, and S-1 plus surgery followed by adjuvant docetaxel and S-1 for patients with large type 3 or type 4 gastric cancer: Short-term outcomes of the phase II OGSG1902 trial . ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Uetake H, Yamashita R, Shitara K, Yoshino T, Watanabe J, Yasui H, Ohori H, Shiozawa M, Muro K, Yamazaki K, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K, Akagi K, Ochiai A, Tsuchihara K: Acquired gene alteration patterns and post-progression survival: PARADIGM study analysis. ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Imai M, Jinyeong Lim, Iida N, Ebi H, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Sato A, Yamashita R, Fujii S, Yoshino T, Woong-Yang Park, Nakamura Y: Deciphering tumor microenvironment dynamics in HER2-amplified refractory metastatic colorectal cancer in the TRIUMPH trial. ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Kagawa Y, Kato T, Shiozawa M, Yamaguchi K, Gotoh M, Yasui H, Hamaguchi T, Hara H, Yoshino T: Safety, efficacy, and biomarkers of ONO-4578, an EP4 antagonist, in combination with nivolumab and chemotherapy in treatment-naive and proficient mismatch repair

(pMMR)/microsatellite stable (MSS) metastatic colorectal cancer (mCRC). ESMO-GI2024 , Munich,Germany , 2024 年 6 月 1 日

Imai M, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Kato T, Komatsu Y, Uemura M, Yuki S, Taketomi A, Fujisawa T, Nakamura Y, Kojima M, Koyama S, Sanghoon Song , Chan-Young Ock , Nishikawa H, Ito M, Yoshino T : Correlation of enriched specific subset of immune cells nearby tumor associated macrophage (TAM)with pathologic complete response (pCR) of concurrent chemoradiotherapy followed by nivolumab inlocally advanced rectal cancer (LARC). 2024 ASCO Breakthrough , Yokohama , 2024 年 8 月 8 日

Ando K, Watanabe J, Kagawa Y, Bando H, Kotani D, Suwa Y, Nishizawa Y, Takahashi Y,Matsuhashi N, Suwa H, Sugiyama M, Kanemitsu Y, Oki E, Uemura M, Yokota M, Tsuboyama T, Oba K, Yoshino T, Kato T : Protocol amendment for ENSEMBLE study: A multicenter, randomized, phase III trial to test thesuperiority of consolidation irinotecan, capecitabine and oxaliplatin vs capecitabine and oxaliplatinfollowing short course radiotherapy as total neoadjuvant therapy in patients with locally advancedrectal cancer— Changing the irinotecan dosage . 2024 ASCO Breakthrough , Yokohama , 2024 年 8 月 8 日

Nagata J, Nakamura Y, Watanabe J, Akazawa N, Ikeda M, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Yamazaki K, Kagawa Y, K. Yeh, G. Laliotis, A. Jurdi, Kotani D, Bando H,Taniguchi H,. Takemasa I, Kato T, Yoshino T,Oki E Author : Association of ctDNA-based MRD detection and MRD clearance with short-term overall survival in patients with resectable colorectal cancer: Updated analysis of CIRCULATE-Japan GALAXY . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

Nakamura Y, Kildal W, Misumi T,M. Pradhan , Watanabe J, Skrede O. Kotani D, S.D. Raedt , Bando H, J. Kalsnes , Taniguchi H, K. Liestøl , Takemasa I, T.S. Hveem , Kato T, M. Novelli , Oki E, D.J. Kerr, Yoshino T, A. Kleppe : Novel clinical decision support (CDS) system optimizing adjuvant chemotherapy (ACT) for colorectal cancer (CRC) by integrating deep learning and circulating tumor DNA (ctDNA) molecular residual disease (MRD):GALAXY histotyping . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

Harima T, Yamashita R, Nakamura Y, Sakai S, Nomura R, Saori M, Kotani D, Taniguchi H, Watanabe J, Takemasa I, Kato T, Oki E,Yoshizumi T, Yoshino T : Association between copy number aberration and ctDNA MRD in colorectal cancer: CIRCULATE-Japan GALAXY . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

Kataoka K, Mori K, Nakamura Y, Watanabe J, Hirata K, Akazawa N, Yokota M, Kato K,Kotaka M, Yamazaki K, Kagawa Y, Sharma S, A. Jurdi , Kotani D, Bando H, TaniguchiH, Takemasa I, Kato T, Yoshino T, Oki E : Survival benefit of adjuvant chemotherapy based on molecular residual disease detection in resected colorectal liver metastases: Subgroup analysis from CIRCULATEJapan GALAXY . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

B-3

本告正明、田中晃司、宮田博志、白石 治、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野 淳、木村 豊、菅生貴仁、金村剛志、平尾素宏、山下公太郎、百瀬洸太、牧野知紀、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎、百瀬洸太：術前治療で Grade 3 の病理組織学的効果の得られた食道癌症例の予後因子解析。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

白石 治、萩 隆臣、牧野知紀、田中晃司、宮田博志、菅生貴仁、本告正明、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野 淳、平尾素宏、木村 豊、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司：術前化学療法之恩恵：NAC 後の ypN0 と手術先行の pN0 は同じですか？。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

藤谷和正、黒川幸典、竹野 淳、川端良平、大森 健、今村博司、平尾素宏、遠藤俊治、和田遼平、土岐祐一郎：胃癌肝転移に対する外科切除に関する前向き多施設臨床試験：3 年全生存割合と無再発生存割合。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

加藤健志：PARADIGM 試験 Up-to-date。第 124 回日本外科学会定期学術集会モーニングセミナー1、常滑市、2024 年 4 月 19 日

小林 信、高本健史、塩見明生、高橋 遍、塩澤 学、清水泰博、賀川義規、信岡大輔、山内淳一郎、加藤健志、沖 英次、武富紹信、高橋 祐、夏目壮一郎、仁熊健文、中村能章：Survival and benefit of adjuvant chemotherapy (ACT) by circulating tumor DNA (ctDNA) -based genomic profile and molecular residual disease (MRD) in resectable colorectal liver-limited metastases (CRLM)：PRECISION study。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

賀川義規、渡邊 純、安藤幸滋、植村 守、伊藤雅昭、上原 圭、小谷大輔、坂東英明、大庭幸治、加藤健志、竹政伊知朗、沖 英次、吉野孝之：局所進行直腸癌に対する TNT の効果予測 AI モデルの構築によるプレシジョン医療への展望。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

楠 誓子、植村 守、竹田充伸、関戸悠紀、波多 豪、浜部敦史、萩野崇之、三吉範克、加藤健志、江口英利、土岐祐一郎：進行・再発直腸癌に対する骨盤内拡大手術におけるロボット手術の現状。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佐典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：胆嚢癌の進行度に応じた腹腔鏡下根治切除の適応について。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

Gotoh K, Sakai K, Toshiyama R: Treatment strategies for elderly pancreatic cancer patients。

第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、広島、2024 年 6 月 28 日

竹野 淳、木村 豊、杉本直俊、遠藤俊治、川端良平、松山 仁、今野元博、田村茂行、中村将人、竹下宏樹、朴 将源、坂井大介、川上尚人、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎: 高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する周術期カペシタビン+オキサリプラチン (CapeOx) 療法の第 II 相試験 (OGSG1701)。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

本告正明、田中晃司、宮田博志、白石 治、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野 淳、木村 豊、菅生貴仁、金村剛志、平尾素宏、山下公太郎、百瀬洸太、牧野知紀、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎、百瀬洸太: 術前治療で Grade 3 の病理組織学的効果の得られた食道癌症例の予後因子解析。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

白石 治、萩隆臣、牧野知紀、田中晃司、宮田博志、菅生貴仁、本告正明、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野淳、平尾素宏、木村 豊、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司: 術前化学療法の恩恵: NAC 後の ypN0 と手術先行の pN0 は同じですか?。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

白石 治、杉村啓二郎、牧野知紀、宮田博志、竹野 淳、本告正明、山崎 誠、平尾素宏、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司: cT4b 食道癌に対する初期治療は? CRT or DCF ~多施設ランダム化臨床試験~。第 78 回日本食道学会学術集会、東京、2024 年 7 月 5 日

竹野 淳、山本昌明、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志: 進行胃癌に対するロボット支援下手術の短期成績。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 19 日

藤谷和正、黒川幸典、竹野 淳、川端良平、大森 健、今村博司、平尾素宏、遠藤俊治、和田遼平、土岐祐一郎: 胃癌肝転移に対する外科切除に関する前向き多施設臨床試験: 3 年全生存割合と無再発生存割合。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

八十島宏行、増田慎三、大佐古智文、井上賢一、川島雅央、前田豪樹、伊藤充矢、相良安昭、米盛勸、服部正也、山本尚人、松井暁子、村松泰明、高橋将人: HR+/HER2- 進行乳癌一次治療におけるパルボシクリブの国内第 2 相追跡試験。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 25 日

高橋佑典、坪山尚寛、渡邊純: TNT 後再評価の標準化に向けた取り組み-ENSEMBLE 試験-。JDDW2024、神戸、2024 年 11 月 2 日

植村 守、波多 豪、諏訪雄亮、沼田正勝、西沢佑次郎、井上 彬、塚田祐一郎、伊藤雅昭、高橋佑典、松橋延壽、諏訪宏和、安藤幸滋、賀川義規、渡邊 純、加藤健志：日本における局所進行直腸癌に対する TNT を検証する第 III 相試験 ENSEMBLE 試験。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 5 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、赤澤 香、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、岡田公美子、高橋佑典、酒井健司、八十島宏行、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：高齢者胃癌患者の術後合併症リスク因子についての検討。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

山本昌明、俊山礼志：閉鎖孔ヘルニア小腸嵌頓に対して腹腔鏡下水圧法にて容易に嵌頓解除し得た 2 例。第 22 回日本ヘルニア学会学術集会、新潟、2024 年 5 月 24 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：HIV 陽性急性虫垂炎に対する緊急手術の短期成績についての検討。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

B-4

高見康二、松井優紀：胸腺上皮性腫瘍に対する当院の治療戦略と成績。第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024 年 6 月 1 日

山本和義、大森 健、黒川幸典、宮崎安弘、藤谷和正、川端良平、今村博司、平尾素宏、西塔拓郎、高橋剛、牧野知紀、田中晃司、山下公太郎、百瀬洸太、江口英利、土岐祐一郎：胃癌術後 ONS 投与のランダム化比較試験予後解析。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

牧野知紀、杉村啓二郎、百瀬洸太、山下公太郎、田中晃司、白石治、本告正明、山崎誠、宮田博志、平尾素宏、安田卓司、矢野雅彦、江口英利、土岐祐一郎：われわれの考える cT3br, T4 食道癌の至適導入療法および予後予測因子。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

本告正明、青山修宇、山崎 誠、平尾素宏、宮田博志、白石 治、牧野知紀、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎：食道癌術前化学療法中の体重減少が術後感染性合併症と予後におよぼす影響について。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

加藤健志、山口研成、杉原健一、坂田英典、桑原美怜、飯田修、山中彩菜、井上智晶、吉野孝之：BRAFV600E 変異切除不能大腸癌に対する NCO/BINI/CET の特定使用成績調査：中間報告。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 18 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：局所進行膵癌に対する動門脈合併膵切除術において如何に臓器

の虚血性障害を回避するか?。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 18 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志：切除不能局所進行膵癌に対する conversion surgery の検討。第 55 回日本膵臓学会大会、宇都宮、2024 年 7 月 25 日

西川和宏、川端良平、西川和宏、川瀬朋乃、川田純司、木村豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景、今村博司：がん悪液質を伴う進行再発胃癌の一次化学療法に対する エイコサペンタエン酸強化経口栄養剤補助の有用性に関する第 II 相試験。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

田澤宏文、羽藤慎二、大塚真哉、竹野 淳、豊田和広、森谷宏光、野崎功雄、田中屋宏爾、内山秀昭、斎藤彰久、倉岡和矢、加藤健志、吉野茂文、鈴木崇久、田代裕尊：胃がん術後の予後因子の解析：Transmembrane protease serine 4 (TMPRSS4) のバイオマーカーとしての有用性の検証（多施設共同研究）。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

竹野 淳、平尾素宏、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：食道癌術後再発症例に対する治療成績。第 78 回日本食道学会学術集会、東京、2024 年 7 月 4 日

竹野 淳、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：胃癌 1 次治療におけるニボルマブ併用化学療法の効果に関する因子の検討。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 25 日

本居正明、杉村啓二郎、宮田博志、山崎 誠、牧野知紀、白石治、平尾素宏、竹野 淳、田中晃司、山下公太郎、百瀬洸太、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎：食道癌におけるコンバージョン手術～隣接臓器浸潤と遠隔転移～。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 24 日

竹野 淳、徳永正則、町田 望、梶川莉玖、三留典子、會澤雅樹、佐藤真輔、木下敬弘、安田 篤、川瀬朋乃、加納幹浩、黒川幸典、朴成和、吉川貴己、寺島雅典：高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃癌に対する術前 trastuzumab 併用療法の第 II 相試験（JCOG1301C）。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 13 日

安福 至、寺島雅典、高橋直樹、朴成和、黒川幸典、藤林勢世、松橋延壽、大森 健、伊藤友一、石田道弘、山形幸徳、山田貴允、西塔拓郎、竹野 淳、佐藤 渉、杉村啓二郎、吉川貴己：診断時切除不能胃癌に対する conversion surgery の治療成績に関する多施設共同観察研究。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 13 日

西川和宏、川端良平、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景、今村博司：胃癌一次化学療法症例においてエイコサペンタエン酸強化栄

養剤補助により栄養指標やがん悪液質は改善するか。第 97 回日本胃癌学会総会 名古屋、2025 年 3 月 13 日

松山 仁、柳本喜智、辻仲利政、益澤 徹、本告正明、今村博司、井上健太郎、上田修吾、出村公一、竹野 淳、高山 治、永井健一、足立真一、大森 健、川端良平、川田純司、西川和宏、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎：胃癌術後 S-1 補助化療患者に対する成分栄養剤のアドヒアランスと予後との関連－OGSG1108 追加観察研究。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 13 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、今西涼華、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：当院における急性胆管炎併存胆嚢炎に対する早期胆嚢摘出術。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：閉塞性膵炎を合併した膵管内乳頭粘液性腺癌に対して根治切除を施行した 1 例。第 46 回日本癌局所療法研究会、長浜、2024 年 6 月 21 日

Sakai K, Gotoh K, Imanishi S, Toshiyama R : Surgical outcomes of Resected cases of Primary Duodenal cancer at Our Hospital。第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、広島、2024 年 6 月 20 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：当院における局所進行直腸癌に対する術前治療および手術療法の短期成績。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 19 日

横田 満、坪山尚寛、井上明星、渡邊 純、賀川義規、沖田憲司、高橋佑典、小倉淳司、安藤幸滋、中西良太、沼田正勝、波多 豪、三代雅明、吉野孝之、加藤健志：TNT 後の効果判定の標準化に向けた取り組み-ENSEMBLE 試験-。第 86 回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024 年 11 月 21 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援腹腔鏡下 S 状結腸切除/前方切除術におけるハーモニック ACE インストゥルメントおよび腹腔鏡手術用ステイプラーの有用性。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 29 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：当院での大腸癌手術における安全性に留意したエネルギーデバイス選択。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 5 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：当院における術前治療後直腸癌に対する手術の工夫と短期成績。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 6 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：脾彎曲部結腸癌に対するロボット支援下手術。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：cT4b 結腸癌に対するロボット支援腹腔鏡下手術の短期成績。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 29 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援下手術を行った回結腸静脈が空腸動脈に流入する解剖学的変異を伴う上行結腸癌の 1 例。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 6 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：食道胃接合部癌に対する至適縦隔リンパ節郭清についての検討。第 78 回日本食道学会学術集会、東京、2024 年 7 月 5 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：実臨床における胃がんに対する DS 療法の完遂率に影響を及ぼす因子。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 18 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、高見康二、平尾素宏：日常生活自立度を用いた高齢胃がん患者の新たな予後予測の有用性。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 25 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、高見康二、平尾素宏：特発性食道破裂に対する胸腔鏡下食道破裂部閉鎖についての検討。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 12 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：胃癌術後晩期再発の検討。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 14 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、松井優紀、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：85 歳以上の超高齢者急性胆嚢炎に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術症例の検討。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

俊山礼志、山本昌明：Bilayer 法術後の再発鼠径ヘルニアに対して TAPP 法を施行した 2 例。第 22 回日本ヘルニア学会学術集会、新潟、2024 年 5 月 25 日

Toshiyama R, Sakai K, Gotoh K : A case of anomaly of middle hepatic artery in laparoscopic cholecystectomy。第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、広島、2024 年 6 月 29 日

俊山礼志 : 膵癌術後の残膵癌に対して外科的治療を施行した 5 例。第 55 回日本膵臓学会大会、宇都宮、2024 年 7 月 26 日

俊山礼志、濱 直樹、酒井健司、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏 : plug 除去後に腹腔鏡下ヘルニア修復術(TAPP)を施行した大腿ヘルニアの 1 例。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 6 日

松井優紀、高見康二、森 清 : 肺大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) 切除症例の臨床的検討。第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024 年 6 月 1 日

松井優紀、高見康二 : 栄養指標や肺年齢を含めた術前因子による高齢者肺癌外科切除例の術後合併症発生と予後予測の検討。第 65 回日本肺癌学会学術集会、横浜、2024 年 10 月 31 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志 : pT1b 大腸癌におけるリンパ節転移リスクの検討。第 100 回大腸癌研究会学術集会、東京、2024 年 1 月 26 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志 : 当院における MSI-H/dMMR 大腸癌の臨床病理学的特徴。第 101 回大腸癌研究会学術集会、名古屋、2024 年 7 月 12 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志 : 複雑性虫垂炎に対する緊急手術における術後合併症リスク因子の検討。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志 : 免疫チェックポイント阻害剤にて臨床的完全奏功を得られた MSI-high 大腸癌巨大腹壁再発の一例。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 30 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志 : 局所進行直腸癌における RAS 遺伝子変異と術前治療効果および予後との関連性の検討。第 102 回大腸癌研究会学術集会、別府、2025 年 1 月 30 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志 : 虫垂が絞扼帯

となり生じた絞扼性腸閉塞の 1 例。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：肛門外脱出嵌頓を伴う直腸 S 状部癌重積症に対し反転法にて切除した 1 例。第 46 回日本癌局所療法研究会、長浜、2024 年 6 月 21 日

阿部 優、俊山礼志、酒井健司、濱 直樹、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、宮崎道彦、高見康二、加藤健志、平尾素宏：単径部に膿瘍形成を伴った魚骨穿通・急性虫垂炎の 1 例。第 86 回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024 年 11 月 21 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：肛門外脱出嵌頓を伴う直腸 S 状部癌重積症に対し反転法を併用し根治切除した 1 例。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 7 日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：当院における高齢者肝癌症例に対する腹腔鏡下肝切除術の短期治療成績について。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：腎機能障害併存膵癌症例の周術期成績と予後の検討。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

今西涼華、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、平尾素宏、加藤健志：臀部皮下から骨盤内に及ぶ epidermal cyst に対して腹腔鏡を併用し経仙骨的に切除した 1 例。第 37 回近畿内視鏡外科研究会、大阪、2024 年 9 月 28 日

今西涼華、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：CO2 気胸と肋骨床剥離を用いて良好な視野で適切な切除範囲を決定し得た卵巣癌の右胸壁転移の 1 例。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 5 日

今西涼華、山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：重度肝硬変を伴う臍ヘルニア嵌頓に対し局所陰圧閉鎖療法を用いた 1 例。第 61 回日本腹部救急医学会総会、名古屋、2025 年 3 月 20 日

豊後雅史、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、松井優紀、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：先天性肝外門脈体循環短絡症に合併した若年性多発巨大肝細胞癌の1例。第46回日本癌局所療法研究会、長浜、2024年6月21日

木場瑞貴、河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、高見康二、加藤健志：直腸癌術後に Hem-o-lok クリップを核として生じた癒痕化組織の一例。第46回日本癌局所療法研究会、長浜、2024年6月21日

木場瑞貴、高橋佑典、加藤健志：直腸静脈瘤および骨盤内静脈瘤を伴う直腸癌に対しロボット支援腹腔鏡下に根治切除した一例。第79回日本消化器外科学会総会、下関、2024年7月17日

木場瑞貴、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、平尾素宏、加藤健志：直腸静脈瘤および骨盤内静脈瘤を伴う直腸癌に対しロボット支援腹腔鏡下に切除した一例。第37回近畿内視鏡外科研究会、大阪、2024年9月28日

木場瑞貴、竹野 淳、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、森 清、平尾素宏：胃多発神経内分泌腫瘍に対し、腹腔鏡下胃全摘術を施行した一例。第97回日本胃癌学会総会、名古屋、2025年3月14日

上村 廉、山本昌明、浜川卓也、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、赤澤 香、俊山礼志、河合賢二、岡田公美子、高橋佑典、酒井健司、八十島宏行、後藤邦仁、高見康二、加藤健志、平尾素宏：食道胃接合部癌に対する縦隔内吻合術後の逆流性食道炎に難渋した一例。第46回日本癌局所療法研究会、長浜、2024年6月21日

上村 廉、酒井健司、後藤邦仁：肝細胞癌胸壁播種に対して術中 ICG 蛍光観察を用いて切除を施行した1例。第79回日本消化器外科学会総会、下関、2024年7月18日

上村 廉、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：肺原発滑膜肉腫完全切除後に術後補助化学療法を施行するも術後4年で肺内転移を認めた一例。第86回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024年11月21日

西岡裕未、赤澤 香、櫻井義正、八十島宏行：乳癌肺転移治療中に薬剤性間質性肺炎と癌性リンパ管症の鑑別に苦慮した一例。第22回日本乳癌学会近畿地方会、大阪、2024年11月23日

奥村由紀、松井優紀、高見康二：非切除予定肺葉に部分肺静脈還流異常を認めた右下葉肺癌の一切除例。第41回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024年6月1日

佐藤直也、酒井健司、後藤邦仁、豊後雅史、俊山礼志、山本昌明、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：FOLFIRINOX 療法が奏効し根治切除を施行し得た膵腺扁平上皮癌と原発性肺扁平上皮癌の重複癌の一例。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 19 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、高橋佑典、河合賢二、徳山信嗣、加藤健志、平尾素宏：肛門外科領域のインシデント/アクシデントの検討。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 29 日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、高橋佑典、河合賢二、徳山信嗣、加藤健志、平尾素宏：当院における臀部慢性膿皮症症例の検討。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 30 日

B-5

加藤健志：外科の立場から考える周術期治療 GL 改訂ポイント。第 11 回平成大腸癌カンファレンス、神戸、2024 年 6 月 11 日

加藤健志：大腸がん薬物療法 Update。くしろ ICI セミナー、釧路、2024 年 6 月 14 日

加藤健志：大腸癌薬物療法のトピックスと技術認定医取得のコツ。大腸癌治療カンファレンス、金沢、2024 年 9 月 6 日

加藤健志：知っておきたい大腸がんのこと。2024 年度第 2 回森ノ宮医療大学市民公開講座、大阪、2024 年 10 月 29 日

加藤健志：大腸癌集学的治療。CRC conference in 高知 2025、高知、2025 年 2 月 21 日

竹野 淳：近年のがん治療における免疫チェックポイント阻害薬。第 10 回ブロック病診連携研修会 irAE をめぐる諸問題について～かかりつけ医が知っておくべきこと～、大阪、2025 年 3 月 15 日

B-6

竹野 淳：当院における irAE 対策チームの設立と取組み。第 61 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024 年 7 月 6 日

八十島宏行：BRCA 遺伝子変異陽性 mbc 治療の新しい PARP 阻害剤ターゼナの特性。乳腺クリニック懇話会～BRCA 遺伝子変異陽性 mbc 治療における新しい選択肢～、大阪、2024 年 6 月 22 日

八十島宏行：PARP 阻害剤～ターゼナのエビデンスと使いどころ～。Creators Seminar for Breast Cancer in Osaka 2024、大阪、2024 年 7 月 18 日

八十島宏行：エリブリン 13 年の歴史・レビュー。Meet the expert Web Forum、大阪、2024 年 8 月 20 日

八十島宏行：当院での ICI の使用法。3Q 中外 e セミナー on Breast Cancer、大阪、2024 年 9 月 27 日

八十島宏行：外科治療＋ラジオ波焼灼療法。乳がん最前線 2024、大阪、2024 年 10 月 27 日

八十島宏行：副作用マネジメントについて。ターゼナ AE マネジメント Internet Symposium Breast Cancer 2024、大阪、2024 年 11 月 12 日

八十島宏行：再発高リスク monarch E の適格基準について考える。Lilly Early Breast Cancer Web Seminar、大阪、2024 年 11 月 28 日

八十島宏行：EBC 術後薬物療法のエビデンスと再発高リスク患者さんへのアプローチ。Lilly Breast Cancer Web Seminar、大阪、2025 年 3 月 5 日

八十島宏行：今どこまでわかっているのか？CIPN の最新事情。プロジェクト Breast Cancer ～円滑な連携のために～、大阪、2025 年 3 月 13 日

酒井健司：肝胆膵領域におけるがん診療「膵癌手術の現況」。第 63 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2025 年 2 月 8 日

高橋佑典：人工肛門なし、排便機能障害なしで根治を目指す直腸がん治療の最前線。最も身近ながんは大腸癌～他人ごとではありません～Web シンポジウム、大阪、2024 年 5 月 12 日

高橋佑典：直腸癌に対する肛門温存治療の現状と当院の取り組み。大阪市中心区東医師会法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024 年 5 月 25 日

高橋佑典：大阪医療センターにおける IBD に対する外科治療の現状。OSAKA IBD WEB セミナー、大阪、2024 年 7 月 5 日

高橋佑典：当院における IBD の外科治療の現状と大腸がんに対する治療アルゴリズム。法円坂 GI カンファレンス、大阪、2025 年 2 月 27 日

河合賢二：外科医による大腸癌化学療法の”いろは”テーマ「前方ラインの化学療法」。OSAKA U18 C-STAR-Colorectal Surgeon's Chemotherapy Seminar - 、大阪、2024 年 7 月 5 日

河合賢二：自施設における外来化学療法のマネジメント。OSAKA U18 C-STAR-Colorectal Surgeon's Chemotherapy Seminar - 、大阪、2024 年 10 月 11 日

山本昌明：LAG Rising Star～魅せます！LDG と RDG の見本のビデオ～。LAG Rising Star～魅せます！LDG と RDG の見本のビデオ～、大阪、2024 年 4 月 10 日

俊山礼志：肝胆膵領域におけるがん診療「肝癌手術の現況」。第 63 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2025 年 2 月 8 日

阿部 優：レジデント執刀のラパ胆ビデオ討論。第 62 回専門医を目指す消化器外科セミナー、大阪、2024 年 8 月 30 日

櫻井義正、八十島宏行、徳山信嗣、赤澤 香、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏、高見康二：ドセタキセル投与後に非閉塞性腸管虚血と肺血栓塞栓症から急速な転帰をたどった一例。第 655 回大阪外科集談会、大阪、2024 年 11 月 9 日

上村 廉、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：横隔膜内膿瘍の一例。第 654 回大阪外科集談会、大阪、2024 年 7 月 27 日

西岡裕未、櫻井義正、増山美里、赤澤 香、八十島宏行：より良い終末期医療の提供を目指して-病棟体制の変化-。第 151 回阪神乳腺疾患談話会、大阪、2024 年 9 月 6 日

松本浩太郎、上村廉、松井優紀、高見康二、増山美里、徳山信嗣、赤澤 香、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、八十島宏行、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：画像検査で胸水貯留以外に異常を認めず、外科的生検までの方針決定に難渋した肉腫型悪性胸膜中皮腫の一例。第 656 回大阪外科集談会、大阪、2025 年 1 月 18 日

宮崎道彦：肛門の解剖、生理検査と診察。肛門疾患 Step up セミナー2024(1)、大阪、2024 年 7 月 13 日

宮崎道彦：肛門疾患 1。肛門疾患 Step up セミナー2024(2)、大阪、2024 年 8 月 31 日

宮崎道彦：三大疾患でない肛門疾患あれこれ。第 16 回奈良肛門疾患懇談会、大阪、2024 年 9 月 7 日

B-8

竹野淳：胃がんの切除不能進行・再発治療。第 3 回保険薬局 Oncology Seminar・胃がんシリーズ研修、大阪、2024 年 10 月 30 日

山本昌明：胃がんの外科手術・補助化学療法。第2回保険薬局 Oncology Seminar・胃がんシリーズ研修、大阪、2024年9月25日

徳山信嗣：腹腔鏡下大腸切除術。第17回大阪内視鏡外科手術セミナー、川崎、2024年12月14日

B-9

松井優紀：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2024年5月2日

山本昌明：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2024年6月20日

徳山信嗣：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2024年11月7日

濱 直樹：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2025年2月6日

形成外科

吉龍澄子

1999 年 7 月に形成外科の常勤医 1 名が赴任してスタートし、2000 年 4 月 1 日より診療科として形成外科を標榜しました。2007 年 4 月より外科の中で診療を行っていましたが、2009 年 7 月より形成外科は外科から独立した診療科となりました。

当院は形成外科学会の教育認定施設に認定され、形成外科専門医取得のための卒後教育にも当たっています。新専門医制度では、大阪大学形成外科の中でのカリキュラムとなっています。現在形成外科医が 3 人の体制で診療を行っています。

当科は、自科で行う診療および複数の科とのチーム医療における再建外科を 2 本の柱として行ってきました。

自科としての診療では、主に顔面の皮膚悪性腫瘍、眼瞼悪性腫瘍、眼瞼形成術、皮膚皮下腫瘍、ケロイド、瘢痕拘縮などの皮膚外科手術を扱っています。顔面の皮膚癌について、当科ではできるだけ整容的にそして侵襲を少なく治療するために、原則二期再建とし、切除後人工真皮で一時被覆し、永久標本で完全切除を確認後に再建する方針としています。こうすることで不必要に大きく正常組織を切除しないですむというメリットがあります。部位により 2 種類の人工真皮の使い分けも行っています。また整容的な結果になるように植皮方法や皮弁の切開線の工夫も行ってきました。顔面の腫瘍の中でも特に眼瞼の腫瘍は、腫瘍の治療という点からだけでなく、眼瞼の機能、および整容的にも満足のいく治療を行うのが重要と考えて治療方針を決め、再建術式も眼輪筋双茎皮弁や **minimal cheek** 皮弁、二期再建での眼輪筋皮弁 **redraping** 法などの術式を考案して、機能や外観をできるだけ左右対称に元通りになるように努めています。

とくに整容だけでなく機能的にも問題なく再建すべく術式を工夫しています。

腫瘍以外では、眼瞼下垂やなどのご紹介が近隣クリニック様より多くあり、こうした手術を多数行っています。特に眼瞼下垂の手術では整容面にも配慮し、眼瞼の陥凹を改善するために眼窩脂肪の固定術の追加などいくつか工夫を行い、整容的な結果を心がけています。また術後のドライアイの評価も定期的に行い、ドライアイなどの機能にも注意して手術をするようにしています。

その他、治療困難な真性のケロイドに対して、切除後の放射線照射療法を含む治療に取り組んでいます。当科は、全国で唯一ケロイドに対して組織内照射を行っていますので、症例や部位に応じて、切除後放射線外照射（電子線照射）あるいは組織内照射を使い分けて治療しています。ケロイドの他にも術後の創部の瘢痕拘縮の修正術も行っています。

もう 1 つの診療の柱として当科では、院内の外科系各科の癌の切除後の再建に取り組んできました。頭頸部再建、乳癌再建が主なものです。頭頸部再建症例は形成外科開設以来 300 例を超え、大部分がマイクロサージャリーによる遊離皮弁の症例です。外科、耳鼻科、口腔外科、形成外科、放射線科、脳外科などによるチーム医療体制が良好なため、安定した再建成績を維持できております。特に下

顎再建では、顔面神経下顎縁枝麻痺による術後の口唇の変形予防のための手術（筋膜移植）も行っています。

乳房再建は、主に自家組織の皮弁による再建を行ってきました。現在は自家組織の皮弁による乳房再建とインプラントによる再建のどちらも行っています。また他院で以前切除された乳癌術後の二期的な乳房再建も行っております。

また 2024 年 10 月より中村医師が赴任したので、皮膚科のご協力のもとに下肢静脈瘤の診療も開始しました。

今後も顔面や眼瞼の悪性腫瘍、頭頸部や乳房の再建外科、眼瞼の形成外科、皮膚外科を中心に診療する方針です。

【2024 年度 研究発表業績】

A-2

吉龍澄子、久保盾貴：顔面悪性腫瘍「顔の外科」pp 46-70、小川令 編 金芳堂出版株式会社、2024 年

A-3

吉龍澄子：特集 いまこそ update! 皮膚悪性腫瘍の治療 part2 [眼瞼における脂腺癌の切除縁と治療「形成外科」68(3)：1-9、2025 年

B-3

吉龍澄子：「ニッポンの形成外科医に再建外科の未来を託す」—再建外科の未来・皮膚外科—。第 67 回形成外科学会総会学術集会、2024 年 4 月 10-12 日（神戸市）

吉龍澄子、名和沙織、植田彩音：パネルディスカッション 4 いまさら聞けない全層植皮 基礎から応用、顔面の整容的な全層植皮の工夫 —術前・術中・術後の工夫について—。第 16 回日本創傷外科学会学術集会、2024 年 7 月 11-12 日（金沢市）

吉龍澄子：皮膚腫瘍専専門医認定委員会シンポジウム皮膚腫瘍外科分野指導医に求められるもの「病理の伝票にどう書こう？正しい検体の提出できますか？」。第 66 回日本形成外科 66 回日本形成外科学会基礎学会学術集会、2024 年 10 月 17 日～10 月 18 日（東京）

B-6

塩尻彩音、中村文哉、吉龍澄子：後頭部に生じた悪性増殖性外毛鞘性嚢腫の一例。第 137 回関西形成外科学会学術集会、2024 年 12 月 14 日（大阪市）

「整形外科紹介」

当科では、股・膝関節に対する人工関節手術、脊椎疾患に対する脊椎外科手術、手の外科手術に関する高度な専門診療と上下肢の外傷手術をメインに外来を行っております。

1. 末期変形性関節症に対する人工関節置換術

- 術前3D-CT画像データを用いた術中ナビゲーション支援及びロボットアーム支援手術による再現性の高い正確な人工関節手術や最小侵襲手術法(MIS; Minimally Invasive Surgery)を施行しています。
- 人工股関節手術においては、前方系アプローチと後方系アプローチを病状に応じて使い分け、上記の技術と併用することにより、術後下肢機能のさらなる向上および術後人工股関節脱臼の発生頻度減少を実現しています。
- 人工膝関節においては、全人工膝関節置換術(TKA)、片側置換型の人工膝関節手術(UKA)も施行しており、ロボット手術による安心安全な手術、入院期間の短縮とともに早期社会復帰を目指し良好な治療成績を挙げている。

2. 各種脊椎疾患に対する脊椎外科手術

- 腰部脊柱管狭窄症や頸椎症性脊髄症に代表される各種脊椎変性疾患に対する外科的治療（脊椎除圧・固定術）を中心に治療を行っている。85歳を超えるような超高齢者であっても、外科的治療の対象となる病態を有する症例に対しては、その合併症を管理しながら積極的に外科治療を行い、QOLを維持・改善できるよう努めている。
- さらに上記の脊椎変性疾患以外に脊椎外傷や転移性脊椎腫瘍、化膿性脊椎炎など種々の難治性脊椎疾患に対しても、外科的治療の適応があれば積極的に治療を行っている。

3. 手外科および上肢外傷手術

- 絞扼性神経障害、母指CM関節症をはじめとする変形性関節症、良性腫瘍、拘縮指や変形矯正、デュピュイトラン拘縮、TFCC損傷といった専門的加療が必要な疾患に対応している。
- 上肢外傷全般（鎖骨骨折、前腕骨骨折、肘関節周囲骨折、上腕骨骨折、指節骨骨折のほか、腱断裂や神経断裂など）の外傷についても積極的に手術加療を行い、懇切丁寧な診療を心掛けている。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Kudawara I : Primary alveolar soft part sarcoma of the ilium: A case report and literature review. 「J Case Rep Images Oncology」10(2) : 1-5、2024年7月12日

Nakamura J, Fukushima W, Ando W, Hagiwara S, Kawai Y, Shiko Y, Kawasaki Y, Sakai T, Ito K, Arishima Y, Chosa E, Fujimoto Y, Fujiwara K, Hasegawa Y, Hayashi S, Imagama T, Inaba Y, Ishibashi Y, Ishidou Y, Ito H, Ito H, Ito J, Jinno T, Kabata T, Kaku N, Kaneuji A, Kishida S, Kobayashi S, Komiya S, Kubo T, Majima T, Mashima N, Mawatari M, Miki H, Miyatake K, Motomura G, Nagoya S, Nakamura H, Nakamura Y, Nakanishi R, Nakashima Y, Nakasone S, Nishii T, Nishiyama T, Ohta Y, Ohzono K, Osaki M, Sasaki K, Seki T, Shishido T, Shoji T, Sudo A, Takagi M, Takahashi D, Takao M, Tanaka S, Tanaka T, Tetsunaga T, Ueshima K, Yamamoto K, Yamamoto T, Yamamoto Y, Yamasaki T, Yasunaga Y, Sugano N. Time elapsed from definitive diagnosis to surgery for osteonecrosis of the femoral head: a nationwide observational study in Japan. 「BMJ Open」 14(3) : e082342. doi: 10.1136/bmjopen-2023-082342、2024年3月29日

Ishiguro H, Takenaka S, Hamamoto S, Hoshiyama M, Tsukazaki H, Okada S, Kaito T. : Comparison of anterior spinal fusion and posterior cervical foraminotomy for cervical spondylotic radiculopathy in terms of postoperative recovery of upper-limb motor deficits. 「J Clin Neurosci」 129 : 110873. doi: 10.1016/j.jocn.2024.110873、2024年10月17日

Iwasa M, Nakahara I, Miki H. : rge cohort study on prevention strategies for dislocation in total hip arthroplasty. 「J Orthop Sci」 S0949-2658(24)00194-5、2024 年 11 月 12 日

Iwasa M, Ando W, Takashima K, Uemura K, Hamada H, Sugano N. : Effects of Cerclage Cabling on Preventing Periprosthetic Femoral Fractures When Using Cementless Stems for Unstable Femoral Neck Fractures. 「J Arthroplasty」 39(11) : 2807-2811、2024 年 5 月 11 日

Uemura K, Takashima K, Higuchi R, Kono S, Mae H, Iwasa M, Abe H, Maeda Y, Kyo T, Imagama T, Ando W, Sakai T, Okada S, Hamada H. : Assessing the utility of osteoporosis self-assessment tool for Asians in patients undergoing hip surgery. 「 Osteoporos Sarcopenia 」 10(1):16-21.doi: 10.1016/j.afos.2024.01.003、2024 年 3 月 2 日

Takashima K, Iwasa M, Ando W, Uemura K, Hamada H, Mae H, Maeda Y, Sugano N. : Magnetic resonance imaging screening for osteonecrosis of the femoral head after coronavirus disease 2019. 「Mod Rheumatol」 34(4) : 813-819. doi: 10.1093/mr/road095、2024 年 7 月 6 日

Iwasa M, Uemura K, Soufi M, Otake Y, Kinoshita T, Kutsuna T, Takashima K, Hamada H, Sato Y, Sugano N, Okada S, Takao M. : Volume and quality of the gluteal muscles are associated with early physical function after total hip arthroplasty. 「Int J Comput Assist Radiol Surg」 doi: 10.1007/s11548-025-03321-4、2025 年 1 月 21 日

Arimitsu S, Masatomi T, Shigi A, Yukioka M, Moritomo H : Ligamentoplasty using the ulnotriquetral ligament with wafer procedure for chronic triangular fibrocartilage complex foveal tear: Short-term outcome. 「J Orthop Sci」 29(1) : P141-145、2024 年 1 月 1 日

Kunugiza Y, Tsuji S, Fujito T, Tamaki M, Nishikawa M, Nomura K, Ishibashi T, Tomita T. : tenderness over the Pes anserinus and Gerdy's tubercle before and after total knee arthroplasty. 「J Orthop」 62 : 133-138. doi: 10.1016/j.jor.2024.10.038. eCollection 2025 Apr、2024 年 10 月 29 日

Shimada T, Iwahashi T, Yoshimura Y, Konishi K, Konishi M, Kazui A, Shiode R, Miyamura S, Oka K, Okada S, Tanaka H : Neurotrophin® alleviates nerve damage in a mouse chronic nerve compression model. 「J Pharmacol Sci」 157(2) : P88-95 、2025 年 2 月

Iwahashi T, Suzuki K, Tanaka H, Matsuoka H, Nishimoto S, Hirai Y, Kasuya T, Shimada T, Yoshimura Y, Oka K, Murase T, Okada S. : Neurotrophin® accelerates peripheral nerve regeneration in a rat sciatic nerve crush injury model. 「J Orthop Sci」 29(2) : 653-659. doi: 10.1016/j.jos.2023.02.002、2024 年 3 月 29 日

A-1

岩佐 諒: 大腿骨頭壊死症患者における骨頭圧潰と寛骨臼被覆との関連「整形外科」75 (12) : 1289~1292、南江堂、2024 年 11 月

A-2

岩佐 諒、高尾正樹、大竹義人、上村圭亮、Mazen Souf、濱田英敏、佐藤嘉伸、岡田誠司、菅野伸彦: Artificial intelligence を用いた変形性股関節症患者の筋萎縮および脂肪変性評価、「日本コンピュータ外科学会誌 富士フィルムヘルスケア賞受賞者特集」、2025 年 2 月

A-3

岩佐 諒、山本幸祐、三木秀宣: 変形性股関節症患者における筋萎縮および脂肪変性と QOL の関連「HipJoint」、金芳堂、2025 年 2 月

A-6

Arimitsu S : 2024 JSSH(Japanese Society of Hand Surgery) -KSSH (Korea Society of Hand Surgery) fellowship, Seoul、2024 年 11 月 2 日

B-2

Arimitsu S : The stabilizing effect of the distal interosseous membrane on the DRUJ in an ulnar shortening procedure: a biomechanical study. 2024 Congress of Korean Society of the Hand, Seoul, 2024 年 11 月 2 日

Iwasa M, Hashimoto Y, Kitada M, Miki H : Clinical results on cup placement using the Mako Robotic System. ISTA 2024 The 35th International Congress, Nashville, Tennessee, 2024 年 8 月 28 日

Shimada S, Iwahashi T, Yoshimura Y, Konishi K, Konishi M, Kazui A, Shiode R, Miyamura S, Oka K, Okada S, Tanaka H : Effects of methylcobalamin on bone formation via peripheral nerves and macrophages. FENS Forum, Vienna, Austria, 2024 年 6 月 25 日

B-3

有光小百合、森友寿夫、信貴厚生、正富 隆：TFCC 損傷に合併する ECU 腱障害、PT 障害。
第 67 回日本手外科学会学術集会、奈良、2024 年 4 月 25 日

有光小百合、森友寿夫：手関節尺側部痛に対する 3 段階手関節造影後 CT を用いた画像診断
／掌側侵入 TFCC の治療。第 143 回中部日本整形外科災害外科学会、神戸、2024 年 10 月 5 日

B-4

久田原郁夫、吉龍澄子、安田直弘：第 1 中足骨に発生した 2 次性軟骨肉腫に対して血管柄付き腓骨移植術をおこなった 1 例。第 57 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、福井、
2024 年 7 月 11 日

有光小百合、島田俊樹、森友寿夫：母指 CM 関節症に対する掌側侵入トンプソン変法による
suspentionplasty の治療経験。第 16 回日本手関節外科ワークショップ、川崎、2024 年 10 月 12
日

魚住有咲、有光小百合、正富 隆：骨折部のワイヤリングが一因と考えられた小児前腕両骨骨折
後偽関節の一例。第 143 回中部日本整形外科災害外科学会、神戸、2024 年 10 月 4 日

花草颯志、三木秀宣、有光小百合：高エネルギー外傷により生じた舟状骨窩掌側骨片および
月状骨窩掌側骨を伴う橈骨遠位端 marginal fracture 対し Stella R で治療した 3 例。第 67 回日
本手外科学会学術集会、奈良、2024 年 4 月 25 日

花草颯志、岩佐 諒、三木秀宣：不安定型大腿骨頸部骨折に対する Modified posterior approach
を用いた BHA の術後臨床成績。第 142 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、鳥取、
2024 年 4 月 12 日

岩佐 諒、三木秀宣、橋本佳周：股関節周囲筋の萎縮、変性評価における 2 次元的手法と 3 次元
的手法の臨床的意義の比較。第 51 回 日本股関節学会学術集会、岡山、2024 年 10 月 25 日

山本幸祐、岩佐 諒、三木秀宣、橋本佳周：人工股関節全置換術前患者における股関節周囲筋
の萎縮・脂肪変性と QOL の関係。第 51 回 日本股関節学会学術集会、岡山、2024 年 10 月 25
日

岩佐 諒、三木秀宣、橋本佳周：大腿周囲筋の萎縮、変性評価における 2 次元的手法と 3 次元
的手法の臨床的意義の比較。第 55 回 日本人工関節学会学術集会、名古屋、2025 年 2 月 22 日

河野壮太郎、上村圭亮、Mazen Soufi、岩佐 諒、前裕 和、高嶋和磨、濱田英敏、大竹義人、
佐藤嘉彦、岡田誠司、菅野伸彦：下肢 CT 画像に基づく全身骨格筋量低下の予測。日本整形外
科学会基礎学術集会、東京、2024 年 10 月 17 日

山本幸祐、岩佐 諒、三木秀宣、橋本佳周：高齢者の不安定型大腿骨頸部骨折に対する Modified
posterior approach を用いた BHA の術後臨床成績。第 55 回 日本人工関節学会学術集会、名古屋、
2025 年 2 月 22 日

加藤 堯、岩佐 諒、藤戸稔高、橋本佳周、三木秀宣：変形性股関節における人工股関節置換術後、膝蓋骨傾斜とその要因について。第 55 回 日本人工関節学会学術集会、名古屋、2025 年 2 月 21 日

藤戸稔高、岩佐 諒、橋本佳周、北田 誠、三木秀宣：人工膝関節全置換術術中の後十字靱帯切断前後の最大屈曲角度変に影響する要因。第 2 回 日本膝関節学会、沖縄、2024 年 12 月 6 日

藤戸稔高、岩佐 諒、橋本佳周、三木秀宣：BCS-TKA における膝蓋骨-ポストインピンジメント (PPI) の発生要因の検討。第 55 回 日本人工関節学会学術集会、名古屋、2025 年 2 月 21 日

島田俊樹、岩橋 徹、吉村佳晃、小西克侑、小西麻衣、鎌田惇史、田中啓之：メチルコバラミンは末梢神経再生およびマクロファージ極性を介して骨形成を促進させる。第 67 回 日本手外科学会学術集会、奈良、2024 年 4 月 25 日

島田俊樹、岩橋 徹、吉村佳晃、小西克侑、小西麻衣、鎌田惇史、田中啓之：メチルコバラミンは末梢神経およびマクロファージを介して骨形成を促進させる。第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会、東京、2024 年 10 月 17 日

小西克侑、岩橋 徹、島田俊樹、吉村佳晃、鎌田惇史、小西麻衣、宮村 聡、岡久仁洋、岡田誠司、田中啓之：末梢神経損傷後の脊髄における神経細胞とシナプスの可塑性変化。日本整形外科学会基礎学術集会、東京、2024 年 10 月 17 日

吉村佳晃、田中啓之、岩橋 徹、島田俊樹、小西克侑、鎌田惇史、小西麻衣、宮村 聡、岡久仁洋、岡田誠司：ラット末梢神経損傷モデルにおけるメチルコバラミンの血管新生作用に関する検討。日本整形外科学会基礎学術集会、東京、2024 年 10 月 17 日

岩橋 徹、田中啓之、島田俊樹、吉村佳晃、小西克侑、小西麻衣、岡田誠司：高用量メチルコバラミンは M-Ras を活性化することで抗炎症効果を発揮し末梢神経損傷後再生を促進する。日本整形外科学会基礎学術集会、東京、2024 年 10 月 17 日

吉村佳晃、田中啓之、岩橋 徹、島田俊樹、小西克侑、鎌田惇史、小西麻衣、宮村 聡、岡久仁洋、岡田誠司：ラット坐骨神経癒着モデルにおける Methylcobalamin 含有局所徐放ナノファイバーシートの神経保護効果。日本整形外科学会基礎学術集会、東京、2024 年 10 月 17 日

浦川ひかり、武中章太、濱本秀一、塚崎裕之、長本行隆、中嶋 望、石黒博之、柏井将文、林潤三、蟹江祐哉、古家雅之、藤森孝人、森口 悠、岡田誠司、海渡貴司：脊椎固定術後の手術部位感染 (SSI) におけるインストゥルメンテーション抜去のリスク因子の検討。第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会、横浜、2024 年 4 月 18 日

青野博之、武中章太、飛松秀和、長本行隆、古家雅之、石黒博之、大西厚範、岩崎幹：PLIF 後のケージ後方脱転の予防対策。第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会、横浜、2024 年 4 月 19 日

藤森孝人、喜多洸介、蟹江裕哉、武中章太、海渡貴司、古家雅之、鈴木祐紀、幸 博和、中嶋望、杉浦 剛、石黒博之、釜谷崇志、塚崎裕之、坂井勇介、星山政輝、岡田誠司：MRI 画像と臨床情報を統合して脊髄腫瘍を鑑別する Bi-Modal AI の開発。第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会、横浜、2024 年 4 月 19 日

橋本拓人：掌側板の嵌頓により母指 IP 関節脱臼骨折整復に観血的治療を要した 2 例。第 50 回 日本骨折治療学会、仙台、2024 年 6 月 28 日

B-6

平 薫代、三木秀宣：外陰部放射線性治療後の恥骨骨髓炎治療中に発症したメトロニダゾール脳症に対するリハビリテーション治療の一例。第 56 回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会、2024 年 9 月 3 日

脳神経外科

藤中俊之

脳神経外科は脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、不随意運動などの機能的疾患、脊椎脊髄疾患や末梢神経疾患も担当する大変領域の広い診療科ですが、当科では脳神経外科の各領域のうち、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷に特に注力し高度な診療を行っています。

脳血管障害に対しては、脳神経内科と協力して脳卒中センターとして 365 日 24 時間体制で対応しています。急性期脳卒中患者に対しては、病態に応じて、開頭手術や脳血管内治療などの適切な治療を速やかに行い、発症からできるだけ早期にリハビリテーションを開始するとともに、地域連携パスを利用して後方病院でのスムーズな治療の継続を図っています。また、未破裂脳動脈瘤や慢性期脳血管障害に対しても十分な検討とインフォームドコンセントを行ったうえで積極的に治療を行っています。脳血管内治療に関しては、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医が複数在籍しており、高度な治療や最新のデバイスを用いた治療が常に行える環境が整っています。実施医や実施施設が限定されている脳動脈瘤に対するフローダイバーターステントや脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する液体塞栓物質（Onyx）を用いた治療も数多く行っています。他施設での技術指導や全国からの見学者の受け入れも多く行っており、脳血管内治療分野での指導的施設になっています。新規血管内治療機器の治験や市販後調査、多施設共同研究にも積極的に参加しています。

脳腫瘍については、術前に詳細な画像評価を行い、術中はナビゲーションシステムや脳波・筋電図等によるモニタリングを駆使し安全・確実な手術を行っています。なかでも、中枢神経原発腫瘍の代表である神経膠腫に対しては、術中ナビゲーションやモニタリングに加え、5-アミノレブリン酸による蛍光反応ガイド下に手術を行うことで、機能温存を図りながら最大限の摘出を行うように努めています。特に機能的に重要な部位に発生した腫瘍においては、言語や高次機能を損なうことなく安全に手術を行うため麻酔科、リハビリテーション科の協力のもと覚醒下手術も行っています。また、化学療法、分子標的薬、放射線治療の進歩により癌種ごとの治療方針が必要となっている転移性脳腫瘍や、希少がんである神経膠種や悪性リンパ腫などに対して、疾患ごとに遺伝子診断など先進的な手法も用いて最適な治療方法を検討し集学的な治療を行っています。

頭部外傷については救命救急センターと連携し重症頭部外傷にも対応しています。個々の外傷患者の背景や病態は様々ですが、それぞれに最善と考えられる治療方針をとるように検討を行っています。

研修医、シニアレジデント教育にも力を入れています。毎週の症例検討会の他に脳神経内科医、救急医との合同症例検討会、抄読会などを行っています。また、顕微鏡手術については手術室外でもトレーニングが行えるよう、実体顕微鏡を購入し人工血管モデル等を用いた卓上での組織剥離・血管吻合の練習を奨励しています。当科は日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会の研修施設に認定されており各領域の専門医育成にも注力しています。学会発表についても活発に行っており、順次、論文文化して国内外の医学雑誌に発表しています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Sanada T, Kinoshita M, Sasaki T, Yamamoto S, Fujikawa S, Fukuyama S, Hayashi N, Fukai J, Okita Y, Nonaka M, Uda T, Arita H, Mori K, Ishibashi K, Takano K, Nishida N, Shofuda T, Yoshioka E, Kanematsu D, Tanino M, Kodama Y, Mano M, Kanemura Y : Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image. 「Neurooncol Adv」 6(1) : vdae016、2024 年 2 月

Fujimi Y, Ozaki T, Izutsu N, Nakajima S, Kanemura Y, Kidani T, Kawamoto S, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujinaka T : Fungal symptomatic intracranial aneurysm treated with a flow diverting stent: A case report. 「Surg Neurol Int」 15:58、2024 年 2 月

Kamimura S, Mitobe Y, Nakamura K, Matsuda K, Kanemura Y, Kanoto M, Futakuchi M, Sonoda Y : Association of ADC of hyperintense lesions on FLAIR images with TERT promoter mutation status in glioblastoma IDH wild type. 「Surg Neurol Int」 15 : 108、2024 年 3 月

Hiramatsu M, Ozaki T, Tanoue S, Mizutani K, Nakamura H, Tokuyama K, Sakata H, Matsumaru Y, Nakahara I, Niimi Y, Fujinaka T, Kiyosue H : Detailed Anatomy of Bridging Veins Around the Foramen Magnum: a Multicenter Study Using Three-dimensional Angiography. 「Clin Neuroradiol」 34(1) : 67-74、2024 年 3 月

Takenaka T, Nakamura H, Yamada S, Kidani T, Tateishi A, Toyota S, Fujinaka T, Taki T, Wakayama A, Kishima H : A novel predictor of ischemic complications in the treatment of ruptured middle cerebral artery aneurysms: Neck-branching angle. 「World Neurosurg X」 25 : 23:100370、2024 年 3 月

Kanemura Y, Yamamoto A, Katsuma A, Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Handa Y, Sumida M, Yoshioka E, Mine Y, Yamaguchi R, Okada M, Igarashi M, Sekino Y, Shirao T, Nakamura M, Okano H : Human-Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Neural Progenitor Cells Showed Neuronal Differentiation, Neurite Extension, and Formation of Synaptic Structures in Rodent Ischemic Stroke Brains. 「Cells」 13(8) : 671、2024 年 4 月

Izutsu N, Nishizawa N, Nakajima S, Kanemura Y, Ozaki T, Asai K, Kidani T, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T : Extracranial internal carotid artery-dissecting aneurysm having a re-entry tear and causing lower cranial nerve palsies treated with flow-diverting stent: A case report. 「Surg Neurol Int」 15 : 126、2024 年 4 月

Sakai C, Sakai N, Peterson C, Ohta T, Oishi H, Fujinaka T, Matsumaru Y, Ishii A, Imamura H, Yoshimura S, Izumi T, Satow T, Ito Y, Sugiu K, Miyachi S, Hirano T, Kagimura T, Kaneko N, Tateshima S : Investigator-initiated clinical trial of stabilizer device: A novel intracranial exchange guidewire for neuroendovascular treatments. 「Interv Neuroradiol」 7 : 15910199241262851、2024 年 8 月

Nomoto M, Kidani T, Kida M, Kobayashi K, Fujimi Y, Kawamoto S, Izutsu N, Asai K, Kanemura Y, Nakajima S, Fujinaka T : Treatment Outcomes in Patients with Unruptured Anterior Choroidal Artery

Aneurysms: A Single-Center Experience. 「J Neuroendovasc Ther」 18(8) : 219-223、2024 年 7 月

Hayashi N, Fukai J, Nakatogawa H, Kawaji H, Yoshioka E, Kodama Y, Nakajo K, Uda T, Naito K, Kijima N, Okita Y, Kagawa N, Takahashi Y, Hashimoto N, Arita H, Takano K, Sakamoto D, Iida T, Arakawa Y, Kawauchi T, Sonoda Y, Mitobe Y, Ishibashi K, Matsuda M, Achiha T, Tomita T, Nonaka M, Hara K, Takebe N, Tsuzuki T, Nakajima Y, Ohue S, Nakajima N, Watanabe A, Inoue A, Umegaki M, Kanematsu D, Katsuma A, Sumida M, Shofuda T, Mano M, Kinoshita M, Mori K, Nakao N, Kanemura Y : Neuroradiological, genetic and clinical characteristics of histone H3 K27-mutant diffuse midline gliomas in the Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors (Kansai Network): multicenter retrospective cohort. 「Acta Neuropathol Commun」 12(1) : 120、2024 年 7 月

Watanabe D, Okamoto N, Kobayashi Y, Suzuki H, Kato M, Saitoh S, Kanemura Y, Takenouchi T, Yamada M, Nakato D, Sato M, Tsunoda T, Kosaki K, Miya F : Biallelic structural variants in three patients with ERCC8-related Cockayne syndrome and a potential pitfall of copy number variation analysis. 「Sci Rep」 14(1) : 19741、2024 年 8 月

Kawamoto S, Ozaki T, Asai K, Kidani T, Izutsu N, Nakajima S, Kanemura Y, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T : Treatment Outcomes of PED for Unruptured Aneurysms of Internal Carotid Artery: Comparison of PED-Flex and PED-Shield. 「Neurol Med Chir (Tokyo)」 64(8) : 316-322、2024 年 8 月

Yamada S, Umehara T, Sonehara K, Kijima N, Kawabata S, Takano K, Kidani T, Hirayama R, Arita H, Okita Y, Kinoshita M, Kagawa N, Fujinaka T, Fujita T, Wakayama A : Biobank Japan Project; Matsuda K, Okada Y, Kishima H: Genome-wide association study on meningioma risk in Japan: a multicenter prospective study. 「J Neurooncol」 169(2) : 281-286、2024 年 9 月

Irizato N, Asai K, Okubata H, Tateishi A, Taniguchi M, Wakayama A. : A Case of an Intraosseous Arteriovenous Fistula at the Squamous Part of the Occipital Bone with Spontaneous Occlusion of Diploic Venous Drainage. 「Journal of Neuroendovascular Therapy」 18(9) : P240-244、2024 年 9 月 20 日

Chida D, Okita Y, Utsugi R, Kuroda H, Hirayama R, Kijima N, Arisawa A, Kagawa N, Kanemura Y, Yoshimura S, Tomiyama N, Kishima H : Dynamic susceptibility contrast-enhanced perfusion magnetic resonance imaging parameters for predicting MGMT promoter methylation and prognostic value in newly diagnosed patients with glioblastoma. 「Oncol Lett」 28(6) : 610、2024 年 10 月

Ozaki T, Hiramatsu M, Nakamura H, Niimi Y, Tanoue S, Mizutani K, Nakahara I, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Krings T, Fujinaka T : Classification, angioarchitecture and treatment outcomes of medullary bridging vein-draining dural arteriovenous fistulas in the foramen magnum region: a multicenter study. 「Neuroradiology」 67(1) : 213-225、2024 年 10 月 12 日

Yamada S, Nakamura H, Takenaka T, Nakamura Y, Ozaki T, Iba J, Takagaki M, Nishida T, Toyota S, Fujinaka T, Taki T, Kishima H : Serum Sodium Levels to Predict Endovascular Treatment-Needed Vasospasm Following Low-Grade Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage: A Retrospective Multicenter Study. 「J Neuroendovasc Ther」 19(1) : 2024-0078、2024 年 10 月 29 日

Nishizawa N, Kidani T, Nakajima S, Kanemura Y, Asai K, Izutsu N, Kawamoto S, Kobayashi K, Nomoto M, Fujimi Y, Kida M, Fujinaka T: Coil Embolization of a Ruptured Traumatic Pseudoaneurysm of the Middle Meningeal Artery: A Case Report. 「NMC Case Report Journal」 11 : 257-262、2024 年 11 月

Ohta T, Takeuchi M, Yamagami H, Tsuto K, Yamamoto S, Asai K, Ishii A, Imamura H, Yoshimura S, Fukumitsu R, Sakai C, Sakai N, Tateshima S : First-in-human trial of a self-expandable, temporary dilation system for intracranial atherosclerotic disease in patients presenting with acute ischemic stroke. 「Journal of Neurointerventional Surgery」 16(12) : P1232-1236、2024 年 11 月 22 日

A-2

金村米博 : 各論 36 Medulloblastoma, molecularly defined 「脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 第 5 版」 日本脳腫瘍病理学会 編、P.103-106、株式会社医学書院、東京、2024 年 5 月 20 日

川端修平、藤中俊之 : 「脳血管内治療の基本テクニック」 堀江信貴 編集、P88-124、メディカ出版、大阪市、2024 年 10 月 5 日

A-3

石毛良実、水戸部祐太、松田憲一朗、北岡 匠、大江倫太郎、二口 充、鈴木修平、吉岡孝志、金村米博、園田順彦 : ミスマッチ修復遺伝子異常を伴う膠芽腫に対してペムブロリズマブが奏効した 1 例 「脳神経外科速報」 34(5): 624-625、2024 年 9 月

A-4

川端修平、高垣匡寿、貴島晴彦 : 腸内細菌と脳動脈瘤・脳血管障害 「日本脳ドック学会会報第 17 号」 日本脳ドック学会学会報編集委員会編、P24-29、日本脳ドック学会、札幌市、2024 年 5 月 28 日

原田敦子、四本由郁、金村米博、玉置知子 : 先天性小児脳神経外科疾患の遺伝学的診断 「脳神経外科ジャーナル」 33(5):331-338、2024 年 5 月

B-1

Richardson S, Hicks D, Gough M, Castle J, Crosier S, Garcia-Ariza M, Martín-Guerrero I, LA Plasschaert S, Bourdeaut F, Dufour C, Masliah-Planchon J, Buttarelli FR, Garre ML, Biassoni V, Massimino M, Kanemura Y, Ramaswamy V, Gajjar A, Northcott P, Robinson G, Korshunov A, Pfister SM, Mynarek M, Rutkowski S, Schwalbe EC, Bailey S, Clifford SC: Molecular pathology, treatment and prognosis of infant sonic hedgehog medulloblastoma: A global multi-cohort study. ISPN02024, Philadelphia, PA, USA, 2024 年 7 月 1 日

Fujinaka T, Ozaki T, Nakamura H: Cerebrovascular complications in vascular type Ehlers-Danlos syndrome. 8th Bi-Nuerovascular Symposium 2024, Busan, Korea, 2024 年 11 月 2 日

B-2

Go K, Katsuma A, Makino Y, Yamamoto A, Yoshioka E, Shofuda T, Kanematsu D, Terada Y, Sano N, Tanji M, Mineharu Y, Kodama Y, Mano M, Ichimura K, Sasaki A, Hirato J, Inoue T, Nishikawa R, Date I, Nonaka

M, Nagane M, Arakawa Y, Kanemura Y: Clinical and Molecular Characteristics of Japanese Medulloblastoma, WNT-activated. ISPNO2024, Philadelphia, PA, USA, 2024 年 7 月 1 日

Kanemura Y, Yamamoto A, Katsuma A, Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Handa Y, Sumida M, Yoshioka E, Mine Y, Yamaguchi R, Okada M, Igarashi M, Sekino Y, Shirao T, Nakamura M, Okano H: Human leukocyte antigen-homozygous iPS cells-derived neural progenitor cells showed neuronal differentiation, neurites extension, and synaptic structure formation in rodent ischemic stroke brains. ISSCR 2024 Annual Meeting, Hamburg, Germany, 2024 年 7 月 10 日

Kuroda H, Kijima N, Tachi T, Murakami K, Hirayama R, Okita Y, Kagawa N, Hosen N, Kishima H: Identification of a new therapeutic antigen for glioblastoma using a monoclonal antibody library from patient-derived tumor spheres. 29th Annual Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology. Huston, USA, 2024 年 11 月 22 日

B-3

深井順也、中戸川裕一、林 宣秀、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：ヒストン H3 K27M 変異グリオーマの臨床・病理学的解析 ミッドライン症例とノンミッドライン症例の比較検討。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

大谷理浩、藤井謙太郎、石田穰治、水田 亮、柳井広之、松下博和、里見介史、金村米博、市村幸一、田中將太：マルチモダリティを用いた WHO 新分類への対応と現状。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

有田英之、平井健太郎、萩岡起也、高野浩司、金村米博：MRI における皮質限局の脳回腫大所見は IDH 野生型グリオーマを示唆する。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

黒田秀樹、木嶋教行、中河寛治、村上皓紀、宇津木玲奈、館 哲郎、平山龍一、保仙直毅、貴島晴彦：臨床検体を用いた膠芽腫細胞の治療標的抗原の同定と CAR-T 療法への展開。第 24 回分子脳神経外科学会、佐賀市、2024 年 7 月 19 日

藤中俊之：MPC Polymer がもたらす Flow diverter 治療の未来と展望。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 16 日

浅井克則：Always versatile, Solitaire™ X。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 17 日

黒田秀樹、木嶋教行、館哲郎、村上皓紀、中河寛治、平山龍一、保仙直毅、貴島晴彦：臨床検体を用いた膠芽腫細胞の治療標的抗原の同定と CAR-T 療法への展開。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 17 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、金地真生、西嶋

吉継、松本貴晶、渡邊 大、上平朝子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：HIV 感染に関連する脳内病変 単一施設における外科手術の経験（Brain lesions associated with HIV infection: A single-center surgical experience）。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

金村米博：全医療職/全医療現場が参加する医療機器・ヘルスケア関連製品開発拠点 (Bi-AMPS) の取り組み。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

藤中俊之：Pipeline™ Stent Platform Design と MPC Polymer への期待。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 21 日

藤中俊之：Target Tetra™ の強みとその活用法。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 21 日

浅井克則、井筒伸之、川端修平、西嶋吉継、松本貴晶、金地真生、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、宇野貴宏、黒田秀樹、藤中俊之：後方循環非分岐部動脈瘤に対するフローダイバーター留置術の治療成績。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 21 日

中村 元、木嶋教行、高垣匡寿、浅井克則、尾崎友彦、福田竜丸、寺西邦匡、松村剛樹、山崎弘輝、西田武生、藤中俊之、貴島晴彦：有効性と安全性の両立を目指した腫瘍血管塞栓術：適応判断と治療手技について。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 22 日

藤中俊之：治験症例から学ぶ Medilizer の有効性。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 23 日

藤中俊之：Pipeline™ をなぜ選択するのか～FD 治療における Stent Platform の重要性～。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 6 日

尾崎友彦、藤中俊之、中村 元、高垣匡寿、浅井克則、井筒伸之、川端修平、貴島晴彦：部分血栓化内頸動脈瘤に対するフローダイバーター治療成績の検討。第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 7 日

藤中俊之、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、藤見洋佑、大楠景子、木田将義、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、金村米博、中島 伸：未破裂前交通動脈瘤に対する治療戦略。第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 8 日

中村 元、高垣匡寿、尾崎友彦、福田竜丸、寺西邦匡、松村剛樹、山崎弘輝、藤中俊之、貴島晴彦：破裂椎骨動脈解離に対する治療戦略再考。第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 8 日

金村米博：iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脳梗塞再生医療の開発。第 24 回日本再生医療学会総会、横浜市、2025 年 3 月 20 日

B-4

中村和貴、水戸部祐太、鈴木一司、二口 充、金村米博、園田順彦：後期高齢者膠芽腫における長期生存例についての検討。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

水戸部祐太、中村和貴、石毛良美、鈴木一司、二口 充、金村米博、園田順彦：梁下野 GBM の病理像および臨床像。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

松山裕美、松本久宣、赤澤 香、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 健二、飛梅孝子、巽 啓司、金村米博、八十島宏行：Challenges Insighted from Risk-Reducing salpingo-oophorectomy (RRSO) in Women with HBOC。日本人類遺伝学会第 69 回大会、札幌市、2024 年 10 月 12 日

川端修平、浅井克則、井筒伸之、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、藤見洋佑、金地真生、木田将義、西嶋吉継、松本貴晶、金村米博、藤中俊之：中型の内頸動脈近位部動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術とフローダイバーター留置術の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会、横浜市、2024 年 10 月 16 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、渡辺 大、上平朝子、金村米博、藤中俊之：当院における HIV 感染症に合併した脳病変に対する手術経験。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会、横浜市、2024 年 10 月 16 日

金地真生、浅井克則、井筒伸之、西嶋吉継、松本貴晶、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、宇野貴宏、黒田秀樹、川端修平、金村米博、藤中俊之：未破裂内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤に対する血管内治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会、横浜市、2024 年 10 月 16 日

尾崎友彦、藤中俊之、中村 元、高 匡寿、浅井克則、井筒伸之、川端修平、貴島晴彦：部分血栓化内頸動脈瘤に対するフローダイバーター治療成績の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会、横浜市、2024 年 10 月 16 日

浅井克則、井筒伸之、川端修平、西嶋吉継、松本貴晶、金地真生、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、宇野貴宏、黒田秀樹、金村米博、藤中俊之：後方循環非分岐部動脈瘤に対するフローダイバーター留置術の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 17 日

小林弘治、浅井克則、井筒伸之、金村米博、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、藤見洋佑、木田将義、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、藤中俊之：外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻に対して血管内治療を行った 5 例の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 17 日

井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、小林弘治、野本未佳子、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：視神経管骨折を伴う外傷性視神経症に対する治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 17 日

山田修平、梅原 徹、曾根原究人、木嶋教行、川端修平、平山龍一、有田英之、沖田典子、木下学、香川尚己、藤中俊之、藤田敏晃、若山 暁、松田浩一、岡田随象、貴島晴彦：日本人における髄膜腫発生に関わるゲノムワイド関連解析。一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会、横浜市、2024 年 10 月 18 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、渡辺大、上平朝子、金村米博、藤中俊之：Brain lesions associated with HIV infection: A single-center surgical experience. 第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

松山裕美、松本久宣、赤澤 香、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 健二、飛梅孝子、巽 啓司、金村米博、八十島宏行：HBOC 女性におけるリスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）の実施における課題。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

隅田美穂、吉岡絵麻、勝間亜沙子、兼松大介、山本篤世、福角勇人、半田有佳子、加藤依香、高田 愛、松田由香子、正札智子、金村米博：大阪医療センター臨床研究センターセルプロセッシングセンターの管理と運用について。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

勝間亜沙子、吉岡絵麻、兼松大介、木原実香、河合 健、眞能正幸、金村米博：次世代シーケンサーを用いた新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）のゲノム解析検査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

兼松大介、勝間亜沙子、水野雄貴、西牧晃二、浦井 健、大里幸暉、渡部耕治、中村貴行、大西光雄、金村米博：次世代医療機器等開発事業支援デジタルコンテンツ制作ユニット「Digital works Bi-AMPS」の活動報告。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 19 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、大楠景子、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、金村米博、藤中俊之：後大脳動脈瘤に対する血管内治療。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 21 日

木田将義、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、藤見洋佑、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、藤中俊之：Mastoid emissary vein の拡張および蛇行により拍動性耳鳴を呈した一例。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 21 日
尾崎友彦、藤中俊之、中村 元、高垣匡寿、浅井克則、井筒伸之、川端修平、貴島晴彦：部分血栓化内頸動脈瘤に対するフローダイバーター治療成績の検討。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 22 日

藤島一紘、佐藤 徹、藤中俊之、飯原弘二、石井 暁、坂井千秋、松丸祐司、吉村紳一、高橋 淳、坂井信幸：Flow diverter は Paraclinoid aneurysm 治療の安全性向上に寄与したか？：JR-NET 4 の解析結果。第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024 年 11 月 22 日

金地真生、浅井克則、井筒伸之、西嶋吉継、松本貴晶、木田将義、藤見洋佑、黒田秀樹、川端

修平、金村米博、藤中俊之：二刀流術者施設における未破裂内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤の治療戦略。第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024年11月22日

宇野貴宏、浅井克則、西嶋吉継、松本貴晶、金地真生、木田将義、藤見洋佑、小林弘治、黒田秀樹、川端修平、井筒伸之、藤中俊之：IC-PCおよびIC-Ach動脈瘤に合併した前脈絡叢動脈の破格の検討。第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024年11月22日

井筒伸之、藤見洋佑、木田将義、浅井克則、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、藤中俊之：穿頭ドレナージ術後の中硬膜動脈塞栓術により治療し得た多量の凝血成分を有する慢性硬膜下血腫の2例。第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024年11月22日

川端修平、浅井克則、井筒伸之、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、藤見洋佑、金地真生、木田将義、西嶋吉継、松本貴晶、金村米博、藤中俊之：中型の内頸動脈近位部動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術とフローダイバーター留置術の治療成績。第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024年11月23日

小林弘治、浅井克則、井筒伸之、金村米博、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、藤見洋佑、木田将義、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、藤中俊之：外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻10例の治療経験。第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会、熊本市、2024年11月23日

馬場健太郎、福士亜美、Xiao Zhize、勝間亜沙子、川内大輔、金村米博、稲垣直之：グリオーマ細胞の浸潤および増殖機構の解明。第47回日本分子生物学会年会、福岡市、2024年11月28日

呉 浩一、勝間亜沙子、牧野恭秀、山本悦子、吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、高田茂樹、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、児玉良典、眞能正幸、市村幸一、佐々木惇、平戸純子、井上健、西川亮、伊達 勲、埜中正博、永根基雄、荒川芳輝、金村米博：髄芽腫の分子診断:国内症例の特徴とWNTの診断方法。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月1日

中戸川裕一、深井順也、川路博史、林 宣秀、木嶋教行、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、正札智子、森 鑑二、稲永親憲、金村米博：H3F3A遺伝子の変異をもつ半球性のグリオーマの臨床的特徴と予後。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月1日

中村和貴、水戸部祐太、金村米博、園田順彦：再発膠芽腫に対する再摘出術と予後因子についての検討。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月2日

西川真弘、井上明宏、大西丘倫、金村米博、日下部公資、大塚祥浩、末廣 諭、山下大介、渡邊英昭、國枝武治：CD44は再発膠芽腫におけるBevacizumab効果予測因子となりうる。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月2日

黒田秀樹、木嶋教行、館哲郎、村上皓紀、中河寛治、平山龍一、保仙直毅、貴島晴彦：臨床検体を用いた膠芽腫細胞の治療標的抗原の同定とCAR-T療法への展開。第42回日本脳腫瘍

学会学術集会、志摩市、2024 年 12 月 2 日

井筒伸之、中島 伸、金村米博、浅井克則、川端修平、黒田秀樹、藤見洋佑、大楠景子、金地真生、木田将義、西嶋吉継、松本貴晶、藤中俊之：外傷性頭蓋内出血に対する術前 CT angiography に関する検討。第 48 回日本脳神経外傷学会、東京都千代田区、2025 年 2 月 21 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、大楠景子、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、金村米博、藤中俊之：当院におけるくも膜下出血の発症時期と気象条件の関連について。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 6 日

金地真生、浅井克則、井筒伸之、西嶋吉継、松本貴晶、木田将義、大楠景子、藤見洋佑、黒田秀樹、川端修平、金村米博、藤中俊之：二刀流術者施設における未破裂内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤の治療戦略。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 6 日

濱本暁子、岡崎周平、隅寿恵、藤本京利、権泰史、高垣匡寿、笠原祐介、吉秀明、河野友裕、高杉純司、藤本康倫、由上登志郎、藤中俊之、本山靖、橋本弘行、榊孝之、横江勝、坂口学、貴島晴彦、望月秀樹：多施設共同研究による急性期脳卒中治療開始時間に影響を与える施設因子の解析。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 7 日

川端修平、浅井克則、井筒伸之、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、藤見洋佑、金地真生、木田将義、西嶋吉継、松本貴晶、金村米博、藤中俊之：中型の内頸動脈近位部動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術とフローダイバーター留置術の治療成績。第 50 回日本脳卒中学会学術集会、大阪市、2025 年 3 月 8 日

B-5

藤中俊之：出血性頭頸部血管損傷に対する血管内治療。第 10 回軽井沢脳血管内治療セミナー、北佐久郡軽井沢町、2024 年 7 月 27 日

藤中俊之：脳動脈瘤に対する血管内治療～Flow Diverter と Flow Disruptor について～。泉州エリア脳・神経疾患セミナー、大阪市、2024 年 8 月 1 日

藤中俊之：Flow Diverter 留置の Technical Tips。第 7 回新潟脳血管内治療エキスパート養成ワークショップ、新潟市、2024 年 8 月 3 日

藤中俊之：Flow Diverter 留置の Technical Tips。第 15 回 HybridNeurosurgery 研究会、横浜市、2024 年 9 月 27 日

B-6

小林琴美、井筒伸之、野本未佳子、中島 伸、金村米博、浅井克則、木谷知樹、宇野貴宏、小林弘治、藤見洋佑、木田将義、藤中俊之：繰り返す脳虚血症状で発症した神経サルコイドーシスの 1 例。第 85 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中市、2024 年 4 月 6 日

池町涼介、大谷理浩、石田穰治、藤井謙太郎、富田祐介、金村米博、柳井広之、田中將太：頭

頂葉に発生した成人神経節細胞腫の1例。第97回日本脳神経外科学会 中国四国支部会、米子市、2024年4月7日

小林弘治、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、藤見洋佑、木田将義、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、藤中俊之：Direct CCFに対するTAE中にcoil migrationをきたした1例。第66回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ、田辺市、2024年7月13日

金地真生、浅井克則、井筒伸之、西嶋吉継、松本貴晶、木田将義、小林弘治、藤見洋佑、宇野貴宏、黒田秀樹、川端修平、金村米博、藤中俊之：二刀流術者施設における未破裂内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤の治療戦略。第86回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、豊中市、2024年9月14日

B-8

藤中俊之：脳動脈瘤に対する最新の血管内治療～Flow Diverter と Flow Disruptor について～。
法円坂フォーラム、大阪市、2024年11月30日

金村米博：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークのグリオーマ分子診断体制。第48回東海脳腫瘍病理検討会、名古屋市、2025年3月15日

心臓血管外科

齊藤 哲也

2025年1月より新体制となり、引き続き「低侵襲化と生活の質（QOL）向上を目指した心臓血管外科治療」を基本方針として診療を行っています。エビデンスに基づき、個々の症例の病態や背景に応じた最善の治療を提供しており、総合病院の強みを活かし、あらゆる状況に柔軟に対応可能な体制を整えています。

循環器内科・救命救急センターとの密接な連携のもと、緊急手術にも迅速に対応し、開かれた病診・病々連携を通じて24時間体制で地域の循環器診療に貢献しています。特に、MICS（低侵襲心臓手術）やステントグラフトなどの最新技術を積極的に導入し、高齢者や合併症を有するハイリスク症例に対しても、身体的負担の少ない、安全で確実な治療を提供しています。

また、ハートチームとして心臓外科・循環器内科が連携し、2024年より経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を開始しました。冠動脈疾患に対しては、低侵襲心拍動下冠動脈バイパス術（±人工心肺）を第一選択とし、左小開胸アプローチ（MICS-CABG）やPCIと組み合わせたハイブリッド手術も行っています。重症虚血性心疾患には補助循環用ポンプカテーテル(IMPELLA)を積極的に導入し、より安全な治療を提供しています。

弁膜症手術では、大動脈弁・僧帽弁・三尖弁に対する右小切開MICSを中心に、早期社会復帰を目指した治療を行っており、再弁手術症例においても同様のMICSアプローチを積極的に展開しています。新しい三尖弁形成術に関する多施設共同研究にも参加し、MICSの応用範囲拡大に努めています。

大動脈疾患に対しては、胸部・腹部大動脈瘤にステントグラフトを積極的に適応し、脳梗塞・腎不全・COPDなどの高リスク症例や緊急症例に対しても低侵襲治療を実現しています。腹部大動脈瘤に関しては国立病院機構ネットワーク研究に参加し、長期成績の検討も行っています。急性大動脈解離に対しては、積極的な緊急対応とともに、術後の残存解離や慢性B型解離に対して2期的ステントグラフトやpreemptive TEVARを導入しています。

重症心不全症例に対しては、ECMO、IABP、IMPELLAといった補助循環装置（MCS）を適切に使用し、必要に応じて大阪大学と連携しながら、心臓移植や補助人工心臓治療を含む包括的な心不全治療への橋渡しを行っています。

多施設のデータベース事業にも参画し、心臓血管外科領域からの様々なエビデンスの発信にも勤めております。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Nishi H, Kitahara M, Taguchi T, Yoshitatsu M. : Diagnosis of Type IV Endoleak After Endovascular Aneurysm Repair Using Visualization With Novel Software. 「Cureus」
16 : e60527、2024年5月17日

Taguchi T, Nishi H, Kitahara M, Goto T, Nakazato T. : Surgical Treatment for Giant Multiple Coronary Artery Aneurysms Caused by an IgG4-Related Disease. 「Cureus」 16 : e60115、2024年5月11日

Aoyama S, Miyazaki Y, Motoori M, Hirota M, Itami T, Matsumoto S, Hirano M, Aomatsu M, Goto T, Kitahara M, Ozato Y, Nishizawa Y, Komatsu H, Inoue A, Kagawa Y, Tomokuni A, Iwase K, Nishi H, Fujitani K. : Cardiac tamponade complicating esophagectomy and retrosternal gastric tube reconstitution in a patient with an abnormal ascending aorta position: a case report. 「Surg Case Rep」 10 doi: 10.1186/s40792-024-01850-9、2024年2月28日

A-2

西 宏之: MICS指南「成功は細部に宿る」宮本伸二、中村喜次編集、P38, 41, 127, 163、メディカ出版、東京 2024年7月5日

B-2

Nishi H, Kithara M, Shirasaki Y, Yoshitatsu M. : Difficult Cross-clamping Of The Aorta In A Patient Who Underwent 3rd Time Redo Mitral Valve Replacement Via Right Mini-thoracotomy, 2024 Annual Scientific Meeting of INTERNATIONAL SOCIETY FOR MINIMALLY INVASIVE CARDIOTHORACIC SURGERY 2024 Athnes 2024 年 5 月 29 日-6 月 1 日

Nishi H, Kithara M, Shirasaki Y, Yoshitatsu M. : Safety and efficacy of Rechordsystem for easy adjustment of appropriate artificial chordae length in patients undergoing minimally invasive mitral repair. 2024 Annual Scientific Meeting of INTERNATIONAL SOCIETY FOR MINIMALLY INVASIVE CARDIOTHORACIC SURGERY. Athnes 2024 年 5 月 29 日-6 月 1 日

Nishi H. : Minimally Invasive Mitral Valve Replacement - Experience from Japan. Minimally Invasive Surgery Heart Valve Symposium Fuwai Shenzhen Hospital, Chinese Academy of Medical Sciences. Fuwai (Web) 2024 年 6 月 28 日

Iha K, Yuncong Wang, Kudo T, Nakamura T. : A Surgical Case of Epithelioid Hemangioendothelioma of the Femoral Vein. The 5th Dezhou Sino-Japanese International Cardiovascular Forum and the 1st Dezhou Peripheral Vascular Intervention Academic Conference. Oral presentation, Shandong China 2024 年 7 月 12-14 日

Nishi H : Experience of Mitral Valve Replacement with MICS. Surgical Bioprosthetic Heart Valve Therapy Forum-Ningxia. Ningxia(Web) 2024 年 9 月 6 日

Nishi H. : Considering the role of iNO in MICS. ISMICS 2024 WORKSHOP. Osaka 2024 年 11 月 8 日-9 日

B-3

西 宏之、齋藤哲也、中川敬也、白崎幸枝、北原睦識、吉龍正雄：大動脈内視鏡を用いた Preemptive TEVAR の有用性と安全性。第 124 回 日本外科学会定期学術集会、名古屋、2024 年 4 月 18 日-20 日

西 宏之：B 型大動脈解離における NOGA の所見と今後の展望。TCIF2024、大阪、2024 年 5 月 17 日-18 日

西 宏之：NOGA の知見による大動脈解離治療の問題点と克服の今後。TCIF2024、大阪、2024 年 5 月 17 日-18 日

西 宏之、齋藤哲也、中川敬也、白崎幸枝、北原睦識、吉龍正雄：Preemptive TEVAR の効果と安全性の検証—大動脈内視鏡の所見、遠隔期の偽腔 remodeling から見た考察—。第 52 回日本血管外科学会学術総会、大分、2024 年 5 月 29 日-31 日

西 宏之、齋藤哲也、中川敬也、白崎幸枝、北原睦識、吉龍正雄：大動脈内視鏡の慢性大動脈解離治療への応用 ～Uncomplicated B 型大動脈解離に対する大動脈内視鏡を用いた preemptive TEVAR～。第 30 回日本血管内治療学会学術総会、2024 年 7 月 12 日-13 日

西 宏之：MICS-Mitral における不整脈手術と左心耳マネジメント ～市中病院における更なる一步を目指して～。進化する外科的不整脈治療～エキスパートに学ぶ・リズムコントロールの重要性、大阪(web)、2024 年 7 月 24 日

西 宏之：MICS-AVR を安全に導入するためには。The Right Choice Today～TAVI 時代の SAVR オプション～、大阪(web)、2024 年 8 月 27 日

西 宏之、齋藤哲也、中川敬也、伊波孝路：大動脈ステントグラフト治療における血流維持型汎用血管内視鏡での評価。第 65 回日本脈管学会学術総会、2024 年 10 月 24 日-25 日

西 宏之：AI による循環器診療の今 ～心臓血管外科診療にどう生かすか？～。第 37 回日本冠疾患学会学術集会、東京、2024 年 11 月 29 日-30 日

西 宏之：MICS-AVR を始める際のコツと注意すべきこと。第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、下関、2025 年 2 月 20 日-22 日

B-4

齋藤哲也、中川敬也、白崎幸枝、吉龍正雄、西 宏之：HIV陽性患者に対する低侵襲心臓手術の経験。第77回日本胸部外科学会定期学術集会、金沢、2024年11月1日-4日

西 宏之、齋藤哲也、中川敬也、伊波孝路：感染性心内膜炎に対する大動脈弁置換

術、大動脈右房瘻閉鎖術後の心室中隔穿孔症例における右小開胸 MICS アプローチ下修復術。第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、下関、2025 年 2 月 20 日-22 日

西 宏之、齋藤哲也、中川敬也、伊波孝路：右小開胸下僧帽弁形成術における簡便な人工腱索の至適長決定法の妥当性～遠隔期成績および正中切開との比較～。第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、下関、2025 年 2 月 20 日-22 日

齋藤哲也、中川敬也、伊波孝路、西 宏之：開心術の既往のある僧帽弁手術における MICS 右小開胸アプローチの有用性。第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、下関、2025 年 2 月 20 日-22 日

吉龍正雄、中村さやか、桐山有紀、川本寿代、齋藤哲也、中川敬也、伊波孝路、西 宏之：急性大動脈解離後の重症酸素化障害に対して一酸化窒素吸入療法が著効した一例。第 52 回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025 年 3 月 14 日-16 日

B-6

白崎幸枝、北原睦識、吉龍正雄、西 宏之：大動脈弁狭窄症と心室中隔欠損の同時手術において右小開胸 MICS アプローチが有用であった 1 例。第 67 回関西胸部外科学会学術集会、大阪、2024 年 6 月 13 日-14 日

松元千拓、齋藤哲也、中川敬也、伊波孝路：脳梗塞を合併した偽腔閉塞型逆行性 A 型急性大動脈解離に対し大動脈内視鏡を用いたステントグラフト内挿術が有効であった 1 例。第 38 回日本血管外科学会近畿地方会、和歌山、2025 年 3 月 15 日

皮膚科

小澤健太郎

当科では、国立病院機構が担うべき医療のなかでも皮膚がんを含めた皮膚腫瘍に重点を置いており、その他にも難治性炎症性皮膚疾患や下肢静脈瘤など幅広い領域の皮膚疾患の診断と治療に取り組んでいます。

皮膚腫瘍に関しては良性、悪性を問わずに診療しています。当院は皮膚がんに対する手術療法ならびに化学療法、放射線療法などの集学的な治療を行うことが可能な施設であり、複数の日本皮膚科学会認定皮膚科専門医をはじめ優れたスタッフと恵まれた医療設備のもと、正確な診断と十分な説明、事実に基づいた治療を実践し、皮膚がん患者の社会的な生活の質を第一とした診療を行っています。皮膚良性腫瘍に対しては主に手術療法を行います。適応があれば凍結療法など侵襲性の低い治療を積極的に行っています。皮膚腫瘍の診断は容易ではないものも多いため、ダーモスコピーによる非侵襲的検査や皮膚生検を積極的に行い、臨床検査科病理部門との合同カンファレンスを行うことで診断精度を高めています。

また、金属アレルギーや接触皮膚炎、薬疹、自己免疫性水疱症などのアレルギー性疾患、帯状疱疹や蜂窩織炎、壊死性筋膜炎などの皮膚感染症、皮膚潰瘍など専門性の高い疾患の診療にも対応し、重症アトピー性皮膚炎や治療抵抗性蕁麻疹に対する生物学的製剤の導入など難治性皮膚疾患に関しても、地域の医療施設や近隣の総合病院から患者を積極的に受け入れています。

尚、従来当科で行ってきた下肢静脈瘤の診療は10月から形成外科に移管しましたが、引き続き当科も診療を支援しています。

臨床研究としては悪性黒色腫や化膿性汗腺炎に関する臨床試験やメルケル細胞癌、皮膚リンパ腫の疫学調査についての多施設共同研究に参加しています。

教育面では当院は大学病院以外では数少ない日本皮膚科学会認定専門医主研修施設で、新専門医制度においても研修基幹施設に認定されており、多様な皮膚疾患の診療を経験できる体制を整えて、皮膚科専門医育成のための医師教育にも取り組んでいます。

【2024年度 研究発表業績】

A-3

藤本 萌、坂井浩志：UV-A 光を用いた高倍率皮膚鏡検査による疥癬の糞便の観察「臨床皮膚科」78(5)：P.81-85、医学書院、2024年4月

藤本 萌、益田知可子、小林佑佳、原田 潤、藤森なぎさ、小澤健太郎：左示指後爪郭に生じた色素性ボーエン病の1例「皮膚の科学」23(2)：P.115-119、日本皮膚科学会大阪地方会・京滋地方会、2024年6月

吉村亜紀、富尾颯生、藤本 萌、藤本 雷、藤森なぎさ、後藤啓介、小澤健太郎：BRAF/MEK 阻害剤投与後に多発した pyogenic granuloma の1例「皮膚の科学」23(3)：P.177-182、日本皮膚科学会大阪地方会・京滋地方会、2024年9月

吉村亜紀、冨尾颯生、藤本 萌、藤森なぎさ、小澤健太郎、猿喰浩子：ニボルマブが奏功し、中止後も部分奏功を維持している Stage IV 悪性黒色腫の 1 例「Skin Cancer」39(2):P.145-151、日本皮膚悪性腫瘍学会、2024 年 10 月

B-4

吉村亜紀、冨尾颯生、藤本 萌、藤森なぎさ、小澤健太郎、猿喰浩子：ニボルマブが奏功し、中止後も PR を維持している Stage IV 悪性黒色腫の 1 例。第 40 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、宮崎、2024 年 5 月 10 日

藤本 萌、冨尾颯生、吉村亜紀、藤森なぎさ、小澤健太郎：多彩な免疫再構築症候群を伴ったアパルタミドによる中毒性表皮壊死症の 1 例。第 123 回日本皮膚科学会総会、京都、2024 年 6 月 6-9 日

B-6

藤本 萌、冨尾颯生、吉村亜紀、藤森なぎさ、小澤健太郎、後藤啓介：右こめかみに生じた Granular cell basal cell carcinoma の 1 例。第 117 回近畿皮膚科集談会、京都、2024 年 7 月 21 日

冨尾颯生、藤本 萌、吉村亜紀、爲政萌子、小澤健太郎：トラニラストが有効であった肉芽腫性眼瞼炎の 1 例。第 505 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2024 年 10 月 5 日

吉村亜希、冨尾颯生、藤本 萌、爲政萌子、小澤健太郎、峯 麻子、橋本 隆：紅皮症化した落葉状天疱瘡と水疱性類天疱瘡の合併例。第 75 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、名古屋、2024 年 10 月 12 日

藤本 萌、冨尾颯生、吉村亜紀、爲政萌子、小澤健太郎、倉知貴志郎：左中指に発生した乳児指趾線維腫症の 1 例。第 508 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2025 年 3 月 2 日

B-8

小澤健太郎：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2024 年 4 月 18 日

爲政萌子：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚 Joint Meeting、大阪、2024 年 12 月 5 日

泌尿器科

西村健作

泌尿器科では悪性腫瘍・尿路結石症や前立腺肥大症など良性疾患までによる多岐にわたる疾患に対する診療を行っています。

2021 年 1 月ダヴィンチ Xi システムを導入し、前立腺癌に対するロボット支援下前立腺全摘除術や腎癌に対するロボット支援下腎部分切除術を標準治療として開始しています。その後副腎腫瘍・腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌などにも適応拡大となり、2022 年から腎摘除術、腎盂形成術、2023 年から膀胱全摘除術、2024 年から腎尿管全摘除術もロボット支援下手術を行っています。従来行ってきた 3D モニターを用いた腹腔鏡手術も継続し、泌尿器科疾患の低侵襲手術を全て行う体制となっています。今後は症例を集積し、より高い水準の治療成績を目指しています。

また良性疾患において尿路結石症ではレーザーを用いた経尿道的腎尿管碎石術（f-TUL）や経皮的腎碎石術を併用した ECIRS を積極的に行っています。前立腺肥大症では出血を最小限とした経尿道的前立腺核出術（TUEB）に加え、2023 年から低侵襲手術の経尿道的前立腺吊り上げ術（ウロリフト）・前立腺水蒸気治療（WAVE）を導入しています。

密接に地域連携を行いながら、正確な診断と高い水準の治療を提供できることを基本方針としています。これらの診療内容や治療成績を学会や地域連携フォーラムなどで発表を行い、臨床研究や治験など悪性腫瘍を中心に積極的に取り組んでいます。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Yoshimura A, Kato T, Nakai Y, Tsujihata M, Toyoda S, Sato M, Matsuzaki K, Nakata W, Takao T, Inoguchi S, Okuda Y, Yamamichi G, Ishizuya Y, Yamamoto Y, Hatano K, Kawashima A, Takada S, Inoue H, Nishimura K, Miyake O, Fujita K, Nakayama M, Nishimura K, Nonomura N. Clinical outcomes of first-line combination therapy with immune checkpoint inhibitor for metastatic non-clear cell renal cell carcinoma: a multi-institutional retrospective study in Japan. 「Int J Clin Oncol」29(12): 1916-1924. 2024 年 11 月

Nagahara A, Uemura M, Sato M, Nakata W, Tsujihata M, Takao T, Matsumura S, Nishimura K, Takada S, Iwanishi T, Kobayashi Y, Ishizuya Y, Takada T, Okada K, Inoue H, Kato D, Kawashima A, Ujike T, Fujita K, Nonomura N. Determination of enzalutamide long-term safety and efficacy for castration-resistant prostate cancer patients after combined anti-androgen blockade followed by alternative anti-androgen therapy: a multicenter prospective DELC study. 「Int J Urol」 54(5) : 584-591、2024 年 5 月

A-3

西村裕貴、隠岐雄太、野々村大地、松崎恭介、西村健作：膀胱全摘除術後 11 年に発症した二次性乳房外 Paget 病の 1 例「泌尿器科紀要」70 : P335-341、2024 年 12 月

B-4

隠岐雄太、村本泰治、野々村大地、松崎恭介、西村健作：当院における転移性腎細胞癌に対す

るレンバチニブ・ペンブロリズマブ併用療法の治療成績の検討。(Evaluation of therapeutic outcomes of Lenvatinib and Pembrolizumab combination therapy for metastatic renal cell carcinoma at our institution.) 第 111 回日本泌尿器科学会総会、横浜、2024 年 4 月 25 日

村本泰治、隠岐雄太、野々村大地、松崎恭介、西村健作：ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を施行した異所性腎に発生した腎細胞癌の 1 例。第 257 回日本泌尿器科学会関西地方会、京都、2024 年 10 月 5 日

假屋真帆、松岡伊緒里、荒木真美、高柿奈緒子、北山典子、大西淳子、岡崎将人、村本泰治、隠岐雄太、野々村大地、松崎恭介、西村健作：多発外傷後の若年の患者に対して包括的排尿ケアを行い排尿自立に至った 1 例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

隠岐雄太、村本泰治、野々村大地、松崎恭介、西村健作：経尿道的前立腺吊り上げ術の初期経験。第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会、千葉、2024 年 11 月 29 日

産科・婦人科

巽 啓司

産科では正常分娩はもとより母体疾患を中心に合併症妊娠も積極的に受け入れています。近年ハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっており、当院でもこの傾向は顕著ですが、院内各診療科と緊密に連携して管理し、できるだけ自然な分娩を目指しています。NICUの併設がないため早産や胎児疾患には対応できませんが、最新の知識や技術を駆使して一人一人の妊婦に応じた個別で適切なリスク管理を行うことが当科の基本目標であります。またAIDS診療拠点病院としてHIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいます。

婦人科は大阪における子宮癌治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設です。手術療法、化学療法、放射線治療等の高度ながん治療が診療の中心で最新の治療を実施しているほか、子宮筋腫や卵巣嚢腫等の良性疾患も多数取り扱っており、可能な限り婦人科救急にも対応しています。腹腔鏡や子宮鏡下手術を積極的に取り入れ、術後後遺症の最少化、生殖機能や妊孕性温存を考慮しながら、年齢や生活環境なども含めた個々の症例に応じた適切な治療法を提案し実施しています。腹腔鏡下手術では良性腫瘍だけでなく悪性腫瘍手術の認定施設であり、ロボット補助下手術も良性腫瘍から悪性腫瘍にも適応を拡大してその実施数は年々増加しています。またがん遺伝子パネル検査の実施施設であり、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の未発症者に対するリスク低減卵巣卵管摘出手術（RRSO）も実施しています。また当院は大阪府の産婦人科診療相互援助システム（OGCS）加盟施設として、産婦人科救急の積極的な受け入れを行なっています。

新専門医制度において、京都大学、近畿大学と連携した産婦人科専門医指導施設です。また日本婦人科腫瘍学会、日本周産期新生児医学会、日本女性医学会等のサブスペシャリティ専門医研修施設として、若手医師の指導・育成を行っており、全国の医療施設で中心となって活躍している多数の専門医を輩出してきました。

臨床研究として、日本産科婦人科学会の指定施設として周産期登録、婦人科腫瘍登録を行うとともに、婦人科内視鏡手術登録やNCDのロボット手術登録、国立病院機構共同臨床研究NHOネットワーク共同研究、そのほか婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)と連携した各種臨床試験にも積極的に参加し、わが国における周産期、婦人科腫瘍診療の発展に貢献しています。また今年度子宮筋腫の治療に関する新規治験を開始し新たな治療法の創出に貢献しています。さらに京都大学婦人科学産科学教室及び関係病院と連携した多施設協働の臨床研究（KAMOGAWA study）に参加・協力しており、多数症例の解析から得られた新たな知見の成果は順次公表されています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Fukuda M, Yamanoi K, Hayashi N, Kotani Y, Yamano K, Matsumoto H, Ashihara T, Abiko K, Yamanishi Y, Iemura Y, Taki M, Murakami R, Horie A, Yamaguchi K, Hamanishi J, Mandai M : Real-world

application of comprehensive genomic profiling for gynecological malignancies: a multicenter observational study 「Int J Clin Oncol」 29(12) : P 1967-1976, 2024 年 9 月 25 日

A-3

小椋恵利、松本久宣、藤上友輔、赤木佳奈、伴建二、飛梅孝子、巽 啓司 : 当院における免疫チェックポイント阻害剤の使用経験「産婦人科の進歩」 76(4) : P 367-372、2024 年 7 月 10 日

B-3

寺井悠朔、飛梅孝子、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 建二、松本久宣、巽 啓司 : 当院での異所性妊娠診断における MRI 検査の有用性の検討。第 64 回産科婦人科内視鏡学会、東京、2024 年 9 月 12 日～9 月 14 日

保田知生、大西 衛、中井建太郎、朴 勝彦、飛梅孝子、小池真琴音、角田 守、木村 正、河村 愛、川村 匡、吉岡大輔、宮川 繁 : がん関連血栓症における血栓症治療難渋例における、ワルファリンとヘパリン（未分画及び店分子ヘパリン）の併用療法について。第 46 回日本血栓止血学会学術集会、金沢、2024 年 6 月 13 日～6 月 15 日

松山裕美、松本久宣、赤澤 香、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 建二、飛梅孝子、巽 啓司、金村米博、八十島宏行 : Challenges Insighted from Risk-Reducing salpingo-oophorectomy (RRSO) in Women with HBOC。日本人類遺伝学会第 69 回大会、札幌、2024 年 10 月 9 日～10 月 12 日

飛梅孝子 : 働き方改革から医療者の生活の質・仕事満足度・提供医療の質の向上を目指して。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 17 日～10 月 21 日

B-5

松本久宣、小川風吹、俊成 明、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 建二、飛梅孝子、巽 啓司 : 当院における子宮体癌内視鏡手術の現状。第 151 回近畿産科婦人科学会学術集会、大阪、2024 年 10 月 27 日

小川風吹、伴 建二、俊成 明、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、松本久宣、飛梅孝子、巽 啓司 : 当科における帝王切開時の膀胱子宮窩腹膜縫合群と無縫合群の比較検討。第 151 回近畿産科婦人科学会学術集会、大阪、2024 年 10 月 27 日

中井智規、森山拓也、和田山智哉、小川拓也、清水大輝、木村陽子、江左佳樹、白旗恵美、伴建二、岡崎周平 : 病名告知直後に発語困難となり心因性と誤診された脳動脈解離による脳梗塞の一例。日本内科学会第 246 回近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 14 日

伴 建二、巽 啓司 : 予想外の脳疾患を併発した婦人科腫瘍の 2 例。第 39 回大阪温知会総会、大阪、2025 年 2 月 15 日

眼科

大鳥 安正

大阪の中心に位置していることから、近畿圏における主要な基幹病院として病診連携・病病連携の重要性を認識し、紹介元と緊密に連絡を取るようにより、特に緑内障・網膜硝子体疾患においては多くの難治性疾患を受け入れ、最終病院として機能しています。各医員は白内障以外に専門分野を標榜しており、情報収集も怠らず、最新で質の高い医療を提供することを心がけています。また、厚生労働省の政策医療感覚器ネットワーク機関としても全国の多施設共同研究に参加しています。

2024 年 4 月から 2025 年 3 月の眼科における総手術件数は総計 2,317 件でした。**白内障**：白内障手術件数は最も多く、2024 年度の白内障関連手術件数は 1,473 件でした。入院は両眼 3～4 泊 4～5 日、片眼 1 泊 2 日、日帰りなどから選択可能です。白内障手術の待ち期間は平均 1 か月程度です。**緑内障**：原発開放隅角緑内障は薬物療法で眼圧下降が十分でない場合には外科的治療（2024 年度の緑内障手術件数は 451 件）を行っています。低侵襲緑内障手術（Minimally Invasive Glaucoma Surgery, MIGS）も採用しております。また、従来型の濾過手術に加えて、プリザーフロマイクロシャントというデバイスを用いた濾過手術も採用しています。**網膜・硝子体手術**：増殖糖尿病網膜症、増殖硝子体網膜症、網膜剥離、黄斑部手術などを中心に積極的に行っています。2024 年度には硝子体手術 361 件が行われ、網膜剥離症例では症例に応じて初診当日入院・当日手術も行っています。硝子体手術は 25 ゲージシステムによる低侵襲硝子体手術を実施し良好な成績を得ています。手術加療だけでなく、加齢黄斑変性、網膜静脈分枝閉塞症や糖尿病黄斑浮腫などに対する抗 Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) 抗体の硝子体内注射も積極的に行っています。**その他（眼形成・翼状片など）**：翼状片手術、眼瞼内反症手術など 32 件の手術が行われました。眼部悪性腫瘍は当院の形成外科と連携しております。当院は HIV/AIDS 先端医療開発センターであるため、免疫・感染症内科との連携によりサイトメガロウイルス網膜炎などの HIV 眼合併症の治療も多数行っています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-1

大鳥安正、後藤浩、飯田知弘、雑賀司珠也、門之園一明、石川均、根岸一乃：濾過手術後から続く低眼圧，浅前房，脈絡膜剥離の対処法、「眼科外来診療、クリニックでの対応とタイミング」福地健郎編集、P.1232-1237、金原出版株式会社、2024 年 11 月 24 日

大鳥安正：Glaucoma Q & A、外来での隅角の見方を教えてください。「Frontiers in Glaucoma」 67：P51-58、メディカルレビュー社、2024 年 11 月 20 日 -

A-3

西垣誠士、松本麻衣、杉本一輝、部坂優子、雲井美帆、三浦聡子、辻野知栄子、松田理、大鳥安正：ヒト免疫不全ウイルス（HIV）陽性患者で眼部帯状疱疹に視神経炎と虚血性視神経症を合併した 1 例「眼科臨床紀要」17（7）：P.554-558、2024 年 7 月 15 日

佐藤大樹、西垣誠士、部坂優子、松岡孝典、雲井美帆、辻野知栄子、松田理、大鳥安正：若年発症の片眼性急性閉塞隅角緑内障の 1 例「眼科臨床紀要」17（11）：P.801-806、2024 年 11 月 15 日

松岡孝典、佐藤大樹、大鳥安正：眼内レンズ挿入眼の悪性緑内障に irido-zonulo-hyaloid vitrectomy を施行した 2 例「日本眼科学会雑誌」128 巻（12）P.979-984、2024 年 12 月 10 日

B-3

雲井美帆：多機能コンタクトレンズ、トリガーフィッシュ眼圧測定計、コンタクトレンズの進化：こんなことまで出来ます。第 78 回日本臨床眼科学会、京都、2024 年 11 月 16 日

大鳥安正：PACD の診断：PACD の概念と治療法。第 35 回日本緑内障学会、兵庫、2024 年 9 月 20 日

B-4

松本麻衣、杉本一輝、部坂優子、雲井美帆、三浦聡子、辻野知栄子、松田理、大鳥安正：白内障手術 10 年後に両眼で後囊の自然破損による眼内レンズ落下が生じた症例。第 39 回 JSCRS 学術総会、福岡、2024 年 6 月 30 日

松本麻衣、執行明希子、高田悠里、杉本一輝、雲井美帆、三浦聡子、辻野知栄子、松田理、大鳥安正：プリザーフロマイクロシャント挿入術後に悪性緑内障を来した 1 例。第 35 回日本緑内障学会、兵庫、2024 年 9 月 21 日

雲井美帆、松本麻衣、執行明希子、高田悠里、杉本一輝、三浦聡子、辻野知栄子、松田理、大鳥安正：シリコンオイルによる Toxic posterior segment syndrome の 1 例。第 63 回日本網膜硝子体学会、大阪、2024 年 12 月 6 日～8 日

B-6

松本麻衣、杉本一、部坂優、雲井美帆、三浦聡、辻野知栄、松田理、大鳥安正：プリザーフロマイクロシャント挿入術後に高度な浅前房を来した 1 例。第 64 回 PACGs、大阪、2024 年 5 月 14 日

松本麻衣、杉本一輝、部坂優子、雲井美帆、三浦聡子、辻野知栄子、松田理、大鳥安正：白内障手術 10 年後に両眼で後囊の自然破損による眼内レンズ落下が生じた 1 例。第 15 回拡大医局会、大阪、2024 年 7 月 10 日

松田 理：日常診療に役立つ OCT の見方。HOC Exhibition 2024、Web 開催、大阪、2024 年 11 月 21 日

高田悠里：新しいマイクロシャント挿入術の当院での短期成績。HOC Exhibition 2024、Web 開催、大阪、2024 年 11 月 21 日

高田悠里、辻野知栄子、松本麻衣、執行明希子、杉本一輝、雲井美帆、三浦聡子、松田 理、大鳥安正：特発性強膜静脈圧上昇に伴う続発緑内障に対しプリザーフロマイクロシャント挿入術を施行した 1 症例。第 256 回 O.C.C.、大阪、2025 年 3 月 8 日

大鳥安正：原発閉塞隅角病の診断と治療。第 256 回 O.C.C.、大阪、2025 年 3 月 8 日

B-8

大鳥安正：血管新生緑内障とその治療について。第 22 回眼科診療アップデートセミナー2024 in Kyoto、京都、2024 年 3 月 3 日
2024 年 6 月 8 日

大鳥安正：症例から学ぶ！最適な？緑内障手術の選択。第 5 回 Otsuka Web seminar、大阪、2024 年 6 月 11 日

三浦聡子：ヒトヘルペス属感染症と続発緑内障。堺緑内障フォーラム～さくら～、大阪、

松田 理：ゆがむ～黄斑の病気～、目の不調、あなたの目は大丈夫？第 73 回おおさか健康セミナー、大阪 2024 年 7 月 20 日

辻野知栄子：目のかすみ～白内障～、目の不調、あなたの目は大丈夫？第 73 回おおさか健康セミナー、大阪 2024 年 7 月 20 日

大鳥安正：視野が欠ける～緑内障～、目の不調、あなたの目は大丈夫？第 73 回おおさか健康セミナー、大阪 2024 年 7 月 20 日

大鳥安正：緑内障で視機能維持するための病診連携。兵庫県西部地区眼科医会講演会、兵庫、2024 年 8 月 3 日

大鳥安正：症例から学ぶ！緑内障手術の選択とタイミング。Kowa Web カンファレンス、大阪、2024 年 9 月 5 日

大鳥安正、金森章泰、植木麻理、狩野廉、森和彦：緑内障での OCT 読影。第 78 回日本臨床眼科学会、オンデマンド配信、京都、2025 年 11 月 14 日～17 日

大鳥安正：インストラクションコース 14-1、術後合併症、術後早期の眼圧上昇、関西・中四国緑内障道場へマイクロシャントのあれこれ。第 48 回日本眼科手術学会、横浜、2025 年 2 月 1 日

大鳥安正：濾過手術のトラブルシューティング。第 27 回緑内障手術研究会、大阪、2025 年 2 月 7 日

大鳥安正：視野障害進行の速い緑内障の見極め方。Retina Glaucoma Club 2025、大阪、2025 年 3 月 8 日

大鳥安正：緑内障の視機能維持における紹介のタイミング。紀南病院病診連携セミナー、和歌山、2025 年 3 月 22 日

B-9

大鳥安正：白内障手術で発作抑える。医療ルネサンス、No8269、読売東京、2024 年 5 月 28 日

耳鼻咽喉科

西村 洋

2015 年 4 月 1 日より、前任科長の堀井の新潟大学教授就任に伴い、交代で私（西村）が大阪府立母子保健総合医療センターより着任しました。

私の専門分野は中内耳手術や難聴などの耳科学で、博士課程（大阪大学大学院耳鼻咽喉科）での研究内容は人工内耳装用者の聴覚の中枢機構を脳血流 PET を用いて解明することでした。この研究の内容は英文科学雑誌 *Nature* に発表させていただきました。

基本的に耳科を中心とした日常診療を行っており、基礎的な研究をおこなうところではございませんが、患者さんの診療の役に立つような研究をやっていきます。例えば、遺伝子と関係する難聴患者さんの原因遺伝子を検査する上で、東京医療センターの松永先生と共同研究し、保険診療で精査できる範囲を超えた遺伝子を検査してもらっています。また難聴の診療におきましては、患者さんは耳鼻咽喉科を受診して聴力検査を行う必要があるのですが、それを自分のスマホで可能にするようなシステムの開発を東京医療センターの南先生が行っているのですがそれに協力しております。また高齢化社会において大きな問題となっている認知症の最も大きなリスクファクターとして難聴が挙げられることがイギリスの研究グループによって *LANCET* に報告されました。これをうけて、難聴患者の認知症の進行をなるべく抑えるべく、補聴器を貸し出して認知症の予防に役立てていただけるような研究を東京医療センターの神崎先生が計画しており、これに参画しております。このように診療において直接役に立つような研究に参加し、患者さんのために役立てていくようにしております。

2025 年 1 月より大阪大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科の准教授であった太田有美 Dr が来てくれました。太田先生は難聴・中耳炎・人工内耳治療を専門にしており、その分野をさらに強化していきます。

【2024 年度 研究発表業績】

A-4

太田有美：研修ノート 耳科手術習得のための論理的思考「耳鼻咽喉科臨床」118(3)：p.244-245, 2025 年 3 月 1 日

B-5

赤間俊之：耳鼻咽喉科医・チェリストとして何を思うか。第 69 回日本音声言語医学会総会・学術講演会、東京、2024 年 10 月 17 日

B-6

西村 洋、米井辰一、寺田理沙、赤間俊之：他覚的耳鳴の 3 例。第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会、大阪、2024 年 5 月 17 日

赤間俊之、寺田理沙、米井辰一、西村 洋：片側性滲出性中耳炎を契機に診断された側頭骨炎症性偽腫瘍の2例。第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会、大阪、2024年5月17日

放射線診断科・放射線治療科

東 将浩・田中英一

放射線診断科では全ての領域の臨床画像診断と、緊急止血や CT ガイド下ドレナージ・生検および肝細胞癌の肝動脈化学塞栓療法（TACE）などを行う IVR(Interventional Radiology)の 2 つの部門があり、これらの研究をおこなっている。

当院は 5 台の CT（64 列 CT 3 台。IVR-CT 1 台、治療計画用 CT 1 台）、2 台の MRI（3 テスラ 1 台、1.5 テスラ 1 台）、3 台の血管撮影装置を有し、主にこれらを用いた基礎研究、臨床研究を行っている。2024 年度は常勤医師 5 名、非常勤医師 2 名、および診療放射線技師 37 名が連携して研究をおこなった。医師はそれぞれの得意な診断領域を有していること、技師は得意なモダリティを有していることが特徴である。

単純撮影においてはグリッドやフィルタの特性を評価した。

CT 領域では主に dual energy を撮影できる 64 列 CT を用いた研究を行った。dual energy 撮影では再構成画像が増えることにより、再構成やその後の処理にかかる時間が増加する。限られた時間での効率的な運用方法の模索を行っている。

MRI では、新しい撮影法である RESOLVE（REadout Segmentation Of Long Variable Echo trains）の画像特性を調査した。

血管撮影では、脳血管撮影における画像支援を報告した。放射線診断科で実施している IVR については全国調査に参加している。

疾患別の研究として、中性脂肪蓄積心血管症（triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV）の診断法の確立、糖尿病患者の心筋への脂肪沈着について、大阪大学と共同研究を行っている。また、大阪大学と共同で、AI を用いた画像解析の研究、感染症内科、近畿大学と共同で高齢 HIV 陽性者の認知機能研究を行っている。

放射線治療科では外部放射線治療装置（リニアック）を1台、高線量率小線源治療装置（remote after loading system : RALS）を1台保有しており、これらを用いた臨床研究をおこなっている。

特に、小線源治療の研究に関しては、国内のみならず世界をリードできるよう積極的に学会報告や論文発表をおこなっている。近年、画像誘導小線源治療（image-guided brachytherapy）の子宮頸がんへの臨床応用の研究をすすめている。臨床では、腔内照射、組織内照射併用腔内照射（ハイブリッド照射、当院ではミニ組織内照射と呼ぶ）、組織内照射（アプリケータ刺入に手術室を使用）を腫瘍の大きさや広がりに応じて使い分けている。2024年度は、常勤医師1名、専攻医1名、非常勤医師3名、研究医員（歯科医師）1名で研究をおこなった。小線源治療の対象疾患としては、新鮮子宮頸癌、再発婦人科腫瘍、口腔癌などである。

2024年度に新規の研究としては2つの研究をおこなった。1つは課題名「Real-time Virtual Sonography を用いた画像同期組織内照射についての検討」である。MRIと超音波画像を融合した画像を用いた組織内照射を子宮頸がんに対しておこなっておりそのデータを後方視的に解析し、学会発表をおこなった。もう一つは課題名「乳癌における乳房温存術後の組織内照射の治療成績の遡及的研究」である。乳房温存術後の組織内照射症例について約20年経過観察の長期データを学会発表した。

また、課題名「局所限局可動部舌癌に対する高線量率組織内照射単独療法（54Gy/9回, 1日2回照射）の妥当性に関する急性期粘膜反応の観点からの研究」については英文論文発表した。

外部照射は、実臨床では強度変調放射線治療（IMRT）、定位放射線治療（SRS, SRT）などの高精度放射線治療の適応拡大をすすめており、前立腺癌、転移性脳腫瘍、脊椎転移、頭頸部癌術後照射、婦人科腫瘍、オリゴ転移などが対象である。

2022年9月に稼働した新リニアックシステムは、治療が軌道に乗っている。小線源治療のみならず、外部照射でも、医師・診療放射線技師・医学物理士で臨床研究・物理研究をおこなっていく予定である。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Hata A, Yanagawa M, Miyata T, Hiraoka Y, Shirae M, Ninomiya K, Doi S, Yamagata K, Yoshida Y, Kikuchi N, Ogawa R, Hatabu H, Tomiyama N. Association between interstitial lung abnormality and mortality in patients with esophageal cancer. 「Jpn J Radiol.」 42(8) : 841-851. 2024年4月25日

Hirano K, Nakano Y, Miyauchi H, Ikeda Y, Higashi M, Mori T, Nakano T, Fujimoto S, Yamada T, Sugimura K, Kobayashi K, Amano T. Triglyceride Deposit

Cardiomyovasculopathy Manifesting Coronary Artery Disease. 「Journal of Coronary Artery Disease」 30 : 85- 91、 2024 年 9 月 25 日

Akiyama H, Yoshida K, Kotsuma T, Masui K, Takenaka T, Kano M, Isohashi F, Seo Y, Shimbo T, Murakami N, Mori Y, Kotaki S, Yoshimoto H, Tanaka E, Tselis N, Takácsi-Nagy Z, Yamazaki H, Nakamura S, Tanigawa N, Shimizutani K, Ogawa K, Ariji Y. Validity of High-Dose-Rate Interstitial Brachytherapy as Monotherapy for Mobile Tongue Cancer in Terms of the Acute Mucosal Reaction. 「Kurume Medical Journal」 71、2024 年 11 月 27 日

Sato J, Sugimoto K, Suzuki Y, Wataya T, Kita K, Nishigaki D, Tomiyama M, Hiraoka Y, Hori M, Takeda T, Kido S, Tomiyama N. Annotation-free multi-organ anomaly detection in abdominal CT using free-text radiology reports: a multi-center retrospective study. 「eBioMedicine」 110 : 105463、2024 年 11 月 28 日

B-3

東野谷光弘 : myQA SRS を用いた HyperArc 検証の初期経験、企業共催セミナー特別講演。第 1 回日本放射線医療技術学術大会、沖縄、2024 年 11 月 3 日

田中 裕、吉田 謙、田中英一、山崎秀哉、古妻理之、高岡祐史 : マルチカテゴリーによる加速乳房部分照射 (APBI) の自験例の遡及的解析及び問題点の改善。日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会、横浜、2024 年 11 月 22 日

B-4

吉田佳弘、吉田武尊 : 新規に作成した急変時記録用紙における有効性の検証。第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2024 年 7 月 19 日

吉田武尊、吉田佳弘 : 当院における患者移乗に対する定性調査。第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2024 年 7 月 19 日

菅原詩織、熊給 淳、西野敏博 : RESOLVE 使用時におけるオフセンターでの各種パラメータの画像への影響。第 52 回日本磁気共鳴医学会大会、2024 年 9 月 22 日

伴 春奈、東野谷光弘、辻本 豊、谷端英典 : ExacTrac Dynamic を用いた左乳房に対する深吸気息止め照射の初期経験。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

進藤雅之、東野谷光弘、辻本 豊 : 個別最適化画像を用いた超高精度放射線治療に関する研究。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

名取晃大、藤田祐三、小林正佳、西野敏博 : 中間物質が異なる散乱線除去グリッドにおいて管電圧の違いが画質に及ぼす影響。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

高岡祐史、吉田謙、秋山広徳、田中 裕、古妻理之、田中英一、東野谷光弘：安価な材料を使用した骨盤領域組織内刺入訓練用ファントムの作成。日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会、横浜、2024 年 11 月 23 日

B-5

土井祥平：当院における脳血管内治療画像支援。第 406 回 循環器画像技術研究会 Web、2024 年 6 月 15 日

伴 春奈、東野谷光弘、辻本 豊、谷端英典：ExacTrac Dynamic を用いた左乳房に対する深吸気息止め照射の初期経験。Brainlab Webinar (Web)、2024 年 8 月 31 日

藤田祐三、名取晃大、藤田裕斗、小林正佳、西野敏博：腹部単純 X 線撮影における銅付加フィルタ使用による線量低減に関する検討。第 78 回国立病院総合医学会 2024 年 10 月 19 日

B-6

高岡祐史、中井将貴、古妻理之、吉田謙、田中英一、東野谷光弘、辻本 豊、伴 春奈：Real-time Virtual Sonography を用いた画像同期組織内照射アプリケーションの初期経験。小線源治療部会第 26 回学術大会、高崎、2024 年 5 月 25 日

藤田祐三、名取晃大、藤田裕斗、小林正佳、西野敏博：腹部単純 X 線撮影における銅付加フィルタ使用による線量低減に関する検討。第 32 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、2024 年 10 月 5 日

名取晃大、藤田祐三、小林正佳、西野敏博：中間物質が異なる散乱線除去グリッドにおいて管電圧の違いが画質に及ぼす影響。第 32 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、2024 年 10 月 5 日

伴 春奈、東野谷光弘、辻本 豊、谷端英典、水野雄貴、上川紗菜、進藤雅之、名取晃大、西野敏博、田中英一、田中裕：ExacTrac dynamic を用いた左乳房に対する深吸気息止め照射の初期経験。第 32 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、2024 年 10 月 5 日

菅原詩織、熊給 淳、西野敏博：RESOLVE における各種パラメータに対する isocenter からの距離の関係。第 32 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、2024 年 10 月 5 日

吉田武尊、吉田佳弘、岩崎基樹、西野敏博：Dual Energy CT 使用時における肺野画像の運用について。第 32 回国立病院近畿放射線技師会学術大会、2024 年 10 月 5 日

B-8

土井祥平：放射線業務に必要な医療情報システムとセキュリティ。国立病院機構近畿グループ令和6年度新採用職員（コ・メディカル等・事務）研修、近畿グループ事務所、2024年4月19日

北川智彦：感染標準予防策（スタンダードプリコーション）。国立病院機構近畿グループ令和6年度新採用職員（コ・メディカル等・事務）研修、近畿グループ事務所、2024年4月19日

山田賢磨：読影入門。国立病院機構近畿グループ令和6年度新採用職員（コ・メディカル等・事務）研修、近畿グループ事務所、2024年4月19日

東野谷光弘：「放射線安全管理」。国立病院機構 近畿グループ放射線治療研修、近畿グループ事務所、2024年6月28日

辻本 豊：「放射線治療事故における事故防止対策」。国立病院機構 近畿グループ放射線治療研修、近畿グループ事務所、2024年6月28日

辻本 豊：「大阪医療センターの治療装置の紹介」。国立病院機構 近畿グループ放射線治療研修、近畿グループ事務所、2024年6月28日

山田麻由：造影剤と医療安全。近畿グループ研修 令和6年度CT検査実習技能研修、全体研修プログラム、大阪医療センター、2024年9月13日

満元あゆみ：パワーテキスト(part1)～高速撮像法～。国立病院機構 近畿グループ2024年度 MRI研修プログラム大阪医療センター、2024年11月15日

熊給 淳：パワーテキスト(part2)～コントラスト変化～。国立病院機構 近畿グループ2024年度 MRI研修プログラム、大阪医療センター、2024年11月15日

北川智彦：「放射線の基礎知識」「放射線測定実習」「医療機関の対応」。令和6年度鹿児島県 原子力災害医療に関する研修（被ばく傷病者受入れ研修）、出水医療センター、2025年1月11日

北川智彦：災害医療の基礎知識。大阪府診療放射線技師会中央ブロック学術研修会、大阪府男女共同参加・青少年センター、2025年2月15日

口腔外科

吉本 仁

当科では口腔、顎、顔面領域に生じる疾患を治療対象としています。すなわち 1) 歯および歯周組織疾患 2) 口腔粘膜疾患 3) 顎骨疾患 4) 唾液腺疾患 5) 顎関節疾患 6) 神経疾患 7) 血液疾患（診断と口腔粘膜出血の処置）8) リンパ系疾患などの口腔外科疾患を扱っています。特に悪性腫瘍の治療においては頭頸部カンファレンスと病理カンファレンスを行い、関連科の協力を得て集学的な治療を積極的に行っています。一方総合病院の口腔外科として、一般開業歯科医院では治療困難な全身管理（全身麻酔下治療および周術期管理を含む）を要する患者の歯科治療や、入院患者の口腔管理も行っています。なかでも口腔環境は、放射線治療、化学療法、骨髄移植、全身麻酔の術前（上部消化管疾患、肺がん等）、人工呼吸器装着および各種感染症などの患者における治療の遂行および入院期間に影響を与える大きな要因として認識され、十分な対応が求められています。

教育面では当科は歯学部学生の早期臨床体験を受け入れ、歯科医師卒後研修の研修指定病院としてマッチングに参加し、1名の歯科医師臨床研修医を教育しています。また日本口腔外科学会および日本顎関節学会の研修指定機関に指定され、専門医取得のための卒後教育も積極的に行っています。

臨床研究としては口腔顎顔面悪性腫瘍術後における顎骨再建と口腔機能再建、非関節性開口障害の診断と治療をそのテーマとしています。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Kanayama H, Tominaga T, Tominaga Y, Kato N, and Yoshimura H : Action of GABAB receptor on local network oscillation in somatosensory cortex of oral part: focusing on NMDA receptor. 「The Journal of Physiological Sciences」74(1): 16、2024年3月12日

Asoda S, Suzuki T, Kanayama H, Takeda D, Adachi M, Yuasa H, Uzawa N, Kurita H : Clinical value of reconstruction with a soft tissue graft versus reconstruction with an obturator alone after partial maxillectomy: A systematic review. 「J Neurosci」191: 28-37、2024年

B-3

有家 巧 : 顎関節脱臼について-病態と手術療法-。第78回国立病院総合医学会、大阪、2024年10月18日

白尾浩太郎 : 口腔癌 T4 症例に対する手術。第43回 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会、東京、2025年2月27日

B-4

百瀬久尚、鹿野 学、白尾浩太郎、金山宏幸、矢谷実英、北村有理子、有家 巧、吉本 仁：陳旧性顎関節脱臼に対して観血的整復術及び脱臼防止術を施行した一例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

白尾浩太郎、鹿野 学、金山宏幸、矢谷実英、北村有理子、吉本 仁：当科における口腔扁平上皮癌頸部リンパ節転移節外浸潤の検討。第 69 回日本口腔外科学会総会・学術大会、大阪、2023 年 11 月 8 日

B-6

吉本 仁、鹿野 学、白尾浩太郎、金山宏幸、矢谷実英、北村有理子、百瀬久尚、有家 巧：陳旧性顎関節脱臼に対して外科的整復術及び脱臼防止術を施行した一例。第 55 回（公社）日本口腔外科学会近畿支部学術集会、高槻市、2024 年 6 月 29 日

B-8

吉本 仁：口腔癌の A to Z。松原市歯科医師会教育講演会、大阪市、2024 年 6 月 22 日

B-9

吉本 仁：口腔癌に関して。FM 大阪 LOVE FLAP THURSDAY 「DOCTOER's FLAP」、2024 年 7 月 25 日

救命救急センター

大西光雄

救命救急センターでは臨床医学的、社会医学的、基礎医学的な視点、それぞれを活かしリサーチマインドを常に互いに刺激し続けることを意識している。昨年度に続き本年度も COVID-19 への対応が診療の中心となったが、診療における工夫や病態の解析、事業継続（BCP）を念頭においた診療体制、日本外傷データバンクの解析、多職種連携に関する学会発表を行なった。

専攻医や研修医の教育に関しては、ディープラーニング・アクティブラーニングとなるよう心がけている。症例発表が中心となるが、“根拠”や“理論”を常に確認しながら、多角的な視点で深く事象を分析できるように指導している。

臨床研究に関しては、侵襲時、とくに敗血症の便中エンドトキシンや腸内細菌叢の変化（腸管免疫）、急性呼吸促迫症候群といった急性呼吸不全での白血球機能に関する研究を行ない、病態解明を目指している。

病院前の研究に関して、大阪大学や京都大学、大阪府下の救急医療に携わる研究者らによる心停止患者搬送時の救急隊の蘇生記録や搬送後の病院での診療を対象とした心肺蘇生研究に参加している。また、2013 年から大阪市消防と大阪大学が臨床研究を開始した、当センター直近の中央消防から開始し他の救急隊へ拡大させ研究を続けてきた。2021 年度は当センターが競争的研究資金を獲得したため、当センターも加わり傷病発生現場から病院到着までの病態を解明していく予定であったが、救急隊も当センターも COVID-19 への対応のため研究開始に至っていないが研究期間を延長し、蘇生のガイドラインに影響を与える研究を目標としている。

日本外傷データバンクのデータを用いた研究に参加し、外傷診療の重症度や治療内容と予後に関する疫学的解析を行なっている。当センター医師が筆頭研究者の英文論文も前年に引き続き掲載された。

社会医学に関する研究も行なっている。救急搬送患者は、様々な社会的問題を抱えていることが多い。大阪医療センターでは3名の救急認定ソーシャルワーカーを有し、救急医療における社会的側面へのアプローチに関し全国的なリーダーシップを発揮している。当センターの取り組みを元にした“社会的救命”が認知されてきたため、ソーシャルワーカーに対する講演が複数回開催された。次年度はさらに発展させる予定である。

災害医療に関して、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）を行なっている。感染増大に伴い危機的状況を経験した沖縄の高齢者施設における COVID-19 への対応、沖縄県庁の取り組みを調査した。また、大阪市消防の各職員への抱える不安の調査をもとにした感染制御講演を行った。

基礎医学の研究では、爆発外傷の研究を行なっている。研究に必要な装置が大阪大学にあるため研究の場は大阪大学となるが、臨床的に未解明な部分の多い爆発外傷、特に衝撃波に伴う脳損傷の研究を行なっている。文部科学省科研

(21K09019)では衝撃波によって長期的に問題となる軽微な脳損傷による行動変容を分析し、病態解明、治療・予防法の開発へとさらに研究が進むことを期待している。

今後とも、救急・災害医療研究を通して地域医療をはじめとして医療に貢献しつつ、リサーチマインドを涵養すべく人材育成に注力していきたい。

災害医療における研究

今年度も昨年度に引き続き、COVID-19 への対応をもとにした災害医療の研究を行った。感染症への対応における人的・物的・空間的な不足（需要と供給のアンバランス）がもたらす事態という意味においては“災害”と捉えることができる。しかし、一般的な自然災害とは違い、いつから災害と認識できるのか？、ライフラインは全く影響を受けていない、といった災害をイメージしにくい状況があることから、当院では事業継続計画（BCP）を軸にした対応をおこなってきた。この取り組みは当初よりユニークであり、学会発表では注目されたと言える。

また、他の災害医療における研究としては、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）があるが、今年度はあまり進展させることができなかった。さまざまな高齢者施設、あるいは在宅医療を行う医療機関と連携し災害時に“災害時要配慮者”に分類される、これらの医療・介護の利用者をいかにしてアセスメントし、医療への負荷を軽減させ、生命を守るかといった課題に取り組んでいく。

また、「CBRNE テロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究：厚生労働科研 健康安全・危機管理対策総合研究事業 研究代表者：近藤久禎」および「オールハザード・アプローチによる公衆衛生リスクアセスメント及びインテリジェンス機能の確立に資する研究：厚生労働行政推進調査事業 健康安全・危機管理対策総合研究事業 研究代表者 富尾淳」の分担研究（ともに主として化学災害への対応を分担）を開始した。大西が世界安全保障イニシアティブ（Global Health Security Initiative：GHSI）における化学イベントワーキンググループ（Chemical Event Working Group：CEWG）に所属していることもあり、この WG で得た知見を活かしながら日本における災害対応に取り組んでいきたい。

大阪医療センターは以前より大阪市消防の有志とともに運営されている大阪 EMS（Emergency Medical Service）研究会を通じて消防との連携のあり方など、15 年以上にわたり取り組んできた。COVID-19 の影響もあり、WEB 開催が主体となったことが幸いし、非常に広域、かつさまざまな職種からの参加者が得られるようになった。今年度は米国で救命士として活躍している人物や、米国の戦傷救護を学んだ自衛隊員を講師に招き、警察官、刑務官など救護を行う可能性のある多職種での研究会を多数開催できた。また、これら取り組みを研究発表している。当院の院内救命士も参加しており、医療の質の向上、各組織の視点を理解した上での連携を図るべく活動していきたい。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Nakao S, Katayama Y, Kitamura T, Hirose T, Tachino J, Ishida K, Ojima M, Kiguchi T, Umemura Y, Kiyohara K, Oda J. Trends and characteristics of severe road traffic injuries in children: a nationwide cohort study in Japan. 「European journal of trauma and emergency surgery」 50(6) : 2631-2640. DOI: 10.1007/s00068-023-02372-z. 2024年12月23日

Nobe R, Ishida K, Togami Y, Ojima M, Sogabe T, Ohnishi M. Improving oxygenation in a patient with respiratory failure due to morbid obesity by applying airway pressure release ventilation: a case report. 「Journal of medical case reports.」 18(1) : 353. DOI: 10.1186/s13256-024-04665-2. 2024年8月5日

Ishida K, Katayama Y, Kitamura T, Hirose T, Ojima M, Nakao S, Tachino J, Kiguchi T, Kiyohara K, Oda J, Ohnishi M. Impact of pre-existing medical conditions on mortality in geriatric trauma: a nationwide study in Japan. 「European journal of trauma and emergency surgery.」 50(6) : 3133-3152. DOI: 10.1007/s00068-024-02570-3. 2024年6月18日

Tachino J, Demetriades A K, Peul W, Nakao S, Katayama Y, Tanaka K, Kitamura T, Hirose T, Kiyohara K, Umemura Y, Kiguchi T, Ojima M, Ishida K, Oda J. Effects of Concomitant Traumatic Spinal Cord and Brain Injury on In-Hospital Mortality: A Retrospective Analysis of a Nationwide Trauma Registry in Japan. 「J Neurotrauma.」 41(17-18) : 2101-2113. DOI: 10.1089/neu.2024.0168. 2024年6月15日

Nishioka N, Yamada T, Nakao S, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yamakawa K, Kiguchi T, Kishimoto M, Ninomiya K, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Hironaka Y, Onoe A, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T. External Validation of Updated Prediction Models for Neurological Outcomes at 90 Days in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest. 「Journal of the American Heart Association.」 13(9): e033824. DOI: 10.1161/jaha.123.033824. 2024年5月7日

Nishimura T, Hatakeyama T, Yoshida H, Yoshimura S, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Kim S H, Hayashi Y, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Matsuyama T, Okada Y, Nishioka N, Matsui S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Kitamura T, Iwami T, Mizobata Y. Non-linear association between the time required to reaching temperature targets and the neurological outcome in patients undergoing targeted temperature management after out-of-hospital cardiac arrest: Observational multicentre cohort study. 「Resuscitation plus」 18 : 100607. DOI: 10.1016/j.resplu.2024.100607. 2024年4月8日

Mitsuyama Y, Matsumoto H, Togami Y, Oda S, Onishi S, Yoshimura J, Murtatsu A, Ito

H, Ogura H, Okuzaki D, Oda J. T cell dysfunction in elderly ARDS patients based on miRNA and mRNA integration analysis. 「Frontiers in immunology」 15 : 1368446. DOI: 10.3389/fimmu.2024.1368446. 2024年4月4日

Nobe R, Nakao S, Nakagawa Y, Ogura H, Shimazu T, Oda J. Association between lung contusion volume and acute changes in fibrinogen levels: A single-center observational study. 「Acute Medicine and Surgery」 11(1) : e945. 2024年3月28日

A-3

野邊亮丞、小島将裕、大西光雄 : Acute Care Nutrition~代謝栄養の世界へようこそ！
～ 第2回 急性期のエネルギー投与量を考える「救急医学」3月号 : p377-379、へるす出版、東京、2025年3月10日

小島将裕、大西光雄 : 間接熱量計を活用した侵襲期の低栄養患者への栄養管理「外科と代謝・栄養2025」 59(1) : p25-29、2025年2月15日

小島将裕、野邊亮丞、大西光雄 : Acute Care Nutrition~代謝栄養の世界へようこそ！
～ 第1回 代謝・栄養の「急性期」と、Acute Care Nutrition「救急医学」2月号 : p238-240、へるす出版、東京、2025年2月10日

石田健一郎、松村洋輔 : DIRECT-REBOAセミナー「救急医学」1月号 : p24-25、へるす出版、東京、2025年1月10日

戸上由貴、廣瀬智也、今田優子、波多野弥生、水島靖明、織田 順、嶋津岳士 : 高齢者による「市販の乾燥肌のかゆみ止め外用薬」誤食の危険性 日本中毒情報センターのデータから「中毒研究」 37 (4) : P397-403、2024年12月

布施 明、大西光雄、宮内雅人、落合秀信、布施理美、小山博史、南海トラフ地震における急性期災害医療のシミュレーションを用いた“未治療死”の検討「日本災害医学会雑誌」 29(3) : 213-219、2024年10月25日

A-4

志馬伸朗、中田孝明、矢田部智昭、山川一馬、青木善孝、井上茂亮、射場敏明、小倉裕司、河合佑亮、川口 敦、川崎達也、近藤 豊、櫻谷正明、對東俊介、土井研人、橋本英樹、原 嘉孝、福田龍将、松嶋麻子、江木盛時、久志本成樹、大網毅彦、菊谷知也、相川 玄、青木 誠、赤塚正幸、浅井英樹、阿部智一、雨宮 優、石澤 嶺、石原唯史、石丸 賢、糸洲佑介、井上拓保、今長谷尚史、井村春樹、岩崎直也、生塩典敬、内田雅俊、内 倫子、梅垣岳志、梅村 穰、遠藤 彰、大井真里奈、大内 玲、大沢樹輝、大島良康、太田 浩平、大野孝則、岡田遥平、岡野 弘、小川新史、柏浦正広、春日井大介、狩野謙一、上谷 遼、河内 章、川上定俊、川上大裕、川村雄介、神鳥研二、岸原悠貴、木村 翔、久保 健児、栗原知己、小網博之、小谷祐樹、木庭 茂、佐藤威仁、佐藤 蓮、澤田悠輔、志田 瑤、島田忠長、志水元洋、清水一茂、白石拓人、新貝 達、丹保亜希仁、杉浦 岳、杉本 健輔、杉

本裕史、壽原朋宏、関野元裕、其田健司、對東真帆子、高橋 希、竹下 淳、武田親宗、立野淳子、田中愛子、谷 昌憲、谷河 篤、陳 昊、土田拓見、堤 悠介、恒光健史、 出口 亮、鉄原健一、寺山毅郎、戸上由貴、十時崇彰、友田吉則、中尾俊一郎、長澤宏樹、中谷安寿、中西信人、西岡典宏、錦見満暁、野口智子、野浪豪、野村 理、橋本克彦、 畠山淳司、濱井康貴、彦根麻由、久宗 遼、廣瀬智也、福家良太、藤井 遼、藤江直輝、藤永 潤、藤浪好寿、藤原 翔、舩越 拓、本間康一郎、牧野佑斗、松浦裕司、松岡綾華、松岡 義、松村洋輔、水野彰人、宮本颯真、三好ゆかり、村田 慧、村田哲平、薬師寺 泰匡、安尾俊祐、山田浩平、山田博之、山元 良、山本良平、湯本哲也、吉田裕治、吉廣 尚大、吉村聡志、吉村旬平、米倉 寛、若林侑起、和田剛志、渡辺伸一、井尻篤宏、宇賀田 圭、宇田周司、小野寺隆太、高橋正樹、中島聡志、本多純太、松本承大：日本版敗血症診療ガイドライン2024特別委員会 日本集中治療医学会 日本救急医学会 日本版敗血症診療ガイドライン2024「日本集中治療医学会雑誌」31（2） P. S1165-S1314. 2024年12月

志馬伸朗、中田孝明、矢田部智昭、山川一馬、青木善孝、井上茂亮、射場敏明、小倉裕司、河合佑亮、川口 敦、川崎達也、近藤 豊、櫻谷正明、對東俊介、土井研人、橋本英樹、原 嘉孝、福田龍将、松嶋麻子、江木盛時、久志本成樹、大網毅彦、菊谷知也、相川 玄、青木 誠、赤塚正幸、浅井英樹、阿部智一、雨宮 優、石澤 嶺、石原唯史、石丸忠賢、糸洲佑介、井上拓保、今長谷尚史、井村春樹、岩崎直也、生塩典敬、内田雅俊、内 倫子、梅垣岳志、梅村 穰、遠藤 彰、大井真里奈、大内 玲、大沢樹輝、大島良康、太田 浩平、大野孝則、岡田遥平、岡野 弘、小川新史、柏浦正広、春日井大介、狩野謙一、上谷 遼、河内 章、川上定俊、川上大裕、川村雄介、神鳥研二、岸原悠貴、木村 翔、久保 健児、栗原知己、小網博之、小谷祐樹、木庭 茂、佐藤威仁、佐藤 蓮、澤田悠輔、志田 瑤、島田忠長、志水元洋、清水一茂、白石拓人、新貝 達、丹保亜希仁、杉浦 岳、杉本 健輔、杉本裕史、壽原朋宏、関野元裕、其田健司、對東真帆子、高橋 希、竹下 淳、武田 親宗、立野淳子、田中愛子、谷 昌憲、谷河 篤、陳 昊、土田拓見、堤 悠介、恒光健史、出口 亮、鉄原健一、寺山毅郎、戸上由貴、十時崇彰、友田吉則、中尾俊一郎、長澤宏樹、中谷安寿、中西信人、西岡典宏、錦見満暁、野口智子、野浪 豪、野村 理、橋本克彦、畠山淳司、濱井康貴、彦根麻由、久宗 遼、廣瀬智也、福家良太、藤井遼、藤江直輝、藤永 潤、藤浪好寿、藤原 翔、舩越 拓、本間康一郎、牧野佑斗、松浦裕司、松岡綾華、松岡 義、松村洋輔、水野彰人、宮本颯真、三好ゆかり、村田 慧、村田哲平、薬師寺泰匡、安尾 俊祐、山田浩平、山田博之、山元 良、山本良平、湯本哲也、吉田裕治、吉廣尚大、吉村聡志、吉村旬平、米倉 寛、若林侑起、和田剛志、渡辺伸一、井尻 篤宏、宇賀田 圭、宇田周司、小野寺隆太、高橋正樹、中島 聡志、本多純太、松本承大：日本版敗血症診療ガイドライン2024特別委員会 日本集中治療医学会 日本救急医学会 日本版敗血症診療ガイドライン2024「日本救急医学会雑誌」35（S1） P. S1-S149、2024年12月

小島将裕、清水健太郎、小倉裕司：重症患者における腸内細菌叢の変化と腸管内治療「日本集中治療医学会雑誌」31(6)：566-573、2024年11月1日

森 寛泰、大西光雄、中島 伸：診療看護師（JNP）導入による働き方改革への効果

救急外来部門への診療看護師（NP）の導入によるタスクシフト/シェアの影響「医療」78(2):106-111、2024年4月

A-5

大西光雄：化学テロ危機管理に関する研究 厚生労働省科学研究課題番号 22LA1012 CBRNE テロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究（研究代表者：若井聡智）研究年度 令和5（2023）年度、文献番号 202326013A、2024年10月2日

大西光雄：化学テロ危機管理に関する研究 厚生労働省科学研究課題番号 22LA1012 CBRNE テロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究（研究代表者：若井聡智）研究年度 令和5（2022）年度、文献番号 202227023A、2024年4月1日

大西光雄：科学テロ危機管理 厚生労働省科学研究課題番号 19LA1010 CBRNE テロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究（研究代表者：近藤久禎）研究年度 令和3（2021）年度、2024年8月28日

B-3

大西光雄：2025大阪・関西万博医療対応をより強靱にするために—過去の人為的な多数傷病者事案を参考にした想定にどう対応するか。第30回日本災害医学会総会・学術集会、名古屋、2025年3月6日

大西光雄：過去の化学物質関連事案と最近のテロ攻撃を勘案した今後の化学イベントへの備えと対策。第30回日本災害医学会総会・学術集会、名古屋、2025年3月8日

大西光雄：災害と中毒 化学災害を中心に。第46回日本中毒学会総会・学術集会、神戸、2024年7月24日

大西光雄：移植医療 Up to date 臓器提供の現状と課題 救急医療の立場から。第78回国立病院総合医学会、大阪、2024年10月19日

小島将裕、清水健太郎、児嶋 嵩、小倉裕司：敗血症およびCOVID-19患者における腸管免疫応答の比較、第52回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025年3月14日

田尻昌士、石田健一郎、中村さやか、樋口栄二、藤井順也、東 俊樹、野邊亮丞、小島将裕、曾我部拓、大西光雄：多職種連携による集中治療部門の災害対応：課題の共有と事業継続計画改訂へのアプローチ。第52回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025年3月14日

小島将裕：侵襲時栄養管理の核心に迫る！低栄養患者で生じる侵襲時のリフィーディング症候群に対する栄養管理。日本外科代謝栄養学会第61回学術集会、2024年

7月25日

戸上由貴、廣瀬智也、竹川良介、服部雄司、大西光雄：多職種で考える！病院前中毒診療の課題とその解決に向けて。第46回日本中毒学会総会・学術集会、神戸、2024年7月24日

小島将裕、石田健一郎、大西光雄：外傷においてECMOはどこまで有効か 当センターで外傷が原因でECMOを導入した重症外傷5症例の検討。第38回日本外傷学会総会・学術集会、2024年4月26日

B-4

久保田理子、大舟晃平、野邊亮丞、田尻昌士、小島将裕、曾我部 拓、石田健一郎、大西光雄：偶発性低体温症の復温後に非閉塞性腸管虚血を合併し、保存的加療により救命し得た1例。第129回近畿救急医学研究会、滋賀、2025年3月20日

小島将裕、野邊亮丞、石田健一郎、大西光雄：持続間接熱量測定で得られる代謝データと生命予後との関連—11症例の検討：Preliminary Study—。第52回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025年3月16日

野邊亮丞、村尾修平、田尻昌士、曾我部 拓、石田健一郎、大西光雄：持続間接熱量計を用いてショック期の栄養投与における代謝動態を評価した敗血症2例の検討。第52回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025年3月16日

羽白 亮、石田健一郎、東 俊樹、村尾修平、田尻昌士、野邊亮丞、田中太助、下野圭一郎、小川晴香、小島将裕、曾我部 拓、大西光雄：A case of Takotsubo cardiomyopathy complicated by acute exacerbation of COPD。第78回国立病院総合医学会、大阪、2024年10月18日

野邊亮丞、小島将裕、村尾修平、石田健一郎、大西光雄：持続間接熱量計と連続心拍出量モニターを併用し酸素需給バランスを評価した3病態の検討。第52回日本救急医学会総会・学術集会、仙台、2024年10月15日

小川晴香、石田健一郎、曾我部 拓、下野圭一郎、田中太助、小島将裕、田尻昌士、野邊亮丞、村尾修平、東 俊樹、大西光雄：低体温症における来院時血糖値と予後の関連。第52回日本救急医学会総会・学術集会、仙台、2024年10月14日

下野圭一郎、曾我部 拓、田中太助、小島将裕、小川晴香、田尻昌士、野邊亮丞、石田健一郎、大西光雄：集中治療にて救命しえたコルヒチン中毒の1例。第52回日本救急医学会総会・学術集会、仙台、2024年10月13日

村尾修平、梅村 穰、山川一馬、藤見 聡、大西光雄：急性大動脈解離におけるDisseminated intravascular coagulation(DIC)の臨床的意義の検討 JMDCデータベース解析。第52回日本救急医学会総会・学術集会、仙台、2024年10月13日

田尻昌士、笹倉桃子、野邊亮丞、戸上由貴、小川晴香、田中太助、小島将裕、石田健一郎、曾我部 拓、大西光雄：偶発性低体温症での心停止にV-A ECMOを導入し、神経学転帰が良好であった2例。第128回近畿救急医学研究会、大阪、2024年7月20日

上野由貴、石田健一郎、戸上由貴、大西光雄：レムデシビルの投与がワルファリンカリウムの投薬調整に及ぼす影響。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月20日

森 寛泰、大西光雄：診療看護師(NP)がadvanced triageを担う救急外来の質の検討 帰宅後の72時間以内の再受診の実態調査から。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月20日

石田健一郎、太田裕子、平島園子、吉田佳弘、平井亜里砂、若井聡智、大西光雄：都市部の防災計画における災害時要配慮者に関わる組織連携(その2) 意見交換会を開催して。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月19日

太田裕子、石田健一郎、平島園子、吉田佳弘、平井亜里砂、若井聡智、大西光雄：都市部の防災計画における災害時要配慮者に関わる組織連携(その1) 合議体形成までの道のり。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月19日

浦井 健、大西光雄：救急外来における薬剤師業務のすすめ方 二次救急医療機関、三次救急医療機関,それぞれの経験を持つ院内救命士の立場から。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月18日

関 俊泓、森 寛泰、大西光雄：救急診療におけるタスクシフト 医師の視点からの利点と今後の課題について。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月18日

B-8

大西光雄：出血や外傷（衝撃波外傷を含む）に伴う循環動態の変化と中枢神経の役割。第38回日本外傷学会総会・学術集会、大阪、2024年4月25日

大西光雄：化学物質の対応・危機管理。東京大学大学院公共健康医学、東京、2024年5月13日

大西光雄：化学テロに関する海外の解毒薬等の情報。NBCネットワーク専門家会合における講演、東京、2024年8月1日

大西光雄：全日本病院医療支援班（AMAT）隊員養成研修 講義研修“災害時要配慮者”、“災害時に留意すべき疾病”。“感染対策”東京（WEB配信）、2024年9月15

日

大西光雄：全日本病医療支援班（AMAT）隊員要請研修 実習研修 大阪、2025年1月19日

大西光雄：事態対処救護コース開催。2024年7月18日（鹿児島）、2024年10月12日（仙台）、2025年2月13日（大阪）、2025年2月27日（大阪）

大西光雄：「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインと救急医療におけるソーシャルワーク実践」。救急認定ソーシャルワーカー認定機構 第7回アドバンス研修、WEB、2025年3月28日

石田健一郎：大阪市中心区東医師会 三師会共催 救急医療講習会「災害に備えるー保健・医療・福祉の連携による地域防災計画の強靱化ー」。大阪、2024年9月19日

B-9

石田健一郎：「“春の熱中症”救急搬送も 医師「暑さに不慣れ」注意を。NHK ほっと関西」、2024年4月18日

麻酔科

渋谷博美

麻酔科は、常勤医 15 名（全員麻酔専門医）と麻酔専門医になるための研修を受けている専攻医 2 名、非常勤医師 1 名そして医科麻酔研修の歯科医が 1 名の合計 18 名で構成されています。

全 12 の手術室において、各種がん疾患、脳・循環器・呼吸器疾患、消化器疾患、整形外科疾患、その他手術関連全診療科の手術や救命救急関連手術など様々な手術麻酔を施行しています。2024 年度の年間手術総数は 6688 例、うち麻酔科管理症例は 3208 例でした。

医学の進歩は目まぐるしく、「手術は大きく開けてしっかり見る」から「小さく開けてしっかり見る」に変わりました。麻酔薬も手術侵襲や手術時間に合わせて調整しやすいものになっています。ロボット支援下手術を施行する診療科も増え、それに伴い手術件数も増えました。全身麻酔は手術室だけではなく、血造造影室での脳動脈瘤血管内治療やカテ室での左心耳閉鎖や経皮的僧帽弁クリップ術など、手術室フロア外で麻酔を施行する機会も多くなりました。今年度は循環器内科と心臓血管外科による TAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)も始まりました。手術室以外の場所での麻酔は、より一層の慎重さと技術が求められます。術者との術前カンファレンスや勉強会、そして術者だけでなく多職種も含めたコミュニケーションは何よりも安全な麻酔管理と手術に直結します。大阪医療センターの麻酔科はこのコミュニケーションを大切にすることをモットーに日々尽力しております。

術中・術後の疼痛に対しは、硬膜外麻酔や抹消神経ブロックを施行し、必要に応じて PCA (patient controlled analgesia: 自己調節鎮痛法) を施行しています。麻酔科医や手術室看護師そして薬剤師で結成された術後疼痛管理チームが携わった件数も増えました。

術後疼痛管は、麻酔科医・手術室看護師・薬剤師により構成されている術後疼痛管理チームが、術後患者の鎮痛、離床の程度などを評価し、術後の疼痛や悪心嘔吐などを軽減するために活動しています。

教育面では、大学からクリニカルクラークシップの学生を受け入れ、麻酔科は勿論ですが大阪医療センターの良さをアピールしています。

日本麻酔科学会認定病院として、初期研修医の麻酔科研修では、指導医と 2 人体制で麻酔を担当し、術前評価を行い、麻酔法を決定し、気管挿管や血管確保などの手技だけでなく、循環動態を安定させるための麻酔薬の調整や循環作動薬の投与などの術中管理、そして術後は悪心嘔吐や疼痛の評価まで行う研修を行っており、麻酔科医の育成にも力を入れています。

【2024 年度 研究発表業績】

B-4

濱田弘美、中西裕貴子、石井裕子、天野栄三、渋谷博美：ロボット支援下食道悪性腫瘍手術の分離肺換気中に突然の換気困難を来した一例。日本麻酔科学会第 71 回学術大会、神戸、2024 年 6 月 6 日

浜川綾子、原恵理子、桐山有紀、中西貴子、上田祥弘、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：当院における術後疼痛管理チームの術後疼痛への介入状況についての調査。日本臨床麻酔学会第 44 回大会、東京、2024 年 11 月 22 日

濱田弘美、桐山有紀、浜川綾子、中西裕貴子、上田祥弘、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：左肺底動脈下行大動脈起始症に対して胸腔鏡下左肺下葉切術を行った一例。日本臨床麻酔学会第 44 回大会、東京、2024 年 11 月 22 日

中村さやか、清水義之：大阪母子医療センターの小児集中治療室におけるレミフェンタニルの使用状況。第 52 回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025 年 3 月 14 日

中村さやか、川本寿代、吉龍正雄：僧帽弁置換術後にたこつぼ心筋症を発症した一例。第 52 回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025 年 3 月 16 日

B-6

桐山有紀、中村さやか、勝田充重、川本寿代、吉龍正雄：挿管性肉芽腫を形成し、それに伴う軌道狭窄のため気管切開が必要となった一例。日本集中治療医学会第 8 回関西支部学術集会、大阪、2024 年 7 月 6 日

清水 亮、中西裕貴子、島川宜子、天野栄三、渋谷博美：全身麻酔下の整形外科手術後に可逆性脳血管攣縮症候群を来した 1 例。日本麻酔科学会第 70 回関西支部学術集会、大阪、2024 年 9 月 14 日

臨床検査診断科

眞能正幸



【概況】

臨床検査診断部は以下の３部門で構成されており、それぞれの管理責任医師の指導のもと業務を遂行している。

臨床検査診断部（臨床検査診断部長：眞能 正幸）

（１）臨床検査科（臨床検査科科長：眞能 正幸）

（２）病理診断科（臨床検査科医長：森 清）

（３）エコーセンター（臨床検査科科長：眞能 正幸）

臨床検査診断部としては、ISO15189 認定（RML00860）の他、日本臨床細胞学会（No.466）、日本病理学会研修認定施設（No.5011）などの施設認定を取得している。スタッフは医師５名と臨床検査技師４５名、検査助手４名で運営している。また、認定病理検査技師（１名）、細胞検査士（９名）、超音波検査士（７名）、認定輸血検査技師（２名）、糖尿病療養指導士（２名）、認定血液検査技師（３名）、認定臨床微生物検査技師（１名）、認定一般検査技師（１名）の認定技師が在籍している。

（１）臨床検査科

病院基本方針の１つである「質の高い医療を維持・発展」の一旦を担うため『精度保証されたデータを迅速に提供すること』を使命としている。当科はいち早く臨床検査室の国際規格であるISO15189 認定を平成２６年１１月１３日 国内第８６番目の施設として取得した。令和６年度１月には生理検査部門を含む第６回のサーベイランスを受審更新した。また、二交替勤務，輸血管理当直を早期より導入し休日・夜間を含む２４時間体制で緊急検査、輸血管理・検査に対応している。

（２）病理診断科

当科は、日本病理学会認定施設（認定番号：第５０１１号）、日本臨床細胞学会認定施設（第０４６６号）、同教育研修認定施設（第０２２０号）であり、日本専門医機構・日本病理学会の認定する病理専門医の教育と、日本臨床細胞学会の認定する細胞診専門医並びに細胞診検査士の教育と研修の場として機能し、これまで多数の病理専門医、細胞診専門医と細胞診検査士を輩出してきた。令和６年度は、病理診断医は、専任医師は４名（森 清、廣瀬 由美子、藤原理恵子、岡田文美）と併任医師は１名（眞能 正幸）が常勤として在籍している（いずれも病理専門医および細胞診専門医である事に加え、３名が日本病理学会認定の分子病理専門医を取得済）。また非常勤医師は５名、研修生として招聘の医師１名を擁し、骨軟部、脳腫瘍といった希少がん領域や、循環器、肝胆膵、婦人科、皮膚、顎口腔の各領域の診断病理専門家の指導を仰ぎ、診断精度の向上に努めている。また血液疾患・リンパ腫、腎生検の難解症例については専門家へのコンサルトを定期的に行う体制も整えている。当科業務に携わる臨床検査技師は１０名で、この内で認定病理検査技師１名、細胞検査士９名（専任７名）が従事

している。令和 6 年度の当科における診断実績は、組織診 6291 件、術中迅速組織診 195 件、細胞診 5653 件、病理解剖 5 件であった。

近年、急激に臨床応用が進む分子病理学的検査の拡大が著しいが、我が国のがんゲノム医療体制において、当院の「がん診療連携拠点病院」としての機能の一翼を担うべく、当科は病理標本を用いた種々のがん遺伝子パネル検査や多数のコンパニオン診断などで貢献している。また、分子病理専門医が、当院がん病理診断業務の質の担保に貢献している。

また ISO 15189 認定 (RML00860) の他、特定非営利活動法人日本病理精度保証機構の外部精度評価 (施設番号 5009) に定期的に参加し、病理検査の質の向上、精度管理に努め、臨床各科と協力の上で、質の保たれた検体の提供を通して多数の国内外の治験・臨床試験に大きく貢献している。

(3) エコーセンター

エコー委員会は平成 19 年 7 月、超音波検査装置の購入・管理・整備に関することをはじめとして、装置の配置や利用時間帯に関して弾力的かつ効率的な運用を図る目的で設置された。それ以来、エコーセンターでは計画的に高機能装置の充実を図るとともに、各科協議のもと、装置を有効に活用して順調に検査件数を伸ばしている。

・エコー委員会構成員

委員長 眞能 正幸

副委員長 河合 健

委員 エコーセンターおよびエコー機器を利用する関係診療科医師

【各部門について】

外来検査部門：7つのブース中に車椅子用ブース2つを設け、また安静後採血のためのベッドを2台配置し外来患者の採血を実施している。患者待ち時間短縮と外来結果報告を早く行うために採血開始時間を15分早めて8時15分とし、待ち時間短縮等効果を継続している。採血は検査業務の入口であり、その8割以上を臨床検査技師が実施している。また、入院患者の翌日採血予定分の採血管を前日に準備している。併設の一般検査室では検尿、便潜血、穿刺液（髄液、胸腹水等）の検査、原虫や虫卵検出等を中心に検査している。

総合検査部門：血液を中心とした体液中の成分を様々な分析機で検査している。緊急検査は30～40分以内、至急検査や診察前検査は約60分以内を目途に診療科に報告している。更に多くの治験にも協力しており、検体の処理や保管を実施している。この他、輸血用血液製剤の管理を行い、安全かつ効率的な血液製剤の利用に努めている。

微生物検査部門：臨床検体からの細菌分離、同定検査、薬剤感受性検査の他にインフルエンザウイルスなどの迅速抗原検査や結核菌などの微生物を対象とした検査を行っている。HCV、HBV および HIV のリアルタイム PCR 法による高感度測定や、MRSA の遺伝子型 (POT 法) の検出も行っている。これらの情報

は耐性菌週報として院内に発信するとともに、ICT 会議や ICT ラウンド資料、院内抗菌薬適正使用（AST）として院内感染管理に貢献している。

病理検査部門：術中の迅速病理診断や迅速細胞診、100 種以上の抗体を備えた免疫染色により症例に応じた治療法の選択に貢献している。高度な専門的病理診断に対応するため 3 大学より病理専門医を招聘している。

生理検査部門：心電図、脳波、呼吸機能、超音波など実際の患者を対象とした部門である。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系や聴覚系等の分野の検査を実施し、特に超音波検査についてはエコーセンターとして、各診療科の超音波検査の受付を一括して行っている。

【活動報告】

各種の外部精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府臨床衛生検査技師会）に参加している。一例として日本医師会主催の臨床検査精度管理調査の成績（過去 6 年間）を示す。

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
評価項目修正点	98.0	98.9	98.6	98.1	99.2	97.4

【今後の課題と目標】

当科でも世代交代の波は急激に押し寄せている。特に当院は、近畿グループの中においても人材育成を担う中心的な施設の 1 つであり、臨床検査技師の人材育成に力を入れている。特に入職後 3 年目までの技師を対象に、複数部門(総合検査は必須)を積極的に経験させてジェネラリストとしての基礎を育てると共に、自身の適性や今後の方向性を自覚することにより将来認定資格取得を含めた専門性を高める起点となるよう努めている。

チーム医療の推進にも積極的に関わり、糖尿病教室、NST（栄養サポートチーム）、肝臓病教室、ICT（感染対策チーム）での患者指導・情報提供・ラウンド等に参加、さらに ISO15189 認定施設としてスタッフへの教育を行ない、診療機能や治験業務の質向上に貢献していく。

現在実施している各種臨床病理カンファレンス（乳腺腫瘍、皮膚科疾患、婦人科疾患、上部消化管疾患、呼吸器腫瘍等）を継続し、病理診断や臨床診断・治療の質の向上に今後も努めていく。これに加えて、初期研修医のローテーション受け入れ可能な科としてのアピールを行い、次世代病理医人材の育成や、臨床医志向の若手医師への病理学的教育（検体の扱いの重要性や、標本作製・診断過程の理解、病理学的に判断できることとできないことがあることを学び、病理検査を有効に活用できる臨床医を育成する）を進めていく。また、職員研修部との共催で月 1 回（1 月、5 月、8 月を除く）の CPC を充実させていく。

エコーセンターにおいては装置の稼働率をより高めるために、各科と連携しさらに効率のよい運用形態を探っていききたい。それと同時に、超音波検査を実施で

きる人材の育成が急務である。このため、当センターでは臨床研修医や臨床検査技師を対象に実地研修を実施している。また、部内では判読勉強会を開催して、検査技能の向上と超音波検査担当技師の育成を図っている。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Hirose K, Hori Y, Ozeki M, Motooka D, Hata K, Tahara S, Matusi T, Kohara M, Maruyama K, Imanaka-Yoshida K, Toyosawa S, Morii E : Comprehensive phenotypic and genomic characterization of venous malformation. 「Human Pathology」 145 : P.48-55、2024 年 2 月 15 日

Hayashi N, Fukai J, Nakatogawa H, Kawaji H, Yoshioka E, Kodama Y, Nkajo K, Uda T, Naito K, Kijima N, Okita Y, Kagawa N, Takahashi Y, Hashimoto N, Arita H, Takano K, Sakamoto D, Iida T, Arakawa Y, Kawauchi T, Sonoda Y, Mitobe Y, Ishibashi K, Matsuda M, Achiha T, Tomita T, Nonaka M, Hara K, Takebe N, Tsuzuki T, Nakajima Y, Ohue S, Nakajima N, Watanabe A, Inoue A, Umegaki M, Kanematsu D, Katsuma A, Sumida M, Shofuda T, Mano M, Kinoshita M, Mori K, Nakao N, Kanemura Y : Neuroradiological, genetic and clinical characteristics of histone H3 K27-mutant diffuse midline gliomas in the Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors (Kansai Network): multicenter retrospective cohort. 「Acta Neuropathologica Communications」 12(1) : 120. Doi: 10.1186/s40478-024-01808-w.、2024 年 7 月 27 日

Sanada T, Kinoshita M, Sasaki T, Yamamoto S, Fujikawa S, Fukuyama S, Hayashi N, Fukai J, Okita Y, Nonaka M, Uda T, Arita H, Mori K, Ishibashi K, Takano K, Nishida N, Shofuda T, Yoshioka E, Kanematsu D, Tanino M, Kodama Y, Mano M, Kanemura Y : Prediction of MGMT promoter methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image. 「Neuro-oncology Advances」 6(1) : vdae016. Doi: 10.1093/noajnl/vdae016.eCollection 2024 Jan-Dec、2024 年 2 月 1 日

Ono S, Hirose K, Sukegawa S, Obata K, Masui M, Hasegawa K, Fujimura A, Shimada K, Nakamura S, Teramoto A, Hori Y, Morii E, Motooka D, Igawa T, Tanaka T, Nagatsuka H, Toyosawa S, Yamamoto H : Squamous cell carcinoma initially occurring on the tongue dorsum: a case series report with molecular analysis. 「Diagnostic Pathology」 19(1) : 63. doi: 10.1186/s13000-024-01487-0、2024 年 4 月 22 日

Ando H, Katoh Y, Kobayashi O, Ikeda Y, Yahata H, Iwata T, Satoh T, Akiyama A, Maeda D, Hori-Hirose Y, Uemura Y, Nakayama-Hosoya K, Katoh K, Nakajima T, Taguchi A, Komatsu A, Kamata S, Tomita N, Kato K, Aoki D, Igimi S, Kawana-Tachikawa A, Schust DJ, Kawana K : Low CD86 expression is a predictive biomarker for clinical response to the therapeutic human papillomavirus IGMKK16E7: results of a post hoc analysis. 「JNCI Cancer Spectrum」 8(6) : pkae091. doi: 10.1093/jncics/pkae091.、2024 年 11 月 1 日

Hayashi N, Fukai J, Nakatogawa H, Kawaji H, Yoshioka E, Kodama Y, Nkajo K, Uda T, Naito K, Kijima N, Okita Y, Kagawa N, Takahashi Y, Hashimoto N, Arita H, Takano K, Sakamoto D, Iida T, Arakawa Y, Kawauchi T, Sonoda Y, Mitobe Y, Ishibashi K, Matsuda M, Achiha T, Tomita T, Nonaka M, Hara K, Takebe N, Tsuzuki T, Nakajima Y, Ohue S, Nakajima N, Watanabe A, Inoue A, Umegaki M, Kanematsu D, Katsuma A, Sumida M, Shofuda T, Mano M, Kinoshita M, Mori K, Nakao N, Kanemura Y : Correlation: Neuroradiological, genetic and clinical characteristics of histone H3 K27-mutant diffuse midline gliomas in the Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors (Kansai Network): multicenter retrospective cohort. 「Acta Neuropathologica Communications」 12(1) : 155. Doi: 10.1186/s40478-024-01863-3.、2024 年 10 月 1 日

Koba M, Takeno A, Hasegawa H, Sakamori R, Higashiura R, Yamamoto M, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirose Y, Mori K, Mano M, Hirao M : An Aggressive Gastric CIC-DUX4 Sarcoma Surgically Resected with Multivisceral Organs: A Case Report. 「Surgical Case Reports」 10(1) : P241、2024 年 10 月 23 日

Ando S, Azuma K, Futami S, Mori K, Hirose Y, Shirasaka T, Minami S : Organizing Pneumonia With Diffuse Alveolar Hemorrhage Induced by the Kampo Medicine Choreito. 「Journal of Medical Cases」 15(7) : 120-125、2024 年 7 月 19 日

Matsui Y, Takami K, Mori K, Hirose Y : The Diagnosis of Pulmonary Carcinoid Using Intraoperative Fine-Needle Aspiration Cytology: A Case Report. 「International Journal of Surgery Case Reports」 124 : 110428. Doi: 10.1016/j.ijscr.2024.110428. Epub 2024 Oct 10.、2024 年 10 月 10 日

Kobata R, Abe H, Yamane H, Nakamura M, Mori K, Mishima T, Ikeda K, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y : A Breast Cancer Patient with Chemotherapy-Induced Chronic Lymphocytic Myocarditis Successfully Treated with Steroid Therapy. 「Journal of Cardiology Cases」 31(3) : P57-60、2024 年 12 月 6 日

A-2

鹿股直樹、牛草健、森 清 : 乳癌 FQ4. リスク低減乳房切除術 (RRM) 検体にはどのような病理検索が推奨されるか? 「遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) 診療ガイドライン 2024 年版」日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構編、P191-193、金原出版、東京、2024 年 7 月 11 日

出村 豊、小谷敦志 : 総頸動脈が拡張していたら 「月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキスパート 23 頸動脈超音波検査の進め方」佐藤 洋、三木 俊 編集、P.84-85、医歯薬出版、東京、2024 年 7 月 25 日

出村 豊、小谷敦志 : 椎骨動脈が逆流していたら 「月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキスパート 23 頸動脈超音波検査の進め方」佐藤 洋、三木 俊 編集、

P.114-115、医歯薬出版、東京、2024 年 7 月 25 日

A-3

徳永拓也、土井貴司、松井優紀、森 清、高見康二：FDG-PET で集積を示した胸腺コレステリン肉芽腫の 1 例「日本臨床外科学会雑誌」85(8)：P1023-1027、日本臨床外科学会、2024 年 4 月 9 日

豊後雅史、高橋佑典、森 清、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：非代償性肝硬変を合併する大腸癌症例に対して腹腔鏡下大腸手術を行った 2 例「日本消化器外科学会雑誌」58 (1)：P.65-74、日本消化器外科学会、2025 年 1 月 1 日

A-4

森 清：【乳癌学 2024(上)-最新の診断と治療-】乳腺病理診断 術前薬物療法の病理学的効果判定「日本臨牀」82(増刊 6)：P179-185、日本臨牀社、東京、2024 年 8 月 30 日

出村 豊：どうする!? 血管エコー検査 Behçet 病「心エコー」25 (8)：P.806-812、文光堂、東京、2024 年 8 月 1 日

B-3

青木悠馬、小野美奈子、金城菜子、道面将嗣、吉川千鶴、村上麻里子、河合 健、廣瀬由美子、森 清、眞能正幸：シンポジウム 16 山のように多量で、魚の様に多様なコンパニオン診断を回す tips～プレアナリシス 当院でのコンパニオンの運用状況と新規検査追加時の手順 第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

堀由美子：病理診断（血管系）。第 20 回血管腫血管奇形学会学術集会（第 15 回血管腫血管奇形講習会）、新潟、2024 年 7 月 26 日

出村 豊：症状から考える鑑別疾患とエコーの切り口～依頼目的：突然の下肢痛～。第 49 回日本超音波検査学会学術集会、仙台、2024 年 7 月 20 日

小林悠希：サテライトセミナー2 cobas Hybrid 2.0 セミナー -未来の医療を切り開く先駆者を目指して- なぜ生化学・免疫統合型分析装置を選択したのか。日本医療検査科学会 第 56 大会、横浜、2024 年 10 月 4 日

B-4

松井優紀、高見康二、森 清：肺大細胞神経内分泌癌(LCNEC)切除症例の臨床的検討。第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024 年 6 月 1 日

木原実香、田井 静、若崎真衣子、羽月香子、那須 紬、上平朝子、廣田和之、松村拓朗、坪倉美由紀、河原隆二、河合 健、眞能正幸：プラスミド性 DHA-1 型

Enterobacter cloacae complex による院内伝播について。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

道面将嗣、青木悠真、金城菜子、小野美奈子、吉川千鶴、出村 豊、村上麻里子、河合 健、廣瀬由美子、森 清、眞能正幸：乳腺化生癌（扁平上皮癌）の 1 症例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

川地璃奈、児玉真由美、弓場和可苗、南口 純、鷹觜有希、金城菜子、村上麻里子、河合 健、眞能正幸：髄液細胞分類における時間外勤務者への教育について。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

松本奈緒、光黒真菜、藤井由香、中村 颯、村上麻里子、河合 健、眞能正幸：クロスミキシングテストにて即時・遅延反応共に下凸を呈した後天性血友病 A の一症例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

小元真生：COVID-19 ワクチン関連心筋炎を疑った一例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

光黒真菜、西田恭治、藤井由香、河合 健、武山雅博、眞能正幸：LA の存在により第 VIII・IX 因子活性値が院内検査と委託検査で著明に乖離した一症例。第 46 回日本血栓止血学会学術集会、金沢、2024 年 6 月 14 日

松浦夕葵乃、柳 善樹、鶴飼一穂、安部晴彦、中村雅之、赤嶺和昭、小元真生、福田 修、河合 健、眞能正幸：免疫チェックポイント阻害薬が原因と考えられた心筋炎の一例。第 49 回日本超音波検査学会学術集会、仙台、2024 年 7 月 20 日

赤嶺和昭、柳 善樹、中川紗希、小元真生、糸口耕平、高野萌子、松浦夕葵乃、石田有里菜、谷口久美、河合 健、眞能正幸：治療判定に経胸壁 3D 心エコー図が有用であった IgG4 関連疾患の一例。第 49 回日本超音波検査学会学術集会、仙台、2024 年 7 月 20 日

B-5

出村 豊：今日の症例 下肢静脈エコー編「NIVL 知っていますか?」。2024 年度第 1 回大阪血管エコー研究会、大阪、2024 年 5 月 17 日

出村 豊：当院の頸動脈ルーチン手順&もしもプラークや狭窄があったら。2024 年度第 2 回大阪血管エコー研究会、大阪、2024 年 8 月 23 日

出村 豊：一度みたら忘れない！典型的な血管エコー画像「四肢動脈領域における典型画像」。日本超音波医学会 第 51 回関西地方会学術集会、大阪、2024 年 9 月 21 日

出村 豊：下肢深部静脈エコー検査は座位派？仰臥位派？それとも中間派？。2024

年度 第 3 回大阪血管エコー研究会、大阪、2024 年 11 月 8 日

出村 豊：領域横断 SMI～今こそ、SMI を使いこなそう～「心血管」。第 9 回関西 Aplio CLUB、大阪、2025 年 2 月 16 日

出村 豊：基本セッション「下肢動脈エコーの基本」。2024 年度 第 4 回大阪血管エコー研究会、大阪、2025 年 2 月 21 日

赤嶺和昭：心電図マスターへの道 2 いよいよ不整脈。近畿心血管治療ジョイントライブ 2025、神戸、2025 年 3 月 15 日

出村 豊：AT に翻弄されない病変時の考え方と下肢動脈全スキャン攻略法。第 12 回これからはじめる！心血管エコーライブ&ハンズオンセッション 2025、大阪、2025 年 3 月 23 日

リハビリテーション科

三木秀宣

高度急性期大規模病院におけるリハビリテーション科として、急性発症後の早期機能回復を目的に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が超早期から積極的に介入している。また、機能回復に経過を要する疾患については最善の状態で後継病院へ引き継げるように、外科手術後では早期の自宅退院を目指して最大の機能回復を図るために質の高いリハビリテーションを提供することを目標としている。

1. 施設基準

- ①心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
- ②脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
- ③廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
- ④運動器リハビリテーション料Ⅰ
- ⑤呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
- ⑥がん患者リハビリテーション料

2. 依頼診療科

リハビリテーション科へ依頼される診療科は整形外科、脳神経外科、脳神経内科、循環器内科、外科、救命救急科、心臓血管外科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科など多岐に渡っている。また、令和6年度の処方件数は、理学療法4,724件、作業療法1,516件、言語聴覚療法1,203件で、それぞれ前年度比128.1%、110.6%、134.9%となり大幅な増加傾向にある。

①整形外科

人工関節（股・膝関節）や脊椎術後患者においてクリティカルパスに基づいて術後3週間で退院できるように良質で均質なリハビリテーションを実施し、在院日数短縮とQOL向上を両立している。

②循環器内科、心臓血管外科

心疾患の急性期に対して離床から200m歩行までのプロトコルによる個別療法と、集団療法による心臓リハビリテーションを実施している。

③脳卒中内科、脳神経外科

脳梗塞、脳内出血、脳腫瘍、頭部外傷術後など幅広い脳疾患に対応している。両科とも脳卒中ケアユニット（SCU）から一般病棟まで超早期から関わり、最良な状態で後継病院に円滑に連携できるようリハビリテーションを実施している。

3. 休日診療体制

急性期リハビリテーション領域におけるリハビリ提供の体制強化を目的として、令和5年度から理学療法士および作業療法士による365日診療体制を導

入し、急性発症・手術後の早期介入および連続性を担保した介入を実践している。

4. チーム医療

①呼吸ケアチーム

医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士が対象患者の呼吸状態を評価し、早期の人工呼吸器離脱および二次的合併症予防のための離床プログラムを検討している。また、呼吸努力を軽減する体位および排痰を援助する体位の提案を行っている。ラウンド終了後は、多職種から得られた情報を担当理学療法士へ提供し、安全な早期離床を行えるようにサポートをしている。

②排尿ケアチーム

医師、看護師、作業療法士がバルーンの抜去等に向けたトイレ動作等を評価している。また、前立腺がん術後の排泄機能障害に対して、骨盤底筋体操や自己導尿等の動作獲得に向けた評価、訓練を実施している。

③摂食嚥下支援チーム

医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士が、加齢や脳血管障害、各種神経疾患、廃用等により摂食・嚥下機能が低下した患者を対象として摂食・嚥下機能を評価し、嚥下訓練および指導を行っている。また、必要に応じて VF や VE を実施して安全かつ適切な食形態の提供を行っている。更に、栄養サポートチームと連携し、適切な栄養管理を実施している。

5. 血友病性関節症

血友病性関節症患者に対して、外来において理学療法士による運動機能評価および継続的な運動指導を実施している。

6. 臨床実習受託施設

診療参加型実習（Clinical clerkship）を導入し、診療業務を通じて医療従事者として必要な思考・判断力を養えるよう指導を行っている。また、複数人の実習生を同時に受け入れることで、実習生同士での協同学習や実技練習を行えるよう環境を整えており、指導体制についても複数人で指導にあたることで、指導者個人への負担を軽減すると共に業務効率の改善に努めている。

7. 業務実績

令和 6 年度の総実施単位数は 140,104 単位で前年比 106.3%、診療報酬は 39,560,515 点で前年度比 108.6%となった。また、急性発症・手術後の重症患者への早期介入に重点を置いた結果、疾患別リハビリテーション料の初期加算は 76,476 単位で前年比 117.4%と増加した。令和 6 年から導入された急性期リハビリテーション加算は 24,533 単位、総実施単位数の 17.5%を占めた。

【2024 年度 研究発表業績】

B-4

増田圭亮、加賀谷将之：2 年目評価シートの作成と導入の結果。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

安田夏盛、松田和江、宮本 満、洪 文武、川口 悟：兵庫おおの病院重症心身障害児（者）患者の骨折歴と変形・関節拘縮との関係性。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

殿水 薫、山尾なつみ、橋本明希子、中島隆文、松原一樹、上西悠仁、林竜太、西田和生、岡田直秀、上野俊之：THA 術後患者に対し移動自立指示を理学療法士主体で行った取り組み～専門性を発揮するために～。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

山本朋久、林 直輝、平岡尚敬、田原将行：歩行困難な遺伝性痙性対麻痺患者に対し HAL 医療用下肢タイプを用いた理学療法の一例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

黒河大雅、小浦正貴、橋本明希子、岡田直秀、上野俊之：Branch Atheromatous Disease type の脳梗塞により重度の pusher 現象を呈した患者に対して環境設定に着目し歩行練習を実施した一例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

藤井ひかり、山原史裕、岡田直秀、上野俊之：pushing により姿勢保持に難渋した症例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

伊島桃花：健常高齢者における手指運動を伴うワーキングメモリ課題による認知機能と運動機能への影響。第 58 回日本作業療法学会、北海道、2024 年 11 月 9 日

臨床腫瘍科

久田原郁夫

臨床腫瘍科は、がんに対する薬物療法を専門とする科で、日本では臨床腫瘍学会が中心となって専門医の育成に活動してきました。近年多くの新規薬剤が使用可能となり新しい薬物療法が出現するにつれ、がん薬物療法の重要性が増してきたという背景があります。現行の化学療法は従来の細胞障害性薬に加え新規の分子標的薬、さらには免疫チェックポイント阻害薬が各種がんに有効な薬剤として使用可能となっています。その投与方法も薬物療法のみならず手術前後や放射線治療との併用など複雑で多岐に渡っています。これらの治療を担当する医師はがん薬物療法に関する高い専門的知識と技量が必要となります。

臨床腫瘍科の構成は3名のうち常勤の腫瘍内科2名はがん薬物療法専門医で呼吸器がん、消化器がん、原発不明がんの診療を行なっています。非常勤の腫瘍外科1名は骨転移を担当しています。

毎週開催している臨床腫瘍科カンファレンスでは、新規症例や治療経過中の症例検討と分析をおこなっています。全職員対象の Cancer Board は、随意開催となっています。

現在のがんの診断、治療において主科のみならず個別的でかつ総合的な判断が求められる機会が増えてきています。またがん治療に特化した看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーが積極的に介入することで患者さんは多くの恩恵を受けています。このように今や、がん治療はチーム医療が基本となっておりますが、臨床腫瘍科はその司令塔の役目を担っていきたいと考えています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Taniguchi H, Uehara K, Ishikawa T, Okochi O, Akazawa N, Okuda H, Hasegawa H, Shiozawa M, Kataoka M, Satake H, et al. : BRAF V600E and Non-V600E Mutations in RAS Wild-Type Metastatic Colorectal Cancer: Prognostic and Therapeutic Insights from a Nationwide, Multicenter, Observational Study (J-BROS). 「Cancers」17(3):399、2025 年 1 月

Sudo K, Nakamura Y, Ueno M, Furukawa M, Mizuno N, Kawamoto Y, Okano N, Umemoto K, Asagi A, Ozaka M, Ohtsubo K, Shimizu S, Matsushashi N, Itoh S, Matsumoto T, Satoh T, Okuyama H, Goto M, Hasegawa H, Yamamoto Y, Odegaard JI, Bando H, Yoshino T, Ikeda M, Morizane C. : Clinical utility of BRCA and ATM mutation status in circulating tumour DNA for treatment selection in advanced pancreatic cancer. 「Br J Cancer」131(7) : 1237-1245、2024 年 10 月

Yamamoto Y, Yukami H, Yamaguchi T, Ohori H, Nagasu S, Kagawa Y, Sugimoto N,

Sonoda H, Yamazaki K, Takashima A, Okuyama H, Hasegawa H, Kondo C, Baba E, Matsumoto T, Kawamoto Y, Kataoka M, Shindo Y, Ishikawa T, Esaki T, Kito Y, Sato T, Funakoshi T, Yamaguchi T, Shimada Y, Moriwaki T. : Real-world outcomes of FOLFOXIRI plus bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer: the JSCCR-TRIPON study. 「 Int J Clin Oncol」 2024 年 8 月 28 日

Kudawara I. : Primary alveolar soft part sarcoma of the ilium: A case report and literature review. 「 J Case Rep Images Oncology 」 10(2) : 1-5、2024 年 7 月

Ando S, Futami S, Azuma K, Nishimatsu K, Shirasaka T, Minami S : Synchronous Double Primary Lung Adenocarcinomas With EGFR L858R Point Mutation and MET Exon 14 Skipping Mutation. 「J Med Cases」5 : 15(8) : 153–158、2024 年 7 月

A-3

浅井佳央理、稲垣千晶、緒方貴次、賀川弘康、賀川義槻、山東雅紀、茂原富美、長谷川裕子、水上拓郎、向井俊貴、山下 賢 : 「大腸癌治療ガイドライン 医師用 2024 年版」 金原出版株式会社、2024 年 7 月 20 日

B-2

Inamoto R, Hasegawa H, Sugiyama K, Izawa N, Mitani S, Kawakami T, Yuki S, Hirano H, Mishima S, Hamano T, Masuishi T A retrospective observational study to evaluate the efficacy of trifluridine/tipiracil ± bevacizumab in metastatic colorectal cancer with MSI-high/deficient MMR. Journal of Clinical Oncology 2025 43 : 4_suppl, 152-152. USA 2025 年 1 月

Miyashita Y, Bando H, Watanabe J, Suwa Y, Kagawa Y, Kato T, Hasegawa H, Komatsu Y, Yuki S, Asayama M, Nishina T, Inoue A, Oki E, Taniguchi H, Ohta T, Kotani D, Nakajima H, Yamamoto K, Yoshino T : Clinical validation of plasma circulating-tumor DNA assay using highly sensitive Safe-SeqS technology for detecting *RAS* and *BRAF* V600E in metastatic colorectal cancer. Journal of Clinical Oncology 2025 43 : 4_suppl, 50-50 2025 年 1 月

B-4

久田原郁夫、吉龍澄子、安田直弘 : 第 1 中足骨に発生した 2 次性軟骨肉腫に対して血管柄付き腓骨移植術をおこなった 1 例。第 57 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、福井市 2024 年 7 月 11 日-12 日

宮城和代、長谷川裕子、野田拓誠、長谷川英利、吉村英美、榎本佳代)、中橋麻友、青野由依、岡崎晴夏、安原加奈、正岡美幸、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏 : 外来化学療法室における irAE 早期発見につながるメディカルスタッフの関わり。第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2025 年 3 月 7 日

長谷川裕子、北川綾香、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕

子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎：Efficacy and Safety of Anti-HER2 therapy for metastatic colorectal cancer patients with HER2 amplification。第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会、神戸、2025 年 3 月 6 日

B-6

久田原郁夫：胸椎病変。SKR、2024 年 6 月 6 日

久田原郁夫：恥骨・坐骨骨病変。SKR、2024 年 9 月 5 日

久田原郁夫：下腿軟部腫瘍。SKR、2024 年 11 月 7 日

久田原郁夫：恥骨・坐骨骨病変。第 23 回近畿骨軟部腫瘍談話会、大阪、2024 年 11 月 1 日

二見真史、轟 はる加、西松佳名子、東 浩志、安藤性實、南 誠剛：CBDCA+nab-PTX+atezolizumab の投与中に後天性血友病を発症した肺腺癌の 1 例。第 132 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 第 103 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会、大阪、2024 年 7 月 20 日

B-8

長谷川裕子：法円坂フォーラム「当院における免疫関連有害事象の現状」。大阪、2024 年 7 月 6 日

長谷川裕子：がんトータルケア Web Seminar「がん治療における末梢神経障害性疼痛」。大阪、2024 年 11 月 29 日

長谷川裕子：ここまで来た！大腸癌の個別化医療「大腸癌薬物療法の治療戦略」。大阪、2024 年 11 月 27 日

薬剤部

吉野宗宏

大阪医療センターの運営方針に基づき、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、緩和ケアチーム、術後疼痛管理チーム、NST、ICT、AST、外来化学療法室及び薬剤師外来でのがん薬物療法支援等）を実践し、良質かつ適正な医療の提供に貢献することを薬剤部の基本方針としている。

1. 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として次の業務を行っている。

1) 無菌調製業務

抗がん剤の調製はレジメンと処方内容を確認し、薬剤部無菌室の安全キャビネット内で調製している（18,508 件/年）。

2) 入院センター業務

入院予定患者を対象に薬剤師による面談を行い、持参薬や副作用・アレルギーの確認を行っている。手術・侵襲的検査がある場合は、中止薬の確認を行い、患者へ服薬遵守させている（8,167 件/年）。

3) 処方提案・支援

主治医に対する主な処方提案・支援として、持参薬の代替薬の提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計等を行っている。

4) 医薬品情報の提供・相談応需

採用医薬品情報の提供や医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。

5) 薬剤管理指導業務

薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用モニタリングを実施し、薬学的アプローチを積極的に実施している。また、病棟業務の延長として高齢者のポリファーマシー対策を実践している。薬剤管理指導算定件数は 24,493 件/年であった。

2. 外来服薬支援指導

HIV 感染症専門薬剤師が「お薬の相談室」に常駐し長期的な支援体制を構築しており、外来における指導件数は 2,083 件/年であった。また外来化学療法室では治療計画、副作用等について指導を実施し、今年度は新たに薬剤師外来を開設し、医師の診察前に薬剤師が面談を行うことで医師のタスクシフティングの推進、がん薬物療法の医療安全向上に努めた。薬剤師による外来がん薬物療法患者の指導件数は 753 件/年、がん薬物療法体制充実加算件数は 120 件/年であった。

3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告は4件/年の報告を、また、プリアボイド報告としては738件/年の報告を行っている。

4. 治験薬管理業務

治験薬管理者（薬剤部長）の管理責任の下、GCPを遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行い、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。

5. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤師会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師研修施設・がん薬物療法認定薬剤師研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設・薬物療法専門薬剤師研修施設、日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師研修施設等の認定を受けており、今年度は、1名の研修生を受け入れた。また、薬学部実務実習生は25名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

6. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Kushida H, Hirota K, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T : Association between tenofovir plasma trough concentrations in the early stage of administration and discontinuation of up to five years tenofovir disoproxil fumarate due to renal function-related adverse events in Japanese HIV-1 infected patients. 「J Pharm Health Care Sci」 10(1) : 20、2024年5月

A-4

矢倉裕輝 : Evidence Update 2024 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する「抗ウイルス薬」P.118-122、南山堂、2024年1月1日

A-5

矢倉裕輝 : 適正な抗 HIV 療法の実施と HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成等を通じた人材育成に関する研究－ 厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和5年度研究報告書、P.2-8、2024年3月31日

矢倉裕輝 : 抗 HIV 療法の実施状況の把握と HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成等を通じた人材育成 厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和6年度研究報告書、P.72-75、2025年3月31日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の適正使用と HIV 感染者に対する適切な薬物療法の推進および外来チーム医療に関する研究 厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究」令和 6 年度研究報告書、P.1-4、2025 年 3 月 31 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Hirota K, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T : Association of ABCG2 genetic polymorphisms with subjective symptoms and weight gain by bictegrovir administration in Japanese HIV-1-infected patients. HIV Drug Therapy Glasgow 2024,UK,2024 年 11 月 10 日

B-3

矢倉裕輝：HIV 領域における外来診療の実際と多職種連携の重要性～薬剤師の立場から～。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

矢倉裕輝：長期療養時代の PLWH における腎機能管理の重要性～薬剤師の視点から～。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

B-4

吉金鮎美、清水彩加、青野由依、長谷川英利、畑 裕基、相木佐代、前倉俊也、櫻井真知子、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：難治性疼痛に対し、メサドンとヒドロモルフォンの併用で良好な鎮痛効果が得られた 1 例。第 17 回日本緩和医療薬学会年会、東京、2024 年 5 月 24-26 日

矢倉裕輝、日笠真一、酒井道生、天野景裕、松本剛史、鈴木 圭、日笠 聡：救急医療機関・血友病診療施設における、緊急時薬剤発注に関する調査～供給システムと薬剤師の関わり～。第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024 年 7 月 18-20 日

上野由貴、石田健一郎、大西光雄：レムデシビルの投与がワルファリンカリウムの投薬調整に及ぼす影響。第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024 年 7 月 20 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型が血漿中ビクテグラビル濃度に及ぼす影響。第 32 回日本抗ウイルス療法学会学術集会、WEB、2024 年 8 月 31 日

三井知子、小林恭子、松尾友香、濱 充代、森下典子、金村米博：治験実施状況の評価－10 年間で A 病院の治験実施状況はどのように変化したのか－。第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2024 in Sapporo、北海道、2024 年 9 月 15-16 日

千賀明日香、名畑優保、福岡利恵、森下典子、金村米博：RCA 分析を用いた逸脱管理の向上。第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2024 in Sapporo、北海道、2024 年 9 月 15-16 日

岡崎晴夏、川上智久、中内崇夫、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：錠剤自動仕分け返納装置の導入とその有用性の検証。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

中橋麻友、岡崎晴夏、青野由依、檜本佳代、吉村芙美、野田拓誠、長谷川英利、宮城和代、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：デジタルツールを活用した HBV スクリーニング：薬剤師主導の臨床成果。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

矢倉裕輝、阿部憲介、増田純一、長島浩二、山本文哉、松木克仁、山梨領太、野村直幸、河野泰宏、濱砂恵理香、小山朋子、山口泰弘、廣永竜太、平野 淳、中内崇夫、合原嘉寿、伊東隆宏、佐藤 萌、西村康人、石垣千絵、西村富啓、平野隆司、濱岡照隆、尾崎誠一、橋本雅司、吉野宗宏、山下大輔：抗 HIV 薬の処方および採用状況等に関するアンケート調査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

吉村芙美、畑 裕基、岡崎晴夏、青野由依、中橋麻友、檜本佳代、足立紗知、宮城和代、野田拓誠、長谷川英利、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：トラスツマブ デルクステカンにおける適切な制吐療法に関する調査。第 34 回日本医療薬学会年会、千葉、2024 年 11 月 2 日

海家亜希子、堀由布子、檜本佳代、清水彩加、足立紗知、上野由貴、池田 絢、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：病院から保険薬局へと繋ぐタスキ～薬剤管理サマリーによる薬薬連携～。第 34 回日本医療薬学会年会、千葉、2024 年 11 月 2 日

野田拓誠、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏、田中早織、幸田祐佳、加藤隆児：免疫チェックポイント阻害薬による間質性肺炎の重篤化と腸内細菌叢に影響を与える薬剤の関連性の検証。第 34 回日本医療薬学会年会、千葉、2024 年 11 月 3 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射剤の血中濃度に関する検討 第 2 報。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 29 日

久利 歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型がビクテグラビルの薬物動態および血清クレアチニンに及ぼす影響。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 28 日

増田純一、矢倉裕輝、松木克仁、井上正朝、田澤佑基、佐藤 萌、三枝祐美、石井

良、成田綾香、石井聡一郎、西 勇治、山口泰弘、菊地 正、潟永博之：HIV 診療ブロック拠点病院における HIV 感染症薬剤耐性調査。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 28 日

中内崇夫、矢倉裕輝、岸田啓太郎、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ドラビリンへスイッチした症例における 96 週までの糖代謝に及ぼす影響に関する調査。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 28 日

東 里映、勝本恵理香、畠中真由、井上美咲、鈴木翔太、山口 剛、伊藤明彦：当院におけるアナモレリン投与開始時期の検討。第 40 回日本栄養治療学会学術集会、神奈川、2025 年 2 月 14 日

宮城和代、長谷川裕子、野田拓誠、長谷川英利、吉村英美、植本佳代、中橋麻友、青野由依、岡崎晴夏、安原加奈、正岡美幸、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏：外来化学療法室における irAE 早期発見につながるメディカルスタッフの関わり。第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会、兵庫、2025 年 3 月 7 日

B-5

上野由貴：薬剤師の専門性が光る！大阪医療センターでの救命薬剤師の役割。第 129 回近畿救急医学研究会、滋賀、2025 年 3 月 20 日

B-7

松谷拓海、佐倉彩佳音、吉田彩莉、上野真歩、松岡明希、岡崎晴夏、藤井満里奈、中内崇夫、坂東加容子、村津圭治、山下大輔、吉野宗宏、第 20 回近畿国立病院薬剤師会学術大会、Web、2025 年 3 月 8 日

B-8

矢倉裕輝：薬学的観点から考える持効性注射剤の特徴と位置付け。HIV UP TO DATE seminar、WEB、2024 年 4 月 25 日

矢倉裕輝：患者さんのニーズを引き出す薬剤師による情報提供と関わり。HEART in Hokkaido、WEB、2024 年 5 月 11 日

矢倉裕輝：HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。神戸薬科大学講義 先端医療論、兵庫、2024 年 5 月 15 日

矢倉裕輝：血友病患者さんとの関わりと服薬相談のポイント～来局されるその日のために知っておきたいこと～。Hemophilia Meeting for Pharmacist、WEB、2024 年 5 月 18 日

矢倉裕輝：血友病チーム医療における薬剤師の役割と連携の実際。診療を繋ぐ多職種連携講演会、WEB、2024 年 6 月 17 日

上野由貴：第 54 回大阪医療センターICLS コース 。アシスタントインストラクター、大阪、2024 年 6 月 29 日

矢倉裕輝：「薬剤師力」を発揮すべき時代となった血友病診療～TDM、患者さんとのコミュニケーションの重要性～。血友病 WEB セミナー～TDM に基づいた薬剤選択と患者さんとのコミュニケーションについて～、WEB、2024 年 7 月 10 日

矢倉裕輝：長期療養を見据えた ART レジメン～3 剤？2 剤？どの薬剤？。E2 HIV Expert Forum、WEB、2024 年 8 月 27 日

矢倉裕輝：抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修会基礎コース、大阪、2024 年 9 月 9 日

中内崇夫：抗 HIV 薬の特徴と薬剤師の役割。令和 6 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2024 年 9 月 30 日

渡邊 大、矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実際。令和 6 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2024 年 9 月 30 日

中内崇夫：薬剤師の役割と服薬指導。令和 6 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 3 日

矢倉裕輝：血友病チーム医療における多職種連携の実際と薬剤師の役割。血友病 Forum2024、東京、2024 年 10 月 5 日

矢倉裕輝：処方動向、患者さんのニーズから考える ART レジメンの個別最適化。HIV Pharmacist Forum 2024、WEB、2024 年 10 月 29 日

中内崇夫：抗 HIV 療法と服薬支援について。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2024 年 11 月 18 日

上野由貴：第 55 回大阪医療センターICLS コース アシスタントインストラクター、大阪、2024 年 11 月 23 日

矢倉裕輝：処方動向から考える薬剤師が行う服薬支援。薬剤師のための！HIV 感染症長期療養マネジメントセミナー、WEB、2024 年 12 月 5 日

矢倉裕輝：HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。兵庫医科大学薬学部講義 感染制御学、兵庫、2024 年 12 月 6 日

矢倉裕輝：結核菌・非結核性抗酸菌について。兵庫医科大学薬学部講義 感染制御学、兵庫、2024 年 12 月 13 日

中内崇夫：当院におけるトレーシングレポートを用いた薬薬連携と薬剤師外来。
Doctor & Pharmacist Collaboration Seminar、WEB、2024 年 12 月 13 日

長谷川英利：保険薬局 Oncology Seminar 胃がんシリーズ研修 ～レジメン・薬薬連携について～。特定非営利活動法人 薬と医療の啓発塾、大阪、2024 年 12 月 18 日

上野由貴：第 56 回大阪医療センターICLS コース。アシスタントインストラクター、大阪、2025 年 1 月 25 日

中内崇夫：服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり～。
2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2025 年 1 月 27 日

祝洸太郎：第 57 回大阪医療センターICLS コース。アシスタントインストラクター、大阪、2025 年 2 月 8 日

矢倉裕輝：患者数と抗 HIV 薬使用動向。令和 6 年度 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 19 日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬について。令和 6 年度 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 19 日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の相互作用・血中濃度。令和 6 年度 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 19 日

中内崇夫：外来服薬指導。令和 6 年度 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 19 日

中内崇夫：薬薬連携。令和 6 年度 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 19 日

祝 洸太郎、岸田啓太郎：入院患者の服薬指導について。令和 6 年度 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 19 日

B-9

宮城和代：FM 大阪 LOVE FLAP 【DOCTOR'S FLAP】。大阪、2024 年 7 月 4 日

看護部

水戸祥江

今年度の大阪医療センターの大きな役割は、第 78 回国立病院総合医学会を当院主催で開催することでした。そのテーマが、「進化していく病院であるために～心理的安全性の高い組織づくり～」であり、看護部も進化していくために「新たなチャレンジ」をスローガンに活動してきました。

新たなチャレンジとは、現状に満足するのではなく、厳しい状況にあるからこそ何とか改善しようとする気持ちを持ち、ピンチをチャンスに変換しようとすることを示しています。そのチャレンジのためには、看護部全員が、それぞれにできることを提案していくこと。心理的安全性の高い職場であることも必須条件と考えて活動してきました。

新たなチャレンジの一つは、断らない救急を実践するために、救急外来の体制を強化したことです。日中、夜間を問わず、積極的に救急患者を受け入れるため、看護師が救急隊の電話対応を行い、トリアージを行なうことで、積極的な救急の受け入れから入院までをスムーズに行うことができました。救急外来での対応に関する問題点や課題も見逃さずに検討し、実践できるように努力してきました。

また、7月にCCUを6床に増床し、新しく整備された病室で気持ちを引き締め、新たなチャレンジを行いました。看護部全体が数年後の、病院の建て替えをイメージしながら、そこに向けて、まずは病院経営に貢献することを再確認できました。

看護師の柔軟な働き方の推進としては、夜勤追加勤務を導入しました。自分の働き方を自分で選ぶという多様性が重視されたことで、各自のライフスタイルやニーズに応じた働き方を選び、魅力ある職場づくりにつながり、ワークエンゲージメントを高めることにつながったと考えます。

看護師の特定行為研修指定研修機関として、2年目となり院外からの研修生も迎え入れ新たなチャレンジとなりました。第一期生たちも、指導者として活躍してくれ、共に学び共に成長できた一年でした。当院の研修修了生は、11名となりました。今後も日々自己研鑽を重ね、より安全で質の高い看護の提供を探究する姿勢を養いながら今後の活躍が期待されます。

今後も、看護部は専門職業人として主体的に学び自己研鑽できるような看護師を育成できるよう教育を行っていきます。また、常に新たなチャレンジを模索し、日々前進できるように、努めていきます。

【2024年度 研究発表業績】

B-3

下司有加：医療安全推進に向けた新たな試み。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

B-4

坪倉美由紀：A 病院における血液培養汚染率の評価と課題。第 39 回日本環境感染学会学術集会、京都、2024 年 7 月 27 日

假屋真帆：多発外傷後の若年の患者に対して包括的排尿ケアを行い排尿自立に至った 1 例。第 31 回日本排尿機能学会、福島、2024 年 9 月 6 日

木村まゆみ：当院における看護師と看護補助者の協働の推進に向けた現状調査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

矢野美紀：自分のレジリエンスの傾向を知り、心の回復力を養おう！。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

尾崎友香：CCU における看護師の心理的安全性についての研究。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

宇土美賀子：「当院における ICU ダイアリーの導入による有用性についての検討」について。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

竹橋りの：経験が浅い助産師が実践する乳房外来における乳腺炎予防の検討～外来受診後乳腺炎が悪化した症例を通して～。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

東 政美：HIV 陽性者の療養支援と地域の暮らしを支えるための連携。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

藤堂綾香：手術室での指導方法の統一化・質向上のための取り組み～思考発話法を活用した現任教育（OJT）導入後の調査研究。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

山本里穂：手術室看護師の術後疼痛管理に関する認識の実態調査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

坪倉美由紀：手指衛生改善に向けた取り組み～WHO 手指衛生多角的戦略 1 年目の活動評価と課題～。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

西山千晴：緊急産後ケア入所で育児不安が強い母児を受けた 1 症例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

桂 大樹：心不全患者と転倒リスクの関係性についての研究。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

假屋真帆：多発外傷後の若年の患者に対して包括的排尿ケアを行い排尿自立に至った 1 例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

大西智美：救急外来におけるインシデントの要因分析。近畿救急医学研究会、滋賀県、2025 年 3 月 20 日

B-6

山形久美：A 病院における養育支援を必要とする妊産婦の早期把握に関する調査。第 66 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2024 年 9 月 7 日

大内菜々望：口腔内評価スケールと口腔ケアフローチャートの導入による口腔ケアの実施状況の変化について。第 66 回近畿地区国立病院看護学会、大阪、2024 年 9 月 7 日

栄養管理部

内藤裕子

栄養管理室では、管理栄養士がチーム医療の一員として専門性を発揮すると共に、各科カンファレンスへの積極的な参加と管理栄養士の病棟担当制の推進によりメディカルスタッフとの連携強化を図り、入院患者の栄養状態維持改善、免疫力低下防止、治療効果及びQOL向上に向け継続的に努めている。

栄養食事指導では、個人指導と各種教室である集団指導を実施し、糖尿病や腎臓病、循環器疾患等の慢性疾患や術前術後等についても積極的に取り組み、臨床研究にも繋がっている。

食事提供では、術前術後の栄養管理、化学療法での食欲低下患者、摂食嚥下障害患者、食物アレルギー患者等への個々に対応した食事、摂食嚥下に配慮した食事の提供を行っている。

今年度の栄養管理室で行った主な取り組みについて下記に示す。

1. 栄養サポートチーム

平成 25 年 6 月より栄養サポートチームを嚥下障害・内科系疾患とがん・外科系疾患の 2 チーム体制により専門性に特化した細やかな対応を実施し、COVID-19 入院患者のすべてを NST 介入とし、栄養管理の観点から診療支援を継続して行った。管理栄養士の病棟担当制により、医師、看護師との連携やアセスメントの充実をはかると共に、スタッフ間の栄養管理についての理解も深まり、より重点的な活動を行うことができた。また、令和 4 年度より摂食嚥下チームが傘下に入り、週 1 回のカンファレンス及びラウンドにて摂食嚥下の評価を行った。年間依頼件数は 305 件(内、COVID-19 186 件)、年間算定件数は 1087 件(内、COVID-19 0 件)であった。歯科医師連携加算は 195 件であった。また、摂食嚥下回復体制加算 2 は 49 件であった。

2. 栄養食事指導

術前術後患者、糖尿病教育入院、循環器疾患、腎臓病、摂食嚥下障害やサルコペニア等の栄養食事指導を積極的に実施している。平成 29 年 2 月からの栄養指導室増設により充実が図られた。年間指導件数は 4,128 件であった。

3. 1 型糖尿病専門外来指導

1 型糖尿病患者を対象に、平成 25 年 7 月より食事や活動、インスリン量などについての外来栄養指導を開始、インスリンポンプ導入患者に対するカーボカウント、ポンプ機能等の説明、患者自身による食事に合わせたインスリン調整など内容的も充実したものとなっている。年間指導件数は 348 件であった。

4. 糖尿病透析予防指導管理料及び慢性腎臓病透析予防指導管理料

糖尿病透析予防指導は、平成 24 年度から新設され、医師、看護師、管理栄養

士のチームにより月 3 回実施、年間 10 件であった。今年度 10 月より新設し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士のチームにより週 1 回実施、年間 10 件であった。

5. 特定集中治療室管理料 早期栄養介入管理加算

特定集中治療室において、早期離床・在宅復帰を推進する観点から、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・専任管理栄養士等と共にチーム体制を整備し、令和 2 年 4 月より ICU・7 月より CCU の早期栄養介入管理を実施し、令和 3 年 7 月より救急救命センターICU、令和 5 年度 4 月より救急救命センターHCU・SCU へ拡大を行い、栄養管理の充実を図った。年間算定件数は 8,465 件となった。

6. 緩和ケア個別栄養管理加算

緩和ケアを要する患者に、体力を維持し免疫力を高め、治療を支えられるよう栄養管理を行っている。年間算定件数は、419 件であった。

7. 周術期栄養管理実施加算

令和 4 年 7 月より、全身麻酔を実施した患者に対し周術期における術前・術後の適切な栄養管理を行い、周術期の栄養管理の充実を図った。年間算定件数は 2,109 件であった。

8. Nutrition Week

今年度もニュートリションウィークとして、栄養管理の最新・高度の知識・技術を修得させ、サービスの質と提供体制の均質化及び向上を図ることを目的に、日本栄養治療学会「NST 実習技能研修」を 6 月 3 日～6 月 10 日(平日 6 日間)に開催した。当院と機構病院、民間病院より 24 名を受け入れた。

【2024 年度研究発表業績】

B-4

鈴木翔太、吉田比呂規、村上智徳、勝本恵理香、源藤真由、畠中真由、井上美咲、山根あゆみ、内藤裕子、村上翔子、伊藤明彦：Refeeding 症候群高リスク患者への早期介入。第 78 回国立病院総合医学会、京都、2024 年 10 月 18 日

B-6

鈴木翔太、勝本恵理香、源藤真由、畠中真由、井上美咲、東里映、山根あゆみ、内藤裕子、村上翔子、伊藤明彦：Refeeding 症候群高リスク患者への早期介入。第 16 回日本栄養治療学会近畿支部学術集会、京都、2024 年 7 月 20 日

ケアサポートチーム（緩和ケアチーム）

当院のケアサポートチームは 2004 年に、院内のがん緩和ケアを目的として多業種からなる「がんサポートチーム」という名称で発足しました。当初はがん告知の補助やオピオイドの使用方法などの依頼がありましたが、がん医療従事者の緩和ケア研修会終了者の増加や疼痛緩和に対する認識が上昇してくるにつれ、チームが受けるコンサルテーションの内容も多岐で複雑になってきています。最近の緩和ケアはがんのみならず苦痛を伴う全ての患者を対象にするという趨勢になってきており、それに伴い当チームはがん以外の疾患も対応するため名称を「ケアサポートチーム」に改めました。また心不全など循環器疾患に対する緩和ケアが保険で認められるようになり、実際当院でも循環器疾患患者にも介入しています。

チームでは他業種カンファレンスを毎週行い症例ごとの問題点を取り上げ、回診や診察を通じて改善策を検討し主治医や病棟看護師へと提案しています。病状の変化や新たな問題点に前線の実動メンバーは迅速に行動し対応策の構築に努めています。

月 1 回の運営会議では、介入件数や症例インシデントの解析、緩和に関連する学会、研究会、セミナーの開催計画について討論しています。

近年、がん患者における身体および精神の活動性低下を防止するための運動器管理の重要性が唱えられています。具体的には骨転移、臓器の障害など原疾患に由来するもの、治療に関連する諸症状、さらに老化に伴う非がん性変性疾患、これらを総合的に対応する必要性があります。当院ではすでに多くのがん入院患者において理学療法士を含むチームが介入し、適切な移動方法や機能維持と改善に努めています。これらは、維持的、緩和的がんリハビリテーションに該当するものですが、本年度よりがんの術前および回復期リハビリテーションを、各種臓器別にパスに組み入れより拡大したがんリハビリテーションシステムを構築していく予定にしています。

また当院はがん診療連携拠点病院として年 1 回、厚生労働省委託事業 PEACE プロジェクトの緩和ケア研修会を当チームが中心になって開催しています。ここ数年がん治療には従事していない診療科や若手の医師が多く受講し、緩和ケアの基本を習得できる良い機会となっています。

構成メンバー

医師、看護師、薬剤師、MSW、栄養士、心理士、理学療法士

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Matsuda Y, Hasuo H, Narita K, Matsuoka H, Morita R, Kiuchi D, Ikari T, Hori T, Okazaki K, Sakai K, Aiki S, Okabayashi H, Oyamada S, Ariyoshi K, Tokoro A, Fukunaga M., Relationship between dyspnoea and related factors in

patients with cancer : a cross-sectional study. 「BMJ Support Palliat Care. 」
13(e3) : e1126-e1132 、2024 年 1 月 8 日

A-2

相木佐代、平山貴敏、五十嵐江美、佐々木千幸、田上恵太：10 スピリチュアル
ペインへの対応「今夜からもう困らない!夜の症状緩和」南江堂、東京、2024 年
5 月 29 日

A-3

関根知嘉子、長谷川友美、相木佐代、巽 啓司、平尾素宏：終末期がん患者の療
養場所以降調整の現状と調整中止となる要因に関する後方視的検討「癌と化学療
法」51(9) : P919-923、2024 年 9 月

B-3

相木佐代：日本緩和医療学会のブランディングって？第 29 回日本緩和医療学会
学術大会 第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会、神戸、2024 年 6 月 14 日

相木佐代：オピオイド自己管理への取り組み —医療安全と運用の簡便さのバラ
ンスを模索する—。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

B-8

相木佐代：心不全患者の終末期ケアと意思決定支援のポイント。東京、2024 年
7 月 20 日

相木佐代：心不全患者の終末期ケアと意思決定支援のポイント。大阪、2024 年
6 月 30 日

相木佐代：がん患者の痛み・倦怠感・呼吸困難/鎮静の看護ケア。大阪、2024 年
9 月 22 日

相木佐代：がん患者の痛み・倦怠感・呼吸困難/鎮静の看護ケア。東京、2024 年
9 月 8 日

相木佐代：にしはらクリニック・訪問看護ステーション合同講演会「在宅におけ
る心不全緩和ケア」、大阪、2024 年 5 月 28 日、6 月 25 日 7 月 23 日、8 月 27 日、
9 月 24 日、10 月 22 日、11 月 26 日、12 月 24 日、2025 年 1 月 28 日、2 月 25
日、3 月 25 日の全 11 回

相木佐代：医療法人優幸会講演会「ACP」、大阪、2024 年 7 月 30 日、10 月 29
日の全 2 回

相木佐代：がん教育、大阪、2024 年 6 月 20 日、6 月 21 日、7 月 10 日、10 月 17
日、10 月 31 日、11 月 29 日、12 月 2 日、12 月 9 日、2025 年 1 月 15 日、2 月

21 日の計 10 回

B-9

相木佐代：FM 大阪『LOVE FLAP』、2024 年 12 月 5 日

臨床心理室

田宮裕子

平成 19 年 7 月より臨床心理室は、①病院の理念に基づく事業であること、②質の高い医療の提供に貢献すること、③疾患と心理状態の関連が研究されていること、④医療者-患者関係と保健行動との関連が医療の効果を左右すること、⑤診療科間のサービスの格差をなくすこと、以上 5 点の目的や理由により、全診療科の患者やその家族等に対応可能な臨床心理室として再編された。今年度は常勤心理療法士 6 名、非常勤心理療法士 2 名、薬害 AIDS 遺族専門家相談員 1 名、合計 9 名体制である。

現在臨床心理室は、臨床心理室運営委員会で審議した活動目標や計画をもとに、患者や家族等の心理相談、心理検査、各診療科・チームとのリエゾン・コンサルテーションといった心理臨床活動に加え、臨床心理室内のカンファレンス、臨床心理学専攻の大学院生の実習受け入れ、近畿グループ管内のメンタルヘルス相談、心理に関する研修の企画・運営・講義・講演、そして、研修を主に行っている。

当臨床心理室では従来日々の臨床に加えて、厚生労働行政推進調査事業費補助金による HIV 関連の研究班に分担研究者や協力者として参与し、HIV 陽性者の心理学的問題や、HIV 医療における心理臨床に関する研究を積み重ねている。また、各種セミナーや研修会において積極的に事例発表を行い、自己研鑽に務めている。調査研究や事例研究を心理臨床学会や日本エイズ学会などの学会において発表することにより、総合病院における臨床心理室の役割を他施設に伝え、医療の総合的な充実に資すること、当臨床心理室にとって重要な任務であると認識している。

【2024 年度 研究発表業績】

B-3

安尾利彦：心理士として陽性者の「強さ」「弱さ」をどう理解し関わるか。シンポジウム 1 HIV とともに生きる人はどこまで強くならなければならないのか？。第 38 回日本エイズ学会学術集会総会、東京、2024 年 11 月 28 日

安尾利彦：医療機関における希死念慮・自殺企図。シンポジウム 3 “生きていたい”を支える支援と社会を目指して～HIV 陽性者の自殺とメンタルヘルスを考える～。第 38 回日本エイズ学会学術集会総会、東京、2024 年 11 月 28 日

B-4

神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊 大：HIV 陽性者の受診中断・再開・継続理由とその心理的背景に関する研究。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

山田富秋、早坂典生、種田博之、入江恵子、小川良子、宮本哲雄：日常的な気遣

い（ケア）から生まれる新しい関係性ー親密圏から得られた人生の転換点。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 29 日

B-8

富田朋子：メンタルヘルス。大阪医療センター新採用職員研修、大阪、2024 年 4 月 2 日

森田眞子：メンタルヘルス～セルフケア・ストレスマネジメント～（講義・実習）。人事院近畿地区新採用職員研修、大阪、2024 年 4 月 9 日

富田朋子：心理士の話の聴き方。大阪医療センター西 5 階病棟勉強会、大阪、2024 年 8 月 16 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援、HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際。HIV/AIDS 看護師研修会基礎コース、大阪、2024 年 9 月 10 日

西川歩美：ファシリテーション。2024 年度遺族交流会、東京、2024 年 9 月 29 日

安尾利彦：HIV とカウンセリング。HIV 感染症研修会、大阪、2024 年 10 月 1 日

東 政美、中内崇夫、岡本学、西川歩美：症例検討ー他職種との連携ー。HIV 感染症研修会、大阪、2024 年 10 月 1 日

牧 寛子：事例提供。HIV 医療におけるコミュニケーションとチーム医療に関する研修会、大阪、2024 年 10 月 2 日

森田眞子：HIV 感染症と心理支援。奈良県立医科大学 4 回生実習、大阪、2024 年 10 月 3 日

安尾利彦：新人看護師とメンタルヘルス。ラダー教育研修 ラダーI、大阪、2024 年 10 月 7 日

宮本哲雄：神経心理検査と事例検討。2024 年度 HIV 感染症医師実地研修会、大阪、2024 年 10 月 16 日

安尾利彦、森田眞子：ファシリテーション。緩和ケア研修会、大阪、2024 年 10 月 26 日

森田眞子：HIV 陽性者の心理的支援。HIV 陽性者の看護③チーム医療：チーム診療の実際、HIV/AIDS 看護師研修会初心者コース、大阪、2024 年 11 月 19 日

森田眞子：公認心理師による支援の実際。公認心理師実習演習担当教員養成講習会、オンライン、2024 年 11 月 22 日

牧 寛子：事例提供。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2024 年 12 月 6 日

西川歩美：事例提供。近畿ブロック HIV 医療におけるカウンセリング研修会、大阪、2024 年 12 月 6 日

安尾利彦、富田朋子、宮本哲雄、西川歩美、水木 薫、牧 寛子、神野未佳：ファシリテーション。2024 年度遺族交流会、京都、2024 年 12 月 8 日

森田眞子：公認心理師による支援の実際。公認心理師実習演習担当教員養成講習会、オンライン、2024 年 12 月 21 日

安尾利彦：コメンテーター。令和 6 年度中四国ブロック包括的 HIV カウンセリング研修会、岡山、2025 年 1 月 11 日、12 日

安尾利彦：教育講演 中年期から高年期における HIV 陽性者のメンタルヘルスの変化とその支援。令和 6 年度全国の HIV 診療に携わる看護職と心理職の相互交流セミナー メンタルヘルスに課題のある HIV 陽性者に対する看護職と心理職が協働する支援とは Vol.2、東京（オンライン）、2025 年 1 月 31 日

安尾利彦：総合討論。令和 6 年度全国の HIV 診療に携わる看護職と心理職の相互交流セミナー メンタルヘルスに課題のある HIV 陽性者に対する看護職と心理職が協働する支援とは Vol.2、東京（オンライン）、2025 年 1 月 31 日

森田眞子：実践報告：実習の受入にかかる準備や工夫。中国四国グループ心理療法士スキルアップ研修、オンライン、2025 年 2 月 13 日

安尾利彦：指定討論。令和 6 年度東海ブロック HIV カウンセラー拡大会議、愛知、2025 年 2 月 15 日

宮本哲雄：HIV 感染症と物質依存、認知症。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 20 日

森田眞子：服薬支援～カウンセラーの視点から、服薬支援ロールプレイ指導。HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修、大阪、2025 年 2 月 20 日

安尾利彦：HIV 医療における心理臨床の実際-傷つきの体験と自己愛をめぐって-。第 170 回岡山 HIV 診療ネットワーク研究会、岡山（オンライン開催）、2025 年 2 月 25 日

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」

構成員

平尾素宏副院長、田宮裕子精神科科長、渡邊裕美子副看護部長、
向平昌浩管理課長、岡本裕子保健師、富田朋子心理療法士

メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」は、当院職員のメンタルヘルス、なかでも主に1次予防（メンタルヘルスに関する情報提供・教育研修・環境改善）と2次予防（メンタルヘルス不調の早期把握・早期対策）に関する企画、立案、評価、対策を行う組織横断的なチームである。

平成18年における厚生労働省からの「労働者の心の健康づくりのための指針」の改定に基づき、「事業者が自らの事業場におけるメンタルヘルスカを積極的に推進すること」との指針に従い、平成23年4月からの院内での立ち上げの準備期間を経て、安全衛生委員会の下部組織として平成24年1月に本格的な活動を開始した。

チームの愛称である「なのはな」は、菜の花の花言葉「豊かな日々」「快活」に由来しており、「職員一人ひとりが心豊かに、生き生きと働くための職場づくりをサポートしたい」という願いが込められている。

「なのはな」がこれまでに取り組んできた主な活動は大きくわけて、1) 職員からの個別相談、2) チームの広報と情報提供、3) 教育研修、4) 危機介入、以上4つである。

- 1) 職員からの個別相談：相談窓口を設け、本人およびその上司や同僚からの相談について、精神科医1名と臨床心理士1名で対応している（精神科診療や心理療法の提供はせず、コンサルテーションのみとしている）。
- 2) チームの広報と情報提供：ネームプレートに入れることができる、相談窓口を記載したカードを作成した。また院内広報誌になのはな便りを掲載した。
- 3) 教育研修：新入職者オリエンテーション時の講義に加え、ラインケア研修、セルフケア研修を企画運営またはその協力をしている。
- 4) 危機介入：入院患者の自殺等の緊急事態が発生した際、現場に暴露された職員の個別面談、グループミーティングを実施する。

3. 今年度の主な活動状況

- 1) 定例連絡会議：計11回（令和6年4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、9月13日、10月11日、11月8日、12月13日、令和4年1月10日、2月14日、3月14日）
 - 2) 研修会（企画運営および協力）：新規採用職員研修（令和6年4月2日）
- メンタルヘルスサポートチーム「なのはな」 令和6年度業績

【2024年度 研究発表業績】

B-8

富田朋子：メンタルヘルス。新採用職員研修 大阪医療センター、大阪、2024 年
4 月 2 日

臨床工学室

渋谷 博美

臨床工学室

1. 臨床工学室スタッフ紹介

渋谷 博美（医師、副院長、臨床工学室室長）

中村 貴行（臨床工学技士長）

- ・体外循環技術認定士
- ・国立病院機構近畿グループ臨床工学専門職

四井田 英樹（副臨床工学技士長）

- ・体外循環技術認定士
- ・呼吸療法認定士

宮川 幸恵（主任臨床工学技士）

- ・体外循環技術認定士
- ・透析技術認定士
- ・日本体外循環技術医学会 総務・安全委員・情報委員
- ・大阪府臨床工学技士会 循環器部門委員

樋口 栄二（院内主任臨床工学技士）

- ・呼吸療法認定士
- ・救急救命士
- ・大阪 DMAT 隊員

中崎 宏則（院内主任臨床工学技士）

その他 10 名

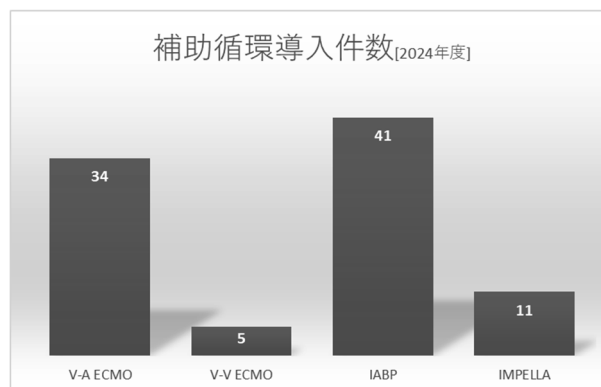
2. 診療業務実績

臨床工学室は生命維持管理装置の管理・操作を中心に診療業務を行うとともに、当直およびオンコール体制にて緊急診療に対しても 365 日 24 時間、柔軟に対応している。また、生命維持管理装置の動作点検を日々行い医療安全の向上に貢献している。

a) 人工心肺・補助循環業務

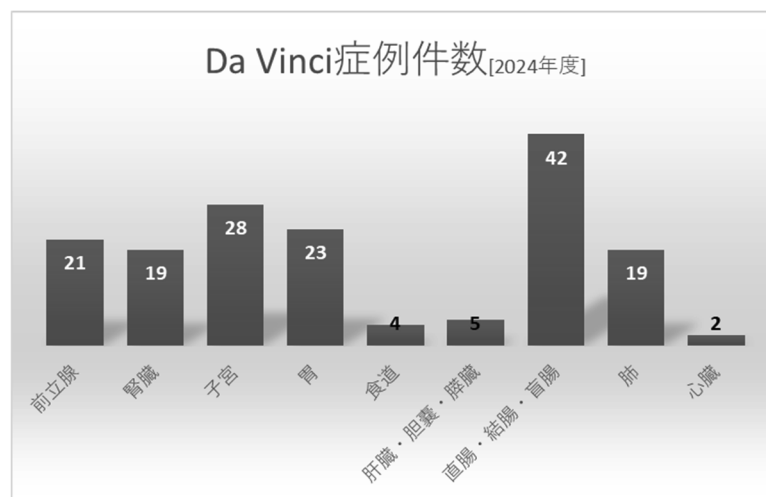
臨床工学技士 2-3 名体制で心臓血管外科手術における人工心肺装置ならびに周辺機器の管理・操作業務を担い、週 3 回の定期手術および緊急手術に対応している。また、手術室・心臓カテーテル室・初療室・集中治療室における V-A および V-V ECMO・IABP・IMPELLA の管理・操作業務を行っている。

人工心肺件数[2024年度]
68件



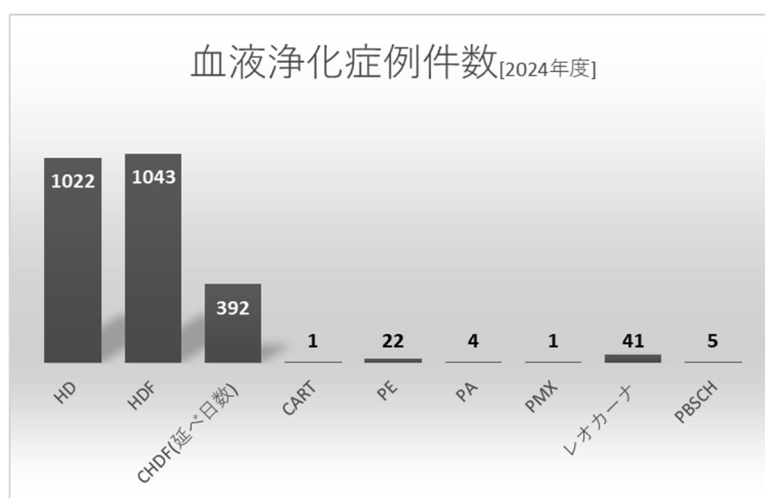
b) 手術室業務

ロボット支援下手術において DaVinci Xi の機器管理・操作および周辺機器の管理などを行っている。その他、術中の CIEDs 対応や医療機器トラブル対応。エネルギーデバイスを含む医療機器の定期メンテナンスや機種選定および定数見直しなどに携わっている。



c) 血液浄化業務

人工腎室では臨床工学技士が2-3名常駐し、各種血液浄化装置の管理・操作業務およびRO装置（逆浸透水製造装置）の水質管理を行っている。業務範囲追加に伴う厚生労働大臣認定研修を受講したスタッフにおいては、穿刺・抜針業務にも介入している。また、重症患者に対して集中治療室にて持続緩徐式血液透析濾過(CHDF)などの各種急性血液浄化療法の管理・操作を行っている。その他、アフエレーシス療法(PE・PA)や直接血液還流療法(PMX・レオカーナ)、腹水濾過濃縮再静注療法(CART)、末梢血幹細胞採取(PBSCH)も実施している。

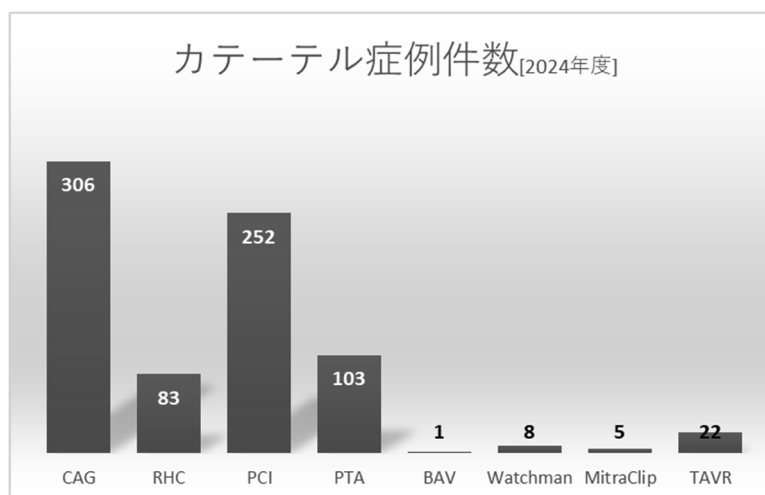


d) 医療機器管理業務

医療機器管理センターにて、CEIA(医療機器管理システム)を用いた医療機器台数管理と保守点検管理を行っている。さらに、医療機器に関連する物品の在庫管理および新規購入医療機器選定を行うことで経費削減に努め、病院経営に貢献している。(今年度削減実績は-5,979,865 円)診療部門では医療機器トラブル対応や搬送用人工呼吸器装着患者の搬送立ち合い、使用中の人工呼吸器に対する日々の巡回点検を実施し、医療事故防止に努めている。さらに RST の一員として人工呼吸器管理や呼吸ケアに関する支援を行い、患者の早期呼吸機能改善に努めている。

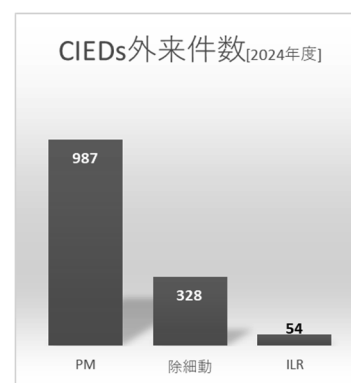
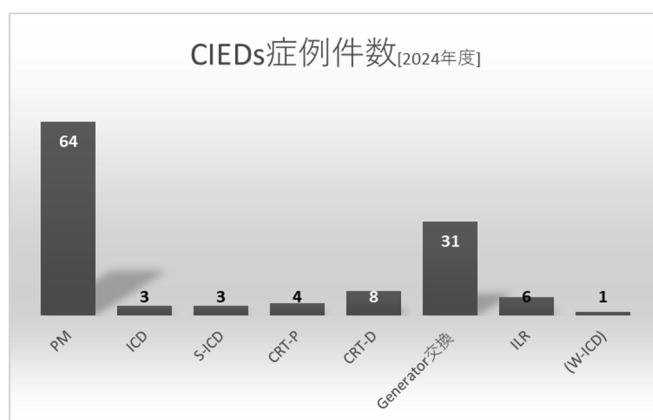
e) 心臓・下肢カテーテル業務

カテーテル室における臨床用ポリグラフの操作・管理や外回り業務を担うとともに、『PCI』や『PTA』においては Imaging Device(IVUS・OCT)や Atherectomy Device(Rotablator 等)の操作を行っている。さらに WATCHMAN・Mitra Clip・BAV の治療サポートも担っている。今年度より TAVR(経カテーテル大動脈弁植え込み術)が新規治療として開始予定され、22 件実施している。



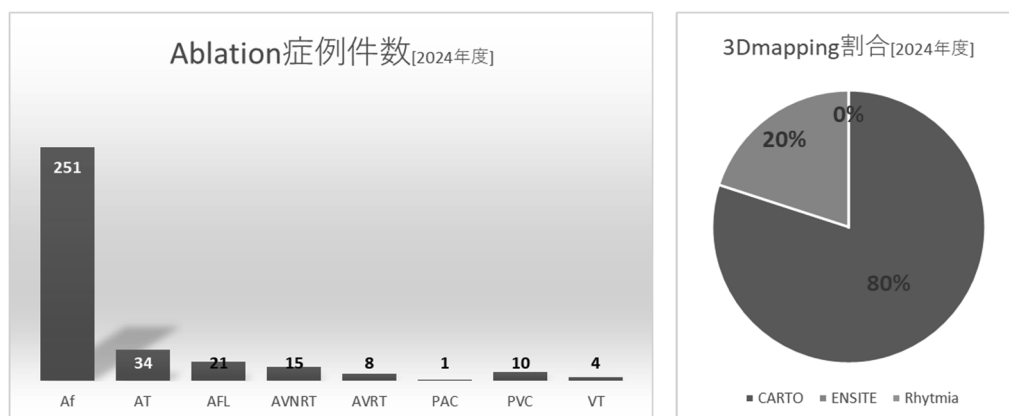
f) CIEDs 業務

CIEDs の新規植え込み術や電池交換術におけるプログラマー操作を担当している。また、循環器外来患者の定期 CIEDs チェックや遠隔モニタリングも行っている。その他にも、救急外来における臨時 CIEDs チェック、電気メス使用時対応や CT・MRI・放射線治療時対応などの CIEDs に関連する多種多様なオーダーに対応している。



g) 心臓アブレーション業務

臨床工学技士2名体制でEPS用ポリグラフ・スティムレータ・3D Mapping Systemの操作を担当し、頻脈性不整脈の心内電位解析を行うことで治療のサポートを行っている。今年度は当院にて日本初症例となるジョンソンエンドジョンソン社製Pulse Field Ablation(PFA)が実施された。さらに、Medtronic社およびBoston Scientific社のPFAも順次実施開始している。



h) 集中治療業務

ICUと救命救急センターに臨床工学技士が各1名常駐し、様々な医療機器(人工呼吸器・CHDF・補助循環装置など)の点検・操作・管理を行っている。また、患者の治療アセスメントにも積極的に介入し、『重症患者対応体制強化加算』の基準に見合う集中治療の提供に尽力している。

i) 教育・研修

生命維持管理装置(人工呼吸器、補助循環装置など)の院内向け勉強会を定期的に行っている。臨床工学室の教育体制としては、新人教育プログラムなどを設けるとともに、認定士資格取得に向けたスキルアップ教育も行っている。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Fukuzumi S, Mandour AS, Farag A, Yoshida T, Nishiura A, Yotsuida H, Yaginuma Y, Matsuura K, Tanaka : R Speckletracking echocardiography for evaluation of myocardial functions before and after mitral valvuloplasty in dogs Frontiersin 「Veterinary Science」 2024 年 10 月 28 日

B-3

四井田英樹：人医療から獣医学部大学院進学へ-新たな opportunity の探求-。第 49 回日本体外循環技術医学会大会、旭川、2024 年 10 月 12 日

四井田英樹、宮川幸恵、樋口英二、中崎宏則、藤井順也、守田佳保里、丸宮和也、町屋敷 薫、高橋駿平、榎尾圭一郎、伊藤綾乃、皆川文杜、橋本奈央、中村貴行：獣医学部大学院に挑み、パラレルキャリアの習得を目指す。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

四井田英樹：国立病院機構に勤務する臨床工学技士の心理的安全性に関する調査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

Yotsuida H : A Nation-wide Questionnaire Survey on Myocardial Protection in Cardio-Aortic Surgery 。第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会、金沢、2024 年 11 月 2 日

藤井順也：メディカルプロフェッショナル教育講演 2-デバイスディベートセッション：～こんな症例自分にまかせろ！！はいよろこんで～。第 17 回デバイス関連冬季大会、福岡、2025 年 2 月 21 日

B-4

丸宮和也、吉龍正雄、中村貴行、四井田英樹、宮川幸恵、三村一眞、部坂 篤、岩谷博次：抗 NMDA 受容体脳炎に対して単純血漿交換と選択的血漿交換を施行した 1 例。第 69 回日本透析医学会 学術集会・総会、横浜、2024 年 6 月 7 日

藤井順也、中崎宏則、高橋駿平、榎尾圭一郎、四井田英樹、中村貴行：新 CARTO SOUND モジュール「Advanced Mapping Technology」の使用経験。第 10 回全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術大会、札幌、2024 年 7 月 14 日

丸宮和也、四井田英樹、宮川幸恵、中村貴行：抗 NMDA 受容体脳炎に対して単純血漿交換と選択的血漿交換を施行した 1 例。第 10 回全国国立病院機構臨床工学技士協議会学術大会、札幌、2024 年 7 月 14 日

樋口栄二、藤井順也、町屋敷薫、高橋駿平、丸宮和也、伊藤彩乃、坂上莉子、中村貴行：集中治療室における臨床工学技士の専従化による効果。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

榎尾圭一郎、中崎宏則、藤井順也、守田佳保里、町屋敷 薫、高橋駿平、中村貴行：CARTO®3 システム Version 8 と Elevate™Module の使用経験。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

丸宮和也、中村貴行、宮川幸恵、四井田英樹、三村一眞、部坂 篤、岩谷博次：カルシウムコントロールに難渋した横紋筋融解症に対し CRRT と IRRT を施行した一例。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

B-6

藤井順也：増殖する PVC!?. 第 3 回 KCATS セミナー、大阪、2025 年 3 月 1 日

藤井順也：通信不能を突破!?. 第 3 回 KCATS セミナー、大阪、2025 年 3 月 1 日

B-8

藤井順也：カテ室での異常心電図。国立病院機構臨床工学技士近畿支部協議会セミナー、Web、2024 年 6 月 25 日

宮川幸恵：人工肺交換ハンズオン。第 49 回日本体外循環技術医学会大会、旭川、2024 年 10 月 13 日

丸宮和也：透析における PMMA のメリット。東レ・メディカル PMMA Web セミナー、Web、2024 年 12 月 10 日

Yotsuida H：Making the University of Florida the Global Hub for Veterinary Perfusion, University of Florida, 2025 年 1 月 21 日

院長室

松村泰志

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Takeuchi T, Ueda Y, Kosugi S, Ikeoka K, Yamane H, Ohashi T, Iehara T, Ukai K, Oozato K, Oosaki S, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y. The impact of door to extracorporeal cardiopulmonary resuscitation time on mortality and neurological outcomes among out-of-hospital cardiac arrest acute myocardial infarction patients treated by primary percutaneous coronary intervention. 「Am Heart J Plus」 14 : 47 : 100473、2024 年 10 月

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Nakashima K, Matsumura Y, Takeda T. : Assessment of Follow-Up for Pulmonary Nodules from Radiology Reports with Natural Language Processing. 「Stud Health Technol Inform」 22 : 316 : 1795-1799、2024 年 8 月

Yusof MM, Takeda T, Shimai Y, Mihara N, Matsumura Y. Evaluating health information systems-related errors using the human, organization, process, technology-fit (HOPT-fit) framework. 「Health Informatics J」 30(2)、2024 年 4 月

Konishi S, Manabe S, Shimai Y, Namiuchi Y, Sugimoto K, Wada S, Okada K, Matsumura Y, Takeda T. Implementation of a Multilingual Electronic Medical Questionnaire: For Use Inside or Outside the Hospital. 「Stud Health Technol Inform」 25 : 310 : 1360-1361、2024 年 1 月

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Manabe S, Matsumura Y, Takeda T. Classification of Diagnostic Certainty in Radiology Reports with Deep Learning. 「Stud Health Technol Inform」 25 : 310 : 569-573. 2024 年 1 月

Okada K, Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Manabe S, Matsumura Y, Takeda T. Development of the Clinical Specimen Information Management System for Multicenter Clinical Studies. 「Stud Health Technol Inform」 25 : 310 : 119-123. 2024 年 1 月

A-6

松村泰志 : 第 78 回国立病院総合医学会の概要「医療の広場令和 7 年 1 月号」 65 : P40-42、公益財団法人政策医療振興財団、2025 年 1 月 10 日

B-3

松村泰志: 電子カルテに入力される臨床データを流通・活用するためのシステム。
第 24 回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会、東京、2024 年 8 月 18 日

B-5

松村泰志：健康と医療の情報を自分で管理して役立てるには。第 6 回 NeXEHRs シンポジウム、東京、2024 年 5 月 20 日

松村泰志：禁忌・アレルギー情報の記載・管理のあり方。医療安全全国共同行動 第 18 回オンラインセミナー、Web、2025 年 2 月 18 日

－臨床研究センター－

臨床研究センター

臨床研究センター長 金村米博

当臨床研究センターは、前身の旧国立大阪病院臨床研究部として昭和 54 年（1979 年）4 月に設置され、本年度で設置後 44 年目、平成 20 年（2008 年）の臨床研究センター昇格後、17 年目を迎えた。現在の体制は、4 部（先進医療研究開発部、エイズ先端医療研究部、EBM 研究開発部、臨床研究推進部）12 室で構成され、専任職員 9 名（臨床研究センター長 1 名、部長 1 名、室長 3 名、室員 4 名）に加え、院内で臨床研究に関わる医師・コメディカルスタッフが併任職員として所属する。令和 6 年度は、平尾が EBM 研究開発部・部長、阪森が臨床疫学研究室・室長、上田が高度医療技術開発室・室長、松村が医療情報研究室・室長として新たに着任した。

令和 6 年度の研究活動としては、先進医療研究開発部においては、iPS 細胞等を用いた幹細胞・再生医療研究、ゲノム医療等の分子医療研究、エイズ先端医療研究部では、リーディング分野として HIV/AIDS 研究、EBM 研究開発部では、臨床疫学研究、がん療法研究、高度医療技術開発研究、医療情報研究、災害医療研究の分野で、各々精力的な研究を展開した。また、臨床研究推進部では、企業等からの依頼を受けて GCP（Good Clinical Practice）に則って行われる「治験」、並びに国が定める倫理指針等を遵守して各研究者が独自に行う「臨床研究」の支援業務、並びにレギュラトリーサイエンスに関わる研究を実施した。各分野において、臨床研究および治験等の実施で多数の優れた研究成果を発信したことに加えて、特許取得、競争的研究費の獲得、論文著書発表、国内外での学会発表等で数多くの実績を上げ、国立病院機構本部が令和 6 年度に実施したこれら研究活動の総合力評価において、国立病院機構運営病院に設置された全ての臨床研究センター/臨床研究部の中で、第 2 位となるトップクラスの高い評価を獲得した。

（沿革）

昭和 54 年（1979 年）4 月：前身の国立大阪病院時代に臨床研究部として設置

平成 20 年（2008 年）4 月：臨床研究センターに昇格、1 部 5 室から 2 部 9 室へ改組

病院内組織であった治験管理センターを、新たに臨床研究も含めた支援を行う臨床研究推進室として臨床研究センターに編入

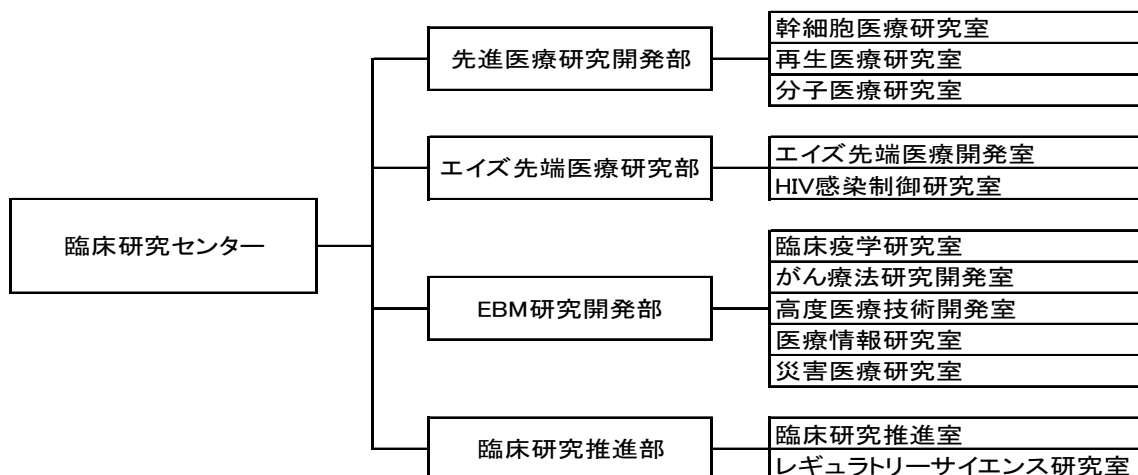
平成 23 年（2011 年）4 月：3 部 11 室へ改組

高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室設置

平成 25 年（2013 年）4 月：DMAT 西日本拠点に指定されたのに伴い、災害医療研究室設置

4 部 12 室へ改組（現体制）

令和 6 年度（2024 年度）組織図



臨床研究センター長 金村米博（専任）

臨床研究センターは以下の部門により構成される。

I 先進医療研究開発部

部長：金村米博（兼任）

医師に加えて、各種コメディカル部門を含む、医療を担う多種多様な全医療職が参加して、全医療職の有する専門的医学知識を医療機器の技術評価に活用し、全医療職/全医療現場が持つ医療機器に対する大小様々なニーズ/シーズの発掘を可能にする Bi-AMPS 拠点を運営し、医療機器・ヘルスケア関連製品開発とその産業振興を担う人材育成を実施する。

① 幹細胞医療研究室

室長：正札智子（専任）

幹細胞医療研究室では、再生医療研究室と共同で、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）より、神経幹細胞（自己複製と、神経系細胞を供給する能力を持つ細胞）への分化誘導技術と、細胞品質評価法の開発をメインテーマとして研究を行っている。

更に、分子医療研究室が実施している脳腫瘍の分類と治療法の判断に必須となる遺伝子の解析（分子診断）で得られた知見を元に、ヒト iPS 細胞及び由来細胞の腫瘍化に関与するマーカー遺伝子の探索を実施している。

② 再生医療研究室

室長：金村米博（兼任）

各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を実施し

ている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。

③分子医療研究室

室長：金村米博（併任）

各種遺伝子検査を用いた悪性脳腫瘍、難治性脳形成障害症等の難治性神経疾患の分子診断技術の開発と、分子診断結果を用いた病態解析研究、および新規治療法開発を実施している。

II エイズ先端医療研究部

部長：渡邊 大（専任）

①エイズ先端医療開発室

室長：渡邊 大（併任）

大阪医療センターは薬害 HIV 裁判の和解に基づく恒久対策の一環として、1997年にエイズ診療における近畿ブロックのブロック拠点病院に選定され、診療、研究、教育・研修、情報発信の機能が求められている。その中で、当研究室は、HIV 感染制御研究室および院内設置の感染症内科や HIV/AIDS 先端医療開発センターと連携し、HIV 感染症の診療におけるさまざまな問題に対して研究を行っている。

②HIV 感染制御研究室

室長：矢倉裕輝（専任）

HIV 感染制御研究室では、HIV 感染症に対する臨床における諸問題に対する研究を行っている。近年では、殆どの症例でウイルス抑制が得られるようになったが、現在の抗 HIV 薬では潜伏感染細胞を駆逐できないが故に、ほぼ一生の薬物治療が必要となる。そのため、長期にわたる薬物治療の成功を見据えた、治療レジメンの個別化の実現をメインテーマとして研究を行っている。

これまでに、HIV インテグラーゼ阻害剤の薬物動態の相違と代謝酵素の遺伝子多型の関連（J Infect Chemother. 2015, BMC Infect Dis. 2017）、非核酸系逆転写酵素阻害剤であるドラビリンの透析による薬物動態への影響（J Infect Chemother. 2023）、核酸系逆転写酵素阻害剤であるテノホビル製剤の投与初期血漿トラフ濃度が腎機能に及ぼす影響（J Pharm Health Care Sci.2024）等について研究報告を行った。

III EBM 研究開発部

部長：平尾素宏（併任）

①臨床疫学研究室

室長：阪森亮太郎（併任）

臨床疫学研究室は主に臨床情報を用いて主に消化器疾患の病態を検証し、最適な診療方針や治療方法を検討している。

②がん療法研究開発室

室長：平尾素宏（兼任）

最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しいがん治療法の開発を目的として、基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究を行っている。

③高度医療技術開発室

室長：上田恭敬（兼任）

本研究室は、循環器領域における最先端の診断技術を探求し、臨床現場への応用を目指している。特に心エコー画像を中心とした非侵襲的評価法に注力しており、従来の検査技師によるマニュアル評価に加え、AI解析による心エコー画像の自動計測、レポート作成を積極的に導入している。これにより、多くの計測項目を短時間で取得することが可能となる。

また、こうした医療技術の革新は、医師のみならず、超音波検査技師の業務効率化や教育にも大きな意味を持つ。AIを用いた心エコー画像の自動計測は、日常診療における心エコー計測の負担を軽減し、検査の再現性を高めると同時に、働き方改革の観点からも有用であると考えている。限られた時間の中で多くの症例を評価する必要がある現場において、検査精度を維持しながら作業を効率化することは、重要な課題であり、本研究室はその解決に向けた研究を推進する。

さらに、本研究室は心エコー検査から臨床アウトカムに直結させることも重視している。たとえば、心不全の早期診断と治療である、運動負荷心エコー検査によって、息切れの原因検索や無症候性にBNPが上昇した場合の病態診断は運動負荷心エコー検査の得意とするところである。これらはAI解析を融合することによって、腫瘍循環器領域、アミロイドーシスの早期診断などにも応用が可能と考えている。

AI解析や運動負荷心エコー検査による新たな画像指標が早期診断、予後予測、治療反応評価にどのように役立つかを明らかにすることで、患者ごとの個別化医療の実現も目標としている。

本研究室では、心エコーを中心とした画像診断とAIによる画像解析技術を融合させ、働き方改革につながる新しい医療技術の臨床応用の基盤を構築していくと同時に実際に運用することによってアウトカムを追求する。

④医療情報研究室

室長：松村泰志（兼任）

医療情報研究室では、効果的な医療情報システムのあり方について研究を行っている。実臨床で使えるものを目指すため、現在の病院情報システムと密接に関わるシステムとなる。まず、病院職員の業務負担を減らすためのシステムの在り方について研究を行っている。スマートフォンを活用し、輸液ポンプ、生体モニター、ナースコールのアラームを看護師が持つスマートフォンに表示させること、バイタル等の測定機器からの出力をスマートフォンで取り込み、ベッドサイドで看護記録が入力できるようにすることを目指している。また、機密性を守った上

での適切な臨床現場での AI 利用のあり方について検討する。電子カルテに記載されたデータの研究等への利用をより促進するための研究を行っている。多施設で機密性の高いテレビ会議を設置し、施設を超えた臨床カンファレンスを可能にする仕組みに取り組んでいる。

⑤災害医療研究室

室長：大西光雄（併任）

災害医療研究室では主として下記 8 カテゴリーの研究を行っている。

- ・ 院内災害対応研究
 - ・ BCP を軸とした院内の災害対応システムの研究
- ・ 医療圏における災害対応研究
 - ・ 大阪市中心部の特性を組み込んだ、医療・福祉・行政の連携を重視した災害対応の研究
- ・ 災害医療教育に関する研究
 - ・ 全日本病院医療支援班の講習内容の作成と実施
 - ・ 災害時要配慮者に関する研究
 - ・ 災害時に留意すべき疾病に関する研究
 - ・ 災害時の感染制御に関する研究
- ・ マスギャザリング医療対応に関する研究
 - ・ 大阪・関西万博における医療救護のあり方
 - ・ 人為的な多数傷病者事案に関する研究
- ・ 事態対処医療に関する研究
 - ・ 事態対処救護に関する訓練・コース開発
 - ・ 大阪府警との連携システムの構築
 - ・ 救急止血法の訓練モデルの開発
- ・ 病院前救護活動に関する教育
 - ・ プレホスピタル人員に対する動物を使った外傷対応教育
 - ・ 事故災害現場での多職種での救助活動を理解する教育資料の開発
- ・ CBRNE と呼ばれる特殊災害対応に関する研究
 - ・ 化学テロ危機管理に関する研究
 - ・ 爆傷の病態解明と医療対応に関する研究
 - ・ ローンオフエンダーへの医療対応の研究
- ・ Health Security に関する研究

IV 臨床研究推進部

部長：金村米博（併任）

①臨床研究推進室

室長：森下典子（併任）

臨床研究事業は、従来から国立病院機構が果たすべき先駆的な政策医療の一分野である。当院では治験・臨床研究の円滑な運営・管理、支援を行うことを目的に、臨床研究センター4部12室の中に「臨床研究推進部」、「臨床研究推進室」を配置している。臨床研究推進室は“治験管理部門”と“臨床試験支援部門”の2つの部門から成るが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め専ら活動の中心となっている。

②レギュラトリーサイエンス研究室

室長：松村泰志（併任）

レギュラトリーサイエンスは、科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学とされている。当研究室は、レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成23年4月に設立された。

先進医療研究開発部

部長：金村米博（併任）

スタッフ：高田愛（診療情報管理士）、渡部耕治（流動研究員、Bi-AMPS 研究コーディネーター）、松田由香子

令和 6 年度の活動実績：

AMED『優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業』の事業活動として、Bi-AMPS 拠点を基礎として、「全医療職/全医療部門が参画する先進的医療製品・システム開発を担う人材育成リスクリング拠点(Bi-AMPS^{BASE})」を設置して、以下を実施した。

拠点事業実施体制構築として、拠点長の下、医師及びコメディカル部門代表の 2 名の副拠点長を配置し、医師に加えて、看護部、薬剤部、臨床検査科、放射線科、リハビリテーション科、臨床工学室からコメディカル 6 部門代表者から構成される Bi-AMPS^{BASE} ワーキンググループ組織構築の完了、医療現場の実情に精通した 6 名の専門職で構成される Digital works Bi-AMPS 体制強化の完了、3 名の専門職を配置した製品開発支援部組織構築の完了を行った。拠点事業として、①人材育成研修事業：Bi-AMPS レクチャー・プログラム（10 回：オンライン講義）、Bi-AMPS メディカル・カンファレンス（座学講習と医療現場見学会をハイブリットさせた教育事業、1 コース 3 回開催、2024 年度テーマ：手術、滅菌材料、人工透析）、②ユーザビリティ評価事業：個別製品技術評価会（対面形式のグループミーティング：9 回開催、9 製品技術の評価）、③医療現場発ニーズ/シーズマッチング事業：医療現場発ニーズ/シーズマッチング交流フォーラム（2 回開催、第 78 回国立病院総合医学会および医工連携マッチング例会）で 11 件のニーズ/シーズ提案、を開催・実施した。広報活動として、Bi-AMPS ホームページの充実、拠点事業参加者の相談窓口開設の完了、外部フォーラム/展示会での拠点活動紹介（2 回：第 78 回国立病院総合医学会、メディカルクリエーションふくしま 2024）を実施した。拠点外機関との連携体制構築として、大阪商工会議所並びに国立病院機構所属病院（11 施設）、医療機器開発連携推進ネットワーク「和（やわらぎ）」（北海道大学、東京女子医大、京都大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、鳥取大学、大分大学）との連携関係を構築強化し、AMED 地域連携拠点自立化推進事業拠点（ふくしま医療機器開発支援センター、九州オープンイノベーションセンター）との協力関係を構築した。

今後の活動方針：

国立病院機構ネットワークを活用して、医療機器、ヘルスケア製品等の開発を支援するための Bi-AMPS 拠点を活動を更に充実させていきたいと考える。

①幹細胞医療研究室

スタッフ：正札智子（室長）、福角勇人（室員）、山本篤世（流動研究員）

令和 6 年度の活動実績：

1. ヒト iPS 細胞由来神経系細胞を用いた再生医療、及び神経毒性評価系の構築を目的とした、細胞分化誘導法と品質評価法技術の改良

ヒト iPS 細胞を用いて、再生医療応用や神経毒性評価系の構築を目指し、使用目的に応じた、安全性と有効性が担保された神経系細胞への分化誘導技術と、分子生物学的な手法を用いた細胞品質評価法の探索を実施した。

2. 神経疾患細胞の変異解析と特性解析

神経疾患患者由来の細胞試料を用い、疾患を起因する原因遺伝子の変異解析と、細胞形質の特性を、分子生物学と細胞生物学的解析を進めている。更に、患者由来 iPS 細胞を用いた解析のため、神経科学的解析が可能な十分に成熟した神経細胞の誘導技術の開発を行った。

3. 脳腫瘍の分子診断精度の向上に寄与する解析技術の開発と、ヒト iPS 細胞を用いた再生医療の安全性に関わるマーカーの探索

分子医療研究室で実施している脳腫瘍組織の分子診断の向上を目指し、予後との関連が示唆されている遺伝子の解析を行った。また医療応用を目指す iPS 細胞由来神経細胞の腫瘍化リスクの指標となるマーカーの探索を実施した。

今後の活動方針：

AMED 再生医療等実用化研究事業「慢性期脳梗塞に対する iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発」において、細胞品質評価業務を遂行する。また、再生医療事業で培われた細胞特性解析の知見を、創薬や神経疾患、及び脳腫瘍の各分野に活用して解析を進める。

②再生医療研究室

スタッフ：金村米博（室長）、隅田美穂（室員）、半田有佳子（流動研究員）、勝間亜沙子（流動研究員）、

令和 6 年度の活動実績：

1. iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発

AMED 再生医療等実用化研究事業「慢性期脳梗塞に対する iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発」において、HLA3 座ホモ iPS 細胞（京都大学 iPS 細胞研究財団から分与）から作製した iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた慢性期脳梗塞に対する再生医療の臨床研究を開始するための準備を行う研究を実施した。また、AMED 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム「遺伝子導入神経幹細胞を用いた脊髄機能再生に関する基礎研究」において、最適な移植細胞を作製するための遺伝子組換えヒト iPS 細胞作製技術開発を実施し、脊髄損傷治療用新規 iPS 細胞由来神経前駆細胞の製造法開発を実施した。

2. 新規共培養系を用いたヒト神経細胞シナプス成熟法の開発

ヒトグリア系細胞との共培養により、iPS 細胞由来神経前駆細胞から成熟シナプスを有するヒト神経細胞を分化誘導させるロバストな新規共培養系を用いたヒト神経細胞シナプス成熟法開発を更に進め、より安定的な培養系開発を実施した。

今後の活動方針：

iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脳梗塞の再生医療開発に関しては、その臨床応用実現に向けてさらに研究を加速させていくと同時に、脊髄損傷治療用の新規 iPS 細胞由来神経前駆細胞の早期実用化を目指し、遺伝子組換えヒト iPS 細胞作製技術開発を進めていく予定である。また、開発済の新規共培養系に関しては、医薬品等の安全性評価試験への応用を目指し、更なる技術改良を実施していく計画である。

③分子医療研究室

スタッフ：金村米博（室長）、兼松大介（室員）、松山裕美（室員、遺伝カウンセラー）、吉岡絵麻（臨床検査技師）、鈴木美里（臨床検査技師）

令和 6 年度の活動実績：

悪性脳腫瘍の分子遺伝学的解析として、前年度に継続して、悪性グリオーマを対象として、関西地域を中心とした 80 以上の医療機関で構成される「関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク」を主宰し、脳腫瘍検体レジストリーを行い、WHO 脳腫瘍分類に基づく中央遺伝子診断の実施と、大規模症例を用いた悪性グリオーマの分子遺伝学的特性解析を実施した。また、小児悪性脳腫瘍の中で最も頻度の高い腫瘍の一つである髄芽腫に関して、「日本小児がん研究グループ（JCCG）」が実施する「小児固形腫瘍観察研究」と特定臨床研究「小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパ／メルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第 II 相試験」（jRCTs051200021）において、全国レベルで収集された髄芽腫標本の中央分子診断を実施した。

今後の活動方針：

悪性脳腫瘍の分子診断実施体制に関しては、今後も引き続き関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク並びに JCCG での活動を継続して実施していく予定である。また、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークでの脳腫瘍検体レジストリーに関しては、その実施体制を更に充実させていきたいと考える。

エイズ先端医療研究開発部

部長：渡邊 大（専任）

①エイズ先端医療研究開発室

スタッフ名：渡邊 大、安尾利彦

令和 6 年度の活動実績：

臨床研究では厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業（令和 6 年度は「HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究」（研究代表者 渡邊 大））などを実施し、主なテーマとして HIV 感染症の病態解析や治療、メンタルヘルスなどに関する研究に取り組んだ。教育・研修では院外ならびに院内を対象とし、看護部・医療相談室・臨床心理室等と共に職員研修部と協働で実施し、多くの参加者を得ました。これらの研究成果は学会あるいは論文として発表した。

今後の活動方針：

今後も、HIV/AIDS 先端医療開発センターの研究部門として HIV 感染症/AIDS に関する臨床研究、教育・研修、情報発信を進め、治癒を目指した治療に関する研究や抗 HIV 療法の最適化に関する研究を推進して行きたい。

②HIV 感染制御研究室

スタッフ：矢倉裕輝（室長）

令和 6 年度の活動実績：

HIV インテグラーゼ阻害剤であるビクテグラビルの血漿トラフ濃度と薬物代謝酵素の遺伝子多型との関連について検討、解析を行なった。また、HIV 感染症治療薬の投与による自覚症状の発現と関連する薬物トランスポーターの探索を行い、その遺伝子多型の影響について検討、解析を行なった。

今後の活動方針：

長期にわたる薬物治療の成功を見据えた、日本人 HIV 感染者に対する治療レジメンの個別化の実現をメインテーマとして、薬物治療が有効かつ安全に実施できるよう、Pharmacokinetics(PK)、Pharmacodynamics(PD)、Pharmacogenomics (PGx) および製剤学観点からアプローチしていく。

EBM 研究開発部

部長：平尾素宏（併任）

① 臨床疫学研究室

スタッフ：阪森亮太郎（室長）、榊原祐子、山本俊祐、長谷川裕子、南誠剛、安藤性實、岡田陽子、武山雅博、藤井順也、辻本豊

令和 6 年度の活動実績：

活動実績の主体は多施設共同研究である。消化管領域においては、早期消化管癌に対する内視鏡治療の工夫や AI を用いた大腸腫瘍の検出能、大腸憩室出血に対する造影 CT 検査の有用性について報告している。また炎症性腸疾患に対する薬剤選択における LRG の有用性や、難治性の潰瘍性大腸炎に対する使用薬剤の比較についての報告も行っている。

進行癌に対する薬物療法では、遺伝子変異を踏まえた大腸癌に対する薬物療法の効果についての成果を報告している。膵癌についても ctDNA プロファイルの有用性について報告している。

進行肝細胞癌については、レンバチニブ治療における支持療法としての HMB・L-アルギニン・L-グルタミン配合飲料とロコモーショントレーニングの有用性についての非盲検ランダム化比較試験に参加し、論文報告している。またアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法の有効性に寄与する因子についても報告している。さらに本邦における進行肝細胞癌に対する全身薬物療法の一次治療の現状についても報告している。B 型肝炎では発癌に関与するバイオマーカーについて、C 型肝炎では肝硬変患者のウイルス排除後における食道胃静脈瘤関連イベントの発生率や発生に関与する因子について報告している。

また疾患啓発のためのショート動画コンテンツを作成し公開している。

今後の活動方針：

消化器疾患、呼吸器疾患、小児疾患、血液疾患を始め、幅広い領域の疾患について検証している。特に治療困難な難治性疾患は興味ある領域である。また、新しい疾患概念、たとえば MASH（metabolic dysfunction-associated steatohepatitis）などは国立病院機構ネットワーク研究など多施設でのデータ収集と解析を行っている。

② がん療法研究開発室

スタッフ：平尾素宏（室長）、高見康二、加藤健志、巽啓司、吉龍澄子、小澤健太郎、西村健作、田中英一、眞能正幸、廣瀬由美子、森清、飛梅孝子、鹿野学、松本久宣、竹野淳、柴山浩彦、八十島宏行、酒井健司、濱直樹、相木佐代、伴建二、数藤孝雄、吉本仁

令和 6 年度の活動実績：

がんが日本人の死因のトップとなって久しい。国立がん研究センターのがん情報サービスによれば、2021 年の年間がん罹患数は 98 万人を超え、2023 年のがんによる死亡者数は約 38 万 2 千人と報告されている。この 10 年でがん免疫治療法が臨床の場において使用され、その評価が明らかになってきたが、すべてのがんに効果があるわけではなく、がんに対する有効な治療法の開発の重要性は依然変わっていない。

免疫治療を含め従来の多くのがん治療法の有効性は、症例ごと、施設ごとの経験から得られたものであり、複数施設における大規模な臨床試験による治療効果の検証が必須となっている。そのような状況において、現在、がん治療成績向上を目的として科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められている。さらに、発がん、増殖、転移といったがん自体やそれに伴う病態に関わる遺伝子や蛋白、糖鎖といった数多くの分子の異常が報告され、これらの分子の特徴や機能が新しいがんの診断法や治療に応用され、個別化医療やオーダーメイド医療という語に代表されるような各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が進められつつある。実際、2019 年よりがん遺伝子パネル検査が保険診療可能となった。

本研究室では、最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しいがん治療法の開発を目的として、基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究を行っている。

今後の活動方針：

今後も引き続き、多施設共同臨床研究や自主的臨床試験研究に参画し、がん診療の開発を目指していきたい。

③ 高度医療技術開発室

スタッフ：上田恭敬（室長）、安部晴彦、井上耕一、池岡邦泰、吉龍正雄、西宏之、齊藤哲也、渋谷博美、天野栄三、島川宜子、東将浩、井上敦夫、大鳥安正、松田理、辻野知栄子、田宮裕子、西村洋、加藤研、三木秀宣、青野博之、岩谷博次、藤中俊之、浅井克則、宮本智、上田真理

令和 6 年度の活動実績：

令和 6 年度は、昨年度に引き続き運動負荷心エコー検査に関する研究報告（2024 年日本心エコー図学会）で行い、多施設共同研究へのレジストリを進めた。また腫瘍循環器関連に関する報告（JC Cases 2024;31:57-60）を行いつつ、後半は、人工知能（AI）による心エコー画像自動解析システムによる検査業務の効率化、改善化に関する研究を開始した。

今後の活動方針：

情報処理や画像処理技術、AI 応用などの新技術を取り入れ、医療現場で技術的解決が求められるニーズを抽出し、こうしたニーズに対し技術的に解決させるためのアイデアをまとめる。具体的には、心エコー検査画像の AI 解析によるレポート自動作成支援である。心エコー検査室での現場で、実際に AI 解析・レポート作成を行い、検査技師の業務負担がどの程度軽減し、その結果として、検査件数がどの程度増えるのかについて検証を行う。

④ 医療情報研究室

スタッフ：松村泰志（室長）、間島行則、岡崎周平

令和 6 年度の活動実績：

これまで大阪大学との共同プロジェクトとして実施してきた、電子カルテテンプレート（eXChart）で入力したデータを ODM に変換して阪大のデータセンターに送信する仕組み、入力データと連携して画像を匿名化して送信する仕組みを継続的に運用し、脳神経内科で実施している臨床研究の支援を行った。

大阪大学との共同研究である多施設共通データウェアハウスの導入を進めた。これにより、各施設のデータを外部のプラットフォーム上に移すことなく、多施設データを共通するプログラムで収集することが可能となり、安全に効率的に多施設データの集計ができる。

令和 5 年度から継続してイーライリリーとの共同研究で、間質性肺疾患の発生をレセプトデータから推定するアルゴリズムの精度評価を行い、その結果を論文にまとめた。

令和 6 年度からニプロと共同研究を行い、輸液ポンプ、シリンジポンプに注射薬の組成を伝え、実施データを受けとり、アラームをスマートフォンで受け取るためのプラットフォームの必要条件について検討を行った。将来構想として、看護師がキャッチすべきアラームをスマートフォンに集約し、スマートフォンでバイタル測定機器データを取り込み、看護記録を入力できるようにするためのプラットフォームの開発を目指している。本研究開発に関わるニプロ以外の企業とも連携を取り、研究開発を進めるための体制整備を行った。

今後の活動方針：

システムによる業務効率化を推進するために、電子カルテシステムへのスマートフォンの活用の推進をテーマとしている。アラームをスマートフォンに集約すること、看護師がベッドサイドで記録が完結できることを目指したプラットフォーム開発を目指す。

問診、同意取得を患者持参のスマートフォン、病院貸与のタブレットを活用して、電子データとして入力を促し、このデータを活用することで記録の効率化を目指す。

AI を病院業務で活用するために、機密性を保ちつつ AI を活用するための情報基盤を構築し、その応用として患者説明の音声認識および文書整備を行い、説明内容の診療録への記録作成の効率化を目指す。それ以外の場面でのカルテ記載への音声認識の有効性や他の領域の AI 応用の可能性を追求する。

電子カルテデータの研究利用について、これまでの処方、注射、検体検査結果、病名、手術・処置等のデータに、画像レポートを加える。画像レポートはフリーテキストで記載されているが、これを、深層学習を含めた自然言語処理技術（大阪大学で開発）を利用して構造化データに変換し、検索処理を可能とする研究を進める。

大阪大学と共同して進めてきた電子カルテテンプレートを利用した前向き臨床研究のデータを収集するシステムを発展させ、臨床研究への活用を推進する。PACS と連動させて、画像データの研究利用を自動化する事業も推進する。

Personal Health Record を実現化させるための準備を行う。疾患毎に事前に定めたデータ項目の入力を促して FHIR 規格の構造化データに変換してプラットフォームに送信する機能を病院に組み入れ、病院から医療者の負担なく PHR 側にデータが送りだせる仕組みについて研究する。

⑤ 災害医療研究室

スタッフ：大西光雄（室長）、石田健一郎

令和 6 年度の活動実績：

主として下記 8 カテゴリーそれぞれの活動実績を報告する。

1. 院内災害対応研究

COVID-19 に対する対応が求められた際に病院機能を維持する観点からの対応を行なった。この感染症への対応における人的・物的・空間的な不足（需要と供給のアンバランス）がもたらす事態という意味においては“災害”と捉えることができる。しかし、一般的な自然災害とは違い、いつから災害と認識できるのか？、ライフラインは全く影響を受けていない、といった災害をイメージしにくい状況があることから、当院では事業継続計画（BCP）を軸にした対応をおこなっている。今後は、毎年、小改訂を可能とする取り組みを行なっていく予定である。

2. 医療圏における災害対応研究

医療・福祉・行政の連携を重視した平時から災害時を見据えた災害対応の研究を行なった。本研究は高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）として開始してきた。高齢者施設のみならず、在宅医療などさまざまな福祉に関して、行政と相談しながら大阪市中心部の特性を理解した災害対応のあり方を検討した。対象者は災害時に“災害時要配慮者”に分類されるが、災害時に医療機関に大きな負荷が発生しにくいように、各福祉施設における BCP の策定、自助や共助のあり方、医療機関との連携方法に関して検討を行なった。

3. 災害医療教育に関する研究

全日本病院医療支援班（AMAT：All Japan Hospital Medical Assistance Team）における災害医療講習の開発に関わってきた。特に、AMAT の講習会における講義のうち“災害時要配慮者”、“災害時に留意すべき疾病”、“感染制御”の項目の講義資料の作成を行っている。本年度も講義資料のマイナー改訂を行ない、講習会において指導を行なった。

4. マスギャザリング医療対応研究

大阪・関西万博における医療救護対応に関する研究を行なった。日本万国博覧会医療救護協議会の構成員として、2025 大阪・関西万博の医療救護のあり方に関して検討を行った。また、厚生労働行政推進事業の健康安全・危機管理対策総合研究事業における“大規模イベントに対する戦略的リスクアセスメント及びヘルスシステムの強化に向けた標準的枠組に関する研究（24LA2002）”での分担研究である“大阪・関西万博対策、医療救護・化学災害対策の検討”を行なった。人為的な多数傷病者事案の類型化を行い、大阪・関西万博の危機管理対策室に勤務する予定の統括医療責任者らに対する講義を行なった。

5. 事態対処医療に関する研究

法執行機関との医療連携に関して長年検討してきた。その一つに、臨床救急医学会の“法執行機関との医療連携のありかたに関する検討委員会”による事態対処救護ガイドブックの発行（2019 年）と、事態対処救護の講習会の開発

と開催であった。2024 年度は海上保安庁職員及び警察職員に対して合計 4 回のコース開催を行なった。また、大阪府警と連携した“立てこもり事案”での負傷者対応に関して、大阪府の DMAT が出動できるシステムを構築した。同システムは 2025 年 1 月 20 日より運用開始となった。

さらに、プレホスピタルでの止血帯を用いた止血処置は 2019 年より消防職員が、その後、警察や海上保安庁職員も可能となったが、効果的に訓練するための機器開発を開始した。これは“我が国初の本格的「救急止血法の訓練モデル」の開発”として成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業）に採択された。

6. 病院前救護活動教育に関する研究

プレホスピタルとの連携を重視したイベント・教育資料開発を行なった。大阪市消防の有志とともに 20 年前より勉強会を合計 100 回程度開いてきたが、その一環として“ベーシックラリー”を 2024 年 6 月 22 日に開催した。さまざまなシナリオをもとに多職種からなる当院職員と、大阪市消防や警察、海上保安庁、自衛隊等の連携を図った。今後は当院が後援する形で、さらに救急隊などと連携していく。また、プレホスピタル分野における教育資料開発としては、事故災害現場でのさまざまな状況変化に応じた多職種の活動を学ぶためのボードゲームの開発を開始した。

7. 特殊災害対応研究

化学テロや爆傷などへの対応に関する国際的な動向の把握を行なった。これは厚生労働科学研究の健康安全・危機管理対策総合研究事業における“CBRNE テロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究（22LA1012）”での分担研究である“化学テロ危機管理に関する研究”である。本年度が最終年度であるが、これまでに、令和 4 年度は化学テロの覚知に関して、令和 5 年度は世界健康安全保障行動グループ（GHSAG : Global Health Security Action Group）の下部組織である化学イベントワーキンググループ（CEWG : Chemical Event Working Group）における各国の活動および連携（特にウクライナ対応での連携、緊急招集会合）、ローンオフエンダーによる化学テロの可能性の検討、令和 6 年度は過去の本邦および各国の化学物質が関連した事故や災害事例への対応及び、その際の公衆衛生や中毒情報センターの連携のあり方に関する検討を行なった。他に特殊災害の一つである爆発による生体への影響の研究は、“衝撃波（第一次爆傷）による長期脳損傷のメカニズムの解明と治療法の開発（21K09019）”として大阪大学で研究を行っている。

本分野では、救急科領域講習として第 38 回日本外傷学会においてオンデマンドで“爆傷事案から考える爆傷の実際と衝撃波外傷の性質”を講演、また外傷学会評議員セミナーとして 2024 年 4 月 25 日に“出血や外傷（衝撃波外傷を含む）に伴う循環動態の変化と中枢神経の役割”として講演、救急科領域講習として第 46 回日本中毒学会において 2024 年 7 月 24 日に“災害と中毒ー化学災害を中心にー”として講演した。また、東京大学大学院公共健康医学において 2024 年 5 月 13 日に“化学物質の対応・危機管理”の講義を関連省庁職員等に対するセミナーである NBC ネットワーク専門家会合において 2024 年 8 月 1 日に“化学テロに関する海外の解毒薬等の情報”を講義した。

8. Health Security に関する研究

第 48 回日本中毒学会総会を担当することとなり、Health Security をテーマに学会の準備を始めた。Health Security という用語自体は、健康危機管理を考える際にしばしば使われる用語であるが、定義ははっきりしていない。概ね、“原因が自然発生的であろうと人為的であろうと、健康に対するあらゆる脅威に対応するための予防・準備、覚知・分析、対応・復旧、事後検証などの一連の取り組み”、といった概念になる。この概念をテーマに取り上げ、中毒事案において Health Security という視点から考えてみることにした。

今後の活動方針：

1. 院内災害対応研究

- 関連する各部門ごとに定期的に BCP の見直しを行い、災害対策委員会等で全体の整合性、追加可能な視点を検討していく。

2. 医療圏における災害対応研究

- 福祉や行政がどのような課題を有しているのかの調査を進めていく。また、各事業所で行われる災害関連会議に臨席し、情報交換に努め、当院で開催する災害訓練に参加していただき、相互に理解を深め、平時からの連携を通して災害時に柔軟な対応ができるように検討を進めていく。

3. 災害医療教育に関する研究

- 次年度は AMAT の災害講習を e-learning の形にしていく予定である。

4. マスギャザリング医療対応研究

- 世界的にもマスギャザリングにおいて人為的な多数傷病者事案が発生しやすくなっており、今回の類型化を通じて効果的な医療対応の検討をさらに進める。また、化学物質が関連する際に特に発生しやすいと考えられる心理学的インパクトへの対応の検討を開始する。効果的なリスクコミュニケーションを意識した情報共有が求められるものと考えている。

5. 事態対処医療に関する研究

- 2019 年に発刊された事態対処医療ガイドブックの改訂に着手する。現在のガイドブックに掲載されている内容と、実際に事態対処救護コースを開始してから得られた受講者からの意見や疑問をもとに改訂を考えていきたい。
- 大阪府で 2024 年 1 月 20 日より日本で初め導入された DMAT と大阪府警の連携に関して、さらなる訓練を進める。当院が中心となって手順書作成を行っており、手順を完成させるとともに、より発展的な連携を構築する。
- 医療者に対する、鋭的損傷への対応の講習を計画する。講義内容の策定に取り掛かる。
- 「救急止血法の訓練モデル」の R&D としての完成と、2026 年度に上市するための事業化に関する課題を検討する。

6. 病院前救護活動教育に関する研究

- ・ 救急隊と当院との連携をさらに高め、当院の研修医及び救急に関連する

職種が病院前救護の理解を深めるためにベーシックラリーの開催に関して当院が後援できるように調整する。

- ・ 事故災害現場での判断と連携を学習、あるいは教育するためのツールとして開発開始したボードゲームの 2026 年初頭の市販化を検討する。

7. 特殊災害対応研究

- ・ 厚生労働科学研究におけるこの分野は、今後も研究が継続されることが決まっており、化学物質による意図的な事案および爆発による生体への影響の研究を行っていく。マスギャザリングの項でも触れたが、特殊災害においては心理学的インパクトが大きい。場合によっては自らは影響を受けていないはずなのにも関わらず経験したと感じる集団ヒステリー（集団パニック）への対応が求められるため、それらへの対応を含めた研究を開始する予定である。
- ・ SNS などの分析を通じて化学災害（化学テロ）などを覚知する方法がないか、検討を行なっていく。

8. Health Security に関する研究

- ・ グローバルなハザード対策において使われることが多い概念であり、必ず多機関・多職種で対応する必要性がある。第 48 回日本中毒学会総会の準備を通して、中毒を考慮するような医療安全といったミクロな点から、公衆衛生との連携を念頭に置いた Public Health Security といった視点、化学物質が関連する災害・事故、薬物濫用や Medical Child Abuse など、中毒が関係するさまざまな事案に対して検討する予定である。

臨床研究推進部

部長：金村米博（併任）

① 臨床研究推進室

スタッフ名：森下典子（室長）、原田真里子、羽田かおる、小林恭子、松尾友香、辻本有希恵、柚本育世、三井知子、千賀明日香、福本妃可里、福岡利恵、名畑優保、池田佐知子、濱充代、阿久津さえ子、堀田千恵子、上崎頼子、大場美咲、千葉真弓、松田里美、信谷宗平、

令和 6 年度の活動実績：

臨床研究推進室は、CRC および治験事務局・受託研究審査委員会（IRB）事務局を配置し、治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している。

当院の IRB は独立した 2 つの IRB（第一委員会・第二委員会）から構成されており、第一委員会は主に治験等受託研究を、第二委員会は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が適応となる自主研究を審査している。

審査件数では、第一委員会は月 1 回（計 12 回）開催し、新規課題 42 件、継続課題 91 件、迅速審査 27 件を含む 1573 件の審査を行った。第二委員会では本審査を 12 回、迅速審査を 24 回開催し、新規課題 10 件、継続課題 213 件、迅速審査 100 件を含む 484 件の審査を行った。

令和 6 年度の治験実績（受託研究費請求額）は、新規受託件数 23 件、総件数 107 件であり、研究請求金額総額は 2 億 5 千万円を越え、国立病院機構施設では全国 4 位の成績であった。

新規の治験受託件数を増やすため、治験依頼者や SMO（Site Management organization）と平素より積極的にコミュニケーションをとり、獲得に向けて努力している。

また第一委員会・第二委員会ともに治験、臨床研究に関連した文書の電磁化に取り組んでおり、第一委員会では令和 4 年度から、第二委員会では令和 5 年度から導入し、業務効率化を図るなど、絶え間なく質の高い倫理審査を行うための体制整備に取り組んでいる。

自主研究の支援については、基本的に先進医療 B または国立病院機構 EBM 研究の治療介入のある研究を支援している他、引き続き新型コロナワクチンコホート調査への支援や、令和 5 年度より一部の特定臨床研究においても支援を開始した。また、臨床研究法や倫理指針に基づいた質の高い臨床研究の実施を進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。

その他、地域治験ネットワークの活動では大阪府内の 16 医療機関で形成する「治験ネットおおさか」に参加し、他医療機関との意見交換を行った。

学術的活動および教育・啓発については、学会等でも積極的に発表を行い、国立病院機構本部主催初級者臨床研究コーディネーター養成研修や実務者臨床研究コーディネーター研修、近畿グループ主催臨床研究・治験研修、中国四国グループ主催治験・臨床研究研修会、がん CRC 学会で講師を務めたほか、「臨床研究推

進室ニュース」（毎月）の発行、「治験セミナー」、「臨床研究セミナー」を開催し職員等への啓発も実施した。

今後の活動方針：

- 1．受託研究費 2 億 1000 万円の維持
 - ・新規治験を獲得するためにホームページで実績をアピールする
 - ・エントリーアクションプランの効果的な活用方法を検討する
 - ・エントリーアクションプランの期間目標の達成を目指す
- 2．品質を維持した治験実施体制の強化
 - ・治験依頼者から選ばれる施設を目指す
 - ・治験業務の ICT の円滑な運用にむけた体制を整備する
- 3．治験エコシステム導入推進事業内容について情報収集し対応する

< 臨床試験支援部門 >

- 1．臨床研究の円滑な実施にむけた体制整備
 - ・ホームページの改訂
 - ・プライバシーポリシーの見直し
 - ・臨床研究セミナーの開催方法・内容の見直し
 - ・同意書電子保管の体制整備
- 2．臨床研究支援体制（ARO 機能）の強化
 - ・支援範囲と方向性の検討、体制の構築
 - ・インフォームドコンセントの実施体制の見直し
 - ・多機関共同研究用の研究計画書ひな形の改訂

②レギュラトリーサイエンス研究室

スタッフ：松村泰志（室長）

令和 6 年度の活動実績：

治験等の研究の進め方についてはある程度確立されてきている。一方、電子カルテデータを代表とする Real World Data を活用する研究については、世界的にみても、現在進行中であり、各国が競い合っている。Real World Data は、臨床の活動の中で自然に蓄積されるデータを活用する方向性と、治験と同様、予め決められたデータ項目のデータを前向きに埋めていき、効率的にデータ収集する方向性がある。当院では、そのどちらにも取り組んでいる。

前者については、大阪大学との共同研究で、多施設共通データウェアハウスを構築し、ここから共通するデータ抽出プログラムを利用して効率良くデータを収集する仕組みを導入している。また、NTT との共同研究で、秘密分散、秘密計算を使った方法にも取り組んできた。データを外部のプラットフォームに集積させると、個人情報保護法の観点で取り扱いが難しくなるが、共通データウェアハウスでデータベース自身を集約させない方式の場合は、この問題がクリアできる。また、秘密分散、秘密計算で集計する方式の場合、個人の識別性は完全に失われるので、問題解決の有力な方法の一つとなる。

ヨーロッパでも EHDS として電子カルテデータの新たな活用の仕組みができたが、日本でも公的データベースの利用のレギュレーションについて、安全性を保ちつつデータ利用を促進するために、新たなレギュレーションを作成する必要がある。こうした議論に参加して、次世代の基盤構築に貢献した。

電子カルテで予め決められた項目をテンプレートとして作成し、これに入力することで、診療録の作成と症例報告書の作成を同時に行う仕組みについて、大阪大学と共同して開発し、富士通電子カルテ病院を代表して実施している。画像データを匿名化し、被検者番号を付けてデータセンターに自動で送り出す仕組みも稼働させている。この仕組みを利用し、脳神経内科の臨床研究を支援した。

今後の活動方針：

引き続き、Real World Data を活用した臨床研究のレギュレーションのあり方について研究を行う。Real World Data を扱う場合、個人の識別性への対応が重要であり、プライバシー保護の観点で検討を行う必要がある。個人情報保護法の規定、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従うことは当然として、セキュリティへの配慮等、考慮すべきポイントがある。これらを適切にコントロールしながら Real World Data を活用する方法について、引き続き検討を進める。

幹細胞医療研究室

室長 正札智子

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）より神経幹細胞（自己複製と、神経系細胞を供給する能力を持つ細胞）や、神経細胞への分化誘導技術の開発をメインテーマとして研究を行っています。その成果は、脳梗塞患者への移植治療や、ハイスループットの神経毒性評価試験の構築に役立てています。更にヒト iPS 細胞を用いて、神経疾患の発症メカニズムの研究を実施しています。また近年脳腫瘍の分類と治療法の判断に必須となる遺伝子異常の解析（分子診断）に応用可能な新規腫瘍マーカーの探索を、当センター脳神経外科及び分子医療研究室と共同で実施しています。

研究テーマ

1：ヒト iPS 細胞由来神経系細胞の作製と培養法の検討

ヒト iPS 細胞を用いた再生医療応用や神経毒性評価系の構築を目指し、使用目的に応じた神経系細胞への分化誘導技術の開発と、分子生物学的な手法を用いて細胞の評価を実施しています。

2：神経疾患に関連する遺伝子異常の解析

神経疾患に関連する遺伝子の作用機序を、iPS 細胞技術を用いて神経発達から成熟神経細胞の各段階の細胞形質を、分子生物学と細胞生物学的に解析を進めています。

3：新規腫瘍マーカーと iPS 由来細胞の腫瘍化リスクマーカーの探索

脳神経外科と分子医療研究室では、神経膠腫及び髄芽腫患者の摘出腫瘍組織の分子診断を、既知マーカーを用いて実施しています。幹細胞医療研究室では、発症原因や予後予測と関連する新規マーカーの探索を担当しています。更に医療応用を目指す iPS 由来神経系細胞の腫瘍化リスクの指標となるマーカーの探索も実施しています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0（英文著述）

Kanemura Y, Yamamoto A, Katsuma A, Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Handa Y, Sumida M, Yoshioka E, Mine Y, Yamaguchi R, Okada M, Igarashi M, Sekino Y, Shirao T, Nakamura M, Okano H: Human-Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Neural Progenitor Cells Showed Neuronal Differentiation, Neurite Extension, and Formation of Synaptic Structures in Rodent Ischemic Stroke Brains. 「Cells」13(8)：671、2024 年 4 月

④研究助成実績

科学研究費助成事業：基盤研究(C)

「微小流路を連結した灌流培養系による α -シヌクレイン線維化条件の探索」

研究概要：パーキンソン病は中脳黒質のドーパミン神経細胞が選択的に変性・脱落する晩発性の神経変性疾患である。患者の脳には、 α -シヌクレインがリン酸化された凝集体（レビー小体）が現れるが、発症原因は依然として不明である。申請者は、パーキンソン病患者の iPS 細胞から誘導したドーパミン神経細胞であっても、 α -シヌクレインの凝集体はみられるものの、患者にみられるレビー小体とは別であることを確認している。レビー小体の生成には、線維化した α -シヌクレイン が必要であると考えられているが、 α -シヌクレインが細胞内で線維化するメカニズムは未解明であり、パーキンソン病の病態解明研究は進んでいない。本研究では、ドーパミン神経細胞を継続的にストレス状態に晒すために、微小流路を連結した灌流培養法を構築することで、 α -シヌクレインの線維化メカニズムを明らかにすることを目的とする。

老化細胞は、サイトカインやケモカインといった炎症や発がんを促す因子を分泌することが知られている。灌流培養系において、このような細胞老化随伴分泌現象を利用するために、今年度は微小流路内で老化細胞となり得るヒト胎児由来線維芽細胞の培養を実施した。ドーパミン神経細胞用の無血清培地を用いて、ヒト胎児由来線維芽細胞を微小流路内で3週間培養し、老化マーカーの1つである老化関連 β -ガラクトシダーゼ（SA- β -gal）の検出を行った結果、多くの細胞が SA- β -gal 陽性であることが確認された。したがって、ヒト胎児由来線維芽細胞は微小流路内で安定して培養可能であり、無血清培地を用いることで細胞老化を誘導可能であることが示唆された。

再生医療研究室

室長 金村米博

【概要】

再生医療研究室では、各種ヒト細胞を応用した「細胞治療」を先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっています。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤安全性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施しています。

【主な研究テーマ】

1. 治療用ヒト細胞培養プロセスの開発

臨床研究センター棟 2 階に設置されている、治療に使用する各種ヒト細胞を培養・加工するヒト細胞培養専用施設（セルプロセッシングセンター）の管理・運用を担当し、セルプロセッシングセンター内でのヒト細胞の培養・加工プロセスの開発を行っています。また、細菌・真菌検査や遺伝子検査などを組み込んだ治療用ヒト細胞の品質検査法の開発などを行なっています。

2. 医療用ヒト幹細胞の品質管理技術の開発

再生医療に使用する細胞として、組織幹細胞であるヒト神経幹細胞および間葉系幹細胞さらにヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞などを主な研究対象として、細胞増殖能、染色体構造、細胞表面マーカー発現様式、細胞分化能等を詳細に解析してこれら細胞の生物学的特性を明らかにし、医療応用するための細胞の品質管理に必要な項目の策定とその検査方法の開発を行っています。

3. iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脳梗塞再生医療の開発

亜急性期脊髄損傷の再生医療の臨床研究で使用している HLA3 座ホモ iPS 細胞（京都大学 iPS 細胞研究財団から分与）から作製した iPS 細胞由来神経前駆細胞と同一規格の細胞を用いて、脳梗塞の再生医療を実現するためのトランスレーショナルリサーチを実施しています（AMED 再生医療実用化研究事業）。

4. ヒト幹細胞を応用した薬剤安全性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索

ヒト iPS 細胞由来神経前駆細胞、ヒト iPS 細胞由来神経細胞を主に使用して、各種薬剤の薬効および毒性評価を実施するためのハイスループットスクリーニングシステムの開発を行っています。また、ヒト神経前駆細胞やグリオーマ幹細胞を標的とする新規治療薬候補化合物の探索を実施しています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Fujimi Y, Ozaki T, Izutsu N, Nakajima S, Kanemura Y, Kidani T, Kawamoto S, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujinaka T: Fungal symptomatic intracranial aneurysm treated with a flow diverting stent : A case report. 「Surg Neurol Int」 15 : 58、2024 年 2 月

Kanemura Y, Yamamoto A, Katsuma A, Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Handa Y, Sumida M, Yoshioka E, Mine Y, Yamaguchi R, Okada M, Igarashi M, Sekino Y, Shirao T, Nakamura M, Okano H: Human-Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Neural Progenitor Cells Showed Neuronal Differentiation, Neurite Extension, and Formation of Synaptic Structures in Rodent Ischemic Stroke Brains. 「Cells」 13(8) : 671、2024 年 4 月

Izutsu N, Nishizawa N, Nakajima S, Kanemura Y, Ozaki T, Asai K, Kidani T, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T: Extracranial internal carotid artery-dissecting aneurysm having a re-entry tear and causing lower cranial nerve palsies treated with flow-diverting stent : A case report. 「Surg Neurol Int」 15 : 126、2024 年 4 月

Nomoto M, Kidani T, Kida M, Kobayashi K, Fujimi Y, Kawamoto S, Izutsu N, Asai K, Kanemura Y, Nakajima S, Fujinaka T: Treatment Outcomes in Patients with Unruptured Anterior Choroidal Artery Aneurysms : A Single-Center Experience. 「J Neuroendovasc Ther」 18(8) : 219-223、2024 年 7 月

Kawamoto S, Ozaki T, Asai K, Kidani T, Izutsu N, Nakajima S, Kanemura Y, Nishizawa N, Kobayashi K, Fujimi Y, Fujinaka T: Treatment Outcomes of PED for Unruptured Aneurysms of Internal Carotid Artery : Comparison of PED-Flex and PED-Shield. 「Neurol Med Chir (Tokyo)」 64(8) : 316-322、2024 年 8 月

Nishizawa N, Kidani T, Nakajima S, Kanemura Y, Asai K, Izutsu N, Kawamoto S, Kobayashi K, Nomoto M, Fujimi Y, Kida M, Fujinaka T : Coil Embolization of a Ruptured Traumatic Pseudoaneurysm of the Middle Meningeal Artery : A Case Report. 「NMC Case Report Journal」 11 : 257-262、2024 年 11 月

B-1

Kanemura Y, Yamamoto A, Katsuma A, Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Handa Y, Sumida M, Yoshioka E, Mine Y, Yamaguchi R, Okada M, Igarashi M, Sekino Y, Shirao T, Nakamura M, Okano H: Human leukocyte antigen-homozygous iPS cells-derived neural progenitor cells showed neuronal differentiation, neurites extension, and synaptic structure formation in rodent ischemic stroke brains. ISSCR 2024 Annual Meeting, Hamburg, Germany, 2024 年 7 月 10 日

B-3

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、渡邊 大、上平朝子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：HIV 感染に関連する脳内病変 単一施設における外科手術の経験（Brain lesions associated with HIV infection: A single-center surgical experience）。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

金村米博：全医療職/全医療現場が参加する医療機器・ヘルスケア関連製品開発拠点（Bi-AMPS）の取り組み。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

金村米博：iPS 細胞由来神経前駆細胞を用いた脳梗塞再生医療の開発。第 24 回日本再生医療学会総会、横浜市、2025 年 3 月 20 日

B-4

隅田美穂、吉岡絵麻、勝間亜沙子、兼松大介、山本篤世、福角勇人、半田有佳子、加藤依香、高田 愛、松田由香子、正札智子、金村米博：大阪医療センター臨床研究センターセルプロセッシングセンターの管理と運用について。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

分子医療研究室

室長 金村米博

【概要】

分子医療研究室では各種遺伝子検査を用いた悪性脳腫瘍、難治性脳形成障害症等の難治性神経疾患の分子診断技術の開発と、分子診断結果を用いた病態解析研究、および新規治療法開発を実施しています。

【主な研究テーマ】

1. 悪性脳腫瘍の分子遺伝学的解析

悪性グリオーマを対象として、関西地域を中心とした 80 以上の医療機関で構成される「関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワーク」を主宰し、脳腫瘍検体レジストリーを行い、WHO 脳腫瘍分類に基づく中央遺伝子診断を実施することに加えて、脳腫瘍検体の収集登録体制を構築し、大規模症例を用いた悪性グリオーマの分子遺伝学的特性を明らかにする研究を行っています。また、小児悪性脳腫瘍の中で最も頻度の高い腫瘍の一つである髄芽腫に関して、「日本小児がん研究グループ (JCCG)」に参加し、全国レベルで収集された髄芽腫標本の中央分子診断を実施すると同時に、多施設臨床試験の中央分子診断を担当しています。

2. 難治性脳形成障害症の分子遺伝学的解析

L1CAM 変異で発症する X 連鎖性遺伝性水頭症を中心に、各種難治性脳形成障害症患者の臨床情報、画像情報、患者由来生体試料（組織・細胞・DNA）を収集し、次世代シーケンサーを駆使した遺伝子解析研究を実施すると同時に、患者由来試料から分離した線維芽細胞、神経幹細胞、間葉系細胞（臍帯由来）、血液細胞の特性解析を行い、並行してそれら細胞から疾患 iPS 細胞の樹立を実施し、その特性解析を実施しています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Sanada T, Kinoshita M, Sasaki T, Yamamoto S, Fujikawa S, Fukuyama S, Hayashi N, Fukai J, Okita Y, Nonaka M, Uda T, Arita H, Mori K, Ishibashi K, Takano K, Nishida N, Shofuda T, Yoshioka E, Kanematsu D, Tanino M, Kodama Y, Mano M, Kanemura Y : Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image. 「Neurooncol Adv」 6(1) : vdae016、2024 年 2 月

Kamimura S, Mitobe Y, Nakamura K, Matsuda K, Kanemura Y, Kanoto M, Futakuchi M, Sonoda Y : Association of ADC of hyperintense lesions on FLAIR images with TERT promoter mutation status in glioblastoma IDH wild type. 「Surg Neurol Int」 15 : 108、2024 年 3 月

Hayashi N, Fukai J, Nakatogawa H, Kawaji H, Yoshioka E, Kodama Y, Nakajo K, Uda T, Naito K, Kijima N, Okita Y, Kagawa N, Takahashi Y, Hashimoto N, Arita H, Takano K, Sakamoto D, Iida T, Arakawa Y, Kawauchi T, Sonoda Y, Mitobe Y, Ishibashi K, Matsuda M, Achiha T, Tomita T, Nonaka M, Hara K, Takebe N, Tsuzuki T, Nakajima Y, Ohue S, Nakajima N, Watanabe A, Inoue A, Umegaki M, Kanematsu D, Katsuma A, Sumida M, Shofuda T, Mano M, Kinoshita M, Mori K, Nakao N, Kanemura Y : Neuroradiological, genetic and clinical characteristics of histone H3 K27-mutant diffuse midline gliomas in the Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors (Kansai Network): multicenter retrospective cohort. 「Acta Neuropathol Commun」 12(1) : 120、2024 年 7 月

Watanabe D, Okamoto N, Kobayashi Y, Suzuki H, Kato M, Saitoh S, Kanemura Y, Takenouchi T, Yamada M, Nakato D, Sato M, Tsunoda T, Kosaki K, Miya F : Biallelic structural variants in three patients with ERCC8-related Cockayne syndrome and a potential pitfall of copy number variation analysis. 「Sci Rep」 14(1) : 19741、2024 年 8 月

Chida D, Okita Y, Utsugi R, Kuroda H, Hirayama R, Kijima N, Arisawa A, Kagawa N, Kanemura Y, Yoshimura S, Tomiyama N, Kishima H : Dynamic susceptibility contrast-enhanced perfusion magnetic resonance imaging parameters for predicting MGMT promoter methylation and prognostic value in newly diagnosed patients with glioblastoma. 「Oncol Lett」 28(6) : 610、2024 年 10 月

A-2

金村米博 : 各論 36 Medulloblastoma, molecularly defined 「脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 第 5 版」日本脳腫瘍病理学会 編、P.103-106、株式会社医学書院、東京、2024 年 5 月 20 日

A-3

石毛良実、水戸部祐太、松田憲一朗、北岡 匠、大江倫太郎、二口 充、鈴木修平、吉岡孝志、金村米博、園田順彦 : ミスマッチ修復遺伝子異常を伴う膠芽腫に対してペムブロリズマブが奏効した 1 例「脳神経外科速報」34(5): 624-625、2024 年 9 月

A-4

原田敦子、四本由郁、金村米博、玉置知子 : 先天性小児脳神経外科疾患の遺伝学的診断「脳神経外科ジャーナル」33(5):331-338、2024 年 5 月

B-1

Richardson S, Hicks D, Gough M, Castle J, Crosier S, Garcia-Ariza M, Martín-Guerrero I, LA Plasschaert S, Bourdeaut F, Dufour C, Masliah-Planchon J, Buttarelli FR, Garre ML, Biassoni V, Massimino M, Kanemura Y, Ramaswamy V, Gajjar A, Northcott P, Robinson G, Korshunov A, Pfister SM, Mynarek M, Rutkowski S, Schwalbe EC, Bailey

S, Clifford SC: Molecular pathology, treatment and prognosis of infant sonic hedgehog medulloblastoma: A global multi-cohort study. ISPNO2024, Philadelphia, PA, USA, 2024 年 7 月 1 日

B-2

Go K, Katsuma A, Makino Y, Yamamoto A, Yoshioka E, Shofuda T, Kanematsu D, Terada Y, Sano N, Tanji M, Mineharu Y, Kodama Y, Mano M, Ichimura K, Sasaki A, Hirato J, Inoue T, Nishikawa R, Date I, Nonaka M, Nagane M, Arakawa Y, Kanemura Y: Clinical and Molecular Characteristics of Japanese Medulloblastoma, WNT-activated. ISPNO2024, Philadelphia, PA, USA, 2024 年 7 月 1 日

B-3

深井順也、中戸川裕一、林 宣秀、児玉良典、正札智子、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、金村米博：ヒストン H3 K27M 変異グリオーマの臨床・病理学的解析 ミッドライン症例とノンミッドライン症例の比較検討。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

大谷理浩、藤井謙太郎、石田穰治、水田 亮、柳井広之、松下博和、里見介史、金村米博、市村幸一、田中將太：マルチモダリティを用いた WHO 新分類への対応と現状。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

有田英之、平井健太郎、萩岡起也、高野浩司、金村米博：MRI における皮質限局の脳回腫大所見は IDH 野生型グリオーマを示唆する。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

B-4

中村和貴、水戸部祐太、鈴木一司、二口 充、金村米博、園田順彦：後期高齢者膠芽腫における長期生存例についての検討。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

水戸部祐太、中村和貴、石毛良美、鈴木一司、二口 充、金村米博、園田順彦：梁下野 GBM の病理像および臨床像。第 42 回日本脳腫瘍病理学会、呉市、2024 年 5 月 24 日

松山裕美、松本久宣、赤澤 香、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 健二、飛梅孝子、巽 啓司、金村米博、八十島宏行：Challenges Insighted from Risk-Reducing salpingo-oophorectomy (RRSO) in Women with HBOC。日本人類遺伝学会第 69 回大会、札幌市、2024 年 10 月 12 日

松山裕美、松本久宣、赤澤 香、小椋恵利、藤上友輔、赤木佳奈、伴 健二、飛梅孝子、巽 啓司、金村米博、八十島宏行：HBOC 女性におけるリスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）の実施における課題。第 78 回国立病院総合医学会、大阪市、2024 年 10 月 18 日

勝間亜沙子、吉岡絵麻、兼松大介、木原実香、河合 健、眞能正幸、金村米博：次世代シーケンサーを用いた新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のゲノム解析検査。第78回国立病院総合医学会、大阪市、2024年10月18日

兼松大介、勝間亜沙子、水野雄貴、西牧晃二、浦井 健、大里幸暉、渡部耕治、中村貴行、大西光雄、金村米博：次世代医療機器等開発事業支援デジタルコンテンツ制作ユニット「Digital works Bi-AMPS」の活動報告。第78回国立病院総合医学会、大阪市、2024年10月19日

馬場健太郎、福士亜美、Xiao Zhize、勝間亜沙子、川内大輔、金村米博、稲垣直之：グリオーマ細胞の浸潤および増殖機構の解明。第47回日本分子生物学会年会、福岡市、2024年11月28日

呉 浩一、勝間亜沙子、牧野恭秀、山本悦子、吉岡絵麻、正札智子、兼松大介、高田茂樹、佐野徳隆、丹治正大、峰晴陽平、児玉良典、眞能正幸、市村幸一、佐々木惇、平戸純子、井上 健、西川 亮、伊達 勲、埜中正博、永根基雄、荒川芳輝、金村米博：髄芽腫の分子診断:国内症例の特徴と WNT の診断方法。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月1日

中戸川裕一、深井順也、川路博史、林 宣秀、木嶋教行、吉岡絵麻、兼松大介、勝間亜沙子、隅田美穂、正札智子、森 鑑二、稲永親憲、金村米博：H3F3A 遺伝子の変異をもつ半球性のグリオーマの臨床的特徴と予後。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月1日

中村和貴、水戸部祐太、金村米博、園田順彦：再発膠芽腫に対する再摘出術と予後因子についての検討。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月2日

西川真弘、井上明宏、大西丘倫、金村米博、日下部公資、大塚祥浩、末廣 諭、山下大介、渡邊英昭、國枝武治：CD44 は再発膠芽腫における Bevacizumab 効果予測因子となりうる。第42回日本脳腫瘍学会学術集会、志摩市、2024年12月2日

B-6

池町涼介、大谷理浩、石田穰治、藤井謙太郎、富田祐介、金村米博、柳井広之、田中將太：頭頂葉に発生した成人神経節細胞腫の1例。第97回日本脳神経外科学会 中国四国支部会、米子市、2024年4月7日

B-8

金村米博：関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークのグリオーマ分子診断体制。第48回東海脳腫瘍病理検討会、名古屋市、2025年3月15日

当研究室は、HIV 診療のさまざまな問題に対して研究を行っております。この 10 年で HIV 感染の発生率は低下しましたが、CD4 数が低い状態で診断される患者も少なくはありません (J Epidemiol. 2023)。治療に関しては多くの症例でウイルス抑制が得られるようになり、近年に登場した新規抗 HIV 薬では長期の有効性や安全性が示されるようになりました (Jpn J Infect Dis. 2017, PLoS One. 2025, HIV Res Clin Pract. 2025)。しかし、国内では早期に抗 HIV 療法を開始することは困難 (J Infect Chemother. 2023) で、たとえ抗 HIV 療法を行っても免疫系は完全に回復しません。ウイルス抑制が得られた症例で血中インターフェロン γ が持続的に高値を示す症例 (Viral Immunol. 2010) が存在し、それらの症例では CD4 数の回復が不十分でした (BMC Infect Dis. 2019)。抗 HIV 薬の副作用の課題も残されています。ドルテグラビルの神経精神系有害事象は血中濃度や UGT1A1 遺伝子多型と関連すること (BMC Infect Dis. 2017) をはじめ、様々な報告 (J Infect Chemother. 2012, J Infect Chemother. 2014, J Infect Chemother. 2018) を行いました。

薬剤耐性や薬物動態も HIV 感染者の治療では重要になってきます。当研究室ではこれらに関する研究も行っております (Antiviral Res. 2010, J Infect Chemother. 2015, Inter Med. 2016, J Infect Chemother. 2023, J Antimicrob Chemother. 2023, J Int AIDS Soc. 2023, J Pharm Health Care Sci. 2024)。また、急性 HIV 感染症 (AIDS Res Ther. 2015)、ヒトヘルペスウイルス 8 型感染症 (Inter Med. 2014, J Infect Chemother. 2017, J Med Virol. 2023)、水痘・帯状疱疹ウイルス感染症 (J Med Virol. 2013) A 型急性肝炎 (Hepatol Res. 2019)、悪性リンパ腫 (J Clin Immunol. 2018)、市中感染型 MRSA 感染 (J Infect Chemother. 2020)、脳構造への影響 (J Neurovirol. 2020, J Neurovirol. 2022) などの研究にも取り組んでいます。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Kushida H, Hirota K, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T : Association between tenofovir plasma trough concentrations in the early stage of administration and discontinuation of up to five years tenofovir disoproxil fumarate due to renal function-related adverse events in Japanese HIV-1 infected patients. 「J Pharm Health Care Sci」 10(1) : 20、2024 年 5 月 10 日

Koga M, Fukuda A, Nojima M, Ishizaka A, Itoh T, Eguchi S, Endo T, Kakinuma A, Kinai E, Goto T, Takahashi S, Takeda H, Tanaka T, Teruya K, Hanai J, Fujii T, Fujitani J,

Hosaka T, Mita E, Minami R, Moro H, Yokomaku Y, Watanabe D, Watanabe T, Yotsuyanagi H : Non-acquired immunodeficiency syndrome defining malignancies in people living with haemophilia and human immunodeficiency virus after the direct-acting antivirals era for hepatitis C virus: A nationwide questionnaire survey in Japan. 「Glob Health Med」 6(5) : P316-323、2024 年 10 月 31 日

A-1

渡邊 大 : HIV 感染症治療薬。「Pocket Drugs 2025」福井次矢監修、小松康宏・渡邊裕司編集、P826-841、医学書院、東京、2025 年 1 月 1 日発行

A-2

渡邊 大、上平朝子 : HIV 感染の基礎知識。「必ず役立つ！肝炎診療バイブル改定 6 版」、三田英治、平松直樹編集、P142-158、メディカ出版、大阪、2024 年 10 月 1 日発行

A-3

椎野禎一郎、潟永博之、今橋真弓、渡邊 大、南 留美、蜂谷敦子、西澤雅子、林田庸総、吉田 繁、豊嶋崇徳、伊藤俊広、古賀道子、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、仲村秀太、松下修三、吉村和久、杉浦 互、菊地 正、薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク：国内 HIV-1 伝播クラスターの 2022 年の動向：薬剤耐性 HIV 調査ネットワークによる SPHNCS 年報。日本エイズ学会誌。

A-4

山本俊祐、渡邊 大、眞能正幸、長谷川裕子、阪森亮太郎、三田英治：カポジ肉腫 (HHV-8 関連)「消化器内視鏡」36(4) : 506-507、東京医学社、東京、2024 年 4 月 16 日

渡邊 大 : Q&A 形式 Case Study。CKD および HBV 感染を合併した症例の ART 選択について「HIV 感染症と AIDS の治療」15(1) : 35-37、メディカルレビュー社、大阪、2024 年 12 月 15 日

A-5

渡邊 大 : 近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和 6 年度研究報告書、2025 年 3 月 31 日

B-2

Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Berend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Watanabe D, Po-Liang Lu, Alper Gündüz, Jason Brunetta, David Thorpe, Michelle L. D’Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World

Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. 33rd Annual Canadian Conference on HIV/AIDS Research. Apr 25th, Ontario, Canada、2024 年 4 月

Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Berend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Watanabe D, Po-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Cathy Chien, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World Effectiveness And Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) In Treatment-Experienced People With HIV And a History of Antiretroviral Drug Resistance. American Conference for the Treatment of HIV (ACTHIV), Atlanta, GA、2024 年 5 月 2 日

Kikuchi T, Gatanaga H, Imahashi M, Watanabe D, Minami R, Yoshida S, Hayashida T, Shiino T, Nishizawa M, Hachiya A, Yoshimura K, Sugiura W : Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Surveillance of HIV-1 transmitted drug resistance in Japan, 2020-2022. Asia-Pacific HIV Research Forum 2024. Taipei, Taiwan、2024 年 5 月 18 日

Yasuda K, Misawa N, Ono H, Watanabe D, Shirakawa K, Sato K, Saito H, Kondo A T, Koyanagi Y, Takeuchi O : MEX3B, an RNA-binding protein, strongly suppresses HIV-1 viral replication depending on its RNA-binding ability. 3rd France – Japan symposium on HIV/AIDS & infectious diseases basic research, Paris, France, 2024 年 10 月 29 日

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Hirota K, Matsumura T, Ueji T, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T. Association of ABCG2 genetic polymorphisms with subjective symptoms and weight gain by bictegravir administration in Japanese HIV-1-infected patients. HIV Glasgow Congress, Glasgow, UK、2024 年 11 月 10 日

B-4

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、渡辺 大、上平朝子、金村米博、藤中俊之：当院における HIV 感染症に合併した脳病変に対する手術経験。日本脳神経外科学会第 83 回学術総会、横浜、2024 年 10 月 16 日

神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、冨田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊 大：HIV 陽性者の受診中断・再開・継続理由とその心理的背景に関する研究。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、渡邊 大、上平朝子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：Brain lesions associated with HIV infection: A single-center surgical experience。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日

白阪琢磨、川戸美由紀、橋本修二、三重野牧子、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠聡、八橋 弘、渡邊 大：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 健康状態と生活状況の概要。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

川戸美由紀、三重野牧子、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 2 報 不健康割合の推移。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

三重野牧子、川戸美由紀、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 3 報 悩みやストレスとこころの状態の関連。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

中内崇夫、矢倉裕輝、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ドラビリンヘスウィッチした症例における 96 週までの糖代謝に及ぼす影響に関する調査。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射剤の血中濃度に関する検討 第 2 報。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

久利歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野淳、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型がビクテグラビルの薬物動態および血清クレアチニンに及ぼす影響。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

渡邊 大、西田恭治、矢倉裕輝、藤原綾乃、武山雅博、矢田弘史、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨：包括的凝固機能検査による HIV 感染者の凝固機能に関する検討。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

菊地 正、西澤雅子、小島潮子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、潟永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、吉村和久、杉浦 互。2023 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、西田恭治、渡邊 大、白阪琢磨：HIV 感染者に合併した非結核性抗酸菌症の症例。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

B-5

渡邊 大：HIV 診療の現状と HIV 感染者の透析医療の課題。第 101 回大阪透析研究会教育企画委員会セミナー、第 101 回大阪透析研究会、大阪、2024 年 9 月 15 日

B-6

渡邊 大、矢倉裕輝、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV の PR 領域と RT 領域のアミノ酸残基におけるアミノ酸の時間変化に関する検討。第 37 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2024 年 6 月 15 日

久利 歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：日本人 HIV-1 感染者における CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型とビクテグラビル血漿トラフ濃度の関連。第 37 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2024 年 6 月 15 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型が血漿中ビクテグラビル濃度に及ぼす影響。第 32 回抗ウイルス療法学会学術集会・総会、熊本、2024 年 8 月 29 日

B-7

渡邊 大：抗 HIV 療法の変遷と持効性注射剤が HIV 陽性者にもたらすもの。HIV Forum 2024 in Osaka、大阪、2024 年 4 月 25 日

渡邊 大：HIV 感染症における薬剤耐性のこれまでとこれから。Expert seminar on PLWH/H、WEB 開催、2024 年 7 月 31 日

B-8

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知 HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修基礎コース、大阪、2024 年 9 月 9 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 9 月 30 日

渡邊 大、矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実際。令和 6 年度 HIV 感染症研修会/HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 9 月 30 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習、大阪、2024 年 10 月 3 日

渡邊 大：HIV 急性感染。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 10 日

渡邊 大：新規抗 HIV 薬。令和 5 年度 HIV 感染症医師実地研修会（3 週間コース）、大阪、2024 年 10 月 7 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識 HIV 感染症・検査・日和見疾患・治療。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修基礎コース、大阪、2024 年 11 月 18 日

渡邊 大：HIV/AIDS 医療の現状と当院の役割。大阪医療センター令和 6 年度新採用職員研修計画、大阪、2024 年 4 月 3 日

渡邊 大：HIV 感染症とは。大阪医療センター令和 6 年度新採用臨床研修医オリエンテーション、大阪、2024 年 4 月 10 日

渡邊 大：病理学各論Ⅳ ヒト免疫不全ウイルス（HIV）。大阪医療センター看護学校講義、2024 年 6 月 24 日

渡邊 大：病理学各論Ⅳ 自己免疫疾患。大阪医療センター看護学校講義、2024 年 7 月 22 日

渡邊 大：近畿ブロックにおける現状と課題。令和 6 年度近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、大阪、2024 年 12 月 10 日

HIV 感染制御研究室

室長 矢倉裕輝

当研究室では、HIV 感染者に対する臨床における薬物治療の諸問題に対する研究を行っております。現在の HIV 感染症治療薬は依然、潜伏感染細胞を駆逐できないが故に、ほぼ生涯の薬物治療が必要です。また、HIV 感染症治療薬は国際共同第Ⅲ相臨床試験結果を根拠として申請、承認されるため、承認時点で日本人の有効性、安全性および薬物動態に関わる情報がごく限られています。更に、治療薬のその殆どが錠剤であり、粉碎、簡易懸濁等、剤型変更を行った上で投与した際の薬物動態や主薬の安定性をはじめとする製剤学的な情報等も不足しております。

そのため、薬物治療が長期にわたり有効かつ安全に実施できるよう、Pharmacokinetics(PK)、Pharmacodynamics(PD)、Pharmacogenomics (PGx) および製剤学観点から評価することが重要となります。具体的には、高速液体クロマトグラフィー (High Performance Liquid Chromatography ; HPLC) 等を用いて薬物濃度の測定法の開発を行い、実臨床における日本人の薬物動態や製剤学的安定性のデータを収集し、解析を行っています。更に、HIV 感染症治療薬の薬物動態や副作用、投与による臨床検査値の変化を規定する薬物代謝酵素および薬物トランスポーターの遺伝子多型の探索を行い、それらの保有が及ぼす影響についても検討を行っています。

これまでに、HIV インテグラーゼ阻害剤であるラルテグラビルおよびドルテグラビルの代謝に関与する UGT1A1 の遺伝子多型と薬物動態および精神神経系有害事象の関連 (J Infect Chemother. 2015, BMC Infect Dis. 2017)、非核酸系逆転写酵素阻害剤であるドラビリンの透析による薬物動態への影響 (J Infect Chemother. 2023)、核酸系逆転写酵素阻害剤であるテノホビルジソプロキシルフマル酸塩の熱安定性 (Jpn J Pharm Health Care Sci. 2014) や同薬剤の投与初期の血漿中濃度と腎障害の関連 (J Pharm Health Care Sci. 2024)、抗 HIV 薬の懸濁時における主薬の安定性に関する検討 (医療薬学. 2012) 等について報告し、現在は厚生労働省エイズ対策政策研究事業を中心に、多施設共同研究も行っています。

新規作用機序の薬剤、持効性筋注製剤等、これまでとは異なる投与経路の薬剤も近年次々と承認されています。多くの薬剤の選択肢の中から、長期にわたるウイルス抑制および QOL の維持、向上を見据え、PK/PD/PGx を駆使した最適な治療レジメンの提供の実現をメインテーマとして研究を行っています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Kushida H, Hirota K, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T : Association between tenofovir plasma trough concentrations in the early stage of administration and discontinuation of up to five years tenofovir disoproxil

fumarate due to renal function-related adverse events in Japanese HIV-1 infected patients.
「J Pharm Health Care Sci」 10(1) : 20, 2024 年 5 月

A-5

矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実施状況の把握と HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成等を通じた人材育成 厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」令和 6 年度研究報告書、P.72-75、2025 年 3 月 31 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Hirota K, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Shirasaka T : Association of ABCG2 genetic polymorphisms with subjective symptoms and weight gain by bictegrovir administration in Japanese HIV-1-infected patients. HIV Drug Therapy Glasgow 2024,UK,2024 年 11 月 10 日

B-3

矢倉裕輝：HIV 領域における外来診療の実際と多職種連携の重要性～薬剤師の立場から～。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

矢倉裕輝：長期療養時代の PLWH における腎機能管理の重要性～薬剤師の視点から～。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2024 年 11 月 29 日

B-4

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型が血漿中ビクテグラビル濃度に及ぼす影響。第 32 回日本抗ウイルス療法学会学術集会、WEB、2024 年 8 月 31 日

矢倉裕輝、阿部憲介、増田純一、長島浩二、山本文哉、松木克仁、山梨領太、野村直幸、河野泰宏、濱砂恵理香、小山朋子、山口泰弘、廣永竜太、平野 淳、中内崇夫、合原嘉寿、伊東隆宏、佐藤萌、西村康人、石垣千絵、西村富啓、平野隆司、濱岡照隆、尾崎誠一、橋本雅司、吉野宗宏、山下大輔：抗 HIV 薬の処方および採用状況等に関するアンケート調査。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射剤の血中濃度に関する検討 第 2 報。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 29 日

久利 歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型がビクテグラビルの薬物動態および血清クレアチニンに及ぼす影響。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 28 日

増田純一、矢倉裕輝、松木克仁、井上正朝、田澤佑基、佐藤 萌、三枝祐美、石井良、成田綾香、石井聡一郎、西 勇治、山口泰弘、菊地 正、潟永博之：HIV 診療ブロック拠点病院における HIV 感染症薬剤耐性調査。第 38 回日本エイズ学会学術集会、東京、2024 年 11 月 28 日

B-8

矢倉裕輝：薬学的観点から考える持効性注射剤の特徴と位置付け。HIV UP TO DATE seminar、WEB、2024 年 4 月 25 日

矢倉裕輝：HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。神戸薬科大学講義 先端医療論、神戸、2024 年 5 月 15 日

矢倉裕輝：長期療養を見据えた ART レジメン〜3 剤？2 剤？どの薬剤？。E2 HIV Expert Forum、WEB、2024 年 8 月 27 日

矢倉裕輝：抗 HIV 療法について～服薬支援の重要性～。2024 年度 HIV/AIDS 看護師研修会基礎コース、大阪、2024 年 9 月 9 日

渡邊 大、矢倉裕輝：抗 HIV 療法の実際。令和 6 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2024 年 9 月 30 日

矢倉裕輝：処方動向、患者さんのニーズから考える ART レジメンの個別最適化。HIV Pharmacist Forum 2024、WEB、2024 年 10 月 29 日

矢倉裕輝：処方動向から考える薬剤師が行う服薬支援。薬剤師のための！HIV 感染症長期療養マネジメントセミナー、WEB、2024 年 12 月 5 日

矢倉裕輝：HIV 感染症と抗 HIV 薬の現状と薬剤師の役割。兵庫医科大学薬学部講義 感染制御学、神戸、2024 年 12 月 6 日

臨床疫学研究室

室長 阪森亮太郎

臨床疫学研究室は主に消化器疾患の病態を分子疫学面から検証し、最適な治療方法や安全性を検討しています。代表的な研究内容を示します。

インターフェロンフリー治療によって C 型肝炎は HCV 排除が期待できる時代になりましたが、残された少数の難治例に対する最適治療法を検討しています。インターフェロンフリー治療は非代償性肝硬変にまで適応が拡大されましたが、肝予備能が低下した症例に投薬するため、死亡例が出ています。より安全に治療できる条件とその有効性を検証しています。同じく心機能低下や腎機能低下症例に対する治療法も検討しています。HIV 感染合併例でのインターフェロンフリー治療の成績もまとめ、論文化しています。

次に B 型肝炎では、核酸アナログの長期投与成績から導かれる耐性化の問題点を検討しています。そしてラミブジン・アデホビル併用療法効果不良例に対し、アデホビルを TDF に切り替えることの有効性と安全性を明らかにしました。現在はさらに TDF から TAF への切り替えを検証しています。近年散発的に発生している B 型急性肝炎では genotype A が大半を占めますが、その特徴を解析し、慢性化への関与についても検討しています。また HIV 感染が B 型急性肝炎の重症度に与える影響についても検討しています。さらに患者数が増加している脂肪性肝疾患について、全国多施設の協力を得ながら自然経過について検討しています。

肝細胞癌に対する治療では肝動注化学療法に注目し、現在症例の蓄積中です。また分子標的薬と免疫チェックポイント阻害剤との併用も治療選択肢に入りました。病状に応じた最適治療の方向性を示していけるよう検証すると同時に、特有の副反応についても検討を加えています。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Kai M, Hikita H, Kazuki M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Kakita N, Morishita N, Hiramatsu N, Usui T, Imanaka K, Doi Y, Sakakibara M, Yoshida Y, Oze T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T. Clinical factors associated with the therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter prospective observational study. 「PLoS One」19(1): e0294590. 2024 年 1 月 2 日

Yamamoto S, Takeuchi Y, Sakamori R, Mita E. : Underwater endoscopic mucosal resection in the reconstructed gastric conduit after esophagectomy. 「VideoGIE」 9(6) : 274-277. 2024 年 3 月 19 日

Imaoka H, Sasaki K, Machida R, Nagano H, Satoi S, Ikeda M, Kobayashi S, Yamashita

T, Okusaka T, Ido A, Hatano E, Miwa H, Ueno M, Nakao K, Shimizu S, Kuramochi H, Sakamori R, Tsumura H, Okano N, Shioji K, Shirakawa H, Akutsu N, Tsuji K, Ishii H, Umemoto K, Asagi A, Ueno M; JCOG Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group. : Current status of the cost burden of first-line systemic treatment for patients with advanced hepatocellular carcinoma in Japan, 2021-22. 「Jpn J Clin Oncol」 54(10) : 1071-1077. 2024 年 10 月 3 日

Sometani E, Hikita H, Murai K, Toyoda H, Tanaka S, Oze T, Sung J, Shimoda A, Fukuoka M, Shigeno S, Fukutomi K, Shirai K, Tahata Y, Saito Y, Nishio A, Furuta K, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Mita E, Umezawa A, Tanaka Y, Takehara T. : High serum growth differentiation factor 15 is a risk factor for the occurrence of hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis B patients treated with nucleos(t)ide analogs. 「Hepatol Res」 2024 年 9 月 18 日

Koba M, Takeno A, Hasegawa H, Sakamori R, Higashiura R, Yamamoto M, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirose Y, Mori K, Mano M, Hirao M. : An aggressive gastric CIC-DUX4 sarcoma surgically resected with multivisceral organs : a case report. 「Surg Case Rep」 10(1) : 241. 2024 年 10 月 23 日

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Ido A, Miki D, Kurosaki M, Yoshiji H, Sakamori R, Kuroda H, Yatsushashi H, Yamashita T, Hiasa Y, Kato N, Miyaaki H, Ueno Y, Itoh Y, Matsuura K, Takami T, Asahina Y, Suda G, Akuta N, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Miyazaki M, Nozaki Y, Sobue S, Yano H, Miyaki T, Moriuchi A, Hori T, Shirai K, Murai K, Saito Y, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T. : Factors involved in gastroesophageal varix-related events in patients with hepatitis C virus-related compensated and decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral therapy. 「Hepatol Res」 2024 年 10 月 29 日

Phyo Z, Tanaka S, Sugiyama A, Ko K, Takahashi K, Mirzaev UK, Akuffo GA, Chhoung C, Akita T, Kozuki M, Sakamori R, Tanaka J. : Unveiling the dynamics of hepatitis C virus transmission among injection drug users and men who have sex with men : A comprehensive study in Japan. 「Hepatol Res」 2024 年 11 月 4 日

Naganuma A, Makita F, Sugimoto R, Kikuchi M, Furuta K, Iwamoto S, Sakamori R, Kouno H, Ario K, Yatsushashi H. An open-label, randomized, controlled trial on the benefit of β -hydroxy- β -methyl butyrate, l-arginine, l-glutamine combination beverages and locomotion training as supportive care for the treatment of unresectable hepatocellular carcinoma using lenvatinib : A pilot study (HELLO study). 「Clin Nutr ESPEN」 65 : 357-364. 2025 年 2 月

Kozuki M, Tanaka S, Shirai T, Sakon N, Harada S, Kitagawa A, Matsushima K, Abe Y, Fukutake N, Hasegawa H, Yamamoto S, Sakakibara Y, Sakamori R. A case of post-

outbreak acute hepatitis a in a Japanese man who have sex with men infected with RIVM-HAV16-090 strain. 「J Infect Chemother」 27 : 31(4) : 102673. 2025 年 2 月

A-2

阪森亮太郎 (作成協力者) : 肝生検ガイドンス「日本肝臓学会編」 南江堂、2024 年 5 月 5 日

阪森亮太郎 : C 型慢性肝炎の診断と評価。改訂 6 版必ず役立つ! 「肝炎診療バイブル」、P77-82、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阪森亮太郎 : 肝底護療法など。改訂 6 版必ず役立つ! 「肝炎診療バイブル」、P98-102、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

阪森亮太郎 : 肝癌の診断。改訂 6 版必ず役立つ! 「肝炎診療バイブル」、P273-282、メディカ出版、2024 年 10 月 1 日

A-6

阪森亮太郎 : 肝内胆管がん「最新の臨床」WEB、南江堂、2024 年 4 月 12 日

B-2

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Ido A, Miki D, Sakamori R, Yoshiji H, Kawada N, Enomoto N, Yamashita T, Kurosaki M, Kuroda H, Hiasa Y, Nakao K, Kato N, Suda G, Nakamoto Y, Yatsushashi H, Matsuura K, Takami T, Kakazu E, Itoh Y, Asahina Y, Ueno Y, Tateishi R, Terai S, Shimizu M, Akuta N, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T : Baseline gamma-glutamyl transpeptidase levels are associated with aggravation of esophagogastric varix after direct-acting antiviral therapy in cirrhotic patients with hepatitis C virus. EASL2024, poster, Milan, Italy, 2024 年 6 月 5-6 日

Hiraoka A, Aikata H, Moriguchi M, Ikeda M, Morimoto N, Tsuchiya K, Takehara T, Nagai H, Sakamori R, Nakamura S, Tsuji K, Kuroda H, Shimizu M, Shiina S, Yamasaki T, Kudo T, Kokudo N, Furuse J, Yamamoto K, Yamashita T : Association of skeletal muscle mass with safety and efficacy of atezolizumab (atezo) plus bevacizumab (bev) in Japanese patients (pts) with unresectable hepatocellular carcinoma (uHCC): Results from the ELIXIR study. ESMO Congress 2024, poster, Barcelona, Spain, 2024 年 9 月 16 日

Murai K, Hikita H, Sometani E, Tanaka S, Miyake T, Kuriki S, Sung J, Shimoda A, Shigeno S, Shirai K, Saito Y, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Toyoda H, Umezawa A, Takehara T : MALE SEX, HIGH β -GTP, HIGH AFP, HIGH GDF15 AND HIGH FIB-4 INDEX WERE HIGH RISK FACTORS FOR THE OCCURRENCE OF PRIMARY HCC IN CHB PATIENTS UNDER NUC TREATMENT. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA 2024 年 11 月 15 日-19 日

Tahata Y, Hikita H, Takaki A, Kurosaki M, Matsuura K, Yatsushashi H, Kuroda H, Ueno

Y, Kodama T, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T : SUSTAINED VIROLOGIC RESPONSE AND POSTTREATMENT LIVER FUNCTION ARE ASSOCIATED WITH 5-YEAR SURVIVAL AFTER DIRECT-ACTING ANTIVIRAL TREATMENT IN DECOMPENSATED CIRRHOTIC PATIENTS WITH HEPATITIS C VIRUS: A LONG-TERM FOLLOW UP STUDY OF JAPANESE CLINICAL TRIAL COHORT. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA 2024 年 11 月 15 日-19 日

Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Ido A, Miki D, Kurosaki M, Yoshiji H, Sakamori R, Kuroda H, Yatsushashi H, Yamashita T, Hiasa Y, Kato N, Miyaaki H, Ueno Y, Itoh Y, Matsuura K, Takami T, Asahina Y, Suda G, Akuta N, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T : FACTORS ASSOCIATED WITH THE AGGRAVATION OF GASTROESOPHAGEAL VARIX IN COMPENSATED AND DECOMPENSATED CIRRHOTIC PATIENTS DUE TO CHRONIC HEPATITIS C VIRUS INFECTION AFTER DIRECT-ACTING ANTIVIRAL THERAPY. AASLD The Liver Meeting, San Diego, CA 2024 年 11 月 15 日-19 日

Tahata Y, Hikita H, Nozaki Y, Ishida H, Hosui A, Miyazaki M, Sakamori R, Ohkawa K, Tatsumi N, Nakanishi F, Doi Y, Yakushijin T, Sakakibara M, Imanaka K, Kakita N, Iio S, Yoshida Y, Doi A, Yamada R, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T : FACTORS ASSOCIATED WITH LONG-TERM RISK OF LIVER-RELATED AND NON-LIVER-RELATED DEATH AFTER SUSTAINED VIROLOGIC RESPONSE IN PATIENTS WITH HEPATITIS C VIRUS TREATED WITH DIRECT-ACTING ANTIVIRAL. AASLD The Liver Meeting, Poster 2602San Diego, CA 2024 年 11 月 15 日-19 日

B-3

田畑優貴、疋田隼人、高木章乃夫、黒崎雅之、松浦健太郎、八橋 弘、黒田英克、上野義之、阪森亮太郎、竹原徹郎 : C 型非代償性肝硬変症例に対する sofosbuvir/velpatasvir ± ribavirin 治療国内第 3 相試験における長期予後の検討。第 110 回日本消化器病学会総会 パネルディスカッション 12 PD12-1、徳島、2024 年 5 月 9 日

前阪和城、疋田隼人、甲斐真知子、金子 晃、大川和良、野崎泰俊、阪森亮太郎、垣田成庸、宮崎昌典、竹原徹郎 : 切除不能肝細胞癌に対するデュルバルマブ+トレメリムマブ併用療法の初期治療成績。第 110 回日本消化器病学会総会、シンポジウム 13 S13-8、徳島、2024 年 5 月 10 日

梅村武司、阪森亮太郎 : WS7 高齢社会における肝疾患の問題点。第 60 回日本肝臓学会総会、座長、熊本、2024 年 6 月 14 日

阿部友太郎、田中聡司、阪森亮太郎 : 高齢者における初発肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法の治療効果。第 60 回日本肝臓学会総会 WS7-6、熊本、2024 年 6 月 14 日

阿部友太郎、西村佑子、渡邊和具、中尾憲史、山下勇大、北川綾香、松島健祐、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎：肝動脈化学塞栓術後の肝予備能低下への C 型肝炎 SVR の関与。第 60 回日本肝癌研究会、WS1-3、姫路、2024 年 7 月 12 日

日浅陽一、榎本大、阪森亮太郎：WS12 ウイルス肝炎診療－今後の課題－。第 28 回日本肝臓学会大会、座長、神戸、2024 年 11 月 1 日

阿部友太郎、原田理史、阪森亮太郎：ウイルス性急性肝炎に対する抗ウイルス治療の現状。JDDW2024 W12-8 ウイルス肝炎診療－今後の課題－、神戸、2024 年 11 月 1 日

榊原祐子、山本俊祐、阪森亮太郎：HIV 感染者における尖圭コンジローマおよび肛門扁平上皮性腫瘍についての検討。第 21 回日本消化管学会総会学術集会、WS6-9、東京、2025 年 2 月 21 日

B-4

田畑優貴、疋田隼人、持田智、三木大樹、井戸章雄、榎本信幸、阪森亮太郎、竹原徹郎：C 型非代償性肝硬変における抗ウイルス治療後の食道胃静脈瘤悪化に関与する因子の検討。第 121 回日本内科学会講演会（2024 年）、一般演題 113、東京、2024 年 4 月 14 日

田中大地、榊原祐子、渡邊和具、宮崎愛理、原田理史、西村佑子、東浦玲意、上月美穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：当院における潰瘍性大腸炎に対するフィルゴチニブの治療成績。第 110 回日本消化器病学会総会、ミニオーラル 潰瘍性大腸炎 4 MO-210、徳島、2024 年 5 月 10 日

前阪和城、疋田隼人、甲斐真知子、田畑優貴、小玉尚宏、大川和良、宮崎昌典、薬師神崇行、野崎泰俊、阪森亮太郎、松本健吾、石田永、金子晃、垣田成庸、巽智秀、竹原徹郎：切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法の治療効果における有害事象の影響。第 30 回日本肝がん分子標的治療研究会 OS4-2、東京、2024 年 7 月 26 日

宮崎愛理、福武伸康、阿部友太郎、阪森亮太郎、三田英治：LAMS 留置後に嚢胞内感染を来した PS への交換により臨床的奏功を得た臍仮性嚢胞の一例。第 55 回日本臍臓学会大会 O57-2、宇都宮、2024 年 7 月 26 日

鈴木英祐、榊原祐子、中尾憲史、渡邊和具、山下勇大、北川絢香、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎：末梢挿入型中心静脈カテーテルを留置中、左総頸静脈から鎖骨下静脈にかけ広範囲に血栓を認めたクローン病の一症例。第 78 回国立病院総合医学会、P1-57-5、大阪、2024 年 10 月 18 日

中尾憲史、榊原祐子、渡邊和具、山下勇大、北川綾香、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎：同時・異時性に鋸歯状病変を認め、大腸全摘術を要した潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の2例。第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会、O12-1、東京、2024年11月16日

榊原祐子、渡邊和具、田中大地、原田理史、宮崎愛理、東浦玲意、上月美穂、西村佑子、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎、三田英治：過去のステロイド使用が炎症性腸疾患患者の骨密度に与える影響についての検討。第66回消化器病学会大会 消 P-128、神戸、2024年10月31日

Yamamoto S, Bhandari P, Parra-Blanco A, Takeuchi Y, Kanesaka T, Mottacki N, Harada S, Kozuki M, Higashiura R, Inoue T, Sakamori R, Mita E: Acetic acid for pretreatment evaluation of colorectal neoplasms. IP-66_E, International Poster Session 12 (JDDW) Lower GI-6, 神戸、2024年11月1日

廣岡昌史、山下竜也、竹原徹郎、相方 浩、葛谷貞二、池田公史、森口理久、山本紘司、加藤直也、阪森亮太郎、土谷 薫、平岡 淳、中野聖士、谷 丈二、永井英成、本村健太、海堀昌樹、森本 学、長谷川 潔、上嶋一臣：ELIXIR study Final Analysis: Real-World Efficacy and Safety of Atezolizumab + Bevacizumab in Japanese Patients with Unresectable HCC。第31回日本肝がん分子標的治療研究会、OS9-5、岡山、2025年1月17日

B-5

山本俊祐、松島健祐、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：20mm以下の大腸粘膜下層浸潤癌における内視鏡切除についての検討。シンポジウム3、S3-09 第112回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024年6月29日

榊原祐子、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、阪森亮太郎：クローン病患者に対する小腸内視鏡検査におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有用性と安全性。シンポジウム1、S1-6、第113回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024年12月7日

山本俊祐、北川綾香、松島健祐、榊原祐子、阪森亮太郎：酢酸併用 NBI を用いた JNETtype1 病変の鑑別診断。ワークショップ1、W1-14。第113回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024年12月7日

B-6

西村佑子、田中聡司、永富暁、松島健祐、阿部友太郎、福武伸康、長谷川裕子、山本俊祐、榊原祐子、阪森亮太郎：食後心窩部痛とイレウスを繰り返した慢性腸管虚血の1例。日本内科学会第244回近畿地方会、京都、2024年6月29日

渡邊和具、山本俊祐、竹内洋司、田中大地、原田理史、宮崎愛理、西村佑子、東

浦玲意、上月美穂、松島健祐、阿部友太郎、田中聡司、福武伸康、長谷川裕子、榊原祐子、阪森亮太郎、三田英治：逆流性食道炎から食道狭窄をきたし endoscopic radial incision and cutting にて治療した一例。第 112 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、大阪、2024 年 6 月 29 日

B-8

阪森亮太郎：第 37 回 OLF（Osaka Liver Forum）研究発表会 座長、大阪、2024 年 5 月 24 日

阪森亮太郎：肝疾患の最新の話～C 型肝炎から脂肪肝まで～。大阪市中心区東医師会・法円坂地域連携フォーラム、大阪、2024 年 5 月 25 日

阪森亮太郎：第 59 回法円坂地域医療フォーラム 座長、大阪、2024 年 7 月 6 日

阪森亮太郎：第 6 回大阪消化器診療懇話会 座長、大阪、2024 年 7 月 20 日

阪森亮太郎：第 5 回近畿門脈圧亢進症研究会 座長、奈良、2024 年 8 月 24 日

阪森亮太郎：肝疾患領域のトレンドの変化。かかりつけ医のための肝疾患オンラインセミナー、Web、2024 年 9 月 17 日

阪森亮太郎：ランチョンセミナー18 座長。第 78 回国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 19 日

阪森亮太郎：肝疾患診療の話題。第 19 回大阪消化器懇話会、大阪、2024 年 12 月 12 日

阪森亮太郎：ウイルス性肝疾患の現在地と今後の展望。かかりつけ医のための肝疾患セミナー、大阪、2024 年 12 月 19 日

阪森亮太郎：第 63 回法円坂地域医療フォーラム 座長、大阪、2025 年 2 月 8 日

阪森亮太郎：膵癌治療の最前線。第 63 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2025 年 2 月 8 日

阪森亮太郎：法円坂 GI カンファレンス 座長、大阪+Web、2025 年 2 月 27 日

B-9

阪森亮太郎：第 2 回「アルコールはどこまで飲んでいいの?」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 11 月 19 日

阪森亮太郎：第 3 回「肝硬変ってどんな病気?」。国立病院機構 大阪医療センタ

ー 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 11 月 19 日

阪森亮太郎：第 4 回「肝がんの原因と予防は？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 11 月 20 日

阪森亮太郎：第 6 回「膵がんは増えているの？」。国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科がお送りする「肝炎消化器コンテンツ セカンド・シーズン」、You Tube, 2024 年 12 月 6 日

がん療法研究開発室

室長 平尾素宏

1981 年以降がんが日本人の死因のトップとなって久しい。国立がん研究センターのがん情報サービスによれば、2019 年の年間がん罹患数は 99 万人を超え、2022 年のがんによる死亡者数は約 38 万 6 千人と報告されている。最近、がん免疫治療法が脚光を浴び、臨床の場において使用され、その評価が明らかになってきたが、すべてのがんの効果があるわけではなく、がんに対する有効な治療法の開発の重要性は依然変わっていない。

免疫治療を含め従来の多くのがん治療法の有効性は、症例ごと、施設ごとの経験から得られたものであり、多施設における大規模な臨床試験による治療効果の検証が必須となっている。そのような状況において、現在、がん治療成績向上を目的として科学的根拠に基づいた効果的ながん治療法の開発が求められている。さらに、発がん、増殖、転移といったがん自体やそれに伴う病態に関わる遺伝子や蛋白、糖鎖といった数多くの分子の異常が報告され、これらの分子の特徴や機能が新しいがんの診断法や治療に応用され、個別化医療やオーダーメイド医療という語に代表されるような各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が進められつつある。実際、2019 年よりがん遺伝子パネル

検査が保険診療可能となった。

本研究室では、このような最新の基礎研究や臨床研究によって得られた成果を利用した科学的根拠に基づいた新しい癌治療法の開発を目的として、がん細胞やがん組織を用いた基礎的研究から科学的根拠を確実にするための全国規模の多施設共同臨床試験への参加、自主的臨床試験研究の企画を進めている。特に、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざし、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた臨床において利用できる医療技術や医薬品として確立することを行う目的とした研究（橋渡し研究、トランスレーショナルリサーチ）を行っている。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Hori K, Katada C, Okada H, Katagiri A, Matsuo Y, Yokoyama T, Yano T, Suzuki H, Shimizu Y, Furue Y, Nakanishi H, Koike T, Takizawa K, Hirao M, Yoshii T, Yamanouchi T, Kawakubo H, Kobayashi N, Shimoda T, Ochiai A, Ishikawa H, Yokoyama A, Muto M : Association between continuous cessation or reduction of drinking alcohol and improvement of multiple dysplastic lesions in patients with esophageal squamous cell carcinoma after endoscopic resection . 「Esophagus」 21 (1) : P 31 – 40、2024 年 1 月

Kawazoe A, Yamamoto N, Sugimoto N, Kawakami H, Oshima T, Yamaguchi K, Hino K, Hirao M, Kurokawa Y, Kawakami T, Tsuda M, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Muro K : Phase II Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF) in Combination with Nivolumab : Results from the Gastric Cancer Cohort . 「Clin Cancer Res」 30 (7) : P 1264 - 1272、2024 年 4 月

Tokunaga M, Machida N, Mizusawa J, Ito S, Yabusaki H, Hirao M, Watanabe M, Imamura H, Kinoshita T, Yasuda T, Hihara J, Fukuda H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M : Early endpoints of a randomized phase II trial of preoperative chemotherapy with S-1/CDDP with or without trastuzumab followed by surgery for HER2-positive resectable gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis : Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C (Trigger Study). 「Gastric Cancer」 27 (3) : P 580 - 589、2024 年 5 月

Oshima T, Yamamoto S, Kawakami H, Makino T, Kawazoe A, Masuishi T, Tsushima T, Hirao M, Tsuda M, Hino K, Yamamoto N, Hara H, Kaname S, Matsuoka D, Otake Y, Yasuda K, Takase T, Takashima S, Semba T, Ooki A : Phase 1 b/2 study of the liposomal formulation of eribulin (E7389-LF). in combination with nivolumab: Results from the phase 2 esophageal cancer cohort. 「BJC report」 2024 年 9 月

Makino T, Nakai S, Momose K, Yamashita K, Tanaka K, Miyata H, Yamamoto S, Motoori M, Kimura Y, Ushimaru Y, Hirao M, Matsuyama J, Akamaru Y, Kurokawa Y, Eguchi H, Doki Y : Efficacy and survival of nivolumab treatment for recurrent/unresectable esophageal squamous-cell carcinoma: real-world clinical data from a large multi-institutional cohort. 「Esophagus」 21 (3) : P 319 - 327、2024 年 7 月

Shitara K, Muro K, Watanabe J, Yamazaki K, Ohori H, Shiozawa M, Takashima A, Yokota M, Makiyama A, Akazawa N, Ojima H, Yuasa Y, Miwa K, Yasui H, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Mori I, Yamanaka K, Hihara M, Soeda J, Misumi T, Yamamoto K, Yamashita R, Akagi K, Ochiai A, Uetake H, Tsuchihara K, Yoshino T : Baseline ctDNA gene alterations as a biomarker of survival after panitumumab and chemotherapy in metastatic colorectal cancer. 「Nature medicine」 30 (3) : P 730 - 739、2024 年 3 月

Oki E, Nakanishi R, Ando K, Takemasa I, Watanabe J, Matsubayashi N, Kato T, Kagawa Y, Kotaka M, Hirata K, Sugiyama M, Kusumoto T, Miyamoto Y, Toyosaki K, Kishimoto J, Kimura Y, Yoshizumi T, Nakamura Y : Recurrence monitoring using ctDNA in patients with metastatic colorectal cancer: COSMOS-CRC-03 and AURORA studies . 「Esmo」 3 : P 1 - 6、2024 年 3 月

Iida N, Imai M, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Taniguchi H, Nonomura N, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yamazaki K, Shogen Boku, Bando H, Shiraishi Y, Kobayashi M, Goto H, Sato A, Fujii S, Yoshino T, Nakamura Y : Novel ERBB2 Variant Potentially Associated with Resistance against Anti-HER2

Monoclonal Antibody–Based Therapy in ERBB2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer .
「Clin Cancer Res.」 30 (18) : P 4167 - 4178、2024 年 9 月

Kusunoki C, Uemura M, Osaki M, Takiguchi N, Kitakaze M, Paku M, Sekido Y, Takeda M, Hata T, Hamabe A, Ogino T, Miyoshi N, Tei M, Kagawa Y, Kato T, Eguchi H, Doki Y :
Postoperative venous thromboembolism after surgery for locally recurrent rectal cancer.
「BMC Cancer」 24 (1) : P 1027 、2024 年 8 月

Sugimoto N, Noura S, Kato T, Yoshioka S, Hata T, Naito A, Tei M, Tamagawa H, Komori T, Ide Y, Fukuzaki T, Danno K, Sawada G, Kagawa Y, Shimokawa T, Miyoshi N, Ogino T, Uemura M, Yamamoto H, Murata K, Doki Y, Eguchi H : The Efficacy of FOLFIRI Plus Ramucirumab in Recurrent Colorectal Cancer Refractory to Adjuvant Chemotherapy with Oxaliplatin/Fluoropyrimidine—Including Biomarker Analyses . 「Cancers」 17 (1) : P 91、2024 年 12 月

Takeno A, Motoori M, Kishi K, Omori T, Hirao M, Masuzawa T, Fujitani K, Yamamoto K, Kurokawa Y, Doki Y : Prognostic factors of conversion surgery for stage IV gastric cancer: A multi-institutional retrospective analysis. 「AG Surg」 8 (3) : P 431 - 442、2024 年 1 月

Saito T, Kurokawa Y, Fujitani K, Kawabata R, Takeno A, Mikami J, Endo S, Matsuyama J, Akamaru Y, Hirota M, Kishi K, Urakawa S, Yamamoto K, Tanaka K, Takahashi T, Oka M, Wada H, Eguchi H, Doki Y : Serum NY-ESO-1 antibody as a predictive biomarker for postoperative recurrence of gastric cancer : a multicenter prospective observational study . 「British Journal of Cancer」 130 (7) : P 1157 - 1165、2024 年 4 月

Sunagawa Y, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Hihara J, Takeno A, Inoue E, Ichikawa W, Fujii M. : Tumor Response Predicts Survival Time of Nivolumab Monotherapy for Advanced Gastric Cancer: A Subgroup Analysis of the DELIVER Trial (JACCRO GC-08). 「Oncologist.」 29 (8) : P 997 - 1002、2024 年 8 月

Hori S, Yamasaki M, Yamamoto N, Harino T, Momose K, Yamashita K, Tanaka K, Sugimura K, Makino T, Takeno A, Shiraishi O, Motoori M, Miyata H, Kimura Y, Hirao M, Yasuda T, Yano M, Doki Y : The impact of time to postoperative recurrence on the prognosis of patients with esophageal cancer post recurrence: exploratory analysis of OGSF 1003. 「Esophagus.」 21 (4) : P 472 - 483、2024 年 10 月

Omori T, Yamamoto K, Kurokawa Y, Miyazaki Y, Fujitani K, Kawabata R, Imamura H, Takeno A, Yanagimoto Y, Takahashi T, Saito T, Eguchi H, Doki Y : Long-Term Effects of Oral Nutritional Supplements After Gastrectomy for Gastric Cancer: A Survival Analysis from a Multicenter, Open-Label, Randomized Controlled Trial. 「Ann Surg Oncol.」 31 (10) : P 6909 - 6917、2024 年 10 月

Motoori M, Kishi K, Yamamoto K, Takeno A, Hara H, Murakami K, Hamakawa T, Nakahara Y, Masuzawa T, Omori T, Kurokawa Y, Fujitani K, Doki Y : Prognostic factors and significance of postoperative adjuvant chemotherapy in patients with advanced gastric cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy followed by gastrectomy. 「Surgery Today」 54 (11) : P 1379 - 1387、2024 年 11 月

Fujitani K, Kurokawa Y, Wada R, Takeno A, Kawabata R, Omori T, Imamura H, Hirao M, Endo S, Kawada J, Jeong Ho Moon, Takiguchi S, Mori M, Eguchi H, Doki Y : Prospective single-arm multicenter interventional study of surgical resection for liver metastasis from gastric cancer; 3-year overall and recurrence-free survival . 「European Journal of Cancer(E-Pub)」 213 (115080), 2024 年 12 月

Takahashi M, Osako T, Yasojima H, Inoue K, Kawashima M, Maeda H, Ichikawa A, Muramatsu Y, Masuda N : Overall survival in Japanese patients with ER+/HER2- advanced breast cancer treated with first-line palbociclib plus letrozole. 「Breast Cancer」 31 (1) : P 53 - 62、2024 年 1 月

Nishimura T, Ravi Velaga, Masuda N, Kawaguchi K, Kawaguchi S, Takada M, Maeshima Y, Tanaka S, Kikawa Y, Kadoya T, Bando H, Nakamura R, Yamamoto Y, Ueno T, Yasojima H, Ishiguro H, Morita S, Ohno S, Haga H, Matsuda F, Ogawa S, Toi M : Genomic and transcriptomic profiling of pre-and postneoadjuvant chemotherapy triple negative breast cancer tumors. 「Cancer Science 」 115 (12) : P 3928 - 3942、2024 年 12 月

Takano T, Masuda N, Ito M, Inoue K, Tanabe Y, Kawaguchi K, Yasojima H, Bando H, Nakamura R, Yamanaka T, Ishida K, Aruga T, Yanagita Y, Tokunaga E, Aogi K, Ohno S, Kasai H, Kataoka R.T, Morita S, Toi M : Long-term outcomes of neoadjuvant trastuzumab emtansine + pertuzumab (T-DM1 + P) and docetaxel + carboplatin + trastuzumab + pertuzumab (TCbHP) for HER2-positive primary breast cancer: results of the randomized phase 2 JBCRG20 study (Neo-peaks) . 「Breast Cancer Res Treat」 207 (1) : P 33 - 48、2024 年 8 月

Yoshinami T, Nagai S, Hattori M, Okamura T, Watanabe K, Nakayama T, Masuda H, Tsuneizumi M, Takabatake D, Harao M, Yoshino H, Mori N, Yasojima H, Oshiro C, Iwase M, Yamaguchi M, Sangai T, Kosaka N, Tajima K, Masuda N : Real-world progression-free survival and overall survival of palbociclib plus endocrine therapy (ET) in Japanese patients with hormone receptor-positive/human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer in the first-line or second-line setting: an observational study. 「Breast Cancer」 31 (4) : P 621 - 632、2024 年 7 月

Noguchi E, Yamanaka T, Mukai H, Yamamoto N, Chi-Feng Chung, Yen-Shen Lu, Dwan-Ying Chang, Joohyuk Sohn, GunMinKim, Kyung-Hun Lee, Soo-Chin Lee, Iwasa T, Iwata H, Watanabe K, Kyung Hae Jung, Tanabe Y, Seok Yun Kang, Yasojima H, Aogi K, Tokunaga E, Sung Hoon Sim, Yoon Sim Yap, Matsumoto K, Ling-Ming Tseng, Umeyama Y, Sudo K,

Kojima Y, Hata T, Kuchiba A, Shibata T, Nakamura K, Fujiwara Y, Tamura K, Yonemori K : A phase 3 study (PATHWAY) of palbociclib plus tamoxifen in patients with HRpositive/HER2-negative advanced breast cancer. 「NPJ breast cancer」 10 (1) : P 76、2024 年 8 月

Fujiyoshi K, Sudo T, Fujita F, Tanihara S, Ishida H, Shichijo S, Chino A, Nagasaski T, Takao A, Sasaki K, Akagi K, Matsubara T, Ueno H, Hirata K, Miyakura Y, Ishikawa T, Sunami E, Takahashi Y, Yamaguchi T, Tanakaya K, Tomita N, Ajioka Y : Marital status after colorectal surgery in familial adenomatous polyposis: a nationwide multicenter study in Japan . 「Int J Clin Oncol」 29 (9) : P 1274 - 1283、2024 年 9 月

Nakamura Y, Tsukada Y, Matsushashi N, Murano T, Shiozawa M, Takahashi Y, Oki E, Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Uchigata H, Notake C, Ikematsu H, Yoshino T : Colorectal Cancer Recurrence Prediction Using a Tissue-Free Epigenomic Minimal Residual Disease Assay. 「Clin Cancer Res」 30 (19) : P 4377 - 4387、2024 年 10 月

Yamamoto M, Takeno A, Hamakawa T, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirao M : Distal gastrectomy and Roux-en-Y reconstruction for refractory reflux esophagitis after proximal gastrectomy and esophagogastric anastomosis reconstruction. 「Surgery Today」 54 (11) : P 1414 - 1416、2024 年 11 月

Yamamoto M, Omori T, Masuie Y, Shinno N, Hara H, Sugase T, Kanemura T, Takeno A, Hirao M, Miyata H : Minimally invasive surgery versus open gastrectomy for older patients with gastric cancer: A propensity score-matching analysis. 「Ann Gastroenterol Surg」 9 (1) : P 69 - 78、2024 年 7 月

Yamamoto M, Takeno A, Toshiyama R, Tokuyama S, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Kato T, Hirao M : Laparoscopic transabdominal preperitoneal repair for a patient with Laugier's and inguinal hernia. 「Surgical Case Reports」 10 (1) : P 215 、2024 年 9 月

Matsui Y, Kanou T, Fukui E, Kimura T, Ose N, Funaki S, Shintani Y: Association of the psoas muscle index with the survival of patients on a waiting list for lung transplantation: a Japanese single-institution study. 「Surgery Today」 54 (6) : P 574 - 580、2024 年 6 月

Matsui Y, Takami K, Mori K, Hirose Y : The diagnosis of pulmonary carcinoid using intraoperative fine-needle aspiration cytology : A case report . 「Int J Surg Case Rep」 P Nov:124 : 110428、2024 年 10 月(Epub)

Matsui Y, Takami K: Lung cancer associated with partial anomalous pulmonary venous connection in the non-resected lobe: A case report.「Int J Surg Case Rep」 P Nov:124:110454、2024 年 10 月(Epub)

Koba M, Takeno A, Hasegawa H, Sakamori R, Higashiura R, Yamamoto M, Tokuyama S, Toshiyama R, Kawai K, Takahashi Y, Sakai K, Hama N, Gotoh K, Kato T, Hirose Y, Mori K, Mano M, Hirao M : An aggressive gastric CIC-DUX4 sarcoma surgically resected with multivisceral organs:a case report . 「Surgical Case Reports」 10 (1) : P 241、2024 年 10 月

A-2

加藤健志 : II各論 M 抗 VEGF 抗体薬併用療法「大腸癌薬物療法ハンドブック」 : P. 115 - 124、南江堂、2024 年 12 月 20 日

加藤健志 : 第II章レジメン別プロのコツ 2 大腸がん 一〜二次治療 ⑦FOLFOXIRI or CAPOXIRI + BEV「消化器がん薬物療法副作用マネジメント」 P. 107 -112、メディカルビュー社、2025 年 1 月

A-3

平尾素宏 : 医療安全の文化醸成のための当院の取り組み「医療」79 (2) : P. 19 - 23、2025 年 2 月

安井翔之介、浜川卓也、河部彩香、関舞、宮城正和、梅津匡宏、竹野 淳、荒川和子、和田紋佳、石田みどり、大土彩子、山本真弓、内川巖志、内藤裕子、石田永、平尾素宏 : 癌患者に対する NST 早期介入の意義に関する検討「癌と化学療法」51 (7) : P. 775 - 778、2024 年 7 月

関根知嘉子、長谷川友美、相木佐代、巽 啓司、平尾素宏 : 終末期がん患者の療養場所移行調整の現状と調整中止となる要因に関する後方視的検討 第 30 回日本がんチーム医療研究会「癌と化学療法」51 (9) : P. 919 - 923、2024 年 9 月

加藤健志 : 大腸癌治療ガイドライン 2024 術後補助化学療法 (stage II,III)「臨床外科」79 (9) : P. 980 - 985、2024 年 9 月

竹野 淳、山本昌明、平尾素宏 : 腹部救急疾患への対応 : 診断と治療の実際 1. 食道破裂「外科」87 (3) : P. 201 - 205、2025 年 3 月

八十島宏行 : 断端評価基準とその臨床的意義〜病変 mapping の有用性「日本臨牀増刊号乳癌学 2024 上」82 (6) : P. 197 - 201、2024 年 8 月

浜川卓也、西田謙太郎、赤丸祐介、竹野 淳、平尾素宏 : 手術手技 困難症例 (肥満症例、進行胃癌) に対する腹腔鏡下胃切除術におけるガーゼテーピング法 「手術」78 (3) : P. 371 - 375、2024 年 12 月

豊後雅史、高橋佑典、森 清、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志 : 非代償性肝硬変を合併する大腸癌症例に対して腹

腔鏡下大腸手術を行った 2 例 「日本消化器外科学会雑誌」 58 (1) : P. 65 -74、
2025 年 12 月

萩原佳菜、河合賢二、徳山信嗣、山本昌明、酒井健司、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健
志：下行結腸穿孔をきたした血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例「日本腹部救急医学
会雑誌」 44 (1) : P. 61 - 64、2024 年 12 月

宮崎道彦、山田真美、田中玲子：慢性便秘症（便排出障害）に対する排便造影検査に
-おける形態異常の検討「日本大腸肛門病会」 77 : P. 22 - 29、2024 年 4 月

B-2

Nakamura Y, Wantanabe J, Hirata K, Akazawa N, Kataoka K, Yokota M, Yamazaki K, Kato
K, Kotaka M, Kagawa Y, Kun-Huei Yeh, Vasily N. Aushev, Adham A Jurdi, Kotani D, Bando
H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Oki E, Yoshino T : Prognostic and predictive value of
ctDNA-based MRD and actionable biomarkers in patients with resectable colorectal cancer:
CIRCULATE-Japan GALAXY . ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Hashimoto T, Nakamura Y, Yan Yang, Francesca Battaglin, Federico Innocenti, Alan P.
Venook, Makiyama A, Boku S, Machida N, Takahashi N, Kadowaki S, Komatsu Y, Kudo T,
Oki E, Kato T, Kagawa Y, Fujisawa T, Bando H, Heinz-Josef Lenz, Yoshino T : Prognostic
impact of HER family expressions for metastatic colorectal cancer (mCRC) : SCRUM-Japan
MONSTAR-SCREEN-2 and CALGB/SWOG 80405 trial (Alliance) international
collaboration. ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Miyagaki H, Goto M, Endo S, Tanaka R, Omori T, Kawada J, Takahashi N, Masuzawa T,
Furukawa H, Sato Y, Kato T, Fujitani K, Kawakami H, Sakai D, Kurokawa Y, Tsujinaka T,
Shimokawa T, Satoh T : Neoadjuvant docetaxel, oxaliplatin, and S-1 plus surgery followed
by adjuvant docetaxel and S-1 for patients with large type 3 or type 4 gastric cancer: Short-
term outcomes of the phase II OGS1902 trial . ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1
日

Uetake H, Yamashita R, Shitara K, Yoshino T, Watanabe J, Yasui H, Ohori H, Shiozawa M,
Muro K, Yamazaki K, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Soeda J, Yamamoto K,
Akagi K, Ochiai A, Tsuchihara K : Acquired gene alteration patterns and post-progression
survival: PARADIGM study analysis. ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6 月 1 日

Imai M, Jinyeong Lim, Iida N, Ebi H, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y,
Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Sato A, Yamashita R, Fujii S, Yoshino T, Woong-Yang Park,
Nakamura Y : Deciphering tumor microenvironment dynamics in HER2-amplified refractory
metastatic colorectal cancer in the TRIUMPH trial. ASCO2024 , Chicago USA , 2024 年 6
月 1 日

Kagawa Y, Kato T, Shiozawa M, Yamaguchi K, Gotoh M, Yasui H, Hamaguchi T, Hara H, Yoshino T : Safety, efficacy, and biomarkers of ONO-4578, an EP4 antagonist, in combination with nivolumab and chemotherapy in treatment-naïve and proficient mismatch repair (pMMR)/microsatellite stable (MSS) metastatic colorectal cancer (mCRC). ESMO-GI2024 , Munich,Germany , 2024 年 6 月 1 日

Imai M, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Kato T, Komatsu Y, Uemura M, Yuki S, Taketomi A, Fujisawa T, Nakamura Y, Kojima M, Koyama S, Sanghoon Song , Chan-Young Ock , Nishikawa H, Ito M, Yoshino T : Correlation of enriched specific subset of immune cells nearby tumor associated macrophage (TAM)with pathologic complete response (pCR) of concurrent chemoradiotherapy followed by nivolumab inlocally advanced rectal cancer (LARC). 2024 ASCO Breakthrough , Yokohama , 2024 年 8 月 8 日

Ando K, Watanabe J, Kagawa Y, Bando H, Kotani D, Suwa Y, Nishizawa Y, Takahashi Y, Matsuhashi N, Suwa H, Sugiyama M, Kanemitsu Y, Oki E, Uemura M, Yokota M, Tsuboyama T, Oba K, Yoshino T, Kato T : Protocol amendment for ENSEMBLE study: A multicenter, randomized, phase III trial to test thesuperiority of consolidation irinotecan, capecitabine and oxaliplatin vs capecitabine and oxaliplatinfollowing short course radiotherapy as total neoadjuvant therapy in patients with locally advancedrectal cancer—Changing the irinotecan dosage . 2024 ASCO Breakthrough , Yokohama , 2024 年 8 月 8 日

Nagata J, Nakamura Y, Watanabe J, Akazawa N, Ikeda M, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Yamazaki K, Kagawa Y, K. Yeh, G. Lalotis, A. Jurdi, Kotani D, Bando H, Taniguchi H, Takemasa I, Kato T, Yoshino T, Oki E Author : Association of ctDNA-based MRD detection and MRD clearance with short-term overall survival in patients with resectable colorectal cancer: Updated analysis of CIRCULATE-Japan GALAXY . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

Nakamura Y, Kildal W, Misumi T, M. Pradhan , Watanabe J, Skrede O. Kotani D, S.D. Raedt , Bando H, J. Kalsnes , Taniguchi H, K. Liestøl , Takemasa I, T.S. Hveem , Kato T, M. Novelli , Oki E, D.J. Kerr, Yoshino T, A. Kleppe : Novel clinical decision support (CDS) system optimizing adjuvant chemotherapy (ACT) for colorectal cancer (CRC) by integrating deep learning and circulating tumor DNA (ctDNA) molecular residual disease (MRD):GALAXY histotyping . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

Harima T, Yamashita R, Nakamura Y, Sakai S, Nomura R, Saori M, Kotani D, Taniguchi H, Watanabe J, Takemasa I, Kato T, Oki E, Yoshizumi T, Yoshino T : Association between copy number aberration and ctDNA MRD in colorectal cancer: CIRCULATE-Japan GALAXY . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

Kataoka K, Mori K, Nakamura Y, Watanabe J, Hirata K, Akazawa N, Yokota M, Kato K, Kotaka M, Yamazaki K, Kagawa Y, Sharma S, A. Jurdi , Kotani D, Bando H, TaniguchiH, Takemasa I, Kato T, Yoshino T, Oki E : Survival benefit of adjuvant

chemotherapy based on molecular residual disease detection in resected colorectal liver metastases: Subgroup analysis from CIRCULATEJapan GALAXY . ESMO Congress2024 , Barcelona,Spain , 2024 年 9 月 14 日

B-3

本告正明、田中晃司、宮田博志、白石 治、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野 淳、木村 豊、菅生貴仁、金村剛志、平尾素宏、山下公太郎、百瀬洸太、牧野知紀、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎、百瀬洸太：術前治療で Grade 3 の病理組織学的効果の得られた食道癌症例の予後因子解析。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

白石 治、萩 隆臣、牧野知紀、田中晃司、宮田博志、菅生貴仁、本告正明、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野 淳、平尾素宏、木村 豊、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司：術前化学療法之恩恵：NAC 後の ypN0 と手術先行の pN0 は同じですか？。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

藤谷和正、黒川幸典、竹野 淳、川端良平、大森 健、今村博司、平尾素宏、遠藤俊治、和田遼平、土岐祐一郎：胃癌肝転移に対する外科切除に関する前向き多施設臨床試験：3 年全生存割合と無再発生存割合。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

加藤健志：PARADIGM 試験 Up-to-date。第 124 回日本外科学会定期学術集会モーニングセミナー1、常滑市、2024 年 4 月 19 日

小林 信、高本健史、塩見明生、高橋 遍、塩澤 学、清水泰博、賀川義規、信岡大輔、山内淳一郎、加藤健志、沖 英次、武富紹信、高橋 祐、夏目壮一郎、仁熊健文、中村能章：Survival and benefit of adjuvant chemotherapy (ACT) by circulating tumor DNA (ctDNA) -based genomicprofile and molecular residual disease (MRD) in resectable colorectal liver-limited metastases (CRLM) : PRECISION study。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

賀川義規、渡邊 純、安藤幸滋、植村 守、伊藤雅昭、上原 圭、小谷大輔、坂東英明、大庭幸治、加藤健志、竹政伊知朗、沖 英次、吉野孝之：局所進行直腸癌に対する TNT の効果予測 AI モデルの構築によるプレシジョン医療への展望。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

楠 誓子、植村 守、竹田充伸、関戸悠紀、波多 豪、浜部敦史、荻野崇之、三吉範克、加藤健志、江口英利、土岐祐一郎：進行・再発直腸癌に対する骨盤内拡大手術におけるロボット手術の現状。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：胆嚢癌の進行度に応じた腹腔鏡下根

治切除の適応について。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

Gotoh K, Sakai K, Toshiyama R: Treatment strategies for elderly pancreatic cancer patients。第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、広島、2024 年 6 月 28 日

竹野 淳、木村 豊、杉本直俊、遠藤俊治、川端良平、松山 仁、今野元博、田村茂行、中村将人、竹下宏樹、朴 将源、坂井大介、川上尚人、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎：高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する周術期カペシタビン＋オキサリプラチン（CapeOx）療法の第 II 相試験（OGSG1701）。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

本告正明、田中晃司、宮田博志、白石 治、山崎 誠、杉村啓二郎、竹野 淳、木村 豊、菅生貴仁、金村剛志、平尾素宏、山下公太郎、百瀬洗太、牧野知紀、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎、百瀬洗太：術前治療で Grade 3 の病理組織学的効果の得られた食道癌症例の予後因子解析。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

白石 治、萩 隆臣、牧野知紀、田中晃司、宮田博志、菅生貴仁、本告正明、山崎誠、杉村啓二郎、竹野 淳、平尾素宏、木村 豊、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司：術前化学療法之恩恵：NAC 後の ypN0 と手術先行の pN0 は同じですか？。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

白石 治、杉村啓二郎、牧野知紀、宮田博志、竹野 淳、本告正明、山崎 誠、平尾素宏、矢野雅彦、土岐祐一郎、安田卓司：cT4b 食道癌に対する初期治療は？ CRT or DCF ～多施設ランダム化臨床試験～。第 78 回日本食道学会学術集会、東京、2024 年 7 月 5 日

竹野 淳、山本昌明、平尾素宏、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：進行胃癌に対するロボット支援下手術の短期成績。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 19 日

藤谷和正、黒川幸典、竹野 淳、川端良平、大森 健、今村博司、平尾素宏、遠藤俊治、和田遼平、土岐祐一郎：胃癌肝転移に対する外科切除に関する前向き多施設臨床試験：3 年全生存割合と無再発生存割合。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

八十島宏行、増田慎三、大佐古智文、井上賢一、川島雅央、前田豪樹、伊藤充矢、相良安昭、米盛 勸、服部正也、山本尚人、松井暁子、村松泰明、高橋将人：HR+/HER2- 進行乳癌一次治療におけるパルボシクリブの国内第 2 相追跡試験。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 25 日

植村 守、波多 豪、諏訪雄亮、沼田正勝、西沢佑次郎、井上 彬、塚田祐一郎、伊藤雅昭、高橋佑典、松橋延壽、諏訪宏和、安藤幸滋、賀川義規、渡邊 純、加藤健志：日本における局所進行直腸癌に対する TNT を検証する第 III 相試験 ENSEMBLE 試験。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 5 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、赤澤 香、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、岡田公美子、高橋佑典、酒井健司、八十島宏行、後藤邦仁、宮崎道彦、加藤健志、高見康二、平尾素宏：高齢者胃癌患者の術後合併症リスク因子についての検討。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：HIV 陽性急性虫垂炎に対する緊急手術の短期成績についての検討。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

B-4

高見康二、松井優紀：胸腺上皮性腫瘍に対する当院の治療戦略と成績。第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024 年 6 月 1 日

山本和義、大森 健、黒川幸典、宮崎安弘、藤谷和正、川端良平、今村博司、平尾素宏、西塔拓郎、高橋 剛、牧野知紀、田中晃司、山下公太郎、百瀬洸太、江口英利、土岐祐一郎：胃癌術後 ONS 投与のランダム化比較試験予後解析。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

牧野知紀、杉村啓二郎、百瀬洸太、山下公太郎、田中晃司、白石 治、本告正明、山崎誠、宮田博志、平尾素宏、安田卓司、矢野雅彦、江口英利、土岐祐一郎：われわれの考える cT3br, T4 食道癌の至適導入療法および予後予測因子。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

本告正明、青山修宇、山崎誠、平尾素宏、宮田博志、白石 治、牧野知紀、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎：食道癌術前化学療法中の体重減少が術後感染性合併症と予後におよぼす影響について。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

加藤健志、山口研成、杉原健一、坂田英典、桑原美怜、飯田 修、山中彩菜、井上智晶、吉野孝之：BRAFV600E 変異切除不能大腸癌に対する NCO/BINI/CET の特定使用成績調査：中間報告。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 18 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：局所進行膵癌に対する動門脈合併膵切除術において如何に臓器の虚血性障害を回避するか？。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 18 日

後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志：切除不能局所進行膵癌に対する conversion surgery の検討。第 55 回日本膵臓学会大会、宇都宮、2024 年 7 月 25 日

西川和宏、川端良平、西川和宏、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景、今村博司：がん悪液質を伴う進行再発胃癌の一次化学療法に対する エイコサペンタエン酸強化経口栄養剤補助の有用性に関する第 II 相試験。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 20 日

田澤宏文、羽藤慎二、大塚眞哉、竹野 淳、豊田和広、森谷宏光、野崎功雄、田中屋宏爾、内山秀昭、斎藤彰久、倉岡和矢、加藤健志、吉野茂文、鈴木崇久、田代裕尊：胃がん術後の予後因子の解析：Transmembrane protease serine 4 (TMPRSS4) のバイオマーカーとしての有用性の検証（多施設共同研究）。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

竹野 淳、平尾素宏、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志：食道癌術後再発症例に対する治療成績。第 78 回日本食道学会学術集会、東京、2024 年 7 月 4 日

竹野 淳、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：胃癌 1 次治療におけるニボルマブ併用化学療法の効果に関する因子の検討。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 25 日

本居正明、杉村啓二郎、宮田博志、山崎誠、牧野知紀、白石 治、平尾素宏、竹野 淳、田中晃司、山下公太郎、百瀬洸太、安田卓司、矢野雅彦、土岐祐一郎：食道癌におけるコンバージョン手術～隣接臓器浸潤と遠隔転移～。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 24 日

竹野 淳、徳永正則、町田 望、梶川莉玖、三留典子、會澤雅樹、佐藤真輔、木下敬弘、安田篤、川瀬朋乃、加納幹浩、黒川幸典、朴 成和、吉川貴己、寺島雅典：高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃癌に対する術前 trastuzumab 併用療法の第 II 相試験（JCOG1301C）。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 13 日

安福 至、寺島雅典、高橋直樹、朴 成和、黒川幸典、藤林勢世、松橋延壽、大森 健、伊藤友一、石田道弘、山形幸徳、山田貴允、西塔拓郎、竹野 淳、佐藤 渉、杉村啓二郎、吉川貴己：診断時切除不能胃癌に対する conversion surgery の治療成績に関する多施設共同観察研究。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 13 日

西川和宏、川端良平、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景、今村博司：胃癌一次化学療法症例においてエイコサペンタエン酸強化栄養剤補助により栄養指標やがん悪液質は改善するか。第 97 回日本胃癌学会総会 名古屋、2025 年 3 月 13 日

松山 仁、柳本喜智、辻仲利政、益澤 徹、本告正明、今村博司、井上健太郎、上田修吾、出村公一、竹野 淳、高山治、永井健一、足立真一、大森 健、川端良平、川田純司、西川和宏、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎：胃癌術後 S-1 補助化療患者に対する成分栄養剤のアドヒアランスと予後との関連－OGSG1108 追加観察研究。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 13 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、今西涼華、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：当院における急性胆管炎併存胆嚢炎に対する早期胆嚢摘出術。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：閉塞性膵炎を合併した膵管内乳頭粘液性腺癌に対して根治切除を施行した 1 例。第 46 回日本癌局所療法研究会、長浜、2024 年 6 月 21 日

Sakai K, Gotoh K, Imanishi S, Toshiyama R : Surgical outcomes of Resected cases of Primary Duodenal cancer at Our Hospital。第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、広島、2024 年 6 月 20 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：当院における局所進行直腸癌に対する術前治療および手術療法の短期成績。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 19 日

横田 満、坪山尚寛、井上明星、渡邊 純、賀川義規、沖田憲司、高橋佑典、小倉淳司、安藤幸滋、中西良太、沼田正勝、波多 豪、三代雅明、吉野孝之、加藤健志：TNT 後の効果判定の標準化に向けた取り組み -ENSEMBLE 試験-。第 86 回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024 年 11 月 21 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援腹腔鏡下 S 状結腸切除/前方切除術におけるハーモニック ACE インストゥルメントおよび腹腔鏡手術用ステイプラーの有用性。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 29 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：当院での大腸癌手術における安全性に留意したエネルギーデバイス選択。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 5 日

高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：当院における術前治療後直腸癌に対する手術の工夫と短期成績。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 6 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：脾彎曲部結腸癌に対するロボット支援下手術。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：cT4b 結腸癌に対するロボット支援腹腔鏡下手術の短期成績。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 29 日

河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：ロボット支援下手術を行った回結腸静脈が空腸動脈に流入する解剖学的変異を伴う上行結腸癌の 1 例。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 6 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：食道胃接合部癌に対する至適縦隔リンパ節郭清についての検討。第 78 回日本食道学会学術集会、東京、2024 年 7 月 5 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、後藤邦仁、加藤健志、平尾素宏：実臨床における胃がんに対する DS 療法の完遂率に影響を及ぼす因子。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 18 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、高見康二、平尾素宏：日常生活自立度を用いた高齢胃がん患者の新たな予後予測の有用性。第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡、2024 年 10 月 25 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、高見康二、平尾素宏：特発性食道破裂に対する胸腔鏡下食道破裂部閉鎖についての検討。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 12 日

山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：胃癌術後晩期再発の検討。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 14 日

俊山礼志、後藤邦仁、酒井健司、徳山信嗣、松井優紀、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：85 歳以上の超高齢者急性胆嚢炎に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術症例の検討。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 18 日

Toshiyama R、Sakai K、Gotoh K：A case of anomaly of middle hepatic artery in laparoscopic cholecystectomy。第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会、広島、2024 年 6 月 29 日

俊山礼志、濱 直樹、酒井健司、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：plug 除去後に腹腔鏡下ヘルニア修復術(TAPP)を施行した大腿ヘルニアの 1 例。第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024 年 12 月 6 日

松井優紀、高見康二、森 清：肺大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) 切除症例の臨床的検討。第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024 年 6 月 1 日

松井優紀、高見康二：栄養指標や肺年齢を含めた術前因子による高齢者肺癌外科切除例の術後合併症発生と予後予測の検討。第 65 回日本肺癌学会学術集会、横浜、2024 年 10 月 31 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：当院における MSI-H/dMMR 大腸癌の臨床病理学的特徴。第 101 回大腸癌研究会学術集会、名古屋、2024 年 7 月 12 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、加藤健志：複雑性虫垂炎に対する緊急手術における術後合併症リスク因子の検討。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：免疫チェックポイント阻害剤にて臨床的完全奏功を得られた MSI-high 大腸癌巨大腹壁再発の一例。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 30 日

徳山信嗣、河合賢二、高橋佑典、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、宮崎道彦、平尾素宏、加藤健志：局所進行直腸癌における RAS 遺伝子変異と術前治療効果および予後との関連性の検討。第 102 回大腸癌研究会学術集会、別府、2025 年 1 月 30 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：虫垂が絞扼帯となり生じた絞扼性腸閉塞の 1 例。第 124 回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024 年 4 月 19 日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：肛門外脱出嵌頓を伴う直腸 S 状部癌重積症に対し反転法にて切除した 1 例。第 46 回日本癌局所療法研究会、長浜、2024 年 6 月 21 日

阿部 優、俊山礼志、酒井健司、濱 直樹、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、宮崎道彦、高見康二、加藤健志、平尾素宏：単径部に膿瘍形成

を伴った魚骨穿通・急性虫垂炎の1例。第86回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024年11月21日

阿部 優、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、宮崎道彦、高見康二、平尾素宏、加藤健志：肛門外脱出嵌頓を伴う直腸S状部癌重積症に対し反転法を併用し根治切除した1例。第37回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024年12月7日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、徳山信嗣、松井優紀、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：当院における高齢者肝癌症例に対する腹腔鏡下肝切除術の短期治療成績について。第124回日本外科学会定期学術集会、常滑市、2024年4月20日

今西涼華、酒井健司、後藤邦仁、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：腎機能障害併存膵癌症例の周術期成績と予後の検討。第79回日本消化器外科学会総会、下関、2024年7月17日

今西涼華、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、平尾素宏、加藤健志：臀部皮下から骨盤内に及ぶepidermal cystに対して腹腔鏡を併用し経仙骨的に切除した1例。第37回近畿内視鏡外科研究会、大阪、2024年9月28日

今西涼華、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：CO2気胸と肋骨床剥離を用いて良好な視野で適切な切除範囲を決定し得た卵巣癌の右胸壁転移の1例。第37回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024年12月5日

今西涼華、山本昌明、竹野 淳、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：重度肝硬変を伴う臍ヘルニア嵌頓に対し局所陰圧閉鎖療法を用いた1例。第61回日本腹部救急医学会総会、名古屋、2025年3月20日

豊後雅史、後藤邦仁、酒井健司、俊山礼志、松井優紀、徳山信嗣、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、高見康二、平尾素宏：先天性肝外門脈体循環短絡症に合併した若年性多発巨大肝細胞癌の1例。第46回日本癌局所療法研究会、長浜、2024年6月21日

木場瑞貴、河合賢二、徳山信嗣、高橋佑典、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、後藤邦仁、平尾素宏、高見康二、加藤健志：直腸癌術後にHem-o-lokクリップを核として生じた癒痕化組織の一例。第46回日本癌局所療法研究会、長浜、2024年6月21日

木場瑞貴、高橋佑典、加藤健志：直腸静脈瘤および骨盤内静脈瘤を伴う直腸癌に対しロボット支援腹腔鏡下に根治切除した一例。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 17 日

木場瑞貴、高橋佑典、徳山信嗣、河合賢二、山本昌明、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、平尾素宏、加藤健志：直腸静脈瘤および骨盤内静脈瘤を伴う直腸癌に対しロボット支援腹腔鏡下に切除した一例。第 37 回近畿内視鏡外科研究会、大阪、2024 年 9 月 28 日

木場瑞貴、竹野淳、山本昌明、徳山信嗣、俊山礼志、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、濱直樹、加藤健志、森 清、平尾素宏：胃多発神経内分泌腫瘍に対し、腹腔鏡下胃全摘術を施行した一例。第 97 回日本胃癌学会総会、名古屋、2025 年 3 月 14 日

上村 廉、山本昌明、浜川卓也、竹野 淳、徳山信嗣、松井優紀、赤澤 香、俊山礼志、河合賢二、岡田公美子、高橋佑典、酒井健司、八十島宏行、後藤邦仁、高見康二、加藤健志、平尾素宏：食道胃接合部癌に対する縦隔内吻合術後の逆流性食道炎に難渋した一例。第 46 回日本癌局所療法研究会、長浜、2024 年 6 月 21 日

上村 廉、酒井健司、後藤邦仁：肝細胞癌胸壁播種に対して術中 ICG 蛍光観察を用いて切除を施行した 1 例。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 18 日

上村 廉、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：肺原発滑膜肉腫完全切除例に術後補助化学療法を施行するも術後 4 年で肺内転移を認めた一例。第 86 回日本臨床外科学会学術集会、宇都宮、2024 年 11 月 21 日

西岡裕未、赤澤 香、櫻井義正、八十島宏行：乳癌肺転移治療中に薬剤性間質性肺炎と癌性リンパ管症の鑑別に苦慮した一例。第 22 回日本乳癌学会近畿地方会、大阪、2024 年 11 月 23 日

奥村由紀、松井優紀、高見康二：非切除予定肺葉に部分肺静脈還流異常を認めた右下葉肺癌の一切除例。第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会、軽井沢、2024 年 6 月 1 日

佐藤直也、酒井健司、後藤邦仁、豊後雅史、俊山礼志、山本昌明、高橋佑典、竹野 淳、加藤健志、平尾素宏：FOLFIRINOX 療法が奏効し根治切除を施行し得た膵腺扁平上皮癌と原発性肺扁平上皮癌の重複癌の一例。第 79 回日本消化器外科学会総会、下関、2024 年 7 月 19 日

宮崎道彦、山田真美、田中玲子、高橋佑典、河合賢二、徳山信嗣、加藤健志、平尾素宏：肛門外科領域のインシデント/アクシデントの検討。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 29 日

山田真美、宮崎道彦、田中玲子、高橋佑典、河合賢二、徳山信嗣、加藤健志、平尾素宏：当院における臀部慢性膿皮症症例の検討。第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会、横浜、2024 年 11 月 30 日

B-5

加藤健志：外科の立場から考える周術期治療 GL 改訂ポイント。第 11 回平成大腸癌カンファレンス、神戸、2024 年 6 月 11 日

加藤健志：大腸がん薬物療法 Update。くしろ ICI セミナー、釧路、2024 年 6 月 14 日

加藤健志：大腸癌薬物療法のトピックスと技術認定医取得のコツ。大腸癌治療カンファレンス、金沢、2024 年 9 月 6 日

加藤健志：知っておきたい大腸がんのこと。2024 年度第 2 回森ノ宮医療大学市民公開講座、大阪、2024 年 10 月 29 日

加藤健志：大腸癌集学的治療。CRC conference in 高知 2025、高知、2025 年 2 月 21 日

竹野 淳：近年のがん治療における免疫チェックポイント阻害薬。第 10 回ブロック病診連携研修会 irAE をめぐる諸問題について～かかりつけ医が知っておくべきこと～、大阪、2025 年 3 月 15 日

B-6

竹野 淳：当院における irAE 対策チームの設立と取組み。第 61 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2024 年 7 月 6 日

八十島宏行：BRCA 遺伝子変異陽性 mbc 治療の新しい PARP 阻害剤ターゼナの特性。乳腺クリニック懇話会～BRCA 遺伝子変異陽性 mbc 治療における新しい選択肢～、大阪、2024 年 6 月 22 日

八十島宏行：エリブリン 13 年の歴史・レビュー。Meet the expert Web Forum、大阪、2024 年 8 月 20 日

八十島宏行：当院での ICI の使用法。3Q 中外 e セミナー on Breast Cancer、大阪、2024 年 9 月 27 日

八十島宏行：外科治療＋ラジオ波焼灼療法。乳がん最前線 2024、大阪、2024 年 10 月 27 日

八十島宏行：副作用マネジメントについて。ターゼナ AE マネジメント Internet Symposium Breast Cancer 2024、大阪、2024 年 11 月 12 日

八十島宏行：再発高リスク monarch E の適格基準について考える。Lilly Early Breast Cancer Web Seminar、大阪、2024 年 11 月 28 日

八十島宏行：EBC 術後薬物療法のエビデンスと再発高リスク患者さんへのアプローチ。Lilly Breast Cancer Web Seminar、大阪、2025 年 3 月 5 日

八十島宏行：今どこまでわかっているのか？CIPN の最新事情。プロジェクト Breast Cancer ～円滑な連携のために～、大阪、2025 年 3 月 13 日

酒井健司：肝胆膵領域におけるがん診療「膵癌手術の現況」。第 63 回法円坂地域医療フォーラム、大阪、2025 年 2 月 8 日

櫻井義正、八十島宏行、徳山信嗣、赤澤 香、松井優紀、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏、高見康二：ドセタキセル投与後に非閉塞性腸管虚血と肺血栓塞栓症から急速な転帰をたどった一例。第 655 回大阪外科集談会、大阪、2024 年 11 月 9 日

上村 廉、松井優紀、高見康二、徳山信嗣、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：横隔膜内膿瘍の一例。第 654 回大阪外科集談会、大阪、2024 年 7 月 27 日

西岡裕未、櫻井義正、増山美里、赤澤 香、八十島宏行：より良い終末期医療の提供を目指して-病棟体制の変化-。第 151 回阪神乳腺疾患談話会、大阪、2024 年 9 月 6 日

松本浩太郎、上村 廉、松井優紀、高見康二、増山美里、徳山信嗣、赤澤 香、俊山礼志、山本昌明、河合賢二、高橋佑典、酒井健司、八十島宏行、竹野 淳、濱 直樹、加藤健志、平尾素宏：画像検査で胸水貯留以外に異常を認めず、外科的生検までの方針決定に難渋した肉腫型悪性胸膜中皮腫の一例。第 656 回大阪外科集談会、大阪、2025 年 1 月 18 日

B-8

竹野 淳：胃がんの切除不能進行・再発治療。第 3 回保険薬局 Oncology Seminar・胃がんシリーズ研修、大阪、2024 年 10 月 30 日

B-9

濱 直樹：DOCTOR's FRAP。FM 大阪 LOVE FLAP、大阪、2025 年 2 月 6 日

高度医療技術開発室

室長 上田恭敬
室員 安部晴彦

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。昨年より新型コロナウイルスの世界的パンデミックによって我々の生活や産業構造は大きな変革を余儀なくされた。そのような変革の中で画像が果たす役割は大きくなってきている。遠隔モニタを用いた遠隔診療などはさらに推進されていくであろう。診断技術に関しても AI などのサポートを受けながら今まで以上に向上していくものと考えられる。本研究室では新しい医療技術開発の基盤を構築していく。

平成 24 年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進した。

平成 27 年度より、院内臨床症例（特に心房細動症例、大動脈弁狭窄症症例）の心臓超音波画像解析も並行して推進した。

平成 29 年度は、僧帽弁輪石灰化、大動脈弁石灰化を CT 画像から解析し、心臓超音波画像と組み合わせた解析によって、冠動脈石灰化のリスク層別化が可能であること。また心エコー検査と生体インピーダンス分析の併用によって心不全患者の再入院リスク層別化が可能であることを報告した。（AHA2017、ACC2018）

平成 30 年度は、昨年の CT 画像検査、心エコー検査に関する研究を進め、それぞれ報告を行った。（AHA2018）この研究が、心エコー図学会に認められ海外発表優秀論文賞を受賞した。

平成 31 年度（令和元年）は、大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学において多施設で実施している心不全レジストリ登録を行っているデータから、心エコーによるうっ血の指標をスコア化し、層別化することによって心不全患者の予後を予測することを報告した。（AHA2019）。

令和 2 年度は、心臓リハビリテーションにおいて、心不全患者の栄養状態と身体活動性が生命予後に影響していることを報告した（ESC Heart Fail 2020;7:1801-1808）。

令和 3 年度は、COVID-19 パンデミックの影響もあったが、心エコー検査の指標を用いて、収縮の保たれた心不全患者の予後予測が可能であることを報告した（JACC Asia 2022;1:73-84）。

令和 4 年度は、COVID-19 ワクチン関連劇症型心筋炎の報告（EHJ Case Reports 2022 doi:10.1093/ehjcr/ytac290.）を行った。

令和 5 年度は、心不全早期診断・早期介入のための運動負荷心エコー検査の件数を増やし（前年比 135%）、シンポジウムでの報告（2023 年日本心エコー図学会）も行った。また、学会主催の運動負荷心エコー検査に関する多施設共同研究にも参加し本邦での心不全早期診断のエビデンス創出を進めていく。

令和 6 年度は、昨年度に引き続き運動負荷心エコー検査に関する研究報告（2024 年日本心エコー図学会）で行い、多施設共同研究へのレジストリを進めた。また腫瘍循環器関連に関する報告（JC Cases 2024;31:57-60）を行いつつ、後半は、人工知能（AI）による心エコー画像自動解析システムによる検査業務の効率化、改善化に関する研究を行い、学会発表、論文報告を進めていく。

【2024 年度 研究発表業績】

A-0

Ikeoka K, Nishi H, Ueda Y, Yamane H, Matsumura Y : Hybrid endovascular treatment for complicated aortic dissection concomitant with true lumen obliteration: a case report. 「European Heart Journal Case Reports」8(2) : ytae068.doi: 10.1093/ehjcr/ytae068. PMID: 38344418; PMCID: PMC10858675、2024 年 1 月 30 日

Takeuchi T, Kosugi S, Ueda Y, Ikeoka K, Yamane H, Takayasu K, Ohashi T, Fukushima T, Horiuchi k, Iehara T, Sakamoto M, Ukai K, Minami S, Mizumori Y, Muraoka N, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y : Impact of a Cancer History on Cardiovascular Events Among Patients with Myocardial Infarction Who Received Revascularization. 「Circulation Journal」 88(2) : 207-214、日本循環器学会、2024 年 1 月 25 日

Ikeoka K, Nishi H, Ueda Y, Yamane H, Matsumura Y : Hybrid endovascular treatment for complicated aortic dissection concomitant with true lumen obliteration : a case report. 「European Heart Journal Case Reports」 8(2) : ytae068、Oxford University Press、2024 年 1 月 31 日

Ueda Y : Slow-Flow Phenomenon Caused by Distal Embolization Should Be Predicted and Prevented to Maximize the Efficacy of Coronary Intervention. 「Circ J」 88(6) : 980-981、2024 年 5 月 24 日

Takeuchi T, Ueda Y, Kosugi S, Ikeoka K, Yamane H, Ohashi T, Iehara T, Ukai K, Oozato K, Oosaki S, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y : The Impact of Door to Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation Time on Mortality and Neurological Outcomes among Out-of-hospital Cardiac Arrest Acute Myocardial Infarction Patients Treated by Primary Percutaneous Coronary Intervention. 「American Heart Journal Plus: Cardiology Research and Practice」 100473、2024 年 10 月 14 日

Yamane H, Ueda Y, Ikeoka K, Abe H, Inoue K, Matsumura Y : The Vascular Response After Balloon Angioplasty of Infrapopliteal Intermediate Stenosis Evaluated by Optical Frequency Domain Imaging. 「Catheter Cardiovasc Interv」 105(1) : 200-210、2024 年 10 月 19 日

Ueda Y : Vulnerable and Disrupted Plaques Detected by Angioscopy as Yellow Plaque with or without Thrombus. 「Circ J」 88(11) : 1768-1769、2024 年 10 月 25 日

Kobata R, Abe H, Yamane H, Nakamura M, Mori K, Mishima T, Ikeoka K, Inoue K, Ueda Y, Matsumura Y. A breast cancer patient with chemotherapy-induced chronic lymphocytic myocarditis successfully treated with steroid therapy. 「JC Cases」 Vol31, Issue3, p57–60 Published online、2024 年 12 月 6 日

Inoue K, Osaki S, Ueda Y. : Pulsed Field Ablation for Atrial Fibrillation: Meta-Analysis Confirms Expected Initial Outcomes. 「JACC Asia」 31 : 5(1) : 158?159、2024 年 12 月 31 日

A-4

上田恭敬 : イメージングガイド PCI の有用性と今後の展望「CLEAR!ジャーナル 四天王」、<https://www.carenet.com/news/clear/journal/58939>、2024 年 7 月 22 日

B-2

Ikeoka K, Nishi H, Ueda Y, Yamane H, Matsumura Y : Hybrid endovascular treatment for complicated aortic dissection concomitant with true lumen obliteration. ACC 2024, Atlanta, 2024 年 4 月 8 日

B-3

山根治野、上田恭敬 : 血管内イメージングから考察する、膝下動脈病変の Etiology. 第 17 回 Trans Catheter Imaging Forum 2024、大阪、2024 年 5 月 18 日

Inoue K, Osaki S, Ohashi T, Mishima T, Ozaki T, Ikeoka K, Abe H, Ueda Y, Matsumura Y : Initial Experience of PFA in Japan. Chinese Society of Cardiology-Japanese Society of Cardiology Joint Symposium, “Pulse Field Ablation for Atrial Fibrillation”. 第 89 回 循環器学会学術集会、横浜、2025 年 3 月 29 日

B-4

高野萌子、柳 善樹、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、家原卓史、鵜飼一穂、近藤信吾、吉龍正雄、大崎 慧、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、眞能正幸、松村泰志 : 冠静脈洞口部閉鎖の診断に経胸壁心エコー図検査が有用であった一例。日本心エコー図学会第 35 回学術集会、姫路、2024 年 4 月 20 日

中川紗希、中村雅之、安部晴彦、柳 善樹、赤嶺和昭、近藤信吾、福島貴嗣、家原卓史、鵜飼一穂、吉龍正雄、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、眞能正幸、松村泰志 : 運動負荷中に E 波 A 波が癒合して計測困難となる症例の安静時データの特徴。日本心エコー図学会第 35 回学術集会、姫路、2024 年 4 月 20 日

柳 善樹、中村雅之、安部晴彦、福島貴嗣、家原卓史、鵜飼一穂、中川紗希、赤

嶺和昭、近藤信吾、吉龍正雄、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、眞能正幸、松村泰志：左室駆出率の保たれた心不全（HFpEF）診断における 25w 運動負荷時の E/e' の有用性。日本心エコー図学会 第 35 回学術集会、姫路、2024 年 4 月 20 日

山根治野、上田恭敬：血管内イメージングから考察する、膝下動脈病変の Etiology。第 17 回 Trans Catheter Imaging Forum 2024、大阪、2024 年 5 月 18 日

鵜飼一穂、安部晴彦、中村雅之、福島貴嗣、家原卓史、柳 善樹、山根治野、向井 隆、上田恭敬、松村泰志：右心室の収縮遅延による左室中隔圧排像を認めた Ebstein 奇形術後の一例。日本超音波医学会 第 97 回学術集会、横浜、2024 年 6 月 1 日

福島貴嗣、安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、柳 善樹、山根治野、向井 隆、上田恭敬、松村泰志：関連大動脈周囲炎に合併した心臓腫瘍がステロイドにより縮小した一例。日本超音波医学会 第 97 回学術集会、横浜、2024 年 6 月 1 日

福島貴嗣、安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、柳 善樹、山根治野、向井 隆、上田恭敬、松村泰志：重度大動脈弁閉鎖不全症を合併した僧帽弁大動脈弁間膜線維症偽動脈瘤の一例。日本超音波医学会 第 97 回学術集会、横浜、2024 年 6 月 2 日

Ozaki T、Ohashi T、Mishima T、Ikeoka K、Ueda Y：UTILITY OF NT-proBNP IN IDENTIFYING UNRECOGNIZED QOL DECLINE IN ASYMPTOMATIC ATRIAL FIBRILLATION PATIENTS。第 70 回日本不整脈心電学会学術集会、石川、2024 年 7 月 20 日

越智公一、池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：ダブルガイドエクステンションによる新しいガイドカテーテルサポート法。第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会、札幌、2024 年 7 月 26 日

池岡邦泰、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：ダブルガイドエクステンションによる新しいガイドカテーテルサポート法。第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会、札幌、2024 年 7 月 26 日

村里嘉信、中島均、杉野 浩、有川雅也、森 文章、上田恭敬、松村圭祐、阿部充、小泉智三、下村光洋、藤本和輝、佐伯隆広、今川正吾、竹中 孝、森田有紀子、鹿島克郎、高見 徹、小野裕二郎、深江貴芸：左冠動脈主幹部インターベンシ

ンの国立病院機構多施設レジストリーにおける one-および two-stent の比較。第 32 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会、札幌、2024 年 7 月 27 日

大崎 慧、池岡邦泰、大里和樹、鶴飼一穂、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志、是恒之宏：パルスフィールドアブレーション（VARIPULSE）による肺静脈隔離術後の心筋障害（本邦初症例の検討）。第 72 回 日本心臓病学会学術集会、仙台、2024 年 9 月 27 日

Murasato Y, Nakashima M, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T, Shimomura M, Fujimoto K, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Takami A, Ono Y, Fukae A & Yoshida H : Long-term Outcome of Routine intracoronary imaging-guided left main coronary intervention. 第 89 回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025 年 3 月 28 日

Matuoka Y, Seo M, Abe H, Nakagawa Y, Masaki T, Suna S, Akazawa Y, Nakamoto K, Mano T, Yokoi T, Nakano M, Sunaga A, Okada K, Nakatani D, Yamada T, Yamada T, Yasumura Y, Hikoso S, Satomi Y, Sakata Y : MONACO Trial; Randomized Clinical Trial using Pimobendan Targeted on Heart Failure and . 第 89 回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025 年 3 月 28 日

Murasato Y, Higashi K, Sugino H, Arikawa M, Mori F, Ueda Y, Matsumura K, Abe M, Koizumi T, Shimomura M, Tayama S, Saeki T, Imagawa S, Takenaka T, Morita Y, Kashima K, Takami A, Ono Y, Fukae A : Impact of Chronic Kidney Disease Stage on Clinical Outcome of Left Main Coronary Intervention in Japanese National Hospital Organization Registry. 第 89 回 日本循環器学会学術集会、横浜、2025 年 3 月 28 日

B-6

羽白 亮、尾崎立尚、大崎 慧、鶴飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、向井 隆、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：心房自動閾値測定テストにより心房頻拍が誘発された ICD 植え込み後のブルガダ症候群の一例。第 137 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 5 月 25 日

工藤あや、大里和樹、三嶋 剛、竹内太郎、玉城勇樹、小畑理沙子、大崎 慧、越智公一、鶴飼一穂、家原卓史、福島貴嗣、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、向井 隆、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：僧帽弁置換術および両心室ペースメーカー植え込み術後の難治性菌血症に対してリファンピシンが著効した 1 例。第 137 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 5 月 25 日

木村健太郎、尾崎立尚、大崎 慧、鶴飼一穂、大里和樹、家原卓史、中村雅之、

大橋拓也、山根治野、大橋拓也、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：広範な心筋障害で回路の同定に苦慮した心房頻拍に対し、電位早期性を元に通電を行い頻拍停止に成功した一例。第 137 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 5 月 25 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、余田拓海、兵庫隆司、高木宏太、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、家原卓史、中村雅之、山根治野、井上耕一、上田恭敬：Leriche 症候群に対し血管内治療後の急性大動脈／下肢動脈閉塞に Fogarty バルーンを用いて経皮的血栓除去術を行った 1 例。第 46 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

高木宏太、池岡邦泰、余田拓海、兵庫隆司、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：緊急 CABG 術後早期のグラフト吻合部遠位閉塞に対して PCI での血行再建に難渋した一例。第 46 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

水森祐樹、家原卓史、池岡邦泰、村岡直哉、大里和樹、鵜飼一穂、中村雅之、山根治野、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Long inflation balloon angioplasty によりステントレス治療が可能であった 左前下行入口部閉塞の急性心筋梗塞の一例。第 46 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

村岡直哉、池岡邦泰、水森祐樹、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：冠動脈 CT を用いた冠血流予備能比測定 (FFRct) と血管造影を用いた FFRangio システムによる心筋虚血評価の比較検討。第 46 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

大里和樹、家原卓史、池岡邦泰、余田拓海、兵庫隆司、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、鵜飼一穂、山根治野、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：スコアリングバルーンでの前拡張後に IVL を行いバルーン破裂に伴う type F の冠動脈解離を来した 1 例。第 46 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

藤澤朋代、池岡邦泰、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：ImpellaCP 挿入困難であった左主幹部梗塞に対し ECMO/Impella5.5 サポートにて救命し得た一例。第 46 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

兵庫隆司、山根治野、余田拓海、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、是恒之宏：下肢急性動脈閉塞症 (ALI)

における血行再建のゴールデンタイムについての検討。第 46 回 日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

余田拓海、家原卓史、池岡邦泰、水森祐樹、村岡直哉、大里和樹、鵜飼一穂、中村雅之、山根治野、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：心原性ショックを合併した LMT 入口部高度石灰化病変の急性心筋梗塞に対して、Rotatripsy が有効であった 1 例。第 46 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、大阪、2024 年 10 月 19 日

安部晴彦、中村雅之、家原卓史、鵜飼一穂、村岡直哉、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎慧、大里和樹、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：運動負荷エコー検査で E/e 上昇を認めなかったが 1 年後に症候性心不全を発症した一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

鵜飼一穂、池岡邦泰、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、村岡直哉、大里和樹、大崎慧、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：血管内治療後の急性大動脈/下肢動脈閉塞に Fogarty バルーンを用いて経皮的血栓除去術を行った 1 例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

奥村由紀、村岡直哉、安部晴彦、中村雅之、西村健作、三嶋剛、家原卓史、鵜飼一穂、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎慧、大里和樹、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：去勢抵抗性前立腺癌に対する Abiraterone の内服開始を契機に急性心不全を発症した虚血性心筋症の 2 例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

高木宏太、井上耕一、安部晴彦、中村雅之、村岡直哉、余田拓海、兵庫隆司、水森祐樹、大崎慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋剛、池岡邦泰、上田恭敬、松村泰志：サイズ選択に苦慮した経皮的左心耳閉鎖デバイス留置困難症例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

水森祐樹、池岡邦泰、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、村岡直哉、大崎慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：Transankle Intervention (TAI)における血管内治療の有効性と安全性について。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

村岡直哉、池岡邦泰、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋剛、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：CTを用いた冠血流予備能比測

定 (FFR_{ct})と血管造影を用いたFFR_{angio}システムによる心筋虚血評価の比較検討。
第138回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024年12月7日

村岡直哉、中村雅之、安部晴彦、家原卓史、鵜飼一穂、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：運動負荷心エコー検査で診断した左室駆出率の保たれた心不全 (HFpEF) に対して SGLT2 阻害薬が奏功した一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

大崎 慧、井上耕一、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、池岡邦泰、安部晴彦、上田恭敬、松村泰志：パルスフィールドアブレーションおよびクライオアブレーションにおける心筋障害と術後炎症の検討。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

大崎 慧、井上耕一、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、余田拓海、兵庫隆司、高木宏太、村岡直哉、水森祐樹、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、山根治野、池岡邦泰、安部晴彦、上田恭敬、松村泰志：後壁より分枝する下肺静脈に対してパルスフィールドアブレーションを施行した発作性心房細動の症例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

大里和樹、安部晴彦、齊藤哲也、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、村岡直哉、水森祐樹、大崎 慧、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、山根治野、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、井上耕一、西宏之、上田恭敬、松村泰志：僧帽弁および三尖弁閉鎖不全症の術後に壁運動異常の改善を認めないたこつぽ型心筋症を発症した一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

中村雅之、安部晴彦、村岡直哉、余田拓海、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋剛、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：運動負荷心エコーで心拍応答不全を伴う収縮の保たれた心不全 (HFpEF) と診断し、 β 遮断薬中止で軽快した 1 例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

兵庫隆司、山根治野、余田拓海、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、尾崎立尚、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：下肢急性動脈閉塞症(ALI)における血行再建のゴールデンタイムについての検討。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

兵庫隆司、尾崎立尚、依田 巧、高木宏太、水森祐樹、村岡直哉、大崎 慧、大里和樹、鵜飼一穂、家原卓史、中村雅之、大橋拓也、三嶋 剛、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：Maze 術後の巨大左房症例に発症した心房頻拍に対してアブレーションを施行した一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、

2024 年 12 月 7 日

余田拓海、安部晴彦、三嶋 剛、中村雅之、鵜飼一穂、村岡直哉、高木宏太、兵庫隆司、水森祐樹、大里和樹、大崎 慧、家原卓史、山根治野、大橋拓也、尾崎立尚、池岡邦泰、井上耕一、上田恭敬、松村泰志：ブルトン型チロシンキナーゼ（BTK）阻害薬による心房細動及び心不全をきたした腫瘍循環器領域の一例。第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、大阪、2024 年 12 月 7 日

羽白 亮、村岡直哉、中村雅之、山根治野、池岡邦泰、安部晴彦、井上耕一、上田恭敬：難治性心室細動、胸骨圧迫に伴う両側内胸動脈損傷を合併した急性心筋梗塞に対して ECPELLA を用いて救命し得た一例。日本血管インターベンション治療学会、大阪、2025 年 3 月 1 日

B-8

安部晴彦：血圧管理と心不全。第 17 回 Trans Catheter Imaging Forum 2024、ファイアサイドセミナー、WEB、2024 年 5 月 17 日

安部晴彦：心不全治療における SGLT2 阻害薬、ARNI の使い方のコツと注意点。循環器病談話会、大阪、2024 年 7 月 20 日

安部晴彦：心不全の原因精査、～心アミロイドーシス早期診断のポイント～ 。心不全地域連携セミナー、大阪、2024 年 10 月 31 日

B-9

上田恭敬：DOCTOR ‘ S FLAP、FM 大阪『LOVE FLAP』、大阪、2024 年 12 月 19 日

電子カルテデータは、臨床研究に活用できる可能性を秘めている。特に薬の安全性評価には多くの特定薬剤を投与された患者のデータが必要であり、電子カルテに蓄積された Real World Data の活用に適したテーマである。令和 6 年度は、薬剤性間質性肺炎に焦点を当て、医事会計データを解析する方法で、どの程度の精度で薬剤性間質性肺炎を含む間質性肺疾患が検出できるかの検討を行った。

電子カルテが開発され、紙の診療記録の電子化により、診療情報の共有化が進み、カルテ搬送を不要とする点で効率化に寄与してきた。しかし、医療の高度化・精緻化は益々進み、医療安全策が強化されるなか、医療現場の負担は増え続けており、医療現場の負担を更に減らす仕組みが求められている。病棟業務では、多職種が連携して医療を実施する体制をとるが、そのためのコミュニケーションツールの在り方に改善の余地がある。また、患者に装着した持続点滴装置、心電図モニター、人工呼吸器から発信されるアラート、患者によるナースコールに看護師が対応する必要がある、ナースステーションと病室の往復で疲弊している実態がある。一般には、スマートフォンが広く利用されるようになったが、現状では、この病院での活用は限定的である。そこで、スマートフォンにどのような機能を持たせれば、これらの問題が解決するのかを検討し、そのモデルシステムを構築することを目指す。令和 6 年度は、この課題に関心を持つ企業と共同研究を開始した。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Takeuchi T, Ueda Y, Kosugi S, Ikeoka K, Yamane H, Ohashi T, Iehara T, Ukai K, Oozato K, Oosaki S, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y. : The impact of door to extracorporeal cardiopulmonary resuscitation time on mortality and neurological outcomes among out-of-hospital cardiac arrest acute myocardial infarction patients treated by primary percutaneous coronary intervention. 「Am Heart J Plus」 14:47 : 100473、2024 年 10 月

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Nakashima K, Matsumura Y, Takeda T. : Assessment of Follow-Up for Pulmonary Nodules from Radiology Reports with Natural Language Processing. 「Stud Health Technol Inform」 22:316 : 1795-1799、2024 年 8 月

Wada S, Takeda T, Okada K, Manabe S, Konishi S, Kamohara J, Matsumura Y. : Oversampling effect in pretraining for bidirectional encoder representations from transformers (BERT) to localize medical BERT and enhance biomedical BERT. 「Artif Intell Med」 153 : 102889、2024 年 7 月

Yusof MM, Takeda T, Shimai Y, Mihara N, Matsumura Y. : Evaluating health information systems-related errors using the human, organization, process, technology-fit (HOPT-fit) framework. 「Health Informatics J」 : 30(2)、2024 年 4 月

Mashima Y., Tanigawa M, Yokoi H. : Information heterogeneity between progress notes by physicians and nurses for inpatients with digestive system diseases. 「Scientific Reports」 1;14(1):7656、2024 年 4 月

Konishi S, Manabe S, Shimai Y, Namiuchi Y, Sugimoto K, Wada S, Okada K, Matsumura Y., Takeda T. : Implementation of a Multilingual Electronic Medical Questionnaire: For Use Inside or Outside the Hospital. 「Stud Health Technol Inform」 25:310:1360-1361、2024 年 1 月

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Manabe S, Matsumura Y., Takeda T. : Classification of Diagnostic Certainty in Radiology Reports with Deep Learning. 「Stud Health Technol Inform」 25:310:569-573、2024 年 1 月

Okada K, Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Manabe S, Matsumura Y., Takeda T. : Development of the Clinical Specimen Information Management System for Multicenter Clinical Studies. 「Stud Health Technol Inform」 25:310 : 119-123、2024 年 1 月

A-3

谷川雅俊、六車幸子、間島行則、横井英人：医療用医薬品の使用成績調査における収集データ項目からみた診療情報とのデータ自動連携の可能性「医薬品情報学」26(2) : P.102-110、一般社団法人日本医薬品情報学会、2024 年 4 月 30 日

A-6

松村泰志：第 78 回国立病院総合医学会の概要「医療の広場令和 7 年 1 月号」65 : 40-42 公益財団法人政策医療振興財団 2025 年 1 月 10 日

B-3

松村泰志：電子カルテに入力される臨床データを流通・活用するためのシステム。第 24 回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会、東京、2024 年 8 月 18 日

B-5

松村泰志：健康と医療の情報を自分で管理して役立てるには。第 6 回 NeXEHR シンポジウム、東京、2024 年 5 月 20 日

松村泰志：禁忌・アレルギー情報の記載・管理のあり方。医療安全全国共同行動第 18 回オンラインセミナー、Web、2025 年 2 月 18 日

主として下記の 8 項目に関する研究を行っている。

- ・ BCP を軸にした災害対応の研究（院内災害対応研究）

COVID-19 に対する対応が求められた際に病院機能を維持する観点からの対応を行なった。この感染症への対応における人的・物的・空間的な不足（需要と供給のアンバランス）がもたらす事態という意味においては“災害”と捉えることができる。しかし、一般的な自然災害とは違い、いつから災害と認識できるのか？、ライフラインは全く影響を受けていない、といった災害をイメージしにくい状況があることから、当院では事業継続計画（BCP）を軸にした対応をおこなっている。今後は、毎年、小改訂を可能とする取り組みを行なっていく予定である。

- ・ 医療・福祉・行政の連携を重視した平時から災害時を見据えた災害対応の研究（医療圏における災害対応研究）

他の災害医療における研究としては、高齢者施設の種類と特徴に応じた救急・災害医が関与した災害計画と訓練手法の開発（文部省科研 19K10532）として行ってきた。行政と相談しながら、さまざまな高齢者施設、あるいは在宅医療を行う医療機関と連携し災害時に“災害時要配慮者”に分類される、これらの医療・介護の利用者をいかにしてアセスメントし、医療への負荷を軽減させ、生命を守るかといった課題に取り組んでいく。

- ・ 全日本病院医療支援班（AMAT：All Japan Hospital Medical Assistance Team）における災害医療講習（全国レベルでの災害対応研究）

AMAT の講習会における講義のうち“災害時要配慮者”、“災害時に留意すべき疾病”、“感染制御”の項目の講義資料の作成を行っている。本年度も講義資料のマイナー改訂を行なった。また、講習会において指導を行なった。今後は本講習を e-learning の形にしていく予定である。前述の医療・福祉・行政の連携下の災害医療対応にも関連する内容である。

- ・ 大阪・関西万博における医療救護対応に関する研究（マスギャザリング医療対応研究）

日本万国博覧会医療救護協議会の構成員として、2025 大阪・関西万博の医療救護のあり方に関して検討を行った。また、厚生労働行政推進事業の健康安全・危機管理対策総合研究事業における“大規模イベントに対する戦略的リスクアセスメント及びヘルスシステムの強化に向けた標準的枠組に関する研究（24LA2002）”での分担研究である“大阪・関西万博対策、医療救護・化学災害対策の検討”を行なった。人為的な多数傷病者事案の類型化を行い、大阪・関西万博の危機管理対策室に勤務する予定の統括医療責任者らに対する講義を行なった。

- ・ 法執行機関との医療連携のあり方に関する研究（事態対処医療に関する研究）

法執行機関との医療連携に関して長年検討してきた。その一つに、臨床救急

医学会の“法執行機関との医療連携のありかたに関する検討委員会”による事態対処救護ガイドブックの発行（2019年）と、事態対処救護の講習会の開催と開催であった。2024年度は海上保安庁職員及び警察職員に対して合計4回のコース開催を行なった。また、大阪府警と連携した“立てこもり事案”での負傷者対応に関して、大阪府のDMATが出動できるシステムを構築した。同システムは2025年1月20日より運用開始となった。

さらに、プレホスピタルでの止血帯を用いた止血処置は2019年より消防職員が、その後、警察や海上保安庁職員も可能となったが、効果的に訓練するための機器開発を開始した。これは“我が国初の本格的「救急止血法の訓練モデル」の開発”として成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）に採択された。2026年には上市できるように開発を進めている。

- ・ プレホスピタルとの連携を重視したイベント・教育資料開発（病院前救護活動・教育）

大阪市消防の有志とともに20年前より勉強会を合計100回程度開いてきたが、その一環として“ベーシックラリー”を2024年6月22日に開催した。さまざまなシナリオをもとに多職種からなる当院職員と、大阪市消防や警察、海上保安庁、自衛隊等の連携を図った。今後は当院が後援する形で、さらに救急隊などと連携していく。また、プレホスピタル分野における教育資料開発としては、事故災害現場でのさまざまな状況変化に応じた多職種の活動を学ぶためのボードゲームの開発を開始した。2026年には上市できる予定である。

- ・ 化学テロや爆傷などへの対応に関する国際的な動向の把握（特殊災害対応研究）

厚生労働科学研究の健康安全・危機管理対策総合研究事業における“CBRNEテロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究（22LA1012）”での分担研究である“化学テロ危機管理に関する研究”を行なった。本年度が最終年度であり、令和4年度は化学テロの覚知に関して、令和5年度は世界健康安全保障行動グループ（GHSAG：Global Health Security Action Group）の下部組織である化学イベントワーキンググループ（CEWG：Chemical Event Working Group）における各国の活動および連携（特にウクライナ対応での連携、緊急招集会合）、ローンオフエンダーによる化学テロの可能性の検討、令和6年度は過去の本邦および各国の化学物質が関連した事故や災害事例への対応及び、その際の公衆衛生や中毒情報センターの連携のあり方に関する検討を行なった。今後も研究が継続されることが決まっており、化学物質による意図的な事案および爆発による生体への影響の研究を行っていく。（爆発による生体への影響の研究は、“衝撃波（第一次爆傷）による長期脳損傷のメカニズムの解明と治療法の開発（21K09019）として大阪大学で研究を行っている。）

本分野では、救急科領域講習として第38回日本外傷学会においてオンデマンドで“爆傷事案から考える爆傷の実際と衝撃波外傷の性質”を講演、また外

傷学会評議員セミナーとして 2024 年 4 月 25 日に“出血や外傷（衝撃波外傷を含む）に伴う循環動態の変化と中枢神経の役割”として講演、救急科領域講習として第 46 回日本中毒学会において 2024 年 7 月 24 日に“災害と中毒ー化学災害を中心にー”として講演した。また、東京大学大学院公共健康医学において 2024 年 5 月 13 日に“化学物質の対応・危機管理”の講義を関連省庁職員等に対するセミナーである NBC ネットワーク専門家会合において 2024 年 8 月 1 日に“化学テロに関する海外の解毒薬等の情報”を講義した。

- ・ 2026 年の日本中毒学会総会・学術集会に関する準備（**Health Security に関する研究**）

第 48 回日本中毒学会総会を担当することとなり、Health Security をテーマに学会の準備を始めた。Health Security という用語自体は、健康危機管理を考える際にしばしば使われる用語であるが、定義ははっきりしていない。概ね、“原因が自然発生的であろうと人為的であろうと、健康に対するあらゆる脅威に対応するための予防・準備、覚知・分析、対応・復旧、事後検証などの一連の取り組み”、といった概念になる。この概念をテーマに取り上げ、中毒事案において Health Security という視点から考えてみることにした。グローバルなハザード対策において使われることが多い用語ではあり、必ず多機関・多職種で対応する必要がある。中毒を考慮するような医療安全といったミクロな点から、公衆衛生との連携を念頭に置いた Public Health Security といった視点、化学物質が関連する災害・事故、薬物濫用や Medical Child Abuse など、中毒が関係するさまざまな事案に対して議論する予定である。

【2024 年度 研究発表業績】

A-3

布施明、大西光雄、宮内雅人、落合秀信、布施理美、小山博史：南海トラフ地震における急性期災害医療のシミュレーションを用いた“未治療死”の検討「日本災害医学会雑誌」29(3)：213-219、2024年10月25日

A-5

大西光雄：化学テロ危機管理に関する研究 厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「CBRNEテロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究」令和5年分担研究報告書、P.52-62、2024年10月2日

大西光雄：化学テロ危機管理厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「CBRNEテロリズム等に係る健康危機管理体制の国際動向の把握及び国内体制強化に向けた研究」令和4年分担研究報告書、P.49-56、2024年4月1日

大西光雄、嶋津岳士、奥村 徹、吉岡敏治、遠藤容子、若井聡智：化学テロ危機管理厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「CBRNE

テロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究」
令和3年分担研究報告書、P.52-63、2024年8月28日

B-3

大西光雄：2025大阪・関西万博医療対応をより強靱にするために—過去の人為的な多数傷病者事案を参考にした想定にどう対応するか。第30回日本災害医学会総会・学術集会、名古屋、2025年3月6日

大西光雄：過去の化学物質関連事案と最近のテロ攻撃を勘案した今後の化学イベントへの備えと対策。第30回日本災害医学会総会・学術集会、名古屋、2025年3月8日

大西光雄：爆傷事案から考える爆傷の実際と衝撃波外傷の性質。第38回日本外傷学会総会・学術集会、大阪、2025年4月25日収録（オンデマンドにて5月1日から5月31日まで配信）

大西光雄：災害と中毒 化学災害を中心に。第46回日本中毒学会総会・学術集会、神戸、2024年7月24日

田尻昌士、石田健一郎、中村さやか、樋口栄二、藤井順也、東 俊樹、野邊亮丞、小島将裕、曾我部 拓、大西光雄：多職種連携による集中治療部門の災害対応：課題の共有と事業継続計画改訂へのアプローチ。第52回日本集中治療医学会学術集会、福岡、2025年3月14日

戸上由貴、廣瀬智也、竹川良介、服部雄司、大西光雄：多職種で考える！病院前中毒診療の課題とその解決に向けて。第46回日本中毒学会総会・学術集会、神戸、2024年7月24日

B-4

太田裕子、石田健一郎、平島園子、吉田佳弘、平井亜里砂、若井聡智、大西光雄：都市部の防災計画における災害時要配慮者に関わる組織連携(その1) 合議体形成までの道のり。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月19日

石田健一郎、太田裕子、平島園子、吉田佳弘、平井亜里砂、若井聡智、大西光雄：都市部の防災計画における災害時要配慮者に関わる組織連携(その2) 意見交換会を開催して。第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、鹿児島、2024年7月19日

B-8

大西光雄：出血や外傷（衝撃波外傷を含む）に伴う循環動態の変化と中枢神経の役割。第38回日本外傷学会総会・学術集会、大阪、2024年4月25日

大西光雄：化学物質の対応・危機管理。東京大学大学院公共健康医学講義、東京、2024年5月13日

大西光雄：化学テロに関する海外の解毒薬等の情報。NBCネットワーク専門家会合における講演、東京、2024年8月1日

大西光雄：全日本病院医療支援班（AMAT）隊員養成研修 講義研修。“災害時要配慮者” “災害時に留意すべき疾病” “感染対策” 東京（WEB配信）、2024年9月15日

大西光雄：全日本病医療支援班（AMAT）隊員要請研修。実習研修、大阪、2025年1月19日

大西光雄：事態対処救護コース開催（責任者）。2024年7月18日（鹿児島）、2024年10月12日（仙台）、2025年2月13日（大阪）、2025年2月27日（大阪）

石田健一郎：大阪市中心区東医師会 三師会共催 救急医療講習会。「災害に備えるー保健・医療・福祉の連携による地域防災計画の強靱化ー」、大阪、2024年9月19日

臨床研究推進室

室長 森下典子

臨床研究事業は、従来から国立病院機構が果たすべき先駆的な政策医療の一分野である。当院では治験・臨床研究の円滑な運営・管理および支援を行うことを目的に、臨床研究センター4部12室の中にそれぞれ「臨床研究推進部」、「臨床研究推進室」を配置している。臨床研究推進室は“治験管理部門”と“臨床試験支援部門”の2つの部門から成るが、治験管理部門が治験以外の臨床研究支援も含め専ら活動の中心となっている。

臨床研究推進室の構成員は、部長1名、室長1名、臨床研究コーディネーター（CRC）8名、治験・臨床研究事務局6名、データマネジャー1名、事務取扱主任1名、事務補助2名、研究員1名である（2025年3月末現在）。

臨床研究推進室は、CRCや治験事務局が治験の全体的なコーディネーションを担うことにより、契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している。また受託研究審査委員会第1委員会事務局機能も併せ持っている。

臨床研究法や各種臨床研究関連指針が適応される自主研究支援では、CRCが限定的ではあるが臨床研究支援を行っている他、受託研究審査委員会第2委員会事務局が毎月の円滑な審議のため、研究者等と調整を行っている。他にも研究責任者からの依頼に応じて他施設共同研究における契約対応や、研究実施に関連する様々な相談にも対応している。

治験実績（受託研究費請求額）では、今年度は国立病院機構内施設で全国4位から6位の成績で概ね推移していた。新規受託件数23件、総件数107件、研究請求金額総額は2025年3月時点で2億円を超えて、目標を達成することができた。新規受託件数23件のうち、当院に直接依頼があった課題は13件（うち、医師主導治験3件）、国立病院機構本部からの紹介課題2件、SMO（Site Management Organization）からの紹介課題8件と、年々SMOを通じた治験紹介が増加傾向にあり、治験依頼者の施設選定方法が変化してきているため、今後も治験依頼者やSMOと積極的にコミュニケーションをとり、新規治験獲得に向け努力していきたい。

また、治験や臨床研究に関連した文書では、それぞれに電磁化を図り、順調に運営できている。今後も2つの研究事務局と研究者、治験依頼者の効率性が高まるようにさらに体制を整えていきたい。

自主研究の支援では先進医療Bを2件、新型コロナワクチンコホート調査、国立病院機構院長協議会依頼の多施設共同研究の支援を実施した他、新たに特定臨床研究を1件支援している。また、質の高い臨床研究の実施を進めるために、研究機関の長が行う点検（自己点検）を実施し、その結果を研究者にもフィードバックしている。

また、大阪府内16医療機関で形成する「治験ネットおおさか」の活動にも参加している他、教育・学術活動では、学会・研究会で発表を行い、国立病院機構本部主催の初級者CRC養成研修や実務者研修では講師を務めた。

院内教育および啓発活動としては、従来通り「治験セミナー」、「臨床研究セミナー」を開催した他、「臨床研究推進室ニュース」を年3回の紙面発行から、毎月1回

メールで送信する形に変更し、職員に最新ニュースを届けている。

【2024 年度 研究発表業績】

B-3

森下典子: シンポジウム 23 GCP 違反はなぜ生じるか? GCP 違反を防ぐために! 「CRC の立場から GCP 違反について考える」。第 45 回日本臨床薬理学会学術総会、埼玉、2024 年 12 月 14 日

B-4

千賀明日香、名畑優保、福岡利恵、森下典子、金村米博: RCA 分析を用いた逸脱管理の向上。第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2024 in Sapporo、札幌、現地・web 開催、2024 年 9 月 15 日～9 月 16 日

三井知子、小林恭子、松尾友香、濱 充代、森下典子、金村米博: 治験実施状況の評価ー10 年間で A 病院の間で治験実施状況は治験手続き、組み入れスピードはどのように変化したのかー。第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2024 in Sapporo、札幌、現地・web 開催、2024 年 9 月 15 日～9 月 16 日

柚本育世、羽田かおる、森下典子、金村米博、瀬戸口 由、津谷 寛、井上睦実、上野智子、石山 薫、物部加容子、齊藤祐介、綱本郷子、刈崎恵美子、吉川実希、北地祐子、大倉久敬、森下原久美子、寺川伸江、八丸香南子、田中将晴、森 英人、根上直樹、清水宏太郎、松村なるみ: 近畿グループ内における治験・臨床研究の実施・管理の均質化、適正化の取り組み。第 78 回 国立病院総合医学会、大阪、2024 年 10 月 18 日～10 月 19 日

B-8

森下典子: CRC 実務者の方へ。国立病院機構本部主催令和 6 年度 臨床研究コーディネーター実務者研修、Web 開催、2024 年 6 月 28 日

羽田かおる: がん領域における CRC 業務の実際。がん CRC 学会第 4 回学術集会、Web 開催、2024 年 7 月 14 日

松尾友香: 「電磁化がもたらす未来～導入は Goal じゃない! その先にある未来～」医療機関における電磁化がもたらしたもの。国立病院機構近畿グループ主催令和 6 年度 臨床研究・治験研修、Web 開催、2024 年 8 月 9 日

千賀明日香: CRC の役割と倫理的態度。国立病院機構本部主催令和 6 年度初級者臨床研究コーディネーター養成研修、Web 開催、2024 年 9 月 3 日

森下典子: 治験依頼者に選ばれる施設を目指して。国立病院機構中国四国グループ主催 令和 6 年度中国四国グループ内治験・臨床研究研修会、Web 開催、2025 年 1 月 27 日

レギュラトリーサイエンス研究室

室長 松村 泰志

レギュラトリーサイエンスは、科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学とされている。的確な予測、評価、判断によって①限りなく進歩する科学技術を正しく生かして有効に利用する最善の道を見出すことと、②人間の願望から出発した科学技術が、社会や人間を無視して発達することによってもたらされる深刻な影響を未然に防ぐこと、の二つの大きな目的/役割を担っている。当研究室は、レギュラトリーサイエンスの考えに基づき、臨床現場での薬剤・医療機器や技術等の使用を評価するための手法の構築を目的として平成 23 年 4 月に設立された。

令和 3 年度に室長が交代し、電子カルテデータを Real World Data のソースとして活用する臨床研究のあり方に焦点を当てた研究を行っている。多施設の電子カルテをネットワークで結び、共通するテンプレートで入力を誘導して電子症例報告書のファイルでセンターに集める仕組みについて研究し、大阪大学との共同で OCR-net の臨床研究基盤システムにおいて実現させ、これを活用した多施設共同研究を実施してきた。また、三井住友銀行との共同で Personal Health Record のシステムの開発を進め、個人が施設をまたがって診療を受けている場合でも、個人の疾患に関する重要な診療データが構造化されて集積することで、予後追跡が可能となり長期のアウトカムによる評価を可能とし、患者の QOL を測定し、費用効果分析の基盤を構築することを目指す。評価し、する仕組みについて研究開発してきた。令和 6 年度は、これまでの研究を継続させ、各方面からの依頼を受けて講演を行った。

【2024年度 研究発表業績】

A-0

Takeuchi T, Ueda Y, Kosugi S, Ikeoka K, Yamane H, Ohashi T, Iehara T, Ukai K, Oozato K, Oosaki S, Nakamura M, Ozaki T, Mishima T, Abe H, Inoue K, Matsumura Y. : The impact of door to extracorporeal cardiopulmonary resuscitation time on mortality and neurological outcomes among out-of-hospital cardiac arrest acute myocardial infarction patients treated by primary percutaneous coronary intervention. 「Am Heart J Plus」 47 : 100473、2024 年 10 月 14 日

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Nakashima K, Matsumura Y, Takeda T. : Assessment of Follow-Up for Pulmonary Nodules from Radiology Reports with Natural Language Processing. 「Stud Health Technol Inform」 316 : 1795-1799、2024 年 8 月 22 日

Wada S, Takeda T, Okada K, Manabe S, Konishi S, Kamohara J. Matsumura Y, :

Oversampling effect in pretraining for bidirectional encoder representations from transformers (BERT) to localize medical BERT and enhance biomedical BERT. 「Artif Intell Med」 153 : 102889、2024 年 7 月

Hiasa K, Kaku H, Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Tsutsui H. : Echocardiographic Parameters of Left Atrial Structure and Function and Clinical Outcomes at 2 Years in Elderly Patients With Atrial Fibrillation — The ANAFIE Echocardiographic Substudy —. 「Circulation Journal」 25 : 88(7) : 1155-1164、2024 年 6 月

Suzuki S, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Okumura K, Koretsune Y, u Shimizu W, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Morishima Y, Fukuzawa M, Takita A, Inoue H. : Patient Outcomes in Very Elderly Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation — ANAFIE Registry —. 「Circulation Reports」 23 : 6(8) : 283-293、2024 年 7 月

Yusof MM, Takeda T, Shimai Y, Mihara N, Matsumura Y. : Evaluating health information systems-related errors using the human, organization, process, technology-fit (HOPT-fit) framework. 「Health Informatics J」 30(2)、2024 年 4 月-6 月

Yamamoto T, Mizokami Y, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Hirayama A, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Kimura T, Morishima Y, Takita A, Hiroshi Inoue H. : Gastrointestinal bleeding in elderly patients with atrial fibrillation: prespecified All Nippon Atrial Fibrillation in the Elderly (ANAFIE) Registry subgroup analysis. 「Scientific Reports」 27 : 14(1) : 9688、2024 年 4 月

Nakamura M, Inoue H, Yamashita T, Akao M, Atarashi H, Ikeda T, Koretsune Y, Okumura K, Shimizu W, Suzuki S, Tsutsui H, Toyoda K, Yasaka M, Yamaguchi T, Teramukai S, Morishima Y, Fukuzawa M, Takita A, Hirayama A. : Coronary events in elderly patients with non-valvular atrial fibrillation: a prespecified sub-analysis of the ANAFIE registry. 「Cardiovasc Interv Ther」 39(2) : 145-155、2024 年 4 月

Konishi S, Manabe S, Shimai Y, Namiuchi Y, Sugimoto K, Wada S, Okada K, Matsumura Y, Takeda T. : Implementation of a Multilingual Electronic Medical Questionnaire: For Use Inside or Outside the Hospital. 「Stud Health Technol Inform」 : 310 : 1360-1361、2024 年 1 月 25 日

Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Okada K, Manabe S, Matsumura Y, Takeda T. : Classification of Diagnostic Certainty in Radiology Reports with Deep Learning. 「Stud Health Technol Inform」 25 : 310 : 569-573、2024 年 1 月 25 日

Okada K, Sugimoto K, Wada S, Konishi S, Manabe S, Matsumura Y, Takeda T. :
Development of the Clinical Specimen Information Management System for Multicenter
Clinical Studies. 「Stud Health Technol Inform」 310 : 119-123、2024 年 1 月 25 日

A-6

松村泰志:第 78 回国立病院総合医学会の概要「医療の広場令和 7 年 1 月号」65;P40-
42、公益財団法人政策医療振興財団、2025 年 1 月 10 日

B-3

松村泰志:電子カルテに入力される臨床データを流通・活用するためのシステム。
第 24 回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会、東京、2024 年 8 月 18
日

B-5

松村泰志:健康と医療の情報を自分で管理して役立てるには。第 6 回 NeXEHR
シンポジウム、東京、2024 年 5 月 20 日

松村泰志:禁忌・アレルギー情報の記載・管理のあり方。医療安全全国共同行動
第 18 回オンラインセミナー、Web、2025 年 2 月 18 日

II. 研究助成一覽

令和6年度 研究助成一覧

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
③科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	微小管路を連結した灌流培養系による α -シヌクレイン線維化条件の探索(22K07530)	福角 勇人	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))	主任	継続	補助金(研究費)	110 万円	0 万円	33 万円	143 万円
③科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	治療・臨床研究にかかわる看護師の道徳的苦悩	森下 典子	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	10 万円	3 万円	13 万円
③科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペンション法の有効性に関する臨床研究	西 宏之	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))	分担	継続	補助金(研究費)	0 万円	1 万円	0 万円	1 万円
③科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	ヒトPSO幹細胞コンベクション治療による損傷神経回路網再建機序と至適条件の解明	金村 米博	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	10 万円	3 万円	13 万円
③科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	可視化・定量化・ウイルス解析によるサージカルスモークの多角的解析研究	高橋 佑典	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	27 万円	8 万円	35 万円
③科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	定量的MRIによる神経膠腫の分子診断と可視化技術の開発	金村 米博	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))	分担	継続	補助金(研究費)	0 万円	10 万円	3 万円	13 万円
⑥厚生労働科学研究費	様々な状況での肝炎ウイルス感染予防・重症化・再活性化予防の方策に資する研究	田中 聡司	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	40 万円	0 万円	40 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	渡邊 大	厚生労働行政推進調査事業費補助金	主任	新規	補助金(研究費)	555 万円	0 万円	850 万円	1,405 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	武山 雅博	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	950 万円	万円	950 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	安尾 利彦	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	30 万円	0 万円	30 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	矢倉 裕輝	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	200 万円	0 万円	200 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	東 政美	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	30 万円	0 万円	30 万円
⑥厚生労働科学研究費	非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染者に合併する悪性腫瘍の制御を目指した研究	渡邊 大	厚生労働行政推進調査事業補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	30 万円	0 万円	30 万円
⑥厚生労働科学研究費	非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染者に合併する悪性腫瘍の制御を目指した研究	阪森 亮太郎	厚生労働行政推進調査事業補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	30 万円	0 万円	30 万円
⑥厚生労働科学研究費	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究	上平 朝子	厚生労働行政推進調査事業補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	10 万円	0 万円	10 万円
⑥厚生労働科学研究費	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究	阪森 亮太郎	厚生労働行政推進調査事業補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	10 万円	0 万円	10 万円
⑥厚生労働科学研究費	大規模イベントに対する戦略的リスクアセスメント及びヘルスシステムの強化に向けた標準的枠組みに関する研究	大西 光雄	厚生労働行政推進調査事業補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	120 万円	0 万円	120 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV陽性者に対する精神・心理的支援方策の開発、及びHIV医療と精神科医療の連携体制構築に資する研究	白阪 琢磨	厚生労働科学研究費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	150 万円	0 万円	150 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	渡邊 大	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金(研究費)	0 万円	500 万円	0 万円	500 万円
⑥厚生労働科学研究費	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	矢倉 裕輝	厚生労働行政推進調査事業費補助金	分担	継続	補助金(研究費)	0 万円	300 万円	0 万円	300 万円
⑩その他財団等からの研究費	エイズ発症予防に資するための血液製剤によるHIV感染者の調査研究	白阪 琢磨	友愛福祉財団研究助成金	主任	継続	補助金(研究費)	740 万円	0 万円	0 万円	740 万円
⑩その他財団等からの研究費	我が国初の本格的「救急止血法の訓練モデル」の開発	大西 光雄	中小企業政策推進事業費補助金	分担	新規	補助金(研究費)	0 万円	101 万円	30 万円	131 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	渡邊 大	エイズ対策実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	60 万円	18 万円	78 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	慢性期脳梗塞に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療開発	金村 米博	再生医療等実用化研究事業	主任	継続	委託研究費	2,450 万円	0 万円	740 万円	3,190 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	エイズウイルス完全排除を目指すワクチン開発に関する研究	渡邊 大	エイズ対策実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	225 万円	68 万円	293 万円

	研究課題名 (採択番号があれば採択番号も記載)	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 又は 分担	新規 又は 継続	研究種別	研究費獲得額(単位:万円)			
							主任研究者 直接経費金額	分担研究者 直接経費金額	間接経費金額	合計
⑨日本医療研究開発機構研究費	切除可能な高頻度マイクロサテライト不安定性結腸直腸癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた根治治療の有効性・安全性を検討する研究	加藤 健志	臨床研究・治療推進事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	300 万円	90 万円	390 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	高齢者初発膵芽腫に対する分子分類に応じたテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発	金村 米博	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	100 万円	30 万円	130 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	可及的摘出術が行われた初発膵芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	金村 米博	革新的先端研究開発支援事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	10 万円	3 万円	13 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	髄芽腫、非定型奇形腫様ラブroid腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	金村 米博	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	250 万円	75 万円	325 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験	平尾 素宏	革新的がん医療実用化研究事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	10 万円	3 万円	13 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	遺伝子導入神経幹細胞を用いた脊髓機能再生に関する基礎研究	金村 米博	再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	分担	継続	委託研究費	0 万円	1,000 万円	300 万円	1,300 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	エビゲノムの理解に基づく小児脳腫瘍の新規治療標的の同定を目指した研究開発	金村 米博	次世代がん医療加速化研究事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	100 万円	30 万円	130 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導治療の実施	加藤 健志	臨床研究・治療推進事業	分担	継続	委託研究費	0 万円	5 万円	2 万円	7 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	進行食道胃接合部腺癌に対する標準的な周術期治療の開発研究	平尾 素宏	革新的がん医療実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	0 万円	5 万円	2 万円	7 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	血友病合併HIV/HCV重複感染に起因する肝硬変に対する抗線維化治療薬の開発	阪森 亮太郎	エイズ対策実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	0 万円	200 万円	60 万円	260 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	肝硬変患者の重症度別のQOLと長期経過、予後及びその改善に関する研究	阪森 亮太郎	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	分担	新規	委託研究費	0 万円	20 万円	6 万円	26 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	東アジア特異的RNF213 p.R4810K バリエーションの迅速判定に基づく多血管疾患のリスク評価法の確立とその血管領域特異性を規定する要因の探索	岡崎 周平	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	0 万円	50 万円	15 万円	65 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	全医療職/全医療部門が参画する先進的医療製品・システム開発を担う人材育成リスキング拠点(BI-AMPS BASE)	金村 米博	優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業	主任	新規	委託研究費	1,423 万円	0 万円	427 万円	1,850 万円
⑨日本医療研究開発機構研究費	胃癌食道癌術後患者に対するアナモレリンの臨床効果に関するランダム化比較試験	平尾 素宏	革新的がん医療実用化研究事業	分担	新規	委託研究費	0 万円	80 万円	24 万円	104 万円
⑪民間セクターからの寄附金	心臓血管外科手術における長時間人工心肺後凝固異常に対する薬物療法の検討	西 宏之	株式会社メディコスヒラタ	主任	新規	委託研究費	80 万円	0 万円	0 万円	80 万円
⑪民間セクターからの寄附金	心臓血管外科手術における長時間人工心肺後凝固異常に対する薬物療法の検討	西 宏之	株式会社バイタル	主任	新規	委託研究費	15 万円	0 万円	0 万円	15 万円
⑪民間セクターからの寄附金	血管内視鏡を用いた冠動脈疾患等動脈硬化性疾患患者の予後予測に関する観察研究他	上田 恭敬	日本ライフライン株式会社	主任	新規	委託研究費	50 万円	0 万円	0 万円	50 万円
⑪民間セクターからの寄附金	腰椎変性疾患による下垂足の手術成績 術前下腿周径からの予測	石黒 博之	京セラ株式会社	主任	新規	委託研究費	50 万円	0 万円	0 万円	50 万円
⑪民間セクターからの寄附金	DES留置後のDES Failure予防のために強化LDLコレステロール低下療法が有効を検討する単施設無作為化試験	上田 恭敬	アポントメディカルジャパン合同会社	主任	新規	委託研究費	300 万円	0 万円	0 万円	300 万円
⑪民間セクターからの寄附金	ポリ-L乳酸(PLLA)製の胸骨ピン又はPLLAとハイドロキシアパタイト(HA)粒子の複合体プレートを用いた閉胸法の検討	西 宏之	日本ライフライン株式会社	主任	新規	委託研究費	50 万円	0 万円	0 万円	50 万円
⑩その他財団等からの研究費	慢性期脳梗塞、脳出血及び外傷性中枢神経損傷を対象とするヒトiPS細胞を活用した新規再生医療等製品開発研究	金村 米博	株式会社ケイファーマ	主任	新規	共同研究費	5,217 万円	0 万円	783 万円	6,000 万円
⑩その他財団等からの研究費	無線通信機能搭載輸液ポンプを用いた病院業務の安全性向上と業務効率化システムの構築	松村 泰志	ニプロ株式会社	主任	新規	共同研究費	174 万円	0 万円	26 万円	200 万円
⑩その他財団等からの研究費	「抜針防止カバー」の開発	丸宮 和也	株式会社旭ボリスライダー	主任	新規	共同研究費	70 万円	0 万円	10 万円	80 万円
⑩その他財団等からの研究費	開発した神経分化誘導培地を使用した際の iPS 細胞由来神経細胞の興奮性/抑制性神経細胞の比率の同定	金村 米博	倉敷紡績株式会社	主任	新規	共同研究費	87 万円	0 万円	13 万円	100 万円
⑩その他財団等からの研究費	術者鉗子もしくは手術工程に連動する子宮マニピュレーターロボットの実現可能性の検討	飛梅 孝子	朝日サージカルロボティクス株式会社	主任	新規	共同研究費	9 万円	0 万円	1 万円	10 万円

III. 全研究業績の区分分類と 業績件数の総括表

診療科の研究業績

診療科名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
総合診療部	10	1			2					1		4		2			
腎臓内科	11				1						1	5		4			
糖尿病・内分泌内科	34	6			2	6								5		13	2
輸血療法部	1															1	
血液内科	77	8						2	1	1	2	1		2		51	9
血友病科	52	4	1	1		2	1	1		1	5	6	1	1	23	4	1
呼吸器内科	10	2												4		3	1
脳神経内科	55	28			1				2		7	6		5		4	2
感染症内科	99	9	2	3	3	4	3			5	3	14	1	3	5	41	3
精神科	11											3	1			7	
消化器内科	120	18		18		1		1		8	8	13	3	4		37	9
循環器内科	141	18	1			5			2	4	9	26	4	27		44	1
小児科	6						1				1	1	1			1	1
外科	182	31		2	10					12	21	66	6	27		3	4
形成外科	6			1	1						3			1			
整形外科	45	12	1	1	1			1		3	2	23		1			
脳神経外科	93	19		2	1	2			2	3	19	35	4	4		2	
心臓血管外科	27	3		1						6	10	5		2			
皮膚科	12				4							2		4		2	
泌尿器科	7	2			1							4					
産科・婦人科	10	1			1						4		4				
眼科	30		2	3							2	3		6		13	1
耳鼻咽喉科	4					1							1	2			
放射線診断科・放射線治療科	33	4									2	7	3	6		11	
口腔外科	9	2									2	2		1		1	1
救命救急センター	54	8			6	4	3				9	15				8	1
麻酔科	7											5		2			
臨床検査科	38	10		3	2	2					4	9	8				
リハビリテーション科	7											7					
臨床腫瘍科	19	5			1					2		3		5		3	
薬剤部	59	1				1	3			1	2	18	1		1	30	1
看護部	18										1	15		2			
栄養管理部	2											1		1			
ケアサポートチーム	14	1		1	1						2					8	1
臨床心理室	30										2	2				26	
メンタルヘルsteam「なのはな」	1															1	
臨床工学室	18	1									5	6		2		4	
院長室	10	6						1			1		2				
小計	1,362	200	7	36	38	28	11	6	7	47	127	307	40	123	29	318	38

臨床研究センターの研究業績

研究室名	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
臨床研究センター																	
幹細胞医療研究室	1	1															
再生医療研究室	11	6							1		3	1					
分子医療研究室	26	5		1	1	1			1	1	3	11		1		1	
エイズ先端医療開発室	43	2	1	1	1	2	1			5		12	1	3	2	12	
HIV感染制御研究室	18	1					1			1	2	5				8	
臨床疫学研究室	58	9		4				1		6	8	9	3	2		12	4
がん療法研究開発室	158	31		2	10					12	19	62	6	14		1	1
高度医療技術開発室	58	9				1				1	2	15		26		3	1
医療情報研究室	13	8			1			1			1		2				
災害医療研究室	19				1		3				6	2					7
臨床研究推進室	9										1	3				5	
レギュラトリーサイエンス研究室	15	11						1			1		2				
小計	429	83	1	8	14	4	5	3	2	26	46	120	14	46	2	42	13

全研究業績

分類	総数	A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9
合計	1,791	283	8	44	52	32	16	9	9	73	173	427	54	169	31	360	51

研究業績の分類基準と記号

著 述 発 表 業 績 区 分						口 演 発 表 業 績 区 分											
A-0	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9		
	単独執筆 編集者 監修者	共同執筆 (含連名)	原著	総説			シンポジウム 特別講演等	一般演題 (ポスター)	シンポジウム 特別講演等	一般演題 (ポスター)	シンポジウム 特別講演等	一般演題 (ポスター)					
英文 著述	単行書	邦文著述 (学会誌・学術専門誌)	学術医学研究班報告書 講演発表論文			その他	国際学会			国内学会の全国年次学会			国内学会の地方会 及び分科会研究会		乗効調査 研究会発表	文化講演 教育講演等	TV 出演 ラジオ 放送出演

Research Vol.44 (2024)

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
臨床研究業績年報

発行者 独立行政法人国立病院機構
大阪医療センター 院長 松村泰志

編集 臨床研究センター
〒540-0006 大阪市中央区法円坂2丁目1番14号
電話 (06) 6942-1331

印刷所 株式会社 中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
電話 (06) 6976-8761